

特別史跡

# 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 17

第40次調査

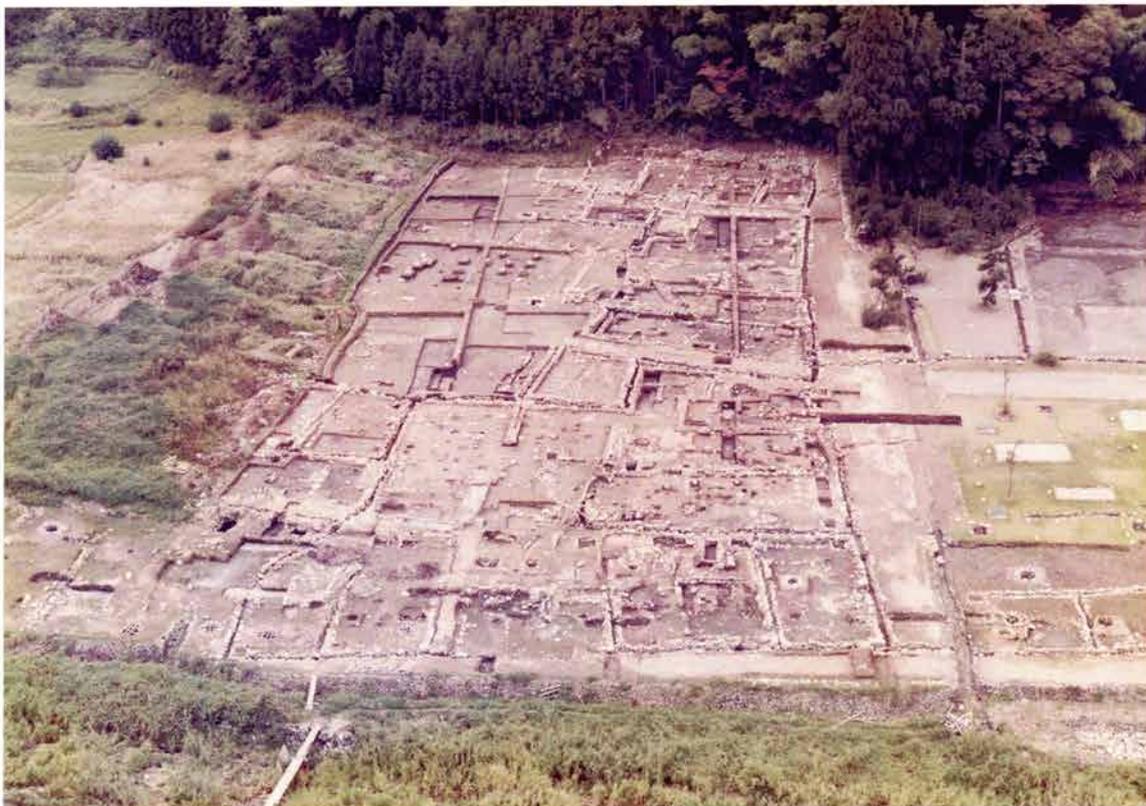
2020

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

口絵1 発掘調査区



調査区遠景(南より)



調査区全景(東より)

口絵2 出土遺物



バンドコと一括収納された陶磁器



漆塗椀



油煙墨



北国船模型

## 序 文

特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査事業は、昭和43年に朝倉館跡の調査に着手して以来現在に至るまで、約50年間にわたり行われてきました。これまでの調査により、戦国期の城下町の構造や当時の生活・文化の様相が徐々に明らかになってきております。

本報告書は、一乗谷を貫く一乗谷川の左岸、字奥間野で実施した第40次発掘調査(昭和55・56年)の成果をまとめたものです。隣接する字赤淵・吉野本を含むこの地区一帯は遺構が良好に残っており、これまでの全面的な発掘調査によって、一乗谷における町並みの様相が最も解明された場所のひとつとなっています。遺物も多種多様で、特に第40次発掘調査では、「金隠」の発見により石積施設が便所であることを初めて確定させました。その他、油煙墨やガラス皿、北国船の模型など、貴重な遺物が多数出土しています。

最後になりますが、事業実施から報告書刊行に至るまで、文化庁をはじめ関係各位、地元の皆様に多大なご支援とご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。

令和2年3月

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館  
館長 向出宏二

## 例 言

- 1 本書は福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館が、特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡における計画的な発掘調査の結果を報告するものであり、第17冊目にあたる。発掘調査事業概要はIで報告する。
- 2 本書で報告の調査は、国庫補助事業として、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館が福井県福井市城戸ノ内町字奥間野で実施したものである。
- 3 発掘期間は昭和55(1980)年7月1日～昭和56(1981)年10月13日、担当者は水野和雄、岩田隆である。概要については『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡XII 昭和55年度発掘調査整備事業概要』および『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡XIII 昭和56年度発掘調査整備事業概要』で報告している。
- 4 本書作成のための遺物整理作業は平成28・29・令和元年度に行った。その間、県の機構改革により事業主体は変化している。作業と事業主体者は以下のとおりである。

平成28年度	出土遺物の接合・復元・実測・トレース	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
平成29・令和元年度	出土遺物の実測・トレース・本書刊行	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
- 5 本書の編集・執筆は田中祐二(当館主任)が行い、館員全員がこれを補佐した。なお、内容の多くについては上記概報およびその後の研究成果に依拠する。
- 6 遺構写真は発掘担当者が撮影した。遺物写真については月輪泰(当館副館長)が撮影し、その他、過去に当館調査員が撮影したのも一部使用した。遺構・遺物実測図の作成は当館調査員と整理作業員が行った。
- 7 本書の調査区全体図・遺構詳細図は概報掲載の図を一部改変して使用した。なお、原図はアジア航測株式会社に委託して作成したものである。また、写真図版には、航空測量の際に撮影した上空写真も含まれる。
- 8 遺物観察表・巻末図・巻末写真の遺物番号は符合する。写真は縮尺不同である。
- 9 本書における水平レベルの表示は海拔高(m)を示し、方位は座標北を用いた。X・Y座標値は国土方眼座標系第VI系(日本測地系)に基づく。
- 10 本書で用いた遺構の略記号は次のとおりである。

SA	: 土塁・塀・柵	SB	: 建物	SD	: 溝・濠	SE	: 井戸	SF	: 石積施設	SJ	: 石段	SK	: 土坑
SS	: 道路・通路	SV	: 石垣	SX	: その他								
- 11 遺物の色調は、小山正忠・竹原秀雄編 新版『標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修による。
- 12 本書に掲載した遺物と調査の際に作成した図面・写真は、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館に保管してある。
- 13 本書の作成にあたり、次の方々からのご助言・ご指導を頂いた。(敬称略・五十音順)  
岩田隆、小野正敏、久保智康、内藤直子、橋本久和、水野和雄
- 14 発掘調査には地元の方々の参加・協力を得た。また、遺物整理作業は福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館および福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの整理作業員があたった。

# 目 次

I	事業概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の経過	1
3	調査の方法および組織	5
II	調査の概要と経過	7
1	調査の概要	7
2	調査の経過	8
3	調査区の設定	8
	日誌抄	9
III	遺 構	11
IV	遺 物	21
V	まとめ	53

# 図 版 目 次

## 口 絵

口絵 1	発掘調査区	口絵 2	出土遺物
【上】	調査区遠景(南より)	【上】	バンドコと一括収納された陶磁器
【下】	調査区全景(東より)	【中】	左：漆塗椀 右：油煙墨
		【下】	北国船模型

## 挿 図

挿図 1	特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡調査地略図	挿図 6	区画割図	11
挿図 2	第40次調査区周辺地形図	挿図 7	SF1617東壁	20
挿図 3	床土出土遺物の取り上げ区画	挿図 8	釣瓶696出土状況	30
挿図 4	作業風景写真	挿図 9	折敷938出土状況	33
挿図 5	グリッド設定図	挿図10	遺構概念図	54

## 卷 末 図

- |                                   |   |
|-----------------------------------|---|
| 第1図 上層遺構面全体図                      | 第35図 出土遺物 C区Ⅱ遺構面(7)                                     |
| 第2図 下層遺構面全体図                      | 第36図 出土遺物 D区Ⅰ遺構面(1)                                     |
| 第3図 遺構詳細図 A区                      | 第37図 出土遺物 D区Ⅰ遺構面(2)                                     |
| 第4図 遺構詳細図 B1区                     | 第38図 出土遺物 D区Ⅰ遺構面(3)                                     |
| 第5図 遺構詳細図 C区                      | 第39図 出土遺物 D区Ⅰ遺構面(4)、<br>D区Ⅱ遺構面(1)                       |
| 第6図 遺構詳細図 B2区                     | 第40図 出土遺物 D区Ⅱ遺構面(2)                                     |
| 第7図 遺構詳細図 D1区                     | 第41図 出土遺物 D区Ⅱ遺構面(3)                                     |
| 第8図 遺構詳細図 D2区                     | 第42図 出土遺物 D区Ⅱ遺構面(4)                                     |
| 第9図 溝石立面図                         | 第43図 出土遺物 D区Ⅱ遺構面(5)                                     |
| 第10図 土層断面図                        | 第44図 出土遺物 D区Ⅱ遺構面(6)                                     |
| 第11図 出土遺物 A区Ⅰ遺構面(1)               | 第45図 出土遺物 D区Ⅱ遺構面(7)                                     |
| 第12図 出土遺物 A区Ⅰ遺構面(2)               | 第46図 出土遺物 D区Ⅱ遺構面(8)                                     |
| 第13図 出土遺物 A区Ⅰ遺構面(3)、<br>A区Ⅱ遺構面(1) | 第47図 出土遺物 D区Ⅱ遺構面(9)、<br>E区Ⅰ遺構面(1)                       |
| 第14図 出土遺物 A区Ⅱ遺構面(2)               | 第48図 出土遺物 E区Ⅰ遺構面(2)、<br>E区Ⅱ遺構面                          |
| 第15図 出土遺物 B区Ⅰ遺構面(1)               | 第49図 出土遺物 その他Ⅰ遺構面(1)                                    |
| 第16図 出土遺物 B区Ⅰ遺構面(2)               | 第50図 出土遺物 その他Ⅰ遺構面(2)                                    |
| 第17図 出土遺物 B区Ⅰ遺構面(3)               | 第51図 出土遺物 その他Ⅱ遺構面(1)                                    |
| 第18図 出土遺物 B区Ⅰ遺構面(4)、<br>B区Ⅱ遺構面(1) | 第52図 出土遺物 その他Ⅱ遺構面(2)                                    |
| 第19図 出土遺物 B区Ⅱ遺構面(2)               | 第53図 出土遺物 その他Ⅱ遺構面(3)                                    |
| 第20図 出土遺物 B区Ⅱ遺構面(3)               | 第54図 出土遺物 その他Ⅱ遺構面(4)                                    |
| 第21図 出土遺物 B区Ⅱ遺構面(4)               | 第55図 出土遺物 その他Ⅱ遺構面(5)、<br>Ⅲ遺構面(1)                        |
| 第22図 出土遺物 B区Ⅱ遺構面(5)               | 第56図 出土遺物 Ⅲ遺構面(2)、<br>床土・表採・不明(1)                       |
| 第23図 出土遺物 B区Ⅱ遺構面(6)               | 第57図 出土遺物 床土・表採・不明(2)                                   |
| 第24図 出土遺物 B区Ⅱ遺構面(7)               | 第58図 出土遺物 床土・表採・不明(3)                                   |
| 第25図 出土遺物 B区Ⅱ遺構面(8)               | 第59図 出土遺物 床土・表採・不明(4)                                   |
| 第26図 出土遺物 B区Ⅱ遺構面(9)               | 第60図 出土遺物 銭貨 A区Ⅰ遺構面、<br>A区Ⅱ遺構面、<br>B区Ⅰ遺構面、<br>B区Ⅱ遺構面(1) |
| 第27図 出土遺物 B区Ⅱ遺構面(10)              | 第61図 出土遺物 銭貨 B区Ⅱ遺構面(2)                                  |
| 第28図 出土遺物 C区Ⅰ遺構面(1)               | 第62図 出土遺物 銭貨 B区Ⅱ遺構面(3)                                  |
| 第29図 出土遺物 C区Ⅰ遺構面(2)、<br>C区Ⅱ遺構面(1) | 第63図 出土遺物 銭貨 B区Ⅱ遺構面(4)、                                 |
| 第30図 出土遺物 C区Ⅱ遺構面(2)               |   |
| 第31図 出土遺物 C区Ⅱ遺構面(3)               |   |
| 第32図 出土遺物 C区Ⅱ遺構面(4)               |   |
| 第33図 出土遺物 C区Ⅱ遺構面(5)               |   |
| 第34図 出土遺物 C区Ⅱ遺構面(6)               |   |

	B区Ⅲ遺構面、	第68図	出土遺物	銭貨	D区Ⅱ遺構面(2)、		
	C区Ⅰ遺構面				E区Ⅰ遺構面、		
第64図	出土遺物	銭貨	C区Ⅱ遺構面(1)		E区Ⅱ遺構面		
第65図	出土遺物	銭貨	C区Ⅱ遺構面(2)、	第69図	出土遺物	銭貨	その他Ⅰ遺構面、
	C区Ⅲ遺構面、						その他Ⅱ遺構面(1)
	D区Ⅰ遺構面(1)	第70図	出土遺物	銭貨	その他Ⅱ遺構面(2)、		
第66図	出土遺物	銭貨	D区Ⅰ遺構面(2)		その他Ⅲ遺構面、		
第67図	出土遺物	銭貨	D区Ⅰ遺構面(3)、		床土・表採・不明		
	D区Ⅱ遺構面(1)						

## 卷 末 写 真

PL.1	調査区 (1)調査区遠景	(38)SF1742	(39)SX1840
PL.2	調査区 (2)上層遺構面全景	(40)SS1728	
	(3)下層遺構面全景	PL.14	B区遺構 (41)SS1729、SA1748、SX1808・1809
PL.3	調査区 (4)上層遺構面近景	(42)SD1576・1736・1738、SF1743	
	(5)下層遺構面近景	(43)SD1737	
PL.4	町割遺構 (6)SS493 (7)SS493・SJ1619	PL.15	C区遺構 (44)上層遺構面 (45)SX1838
	(8)SS1564、SX1623 (9)SS1564	PL.16	C区遺構 (46)SX1838根太
PL.5	町割遺構 (10)SS1565 (11)SS1567		(47)SB1722・1723
	(12)SS1565、SD501・1574北半	PL.17	C区遺構 (48)SB1722 (49)SB1723
PL.6	A区遺構 (13)A区上層遺構面北半		(50)SE1594 (51)SF1608
	(14)A区上層遺構面南半		(52)SF1609 (53)SF1610
PL.7	A区遺構 (15)SB1550、SX1635、SD1568	PL.18	D区遺構 (54)上層遺構面
	(16)SB1714・1715		(55)下層遺構面
PL.8	A区遺構 (17)SF1604 (18)SE1594	PL.19	D区遺構 (56)SX1672~1675、SE1599
	(19)SB1714 (20)SF1741		(57)SA1572、SB1725
	(21)SB1553・1554	PL.20	D区遺構 (58)SB1558 (59)SB1559
PL.9	B区遺構 (22)SB1555	PL.21	D区遺構 (60)SE1599 (61)SE1600
	(23)SF1742、SX1784・1785		(62)SE1601 (63)SF1611
PL.10	B区遺構 (24)SB1721		(64)SF1612 (65)SX1674
	(25)SB1556、SF1606		(66)SX1822
PL.11	B区遺構 (26)SB1556 (27)SB1720	PL.22	D区遺構 (67)SB1560 (68)SB1562
PL.12	B区遺構 (28)SE1596 (29)SF1605	PL.23	D区遺構 (69)SE1602 (70)SE1603
	(30)陶磁器を収めたバンドコ		(71)SX1703 (72)SD1584・1586
	(31)SF1607 (32)SF1606	PL.24	E区遺構 (73)SF1617 (74)SF1745
	(33)SE1598 (34)SX1663・1664		(75)SF1746 (76)SF1614
	(35)SX1787	PL.25	出土遺物 A区Ⅰ遺構面
PL.13	B区遺構 (36)SX1662 (37)SD1730	PL.26	出土遺物 A区Ⅰ遺構面

PL.27	出土遺物	A区Ⅰ・Ⅱ遺構面	PL.54	出土遺物	D区Ⅰ遺構面
PL.28	出土遺物	A区Ⅱ遺構面	PL.55	出土遺物	D区Ⅱ遺構面
PL.29	出土遺物	B区Ⅰ遺構面	PL.56	出土遺物	D区Ⅱ遺構面
PL.30	出土遺物	B区Ⅰ遺構面	PL.57	出土遺物	D区Ⅱ遺構面
PL.31	出土遺物	B区Ⅰ遺構面	PL.58	出土遺物	D区Ⅱ遺構面
PL.32	出土遺物	B区Ⅰ・Ⅱ遺構面	PL.59	出土遺物	D区Ⅱ遺構面
PL.33	出土遺物	B区Ⅱ遺構面	PL.60	出土遺物	D区Ⅱ遺構面
PL.34	出土遺物	B区Ⅱ遺構面	PL.61	出土遺物	E区Ⅰ遺構面
PL.35	出土遺物	B区Ⅱ遺構面	PL.62	出土遺物	E区Ⅰ・Ⅱ遺構面
PL.36	出土遺物	B区Ⅱ遺構面	PL.63	出土遺物	その他Ⅰ遺構面
PL.37	出土遺物	B区Ⅱ遺構面	PL.64	出土遺物	その他Ⅰ遺構面
PL.38	出土遺物	B区Ⅱ遺構面	PL.65	出土遺物	その他Ⅱ遺構面
PL.39	出土遺物	B区Ⅱ遺構面	PL.66	出土遺物	その他Ⅱ遺構面
PL.40	出土遺物	B区Ⅱ遺構面	PL.67	出土遺物	その他Ⅱ遺構面
PL.41	出土遺物	B区Ⅱ遺構面	PL.68	出土遺物	その他Ⅱ遺構面
PL.42	出土遺物	C区Ⅰ遺構面	PL.69	出土遺物	その他Ⅱ遺構面
PL.43	出土遺物	C区Ⅰ遺構面	PL.70	出土遺物	Ⅲ遺構面
PL.44	出土遺物	C区Ⅱ遺構面	PL.71	出土遺物	Ⅲ遺構面、床土・表採・不明
PL.45	出土遺物	C区Ⅱ遺構面	PL.72	出土遺物	床土・表採・不明
PL.46	出土遺物	C区Ⅱ遺構面	PL.73	出土遺物	床土・表採・不明
PL.47	出土遺物	C区Ⅱ遺構面	PL.74	出土遺物	銭貨
PL.48	出土遺物	C区Ⅱ遺構面	PL.75	出土遺物	銭貨
PL.49	出土遺物	C区Ⅱ遺構面	PL.76	出土遺物	銭貨
PL.50	出土遺物	C区Ⅱ遺構面	PL.77	出土遺物	銭貨
PL.51	出土遺物	D区Ⅰ遺構面	PL.78	出土遺物	銭貨
PL.52	出土遺物	D区Ⅰ遺構面	PL.79	出土遺物	銭貨、その他
PL.53	出土遺物	D区Ⅰ遺構面	PL.80	出土遺物	その他

## 表 目 次

表1	特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査一覧	2
表2	出土遺物一覧表	21
表3	土器・陶磁器観察表	35
表4	金属製品観察表(銭貨を除く)	44
表5	漆塗碗・皿観察表	45
表6	木製品観察表(漆塗碗・皿を除く)	45
表7	石・骨・角・墨・ガラス製品観察表	46
表8	銭貨観察表	48
表9	遺物観察表補遺	PL.80

# I 事業概要

## 1 調査の目的

特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡は、戦国大名越前朝倉氏が領国支配の拠点とした所で、当主の館を中心として山城、城戸、一族・家臣の屋敷、町屋、寺院などの遺構が一体となって残されており、我が国の歴史を知るうえで欠くことのできない国民の共有の文化遺産として、永久に保存するため特別史跡に指定され、公有化が進められている。

遺跡保護の目的は、単に遺構を保存するだけにとどまらず、遺跡を調査してその成果を広く公表し、一般の歴史認識に役立てて活用することにある。その方策として、遺跡の中に身を置いて「自ら歴史と生きた対話」のできる史跡公園の完成を目指している。こうした理念のもとに一乗谷朝倉氏遺跡の調査と整備とが進められており、中でも発掘調査は当時の一乗谷の規模や構造、人々の暮らしぶりの実態などを直接的に明らかにする最も有力な方法と位置付けられる。計画的かつ連続的に行った発掘調査の成果に基づいて着実な環境整備が施され、適切な維持・管理のもと遺跡を公開する、その前提条件のひとつとしてこれまで調査を続けてきた。

本報告書は、一乗谷朝倉氏遺跡の計画的な発掘調査の結果を報告したものであり、その第17冊目にあたる。その他、道路・河川の整備事業や中山間事業などの現状変更に伴う発掘調査の報告は別途に行われている。なお、各年次の発掘・環境整備事業の概要は、当該年次の概報として公開されているが、本書で正式に調査所見を報告するものとし、内容については本報告書が優先する。

## 2 調査の経過

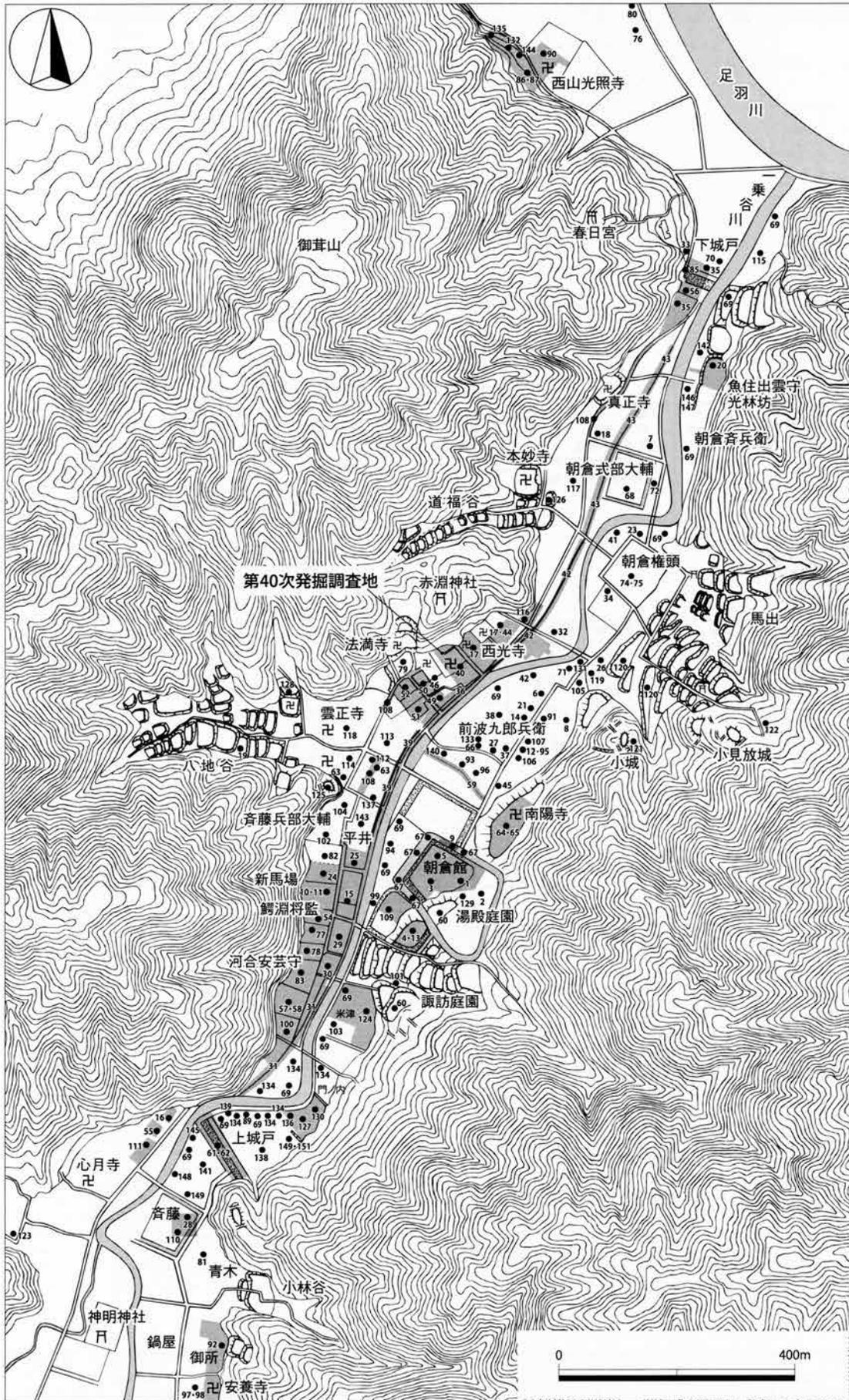
一乗谷朝倉氏遺跡の計画的な発掘調査は、昭和42年度から足羽町教育委員会を事業主体として始められた。昭和46年度から福井県教育委員会がこれを引き継いで発掘調査と環境整備事業を実施し、福井市が用地取得と遺跡の管理を担当するという機能分担で事業を進めている。同年7月に278haという広大な地域が国の特別史跡に格上げ指定され、福井県は、昭和47年3月に策定された「朝倉氏史跡公園基本構想」のもと、同年4月に福井県教育庁朝倉氏遺跡調査研究所を設置し、以後5ヵ年計画により継続して発掘調査と環境整備を実施した。これ以前の旧足羽町と福井県教育委員会による調査を、第1次5ヵ年計画とし、以後昭和61年度まで4次にわたって5ヵ年計画を進めた。第1次5ヵ年計画では朝倉氏最後の当主である朝倉義景の館跡を中心に調査を行った。この間、昭和45年には土地改良事業に伴い御所・安養寺や小林谷で緊急確認調査を行い、遺構の保存状態が良好であることを確認して、特別史跡指定の機運を高めた。第2次5ヵ年計画では、それに引き続いて平井地系の武家屋敷跡や朝倉義景館跡に隣接する中の御殿跡、赤渕地係に所在するサイゴ寺跡、指定地内の北部に位置する瓢町地係や出雲谷地係など、武家屋敷、寺院、町屋等とみられるいくつかの地点を選択して一乗谷の概況の把握を試みた。第3次5ヵ年計画では、一乗谷川の西側に敷設されることになった県道鯖江・美山線の改良工事に関連して、その両側の平地部分を計画的に調査した。引き続き第4次5ヵ年計画では、その最初の4年で指定地の中央に位置する赤渕・奥間野・吉野本地係を集中的に発掘調査し、この地区の道路、武家屋敷、寺院、町屋等の極めて良好な遺構を検出、大量の遺物が出土して大きな成果をあげた。なお、本書で報告するのはその成果の一部である。最後の5年目は再び平井地系の武家屋敷を調査し、さらに一乗谷の内

表1 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査一覧

年度	西暦	調査計画	主要調査成果	調査回数	調査場所・住所	概報	報告書	面積
昭和42年	1967	第1次5ヵ年	一乗谷の発掘調査が庭園の整備に伴う事前調査から始まる。朝倉義景館での調査は日本中世考古学の確立に貴重な役割を果たす。	庭園	諏訪館跡・湯殿跡・南陽寺跡の庭園	I	I	1,800
昭和43年	1968			朝倉館	城戸ノ内町字新御殿(朝倉義景館東南部)	I	I	2,065
昭和44年	1969			朝倉館	城戸ノ内町字新御殿(朝倉義景館東北部)	I	I	1,953
昭和45年	1970			御所・安養寺	東新町字五所・安如寺口	II		769
昭和46年	1971			第1次	城戸ノ内町字新御殿	III	I	676
		第2次	城戸ノ内町字新御殿	III	I	34		
		第3次	城戸ノ内町字新御殿	III	I	1,992		
昭和47年	1972	第2次5ヵ年	朝倉義景館の調査が終了し、武家屋敷や町屋群の調査を開始する。町屋群では職人の工房跡が確認される。	第4次	城戸ノ内町字水谷(中ノ御殿南半分)	IV		1,340
				第5次	城戸ノ内町字新御殿(朝倉義景館西北部)	IV	I	1,305
				第6次	城戸ノ内町字庄角	V	14	172
				第7次	城戸ノ内町字瓢町	V	14	246
				第8次	城戸ノ内町字瓜割流	V	14	50
				第9次	城戸ノ内町字新御殿(朝倉義景館北辺濠)	V	I	170
				第10次	城戸ノ内町字平井	VI	II	2,425
				第11次	城戸ノ内町字平井	VI	II	1,240
				第12次	福井市城戸ノ内町字瓜割流	VI	14	108
				第13次	城戸ノ内町字水谷(中ノ御殿北半分)	VI	III	2,250
				昭和49年	1976	第14次	城戸ノ内町字庄角	
第15次	城戸ノ内町字平井・川合・平井・斎藤	VII	IV			2,400		
第16次	西新町字心月寺	VII	一乗小学校			350		
昭和50年	1975	第17次	城戸ノ内町字赤瀨	VII	VIII	2,050		
		第18次	城戸ノ内町字瓢町	VIII		2,500		
昭和51年	1976	第19次	城戸ノ内町字八地谷	VIII	14	396		
		第20次	城戸ノ内町字出雲谷	VIII	III	2,200		
昭和52年	1977	第3次5ヵ年	平井、川合、赤瀨、奥間野地係を中心に面的に調査を実施。武家屋敷や町屋の様子が明らかとなってくる。道路の普請状況が明確になり、約30m=100尺を基準とした町割り状況が判明する。	第21次	城戸ノ内町字庄角	IX	14	100
				第22次	城戸ノ内町字庄角	IX	14	100
				第23次	城戸ノ内町字権殿	IX	14	20
				第24次	城戸ノ内町字平井	IX	IV	2,200
				第25次	城戸ノ内町字平井・斎藤	IX	IV	2,400
				第26次	城戸ノ内町字兵庫	IX	14	36
				第27次	城戸ノ内町字庄角	X	14	33
				第28次	東新町字斎藤	X	14	800
				第29次	城戸ノ内町字川合殿・平井	X	V・VI	3,200
				第30次	城戸ノ内町字川合殿	X	VI	1,220
				昭和53年	1978	第31次	城戸ノ内町字藤兵川原・川合殿	
第32次	城戸ノ内町字川久保					14	114	
第33次	安波賀町字宮下	XI	14			30		
昭和54年	1979	第34次	城戸ノ内町字権殿	XI	14	120		
		第35次	城戸ノ内町字下城戸	XI	VII	1,630		
		第36次	城戸ノ内町字赤瀨・奥間野			鯖江・美山線	2,800	
昭和55年	1980	第37次	城戸ノ内町字庄角	XII	14	100		
		第38次	城戸ノ内町字庄角	XII	14	100		
		第39次	城戸ノ内町字斎藤・木蔵			鯖江・美山線	800	
昭和56年	1981	第40次	城戸ノ内町字奥間野			17	3,000	
		第41次	城戸ノ内町字権殿			14	18	
		第42次	城戸ノ内町字川久保・赤瀨	XIII		4,800		
昭和57年	1982	第43次	城戸ノ内町字中惣・瓢町・下城戸			鯖江・美山線	4,750	
		第44次	城戸ノ内町字赤瀨	XIV	VIII	2,600		
		第45次	城戸ノ内町字瓜割流	XV	14	63		
昭和58年	1983	第46次	城戸ノ内町字奥間野	XV		3,000		
		第47次	安波賀町字上武者野			武者野遺跡	100	
		第48次	安波賀町字上武者野			武者野遺跡	270	
昭和59年	1984	第49次	城戸ノ内町字奥間野	XVI	IX	1,300		
		第50次	城戸ノ内町字奥間野	XVI	IX	1,300		
		第51次	城戸ノ内町字吉野本	XVII	X	1,720		
昭和60年	1985	第52次	城戸ノ内町字吉野本	XVII	X	1,930		
		第53次	安波賀町字武者野			武者野遺跡	200	
		第54次	城戸ノ内町字平井	XVIII	II	1,800		
昭和61年	1986	第55次	西新町字心月寺			一乗小学校	580	
		第56次	城戸ノ内町字下城戸	XVIII	VII	1,200		
		第57次	城戸ノ内町字川合殿	XIX	VI	2,560		
昭和62年	1987	第58次	城戸ノ内町字中惣	XIX		1,300		
		第59次	城戸ノ内町字上川原			連絡道路	1,200	
		第60次	諏訪館跡・湯殿跡庭園 導水路確認調査	XIX	18	70		
昭和63年	1988	第61次	東新町字上城戸・城戸ノ内町字上城戸	XX		4,000		
		第62次	東新町字上城戸・城戸ノ内町字上城戸	XX	VII			
		第63次	城戸ノ内町字木蔵	XX		200		
平成元年	1989	第64次	城戸ノ内町字難陽寺	1989	12	1,600		
		第65次	城戸ノ内町字難陽寺	1989	12	1,600		
		第66次	城戸ノ内町字庄角			14	180	
平成2年	1990	第67次	城戸ノ内町字新御殿	1989	18	330		
		第68次	城戸ノ内町字中惣	1990		3,800		
		第69次	城戸ノ内町・安波賀町・西新町(旧河川敷)			水辺空間	775	
平成3年	1991	第70次	安波賀町字土居ノ本	1990	14	100		
		第71次	城戸ノ内町字庄角	1990	14	300		
		第72次	城戸ノ内町字中惣	1991	14	210		
		第73次	城戸ノ内町字兵庫	1991	14	70		
		第74次	城戸ノ内町字権殿	1991		2,600		
		第75次	城戸ノ内町字権殿	1991				
		第76次	安波賀町字水津			篠尾・勝山線	500	

年度	西暦	調査計画	主要調査成果	調査回数	調査場所・住所	概報	報告書	面積		
平成4年	1992	中期 第1次10ヵ年 後半	斉藤、川合殿地係の調査では、武家屋敷や町屋群を確認。また、上城戸・下城戸の外にある寺院を中心に調査。環境整備事業では町並立体復原。	第77次	城戸ノ内町字川合殿	1992	V	2,600		
				第78次		1992				
				第79次		1992			14	120
				第80次		1992			篠尾・勝山線	495
				第81次		1992				330
				第82次		1993				1,920
				第83次		1993			VI	1,300
				第84次						500
				第85次		1994			VII	400
				平成6年		1994				
第87次	1994	11								
第88次	1994		500							
第89次	1994		100							
平成7年	1995			第90次	城戸ノ内町字上西山	1995	11	800		
				第91次		1995	14	100		
				第92次		1995	13	2,600		
				第93次		1995	14	200		
				第94次		1995		1,400		
				第95次				14	400	
平成8年	1996			第96次	城戸ノ内町字上川原	1996	14	630		
				第97次		1996	13	2,400		
				第98次		1996	13			
				第99次					1,000	
				第100次		1997	18	2,600		
平成9年	1997	中期 第2次10ヵ年 前半	斉藤、川合殿地係を中心に調査を実施。上級武家屋敷を多数確認。中山間事業では城戸ノ内全域で道路遺構を検出。	第101次	城戸ノ内町字蛇谷			400		
平成10年	1998			第102次		1998		2,300		
平成11年	1999			第103次		1999		100		
				第104次		1999		2,000		
				第105次		1999	14	120		
				第106次		1999	18	225		
平成12年	2000			第107次		32	14	98		
				第108次		32	中山間	1,400		
				第109次		32	18	2,000		
平成13年	2001			第110次			中山間	1,000		
		第111次		中山間	150					
平成14年	2002	中期 第2次10ヵ年 後半	遊歩道周辺での調査を実施。雲正寺地係周辺を調査。南北道路の両側に大型の区画を検出。中山間事業では道路遺構を確認。	第112次	城戸ノ内町字雲正寺	33		2,000		
平成15年	2003			第113次		34	1,700			
				第114次		35	1,700			
平成16年	2004			第115次			540			
				第116次			中山間	318		
平成17年	2005			第117次		35	14	26		
				第118次			14	114		
平成18年	2006			第119次		36		3,000		
				第120次		36		500		
平成19年	2007			第121次		37		100		
		第122次			650					
平成20年	2008	第123次		砂防	250					
		第124次	38	15	2,500					
平成21年	2009	第125次	38		137					
		第126次	39	14	44					
平成22年	2010	第127次	39	16	2,000					
		第128次	39		120					
平成23年	2011	第129次			39					
		第130次	40	16	2,500					
平成24年	2012	第131次	40	14	42					
		第132次	41	11	1,500					
平成25年	2013	第133次	41	14	40					
		第134次			222					
平成26年	2014	第135次	42	11	800					
		第136次	42	16	1,200					
平成27年	2015	第137次	43		300					
		第138次	43		900					
平成28年	2016	第139次			660					
		第140次	43	14	120					
平成29年	2017	第141次	44		800					
		第142次			245					
平成30年	2018	第143次	44		30					
		第144次	44	11	60					
令和元年	2019	第145次			200					
		第146次	45		1,250					
		第147次	46		33					
		第148次	47		200					
		第149次	47		300					
		第150次			5,500					
		第151次	48		180					
		第152次			80					

注 報告書略称 一乗小学校→「一乗谷朝倉氏遺跡 一乗小学校校舎改築に伴う事前調査報告書1986」、鯖江・美山線→「特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 県道鯖江・美山線改良工事に伴う発掘調査報告書1983.3」、武者野遺跡→「武者野遺跡 国道158号線改良工事に伴う事前調査報告書1986.3」、連絡道路→「一乗谷朝倉氏遺跡 朝倉館前連絡道路敷設に伴う発掘調査報告書1987」、水辺空間→「一乗谷朝倉氏遺跡 一乗谷川水辺空間整備計画に伴う事前調査報告書1991.3」、篠尾・勝山線→「一乗谷朝倉氏遺跡 県道篠尾・勝山線改良工事に伴う事前調査報告1992」、中山間→「特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 中山間地域総合整備事業施設間連絡道路整備事業に伴う発掘調査～ 第108次・第110次・第111次・第116次調査2005、砂防→「福井県埋蔵文化財調査報告 第129集 一乗谷朝倉氏遺跡-砂防激甚災害対策特別緊急事業(西新川)に伴う調査- 2012」福井県教育庁埋蔵文化財調査センター



※数字は調査回数、網掛けは正報告刊行済(小規模調査区は除く)を示す

挿図1 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡調査地略図(縮尺1/10,000)

外を区切る下城戸跡の本体の調査にも入った。

昭和62年度から中期第1次10ヵ年計画として上城戸跡や南陽寺跡、西山光照寺跡、御所・安養寺跡などの大規模寺院、そして中惣・権殿・河合殿などの武家屋敷・町屋跡を計画的に調査し、遺跡内の各地に所在する大規模かつ特徴的な遺構を究明した。

平成9年度から中期第2次10ヵ年計画として、町並立体復原地区の北に位置する八地谷川兩岸を連続的に発掘調査し、この地区の街路や武家屋敷の構造を明らかにした。また、遊歩道設置に伴う事前調査も実施した。途中、平成16年度は福井豪雨により遺跡や資料館が被災したため、雲正寺地係内での発掘調査を中断し、災害復旧に全力を注ぐこととなった。

平成17年度から改めて中期第3次10ヵ年計画を施行し、中断した調査を再開した。平成19年度からは、朝倉館跡から上城戸跡に至る遊歩道沿いの整備を進めるため、連続的に字米津や字門ノ内を発掘調査し、刀装具製作工房跡やガラス玉工房跡の存在が明らかとなった。平成22年度からは、西山光照寺跡の平地部北半を調査して、大規模な石垣や建物の存在を確認した。

平成24年度からは、前年度に改定した「特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘・整備基本計画」に基づき、城下町の防御の要である上城戸跡の一带において、城戸内外をつなぐ道路跡と城戸入口の構造および城戸周辺を面的に解明する目的でトレンチ調査を行い、屋敷地や道路跡の一部分を確認して現在に至る。

### 3 調査の方法および組織

発掘調査・環境整備は、国庫補助事業として福井県が直接実施している。その実施機関として福井県教育庁朝倉氏遺跡調査研究所(昭和47年4月1日～同56年8月19日)、およびこれを改組した福井県立朝倉氏遺跡資料館(昭和56年8月20日～。平成4年4月1日に一乗谷朝倉氏遺跡資料館と名称変更。)が設置され、その任にあたってきた。平成24年度からは、県の機構改革で同資料館が教育庁から知事部局に移管となったことに伴い、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが朝倉氏遺跡グループを設けて引き継いだ。平成29年度の機構改革で、朝倉氏遺跡に関する全業務を知事部局が担うこととなった。また当初から、「朝倉氏史跡公園基本構想」に基づき特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡調査研究協議会(平成8年度に福井県朝倉氏遺跡研究協議会と名称変更。)が設置され、その指導と助言を受けている。

本報告書に関係する年度における組織、および経費を以下に記した。

○昭和55・56年度(第40次発掘調査)

**朝倉氏遺跡調査研究協議会** ※50音順。役職は昭和55年1月当時。

委員	青園謙三郎(福井テレビ放送社長・郷土史)	委員	石井 進(東京大学教授・歴史)
委員	伊藤 滋(東京大学助教授・都市工学)	委員	岸谷孝一(東京大学教授・建築)
委員	木原啓吉(朝日新聞社編集員・都市環境)	委員	木村竹次郎(朝倉氏遺跡保存協会会長)
委員	近藤公夫(奈良女子大学教授・造園)	委員	重松明久(福井大学教授・歴史)
委員	清水英夫(青山学院大学教授・哲学)	委員	田畑貞寿(千葉大学教授・造園)
委員	坪井清足(奈良国立文化財研究所所長・考古)	委員	戸塚文子(評論家)
委員	水上 勉(作家)	委員	城戸ノ内町内会長

**朝倉氏遺跡調査研究所(～昭和56年8月)・朝倉氏遺跡資料館(昭和56年8月～)**

所長・館長	藤原武二(造園)	次長	中谷 賢(事務)	文化財調査員	水野和雄(考古)
文化財調査員	小野正敏(考古)	文化財調査員	岩田 隆(考古)	文化財調査員	吉岡泰英(建築)
文化財調査員	南洋一郎(考古)	文化財調査員	伊藤正敏(歴史)	事務補助員	吉越 強*
調査補助員	加藤吉則*	非常勤嘱託	青木研吾*(学芸)	非常勤嘱託	西村 広*(事務)

(\*吉越・加藤は昭和55年度、青木・西村は同56年度)

**経費** 昭和55年度 発掘調査経費 34,000千円(第37・38次調査費含む)

**経費** 昭和56年度 発掘調査経費 35,000千円(第42次調査費他含む)

○平成28～令和元年度(本報告書作成)

**朝倉氏遺跡研究協議会** ※50音順。役職は平成31年1月現在。

委員	網谷克彦(元福井県陶芸館長・考古)	委員	池上裕子(成蹊大学名誉教授・歴史)
委員	小野健吉(和歌山大学教授・遺跡整備)	委員	小野正敏(国立歴史民俗博物館名誉教授・考古)
委員	神吉紀世子*(京都大学大学院教授・環境計画)	委員	岸田 清(朝倉氏遺跡保存協会会長)
委員	久保智康(京都国立博物館名誉館員・美術工芸)	委員	高妻洋成(奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター長・保存科学)
委員	小浦久子(神戸芸術工科大学教授・都市計画)	委員	杉本 宏*(京都造形芸術大学教授・庭園整備)
委員	富島義幸(京都大学大学院教授・建築)	委員	吉田 智(福井教育博物館館長・歴史)

(\*神吉委員の任期は平成30年1月24日まで、杉本委員の任期は同1月27日から。)

**埋蔵文化財調査センター**

所長	工藤俊樹*(考古)	次長	赤澤徳明*(考古)	主任	鈴木篤英*(考古)
主査	木村孝一郎*(考古)	非常勤嘱託	蟻塚美佐子*(事務)	非常勤嘱託	富坂昌代*(事務)

(\*工藤は平成28・29年度。赤澤は同30年度から所長。木村は平成28・29年度、鈴木は令和元年度から資料館併任地勤務。蟻塚は平成28年度、富坂は平成29年度から資料館併任地勤務。)

**一乗谷朝倉氏遺跡資料館**

館長	向出宏二(事務)	副館長	月輪 泰(考古)	次長	井上順子*(事務)
次長	下山淳子*(事務)	主任	川越光洋*(考古)	主任	宮永一美(歴史)
主任	宮崎 認*(考古)	主任	田中祐二*(考古)	主任	有馬香織*(歴史)
主査	松本泰典*(考古)	主査	熊谷 透*(建築)	主査	藤田若菜*(庭園)
学芸員	石川美咲(歴史)	学芸員	渡邊英明*(保存科学)	学芸員	大竹桃子*(史跡整備)
文献調査専門員	佐藤 圭*(歴史)	非常勤嘱託	眞保弘恵*(事務)	非常勤嘱託	松村良行*(事務)
非常勤嘱託	花川洋介*(事務)				

(\*井上・松村・佐藤は平成28年度。松本は同28～30年度。下山・渡邊・大竹・花川は同29年度から、有馬は同30年度から配属。熊谷、同28年度は文化財調査員。川越・田中・松本・熊谷・眞保は同28年度、藤田は同28・29年度、埋蔵文化財調査センターに併任。)

**経費** 平成28年度 発掘調査費 4,875千円(報告書遺物整理)

平成29年度 発掘調査費 2,928千円(報告書遺物整理)

令和元年度 発掘調査費 843千円(報告書刊行)

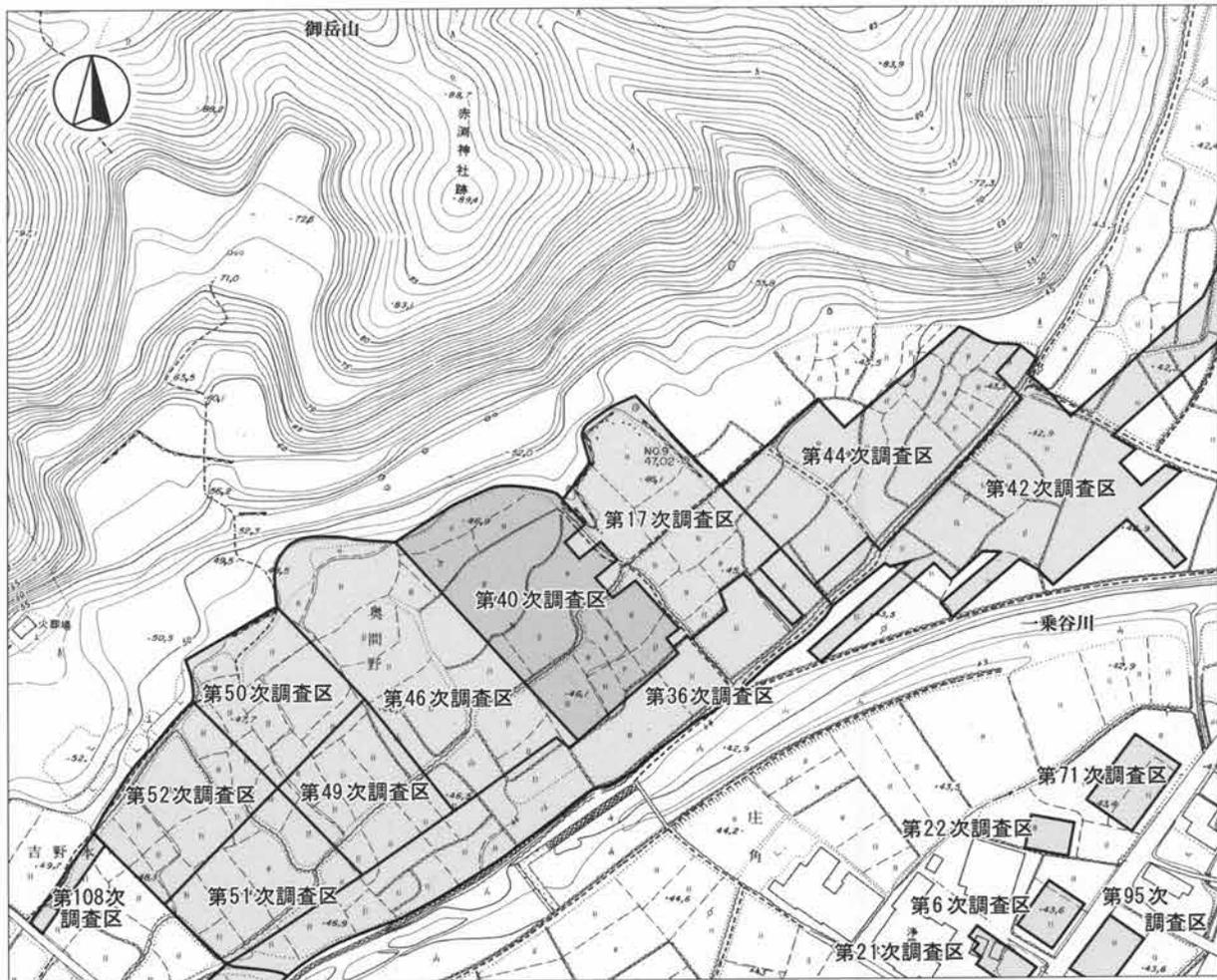
## Ⅱ 調査の概要と経過

### 1 調査の概要

今回報告する第40次調査地は、福井市城戸ノ内町字奥間野地係に所在し、調査面積は約3,000㎡を測る。当地区は、上城戸・下城戸に区切られた「城戸ノ内」の中央部に位置し、南から東側を足羽川の支流である一乗谷川が流れ、西から北側には福井平野と画する御茸山がそびえている。なお、一乗谷川を挟んだ南方にある朝倉館跡からは約400m離れている。

当地区ならびに隣接する赤渕・吉野本地区は武家屋敷・寺院・町屋等の遺構が良好に残り、全面的な発掘調査の結果、一乗谷の町並の様相が最も解明された地区の一つとなっている。第40次調査以前には北東側で第17次調査、南東側で第36次調査が実施されており、西側の山裾に比較的大区画の寺院、東側の一乗谷川沿いに南北の幹線道路を基準に展開する小区画の屋敷群の存在が判明していた。これらの調査結果を受け、第40次調査では南北道路の行方や、町屋と考えられる小規模な屋敷跡の構造ならびに町割の変遷の追求に主眼を置いた。

調査の結果、少なくとも4期にわたる遺構面を検出し、比較的大規模な区画が小規模の区画に分割、蚕食されていく町割の変遷過程をとらえることができた。遺物では、石積施設から金隠が出土し、それ



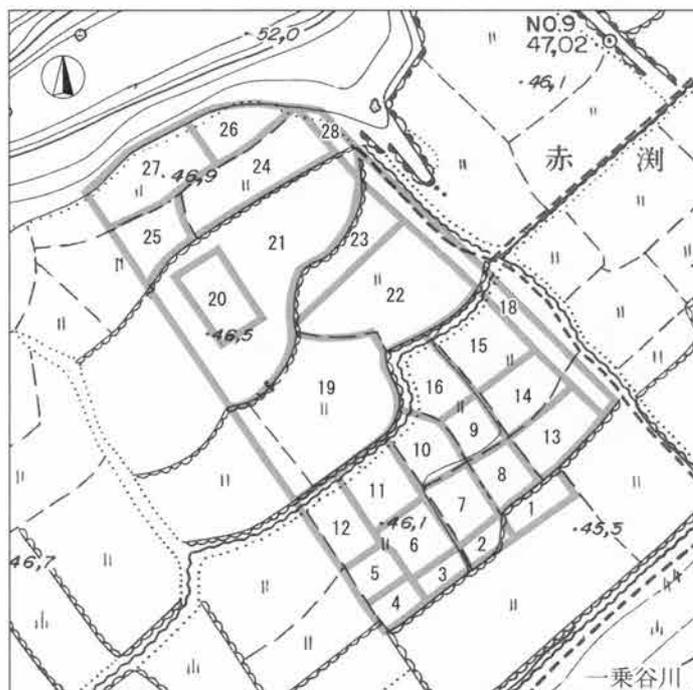
挿図2 第40次調査区周辺地形図(縮尺1/2,000)

が便所であるとの確証に至った。その他、油煙墨やガラス皿、北国船の模型など、それまで出土例のない、あるいは極めて少ない遺物が出土した。

## 2 調査の経過

調査は昭和55年(1980)7月1日に着手した。調査対象地は山裾から一乗谷川に向かって下る4段の旧水田であり、最上段と下段では約1.4mの比高差があった。作業は人力による耕作土・床土の除去から行ったが、先行して実施された第36次調査の排土があったことと、天候不順により2ヶ月もの期間を要した。なお、その際の遺物の取り上げは旧水田の地割を基準に1～28区に分けて行っている(挿図3)。その後、山裾側より上層遺構の検出に着手し、同年11月まで調査を行った。その間、陶磁器を収納したバンドコや油煙墨、ガラス皿、そして金隠など重要な発見が相次いだ。

11月11日に上層遺構面の航空測量を実施した後、引き続き下層遺構の調査に着手した。下層の掘り下げは、上層遺構を島状に残した状態で可能な限り遺構の検出を試みた。年内はA・B区を調査し、B区の広い範囲で焼土面や敷物の跡を検出した。T66グリッドでは四角い木柵の中に埋置された播鉢が出土した(SX1786)。冬季は現場作業を中断し、上層遺構面の概報を作成、刊行した(概報Ⅻ)。下層の調査は昭和56年(1981)4月から再開した。D区から着手し、新たに礎石建物などの遺構を検出するとともに、概報で上層遺構として報告した遺構の一部が下層の遺構面に属することも判明した。次いでC区の掘り下げに着手した。この地区では炭化した床材と整地土が互層をなしており、何度も床面を嵩上げしていた様子が明らかとなった。また、それらに混じって多数の木製品が出土した。その後、A・B区についても再度掘り下げを行い、多くの下層遺構を検出した。これら下層遺構の航空測量は、隣接地で行った第42次調査の終了を待って同時に実施し、調査を完了した。



挿図3 床土出土遺物の取り上げ区画

## 3 調査区の設定

第40次調査区は、先行する第17・36次調査区に接して東西約72m、南北約43mの不整形な長方形で設定した。調査区内は第17次調査で設定した3mグリッドを南へ延長し、南北にI～U・A～C列、東西に49～74列とした。遺物取り上げの区画名としては、グリッド南東の交点を読んだ。なお、本文中における方位の記述は、これまでと同様に町割の方向を基準とし、地図上のものとは異なる。つまり、一乗谷川側を東、御茸山側を西とし、北は実際より約45度東へ振れた方向で用いている。

## 日 誌 抄

昭和55年(1980)

- 7・1 発掘調査を開始する。耕作土除去を開始。
- 8・28 耕作土除去終了。
- 8・29 東西道路SS493の西端を検出。笏谷石が階段状に並ぶ。
- 9・1 A区の遺構検出に着手。
- 9・2 石敷SX1635検出。
- 9・3 南北道路SS1564検出。B区北側の遺構検出に着手。
- 9・4 SB1555、SF1605、SE1596等掘削。
- 9・12 SB1556、SE1598、SF1607・1608等掘削。
- 9・16 SD1571・1573、SF1609等掘削。  
陶磁器を納めたバンドコ検出。
- 9・17 C区の遺構検出。SD1572等掘削。
- 9・18 SF1610等掘削。
- 9・19 D区の遺構検出に着手。SD574、SX1674等掘削。
- 9・22 SD1583・1584等掘削。SA1618検出。
- 9・24 SD1579・1591等掘削
- 9・25 SD1580・1590、SF1612等掘削。
- 10・1 SF1614・1615・1617等掘削。SF1617より金隠出土。
- 10・6 SD1576、SX1675等掘削。
- 10・17 B区南側の遺構検出に着手。
- 10・21 SB1556検出。

- 11・11 航空測量。  
(以上、上層調査)
- 11・14 下層の掘り下げ開始。A区の遺構検出に着手。
- 11・17 SB1553等検出。
- 11・20 B区の遺構検出に着手。
- 11・25 SD1732・1733等掘削。
- 12・2 SD1731等掘削。SS1728検出。SX1786検出
- 12・9 T68グリッドで葎敷きの面を検出。

昭和56年(1981)

- 4・21 D区の遺構検出に着手。
- 5・11 SB1560北辺、SA1750等検出。SK1763・1764等掘削。
- 5・14 SB1725、SA1749等検出。
- 5・21 C区の遺構検出に着手。SS493の下層に溝SD502確認。
- 5・26 SB1721～1723等検出。SD1735等掘削。
- 5・27 B区の遺構検出に着手。SD1731等掘削。
- 6・5 A区の遺構検出。SB1714・1715等検出。SF1741等掘削。
- 6・8 A・B区の遺構検出。SF1742等掘削。
- 9・12 遺構写真撮影
- 9・13 遺構写真撮影
- 10・13 航空測量(第42次調査と同時に実施)



上層遺構面検出作業



上層遺構掘削作業

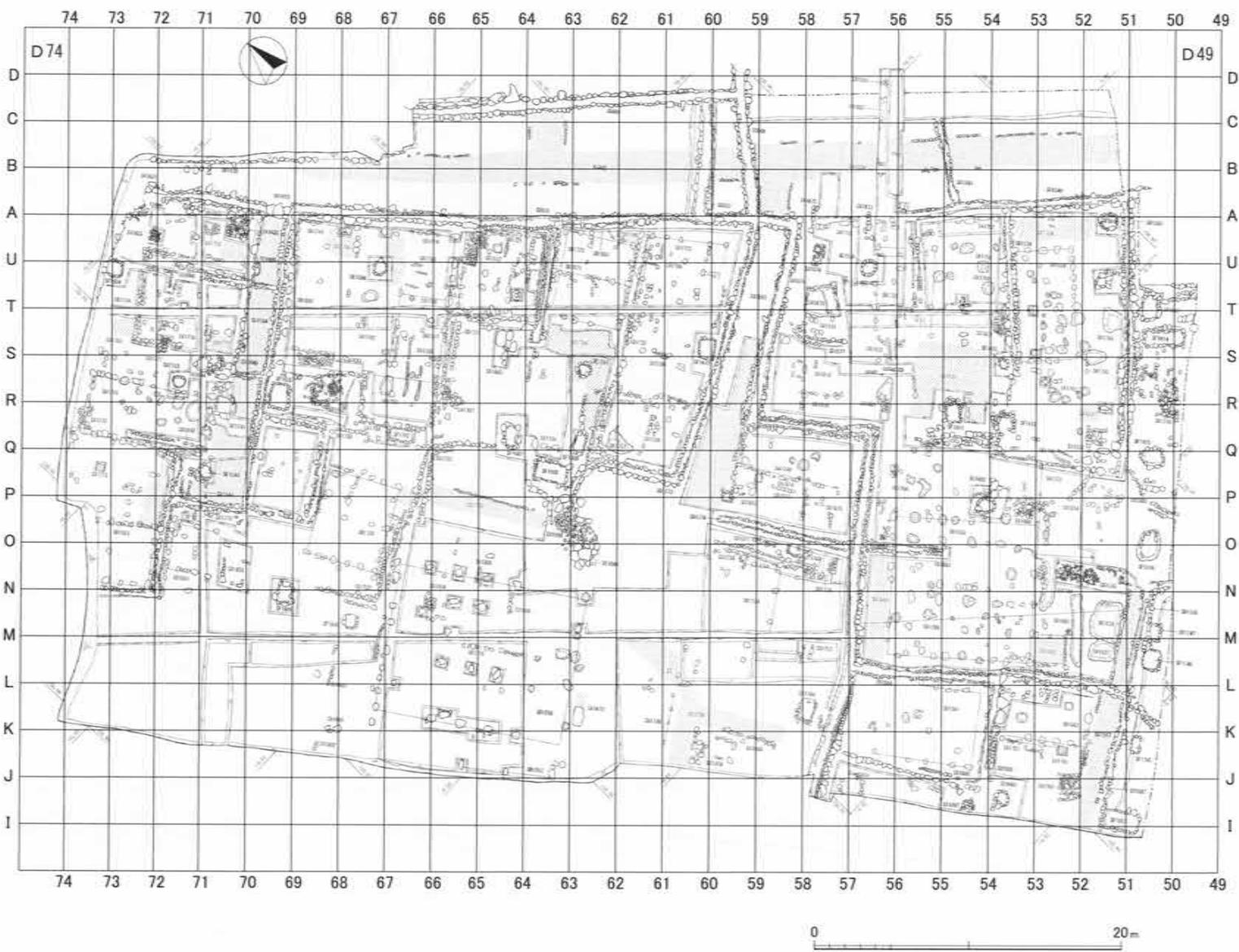


下層遺構面検出作業



下層遺構掘削作業

挿図4 作業風景写真



挿図5 グリッド設定図(縮尺1/400)

### Ⅲ 遺構

検出した主な遺構は上層の調査において道路4、石組溝18、礎石建物9、井戸10、石積施設14、炉4等、下層の調査においては礎石建物8、石積施設4、溝3、通路2、炉3等である。

当調査区は東西道路SS493を基軸に、道路や溝によって大きく以下の地区に分けられる(挿図6)。

A区：SS1564より西の小区画群の地区。

B区：SS1564・SD1695以東、SS1565・SD1574以西の広い区画のうち、SD1571とSD1572で画された地区(C区)を除く範囲。さらに本区は下層の遺構面で検出したSD1730・1733の東西方向部分を結んだライン以北をB1区、残りをB2区とする。

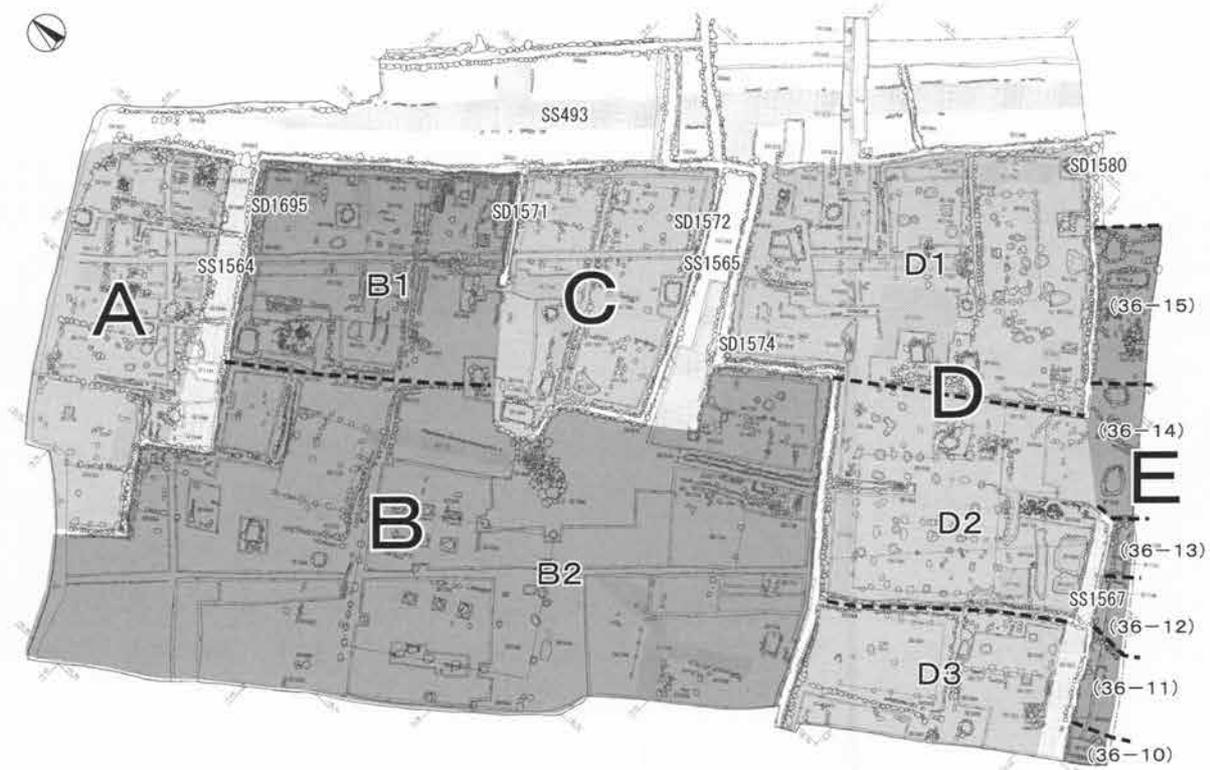
C区：SD1571とSD1572で区画された地区。上層の遺構面においてB区より約0.5m低い。

D区：SD1574以東、SD1580・SS1567以西の小区画群の地区。東西道路SS493に面し、南をSD1574・1581・1582で区画された範囲をD1区、SD1581・1582以南、SD1584以北の範囲をD2区、SD1584以南をD3区とする。

E区：SD1580・SS1567以東の小区画群の地区。第36次発掘調査において、一乗谷川沿いの幹線道路SS495に面して検出した小区画群の一部にあたる。

層序について、当調査区は面積が広い上、各区画が溝で分断されているため全体を貫く土層はないものの、分断している溝が新旧でわずかにずれているため、それを利用して両隣の共通土層を決定し、それを繰り返すことによって全体の時期を把握することに努めた(第10図)。

水田の床土を除去した段階で検出した上層の遺構面は、一部を除いて基本的に最終遺構面と捉えられ、この遺構面を含め大きく4期、一部は5期にわたっていることを確認した。



挿図6 区画割図(縮尺1/500)

時期決定の基準となった溝はB 1区とC区を分けるSD1571で、新旧2時期ある。(新)に対応する遺構は2面あり、古い方はSX1838とSB1721、新しい方にはSB1557とSX1663がそれぞれ対応している。(旧)にはSB1722がある。SD1695以西(A区)については溝が浅い上に整地層が全く異なっているため、直接対応する遺構面は把握できなかった。SD1574以东(D区)はトレンチ内で4時期の遺構面を確認しているが、面的に発掘したのは2時期のみである。

以下、遺構の記述は上述した地区割りの基準となる遺構からはじめ、つづいてA～D区の順に行う。各区では上層をI遺構面とし、下層へ向かってII、III、IV遺構面とした。また、遺構でも主に礎石建物では、一乗谷の基準寸法に従い、1間を6尺2寸=約1.879mで記述、検討した。井戸や石積施設等の平面規模は特に断らない限り内径・内法である。なお、井戸については作業の安全性を考慮して上部のみの掘削にとどめたため、深さや下部の構造は不明である。

### 町割に係る遺構(第1・2図、PL.4・5)

**SS493** 調査区の北縁を東西に走る道路である。東方は第36次調査区で南北の幹線道路SS495とT字に接続し、西方は山裾の屋敷地(未調査)へ登っていく。本来的には「サイゴ寺」(第17次調査区17-1区画)前のように幅約7m、両側に幅約0.5mの石組溝SD499・501がつき、あわせて約8m幅で計画されたとみられるが、かなり早い時期にSD500以东は道幅5m前後に狭められ、北側の側溝SD499も廃止される。また、西側の登っていく部分約15mも幅が2～3mと狭くなっている。この登り坂の一部で階段状になった4枚の笏谷石SJ1619を検出した。また、登り坂の部分を除いて、道路の中ほどに幅2m前後で砂利が敷かれていた。なお、道路面を断ち割って下層を確認したところ、詳細は不明だが道路とは考えられない遺構SX1824～1826を確認した。計画的な町割以前の遺構とみられる。

**SD501** SS493の南側の側溝である。山裾から約42mの所で南へ直角に折れており、そこからはSD1574とした。途中、B・C区を区画するSD1695・1571・1572が南から、SS493を横断するSD500が北から合流する。SD501はIII・IV遺構面の段階にはすでに敷設されていたとみられるが、SD1695との合流点以西はのちに付け足されたようであり、軸もややずれている。

**SD1590** 同じくSS493の南側の側溝だが、SD501とはつながらない。SD501東端から約7m離れた地点から認められ、SS493に沿って東へ延び第36次調査区で南北の幹線道路SS495の側溝SD518に合流する。途中、SS493を横断するSD1591が北から、D区を区画するSD1579・1580が南から合流する。

**SA1752** SS493に面する土塁で、下層の調査で確認した。外側には一部に長さ0.7～0.8mの巨石を配しているが、内側では小さい石を用いている。III・IV遺構面の段階にはすでに存在し、D1区の北辺全体を区画していたようであるが、I遺構面の段階までには廃されたとみられる。

**SS1564・SD1695** SS493の西側に取り付く南北道路とその側溝で、A区とB区の境となる。側溝を含む道路幅は1.8m、長さは19.2mの袋小路であり、全面に砂利を敷いて敲き締めている。SS493との接続部、SD501を渡る部分には、自然石3枚からなる石橋SX1623がかかっている。SD1695の北側には、I遺構面の段階でA区内の屋敷境となる石組溝SD1568が合流する。また、同じく中央部には、A区の井戸SE1594とそれに付随する洗場SX1640から延びる石組溝SD1569が合流する。さらにII遺構面の段階には東からSD1730が合流していたようである。なお、SS1564およびSD1695は段階的に南方へ延長されたものとみられる。

**SS1565** B区と東西道路SS493をつなぐ道路で、幅2.1m、長さ17.7mを測る。I遺構面の段階には黄色

土を貼って整地している。下層では一部砂利敷面も認められた。

**SD1574** B・C区とD区を区画する南北方向の石組溝で、北端はSD501の東端に取り付き、途中、クランクして南へ延びる。当調査区での検出延長は44.7mだが、第46次調査区でさらに約14m南へ延び、東西に分岐(SD2699・2703)して同調査区内を大きく区画する。Ⅲ・Ⅳ遺構面の段階にはすでに敷設されていたとみられ、南側でSD1584と合流する。Ⅰ遺構面の段階にはさらにSD1576・1583が取り付く。

## A区の遺構(第1～3図、PL. 6～8)

### I 遺構面

石組溝SD1568および石列SX1642により、南北に連なる3つの小区画に分かれる。

北側の区画は間口4.7m、奥行約9mを測り、道路SS1564より一段高くなっている。区画内には礎石建物SB1550が間口一杯に建つ。井戸や石積施設は認められない。

中央の区画は間口11m、奥行約10mを測る。区画内では礎石列SB1551・1552を検出したが、削平のため建物規模は不明である。区画の中央部東寄りに井戸SE1594、同じく南寄りに炉SX1713が、北西隅に石積施設SF1604がある。

南側の区画は西側斜面の南半が未調査であるが、南端を石列SX1647とみなし間口9.5m、奥行約8mと推定できる。加えて北東に井戸SE1595と洗場SX1644が突出して取り付く。区画内にこの段階の建物跡は確認できない。なお、中央部やや南寄りに東西方向の石列SX1646があり、ここで南北に2分される可能性がある。

**SB1550** 北側の区画に建つ礎石建物である。西辺の礎石が失われているが、南北3.8m(2間)×東西7.4m(4間)と推定した。建物内の北東隅付近に洗場と推定される石敷遺構SX1635があり、その西に近接して円形の笏谷石製盤を利用した炉SX1634が置かれていた。炉内には灰が詰まり、底部中央は火を受けて黒くなっていた。

**SF1604** 中央の区画の北西隅に位置する石積施設である。山裾の岩盤を掘り込んでおり、西側には石を積んでいない。内部は西から崩れ落ちてきた山土で埋まっていた。

**SE1594** 中央の区画の中央部東寄りに位置する石積井戸で、径0.7～0.8mを測る。東側に洗場とみられる石敷遺構SX1640が付随し、さらに排水用の石組溝SD1569が取り付く。

**SX1713** SE1594の西に位置する炉である。径0.8mの浅い土坑で、底に粘土を敷き詰め、周囲を越前焼の甕の破片で囲い、内部に灰を入れる構造となっている。

**SE1595** 南端の区画の北東、SS1564の脇に位置する石積井戸で、径0.6～0.7mを測る。南側に洗場とみられるSX1644が付随する。

**SX1644** 石列による約1m四方の区画内に砂利を敷いた施設で、SE1595に付随する洗場とみられる。南接するSD1695に排水されたようである。

### II 遺構面

A区を分割するような遺構は認められない。中央部にSB1715、南端にSB1553の2棟の礎石建物がある。また、SB1715の東に接して石積施設SF1741がある。

**SB1715** 東西7.8m(4.5間)、南北3.8間(2間)と東西に細長い礎石建物である。東端を除いて全体が焼土で覆われていた。良好に遺存している西・南辺の礎石列をみると、半間間隔に柱が立っていたようであ

る。建物内に特別な施設はなかったが、礎石を覆っていた焼土中に床材と考えられる板とそれを受ける根太の一部が炭化した状態で残っていた。また、北東に接して石積施設SF1741がある。検出面は一段低い、位置や方向から当建物と関連する遺構で、同時に存在していたと考える。

なお、I遺構面で検出した石列SX1642は、このSB1715を覆う焼土層の上に据えられている。

**SF1741** SB1715の北東に接する石積施設である。東西0.8m、南北0.9mを測り、ほぼ正方形を呈す。東側はI遺構面の道路SS1564下で検出した。天端には踏石状に大振りの石を配している。また、北西隅に石敷SX1776が接しており、付属する施設の可能性がある。

**SB1553** 南北3.8m(2間)を測る礎石建物である。東西方向は西側が山裾の発掘区外へ広がるため不明であるが、6mを越えることはないと考えられる。

なお、このSB1553とSB1715の間に炉と考えられるSX1773を検出したが、これを覆う建物は確認できず、原位置を保っているか否かは不明である。

### Ⅲ遺構面

北側に礎石建物SB1714がある。

**SB1714** 南北5.6m(3間)を測る礎石建物である。東西方向は西側の3.5m分を確認した。外周の礎石は比較的良く残っているが、内部は残りが悪い。SX1769等に礎石が認められるが、位置が少しずれており、検出面も低いため、時期が異なるのかもしれない。また、西辺の外側にある石列SX1835とは構造上関連する可能性がある。

## B区の遺構(第1・2・4・6図、PL.9～14)

### I遺構面

この段階においてはB1区とB2区に分ける遺構は認められない。北西隅と中央部に方位軸をほぼ同じくする2棟の礎石建物SB1555・1556が存在する。どちらもかなり削平されているが、残存している礎石やその抜き跡から規模を推定した。北東部には道路SS1565が北へ向かって延び、東西道路SS493に対してやや西に振る形で接続する。また、SS1565南端付近からは石組溝SD1576が東へ向かって延び、SD1574に合流している。その結果、東西8m、南北6mの小区画が形成されるが、区画内では性格不明の集石遺構SX1680を検出したのみであった。

**SB1555** B区の北西隅に位置する礎石建物である。東西10.4m(5.5間)、南北9.5m(5間)を測る。建物内中央北寄りに井戸SE1596があり、その北西側は小砂利敷になっていた。その他、関連する施設として、建物の南西に石積施設SF1605が、その東に接して石敷SX1652がある。

**SF1605** SB1555の南西隅の礎石から約1m離れた位置にある石積施設である。東西1m、南北1.5m、深さ1mを測る。約半分は使用中に埋まったものとみられ、黒い有機質土の中に角材や荒く面取りをした材に混じってウリ、ウメ、クルミ等植物の種子が多く含まれていた。

**SX1652** SF1605の東辺から約1m離れた位置にある石敷である。3m×3m程の範囲に大小不揃いの石を敷いており、北縁はSB1555に接する。なお、SX1652の南東(Q67グリッド)で完形の陶磁器を収納したバンドコ(口絵2)を検出したが、周辺の遺構との関係は不明である。

**SB1556** B区の南側中央部に位置する礎石建物である。礎石の遺存状況は悪く、中でも東辺については全く残っていなかった。そのため、抜き跡等も手掛かりに規模を東西12.4m、南北9.5mと推定した。礎

石が比較的良く残っている西から3列目の柱間寸法は一間1.89mと測定され、一間6尺2寸5分を基準寸法としているらしい。建物の方向はSB1555と同じで道路SS1564に規制されている。この礎石建物は位置や規模からみて、この区画の中心的な建物と考えられる。付属の施設としては、西辺沿いに雨落ち溝SD1570がある。溝石はほとんど抜かれており、溝内には焼土が入っていた。その他、建物の北東側に井戸SE1598、南東側に庭園の可能性も考えられるSX1670がある。なお、この建物は、Ⅱ遺構面に帰属するSS1728とほとんどレベル差がないことや、同じくⅡ遺構面の建物SB1720との間にある石組溝SD1570が何度も作り変えられていることから、Ⅱ遺構面の段階にすでに存在した可能性がある。

**SE1598** SB1556の北東隅から約1.5m離れた所にある石積井戸である。径0.8～0.9mを測り、上部には径約0.5mと比較的大振りの石を配している。井戸の北西側には石敷SX1668が取り付けしており、石組溝SD1572に排水されたものとみられる。

**SX1670** SB1556の東辺から約0.5m離れた所にあり、長さ1.2mの伏石とその北側に同程度の範囲に広がる小砂利敷からなる。第24次調査で検出された平庭SG829等との類似性がうかがわれるが、削平により石が失われているため明確でない。

## Ⅱ 遺構面

SD1695の東側に取り付く石組溝SD1730が認められ、その東西延長線より北をB1区、南をB2区とする。B1区でこの段階の建物跡は確認できない。Ⅰ遺構面のSB1555の直下層では、B1区の南端で性格不明の溝状遺構SX1784を検出した。また、北端東寄りで見出した石敷遺構SX1662も同様の層位にあり、この段階とみる。B2区ではⅠ遺構面で検出した礎石建物SB1556がすでにこの段階に存在した可能性があり、その北辺に並行して通路SS1728が走る。さらに石組溝SD1570・1733を挟んで西側に礎石建物SB1720がある。その他、SS1565南端東側、SD1574とSD1576に囲まれた部分で柵列SA1749等の遺構を検出した。

**SX1662** 井戸枠の転用品を含む笏谷石製の板石で囲んだ中に石を敷き詰めた施設である。SD501に接する1.2m四方の正方形区画の南側に1.2m×0.7mの長方形区画が取り付く。洗場とみられる。

**SX1784** 平面L字形の溝状遺構で、内部には灰と炭が詰まっていた。層位的にはⅠ遺構面のSB1555の整地層である黄褐色土層と下の焼土層との中間にあり、レベル的には南側のSB1720と対応する。

**SB1720** B2区の北西部に位置する礎石建物で、東西5.65m(3間)、南北4.7m(2.5間)を測る。北東隅に半間×半間の突出部があり、粒の揃った小砂利を敷き詰めている。石組溝SD1733を挟んで東側の通路SS1728とおおよそ対応することから、建物の入口とも考えられる。なお、建物の南側を走る石組溝SD1732との間でも幅約1.5mの砂利敷を検出している。建物内は南北に二分され、南半分は焼土を敷いた土間、北半分は藁を敷き詰めた土間敷になっていた。

**SS1728** SB1556の北辺に並行する東西方向の砂利敷通路である。SB1556からは約4.5m離れている。幅約0.9m、長さ約6m分を検出した。両側にやや大振りの石を並べ、中に砂利を敷き詰めたものだが、南の側石は遺存しない。

**SD1733** SB1720とSS1728の間を南北に走る石組溝である。南の延長方向にはⅠ遺構面で検出したSD1570が溝幅分食い違って存在し、作り変えられたものとする。一方、北方向の延長についてはⅡ遺構面の段階において明らかでないが、ⅢないしⅣ遺構面の段階には東へ折れ曲がり、SD1734を経てSD1735につながっていたと推定する。

SA1749 東西方向に1.2m間隔で5 m分杭が並んでおり、柵列と判断した。これに沿って石列SX1814があり、その南側に石列SX1813やSX1815が認められる。いずれも礎石とは考え難く、性格は判然としない。なお、SD1574とSD1576に囲まれたこの部分は、SD1576を越えた南側とは整地状態が異なり、B2区の中でもやや性格の異なる地区であろう。

### Ⅲ遺構面

B1区で礎石建物SB1716～1719・1721等を、B2区で礎石建物SB1726や砂利敷通路SS1729等を検出した。いずれも断片的な確認にとどまる。

SB1716～1719 I遺構面で検出したSB1555の真下に位置する礎石建物である。SB1555の礎石を残した状態であることもあり、検出できた各建物の礎石は少ない。同一面に据えられたこれらの礎石は、火災により炭化した床材とみられる藁や竹、板に覆われていた。礎石列のわずかなズレ等から遺構番号を分けたが、全てが別々の建物とは考えられず、根太SX1785の存在等から少なくともSB1717とSB1718は同一の建物の可能性が強い。SX1785は自然木を利用した転根太で、0.85～0.9m間隔で浅い溝を掘って据えられている。その他、SB1716付近に石敷SX1780、SB1719付近に砂利敷SX1783、SB1717・1718付近に四角い木枠の中に挿鉢(第20図154)を埋置したSX1786等を検出したが、建物との関係は不明である。

SB1721 SB1719の東に隣接する礎石建物である。II遺構面に属すSX1662の下層で検出した。規模は東西4.7m(2.5間)、南北5.6m(3間)を測る。建物内には転根太の一部が遺存していた。

SD1731 L字をなす石組溝で、礎石建物SB1717とSB1721の雨落溝を兼ねる。SB1721側は溝石が乱れており不明な部分もあるが、SD1571に流れ込んでいたものと考えられる。なお、溝の南端には越前焼の甕の破片を敷き詰めたSX1787がある。

SB1726 SB1556の下層に位置する礎石建物で、規模は不明である。南側には遺構が認められない一方、北側には砂利敷SX1805や灰層があることから、建物は北側へ広がっていたと推定している。軸方向は上層のSB1556と同様とみられる。

SS1729 B2区の南東部で検出した幅約1.3mの砂利敷通路である。三叉路になっており、東と北西方向は交差部から6 m程で途切れている。南方向は調査区外へ延びているが、第46次調査では確認できなかった。調査区境付近では砂利が薄くなっていることから、その付近でやはり途切れるのかもしれない。南方向と東方向とは直角に交差しており、囲まれた所には礎石らしい石が認められる。また、交差部西側に南方向の通路に沿って柵列SA1748がある。

SD1736 B2区の東部、上層のSD1576と同じ方向に流れる石組溝で、東半分は壊れているがSD1738に流れ込んでいる形跡がある。付近には石敷SX1810・1811、石積施設SF1743等があり、南側には礎石らしい石も認められる(SB1724)。なお、SD1738とその南の延長方向で検出したSD1737とは、方向が一致するものの、構造が異なっており、同一の溝かどうかは不明である。また、これらはⅢ遺構面に属するものとしたが、直接的には証明できない。特にSD1737・1738はⅣ遺構面に属す可能性がある。

## C区の遺構(第1・2・5、PL.15～17)

### I遺構面

石組溝SD1573により、東西2つの小区画に分けることができる。

西側の区画は間口5 m、奥行17.5mを測る。東西道路SS493に面する北半部に礎石建物SB1557が、南

半部に井戸SE1597や石積施設SF1608・1609等がある。

東側の区画は間口7m、奥行16mを測る。区画の東側中程に石積施設SF1610がある。建物は不明である。

**SD1573** C区を東西に分かつ溝としたが、検出できたのは南端の約5m分のみである。南端ではSD1572に合流する。北側の延長方向は下層遺構面で石組溝SD1735を検出しており、同一位置で溝を嵩上げて両区画が維持されたものと判断した。

**SB1557** 西側区画の間口一杯に建っていたと考えられる礎石建物である。北辺はSD501、西辺はSD1571の溝石を兼ねている。東・南辺の礎石は遺存していない。建物の奥行としては、南にある井戸SE1597を屋内とみるか屋外とみるかで異なるが、この井戸とさらに南にある石積施設SF1609が砂利敷通路SS1629で結ばれていることを考えると、屋外とみるのが妥当であろう。だとすれば、建物の奥行は遺存している西辺の礎石列7.5mを大きく越えることはない。

**SF1608** 西側区画の南端に位置する石積施設である。東壁の上部の石積は大きく崩れていた。規模は東西1.9m、南北1m、深さ1.7mを測る。

**SF1609** 西側区画の南東部に位置する石積施設である。東西0.5m、南北0.9m、深さ0.6mを測る。北壁から約0.3mの所に紐で編んだ丸竹を立て、内部を仕切っている。

**SF1610** 東側区画の東側中程、SD1572に近接して位置する石積施設である。東と南の石積を欠き、内部は黄色土で埋められていた。規模は東西1m、南北1.2m、深さ0.4mを測る。

## II 遺構面

石組溝SD1735により、I遺構面と同様の小区画に分かれる。西側の区画には建物の床材が一部焼け残っており(SX1838)、その南に砂利敷SX1794がある。東側の区画で遺構は確認できなかった。

**SX1838** 西側の区画に建っていた建物の床材が焼け残ったものである(PL.15・16)。その状況から、床は桁行・梁行方向とも約0.85m間隔に根太を置き、その上に板を張っていたようである。礎石は一石しか確認できなかったが、これまでの例から建物は間口一杯に建っていたと推定できる。そして、東寄りの半間は床が存在した痕跡がなく、堅く叩き締まっていることから、通路であったと考えられる。また、建物の奥行を床の痕跡がある所までとし、砂利敷SX1794を屋外に想定すると、間口2.5間、奥行3間で東に半間の通り抜けの通路が付いた建物が復元できる。

## IV 遺構面

I・II遺構面と同様、東西2つの区画に分かれるが、南端が石組溝SD1734で区画されることから、西側の区画の奥行は15mと若干短くなる。西側の区画では礎石建物SB1722、東側の区画では礎石建物SB1723を検出した。

**SB1722** SX1838の下層に位置する礎石建物で、間口4.7m(2.5間)、奥行5.6m(3間)を測る。建物北辺とその前を走る石組溝SD501とが平行でないため、建物の北西隅は溝際にあるが、北東隅では溝との間隔が1m程生じている。敷地の奥では新たな遺構は確認していないが、他の例から推定すると、井戸SE1597はこの段階には既に存在し、敷地の嵩上げに伴い石が積み足されてI遺構面の段階まで存続した可能性がある。なお、敷地の西を区画する石組溝SD1571は途中までしかなく、それより奥は石列SX1790によって区画されている。

**SB1723** 間口5.6mを測る礎石建物である。奥行は判然としないが、7.5m(4間)と推定する。間口は前の溝SD501に方向を揃えており、梁行方向とは直角にならない。床は全体に藁を敷き詰めている。東側半間分は粘質土を叩き締めた跡があり、SX1838と同様に通り土間の可能性がある。敷地の奥はSX1799付近に礎石らしき石があり、砂利や土が互層になっている所も認められることから、建物が存在したのかもしれない。

## D 1 区の遺構(第1・2・5、PL.18～21)

### I 遺構面

石組溝SD1578およびSD1579により、東西道路SS493に面して並ぶ3つの小区画に分かれる。

西側の区画は間口7m、奥行13.5mを測る。奥(南辺)が約10mと間口(北辺)より広く、台形の区画となっている。建物は不明だが、北半部に井戸SE1599、炉SX1674を有し、他に石積施設を破壊したものとみられるSX1675がある。中央部に石組溝SD1577が東西方向に延びており、その南側は粗い小砂利敷SX1678になっている。なお、北半部の遺構面は溝以南の遺構面より低く、時期を異にする可能性がある。また、この区画の北辺には道路側溝が延びてこず、石列SX1672・1673が構築されている。

中央の区画は間口6m、奥行14mを測る。北半部に礎石建物SB1558、南半部に井戸SE1600、石積施設SF1611・1612がある。SE1600とSF1612の間には砂利敷SX1684が認められる。奥(南)側に隣接する区画との間には障壁SA1618がある。

東側の区画は間口8m、奥行16.5mを測り、北半部に井戸SE1601と石積施設SF581を有す。建物は不明である。

**SX1674** 西側区画の北西部で検出した炉跡である。三方を笏谷石、一方を河原石で囲んだ長さ1.4m、幅0.75mの長方形をなす。底は二段になっており、深さは高い部分が0.2m、低い方が0.3mを測る。高い部分には笏谷石を敷いており、中には焼土と灰が詰まっていた。

**SB1558** 中央区画の北半部に建つ間口5.6m(3間)の礎石建物である。西辺の礎石はSD1578、東辺の礎石はSD1579の溝石を兼ねているが、前者は遺存状況が悪く判然としない。北辺は道路側溝SD1590から1.7m程奥にあったと想定される。建物の奥行も明らかでないが、井戸SE1600を屋外とみると約6.6m(3.5間)、屋内とみると9m以上になる。

**SE1600** SB1558の南東、SD1579に近接した位置にある石積井戸である。口径0.6m弱で非常に小さい。

**SF1611** 中央区画の南端付近に位置する石積施設である。平面規模は0.9m四方の正方形をなし、深さは0.5mを測る。西側に踏石とみられる四角い石を配している。なお、SF1611は小砂利で覆われていたことから、これを廃棄した後、東側のSF1612を使用したと推定する。

**SF1612** 中央区画の南東隅に位置する石積施設である。東西1m、南北0.8m、深さ0.6mを測る。西壁に横木を組み込んでおり特異である。

**SE1601** 東側区画の東辺中程に位置する石積井戸である。方形に近い形状で口径0.5mを測る。東側に洗場とみられる石敷SX1706が付属する。

### II 遺構面

D 1 区および後述のD 2 区は一つの大きな区画として把握できる。北半にあたるD 1 区では西側に礎石建物SB1725、東側にSB1559がある。区画の北辺、東西道路SS493との境には土塁SA1752が走る。

SB1725 I 遺構面においてD 1 区を分割する石組溝SD1578の下層で検出した礎石建物である。東西・南北とも約5mの範囲を確認したが、本来の規模は不明である。

SB1559 東西3.8m(2間)、南北7.4m(4間)を測る礎石建物である。建物の西辺はI 遺構面のSD1579の側石と重複しており、当初は溝石と礎石を兼用したI 遺構面の建物と考えていたが、下層の調査において溝石の下で礎石列を検出したため、認識を改めた。この建物は礎石の周りに黄色粘土を帯状に敷いて固定しており、この付近が焼土による整地で地盤が緩かったためとも推測できる。

## D 2 区の遺構(第1・2・8図、PL.22・23)

### I 遺構面

石組溝SD1583および道路SS1566を結ぶラインにより、南北2つの小区画に分かれる。北側区画の東端は明確ではないが、両区画とも東西約17m、南北約6.5mとほぼ同規模である。この時期の遺構としては北側区画の中央に位置する井戸SE1602が唯一である。

### II 遺構面

前述のように、D 1 区と合わせて一つの大きな区画として把握できる。その南半にあたるD 2 区では南に寄せて礎石建物SB1560があり、それに付随する遺構群が周囲に認められる。

SB1560 東西9.4m(5間)、南北8.8m(4.7間)を測る正方形に近い礎石建物である。細かい粘質土で整地した上に礎石を据えている。南を除く三方の端の柱間は1.5mと狭く、この部分は広縁と推測される。建物の南東隅に2m四方の張り出し部SX1692があり、砂利敷となっている。SX1692はSB1560と接する部分の礎石を別に設置していることから、後に増築されたのかもしれない。SB1560は火災で焼失したらしく、柱の跡がはっきりと残っている礎石がある。また、SX1692の東にある溝SD1593からは屋根材と思しき炭化した板や葦の束が出土した。さらにその東の土坑SK1627・1628は黒い焼土で埋まっており、土師質皿を中心に多量の遺物が出土している。中でも特筆すべき遺物として紫色をしたガラス小皿(第39図575)がある。なお、I 遺構面とした井戸SE1602はこの段階で既に存在した可能性がある。

## D 3 区の遺構(第1・2図、PL.22・23)

### I 遺構面

南に接する第46次調査区も含め、20～100㎡程度の小規模区画群を形成する。当調査区内では、南北の石組溝SD1586の西側に2区画、東側に1区画が認められるが、西側2区画の内の南側については、ほとんどが当調査区外である。いずれの区画内でもこの段階の建物は不明だが、東側区画の南西隅に井戸SE1603が認められる。

### II 遺構面

石組溝SD1586の東側の区画はI 遺構面と同様だが、西側は一つの区画と把握できる。西側の区画には礎石建物SB1561が、東側の区画にはSB1562がある。

SB1561 西側区画の北端に位置する礎石建物である。東・西辺の礎石が不明だが、東西6～8m、南北約5mの規模と想定される。

SB1562 東側区画の中央部に並ぶ4個の礎石以外は明確でない。区画一杯に建っていたとすれば東西約

6mの規模となる。南西部に井戸SE1603があり、これを屋外とみると南北も7mを越えることはない。中央部礎石列の南側には笏谷石製の炉SX1701(第46図707)があり、その付近は藁と粘土が何層も互層になっていることから、藁敷きの土間であったと考えられる。

## E区の遺構(第1・2図、PL.24)

### I 遺構面

本章の冒頭で述べたように第36次調査で検出した小区画群の一部にあたり、6区画分が当調査区にかかっている。各区画の全体については既に報告されているため(『鯖江・美山線』)、ここでは当調査区で検出した遺構についてのみ個別に取り上げる。なお、各区画の呼称については第36次調査の報告にしたがい、南から36-10～15とする。



挿図7 SF1617(東壁)

SF1617 36-10の北西隅で検出した石積施設である。東西1.8m、南北1.0m、深さ1.0mを測り、6段

程度の石積をもつ。西側短辺の石積は大きく崩れていたが、東側では石積上部に横木をかませた様子が見え(挿図7)、さらに長辺の両側に径15cmほどの杭を3、4本ずつ底に打ち込んでいた。埋土は有機質の泥土であり、多数の板材に混じって便器の一部である「金隠」(第48図738)が出土した。このことから、石積施設に床板を渡して金隠をはめ込み、上に簡素な小屋をかけた便所が復元される。

SF1745 36-11の北西隅で検出した石積施設である。東西0.8m、南北1.0m、深さ0.6mを測る。石積は3段程度である。

SF1746 36-12の北西隅で検出した石積施設である。東西0.9m、南北1.2mを測る。深さと石積の段数は損壊のため不明確だが、深さ0.4mで3段程度と推定される。

SF1747 36-13の西端で検出した石積施設である。東西0.6m、南北0.8mを測る。深さと石積の段数は損壊のため不明確だが、深さ0.4mで2段程度と推定される。

SF1616 36-14の南西隅で検出した石積施設である。損壊により不明確だが、東西0.7m、南北1.4m、深さ0.5mで3段程度の石積と推定される。

SF1615 36-14の北西隅で検出した石積施設である。東西1.1m、南北1.0mを測る。深さと石積の段数は損壊のため不明確だが、深さ0.3mで1段と推定される。

SF1614 36-15の北西部で検出した石積施設である。東西2.8m、南北0.8m、深さ0.6mを測る。石積は4段程度で、南辺中央部に杭が1本残存していた。

SF1613 36-15の北西隅、SF1614の北に位置する石積施設である。東西0.9m、南北1.4m、深さ0.45mを測る。SF1614とは長軸が直交し、L字の配置となっている。石積は3段程度である。



調査面積3,000㎡に対する1㎡の平均出土点数は29.5点で、一乗谷ではかなり多い部類に属す。後世の削平の程度が少なかったことに加え、下層を比較的広範囲に調査したことがその理由の一つとしてあげられよう。内訳をみると、出土数の9割以上は土器・陶磁器であり、その6割を土師質皿が占めている。また、遺物量相応に、金属や木製品、石製品も数多く出土しており、北国船の模型など他地区で類例のない、あるいは極めて少ない資料も認められる。中でも石積施設の一つから「金隠」と呼ばれる板材が出土し、その多くが便所であるとの確証に至ったことは大きな成果であった。

遺物の報告にあたっては、まず、遺物台帳により出土グリッドと遺構面を参照し、A～E区(排他的に隣接する溝も含む)、I～III遺構面(各遺構面を覆う整地土および各遺構面に属す遺構埋土)に分けた。その際、グリッドが隣接区画にまたがり、いずれかの区画に帰属させえなかった遺物もある。また、特に陶磁器類において接合した破片が異なる区画にまたがる場合は、残存率のより大きい方に帰属させたが、同程度のため判断に迷ったものもあり、これらはその他として一括した。一方、遺構面をまたがって接合したものは残存率を問わず基本的により下層の遺構面に帰属させた。なお、遺物台帳では遺構面が現地調査時の認識のまま記載されており、その後検出面相互の比較によって帰属する遺構面を決定した各遺構の情報が反映されていない。今回の報告にあたって可能な限り整合させるよう努めたが、諸種の制約により多くはかなわなかった。また、掲載資料について、越前焼の甕については整理が十分でなく、調査区全体である程度バラエティを揃えるにとどめたため、各区画の様相を反映できていない。さらに膨大な量が出土している土師質皿については、石積施設など遺構から出土した完形もしくはそれに近い一括資料を中心に抽出し、バラエティの不足を整地土などからの出土資料で補うこととした。

上記の整理により、以下、はじめにA～E区ごとにI遺構面、II遺構面の順に記述する。次に特定の区画に帰属させることができなかった遺物を同じくI遺構面、II遺構面の順に記述する。そして、III遺構面として取り上げられた遺物をまとめて記述する。最後に水田の床土から出土、あるいは排土から採取した遺物など、区画や遺構面を特定できない遺物、および写真のみ掲載した遺物をまとめて記述する。なお、銭貨については便宜上別に図版を組んだ。

遺物の分類は、越前焼大甕・播鉢は『県道鯖江・美山線改良工事に伴う発掘調査報告書』1983、土師質皿は『一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告I』1979、瀬戸・美濃焼は『瀬戸市史 陶磁史篇 四』1993、中国製陶磁器は『国立歴史民俗博物館資料調査報告書4 日本出土の貿易陶磁』1993に準拠する。

#### A区I遺構面出土遺物(第11～13・60図、PL.25～27・74)

**越前焼** 1は頸部が短く立ち上がる短頸甕で、口縁に水平な面をもち、肩部に突帯が巡る。2は口頸部の直立する四耳壺で、口縁は玉縁状に折り返し丸く仕上げている。3は播鉢IV群で、9条1単位の播目を密に施す。4は卸皿で、卸目は8条1単位である。5は片口をもつ鉢で、体部内面に櫛状工具による同心弧を複数重ね、波状および同心円を描いている。

**土師質土器** 6～11は皿で、6・7がC類、8～11がD類に属す。7・9にはタール痕が認められる。

**瀬戸・美濃焼** 12は鉄釉を施す小天目碗で、削り出し輪高台をもつ。高台周辺には比較的濃い錆釉を施している。13は同じく水注で、注口部には鉄片が詰まっている。14～16・18は灰釉を施すものである。14は全面施釉の平碗で、底部が非常に薄く、高台を削り成形したものと考えられる。15・16は腰折皿である。見込にトチン跡が3箇所認められる。16は体部以下の器壁が厚く、腰折れも鈍い。18は大皿である。17は緑釉を施した皿で、印花文をもつ。高台内には輪ドチ跡が残る。

**中国製陶磁器** 19～27は白磁で、19は直口、20・21は端反りの皿である。23は胎土、釉、成形とも良質な輪花鉢で、内面は凸線、外面は凹線で弁間の稜を表現している。外面に「馬蝗絆」と呼ばれる、鉄の銚による接合痕がある。24～27は小坏で、26は高台内に「福」銘をもつ。28～32は染付である。28は腰折れの碗で、外面と見込みに梅月文を描く。一乗谷では類例が少ない。29・30は端反りの皿B1群で、外面に牡丹唐草文、見込みに玉取獅子文を描く。32は見込みに「福」字を書く碗で華南系とみられる。

**朝鮮製陶磁器** 33は雑釉碗である。見込と畳付にそれぞれ4箇所以上の砂目跡が残る。

**金属製品** 34は小柄、985～987は銅銭である。

**石製品** 35～38は硯で、38が隅丸の形状である他はいずれも長方形のものである。39は小形のバンドコの蓋で、平面楕円形を呈し、中央部に長方形の窓をもつ。40は鍋の縁に引っ掛けて安定させるためのサルと呼ばれる道具である。下部に煤が帯状に付着している。

#### A区Ⅱ遺構面出土遺物(第13・14・60図、PL.27・28・74)

**越前焼** 41・42は大甕である。41はⅣ群、42はⅢ群に属す。43はⅣ群の播鉢で、7条1単位の播目を間隔広く施す。44は鉢で、黒色の付着物を拭いたような痕跡が内外面に認められる。

**土師質土器** 45～56は皿で、55を除きSF1741から出土したものである。45はA類、46～50はC類、51～56はD類に属す。50は内外に墨書をもち、底外面中央部は「伴衆」と読める。57は小壺である。

**瀬戸・美濃焼** 58～60は鉄釉を施すものである。58は小天目碗で、内反り高台をもつ。59は水注で、小瓶に把手と注口を付した器形である。60は壺で、底外面には糸切り痕が残る。61～64は灰釉を施すもので、61は端反皿、62～64は腰折皿である。62・63の見込には輪ドチ跡が認められる。65は緑釉を施した丸皿である。

**瓦質土器** 66は香炉である。無文で口縁は外反する。

**中国製陶磁器** 67は白磁の稜花皿である。罍皿のような器形で、胴下部を丸鑿状の加工具で菊花状に仕上げている。40次調査区ではD1区東端の区画でまとまって出土しているが、他調査区での類例は少ない。68～70は染付の碗で、68・69がB群、70がC群に属す。

**朝鮮製陶磁器** 71は雑釉碗である。

**金属製品** 988～995は銅銭である。一乗谷で希少な銭種として995の紹熙元寶がある。

**木製品** 72は歯と後緒穴のない板状の製品で、草履の鼻緒を通して一体で使用する「雪下駄」と呼ばれるものである。緒穴の周囲に足指の圧痕が、踵側裏面の両側辺に横緒が擦れたことによる摩耗が認められる。なお、後者については、横緒が切れるのを防ぐため、元々角を落としていた可能性もある。

**石製品** 73・74は砥石である。石質から仕上砥と考えられる。75は平面D形を呈すバンドコの蓋である。76は球状の石製品で、直径の1/4ほどの深さの穴がある。穴の反対側は平坦面を形成し、据わりよくなっている。用途不明だが、念珠挽きの錐の重石とも推測されている(正報Ⅱ,22頁)。

#### B区Ⅰ遺構面出土遺物(第15～18・25・60図、PL.29～32・74)

**越前焼** 77～79は大甕で、78がⅢ群、他はⅣ群に属す。いずれも体部に押印が巡り、77にはヘラ記号も認められる。80・81は中甕で、いずれもヘラ記号をもつ。81には押印も認められる。82～84は壺である。82にはヘラ記号が認められる。85は鉢で、縦方向の粗いヘラ削り痕を鎬状の意匠として残したものと考えられる。86は小形の桶である。

**土師質皿** 87～94は皿で、87・88を除きSF1605から出土したものである。87～92はB類で、半数に明瞭な布目痕が認められる。93・94はC類に属す。

**瀬戸・美濃焼** 95～97は鉄釉を施すものである。97は四耳壺で、一般に「祖母懷茶壺」と呼ばれ、底部にヘラで「祖母懷」と刻んでいる。素地は灰色の祖母懷土で薄手に挽き上げる。黒褐色の鉄釉をハケ塗りしているが、釉層は薄く、釉むらが著しい。98は黄瀬戸釉を施す平碗である。削り出し輪高台で、高台周辺には鎊釉を施す。同様のものは調査区全体で8個体分出土しており、Ⅱ遺構面にもみられる。99～103は灰釉を施すものである。99は体部内面に丸鑿状の工具で刻文(ソギ)を入れた丸皿で、破断面に漆による接着痕が残る。100は腰折皿で、見込にトチン跡が残る。101は140のバンドコ内に収納されていた端反皿で、印花文をもつ。102は丸皿、103は筒形香炉である。

**中国製陶磁器** 104～110は青磁である。104は龍泉窯系B4類の蓮弁文碗で、蓮弁は剣先を波状に、弁間を線刻で無造作に表現する。見込みには「富」字の周囲に蓮弁を配した印花文をもつ。107・108は140のバンドコ内に収納されていた皿である。非常に良質な胎土を用い、端正な作りである。ロクロは逆時計方向で、釉は淡く、見込みと外面下部は露胎のままとしている。広東・福建省方面産と考えられ、類例は少ない。110はいわゆる青磁下蕪瓶で、宋代の作と考えられる。破断面に漆による接着痕が認められる。111～115は白磁の皿、116～118は小坏である。111～114は端反りの皿で、111は140のバンドコ内に収納されていた。113は見込の釉を蛇の目状に剥いで露胎となった部分を赤く塗っている。119～122は染付である。119は140のバンドコ内に収納されていたE群の碗で「宣徳年製」銘をもつ。外面四方に牡丹と雲文を幾何学的に配している。121・122は染付の壺とその蓋で、簡略化された文様をもつ。123は黒釉を施した禾目の天目茶碗である。立ち上がりが高く、口縁のひねり返しは弱い。口縁には覆輪の痕跡が残る。胎土は灰白色の磁質に近く、釉は厚い。高台はわずかに凹面を呈し、ヘラでおこしている。ロクロの回転は逆時計方向である。124は褐釉を施した肩衝茶入、125は壺である。

**朝鮮製陶磁器** 126・127は白磁碗、128・129は雑釉碗である。128には5箇所、129には8箇所の目跡がそれぞれ見込と畳付にみられる。130は口縁を玉縁状に肥厚させた鉢である。

**金属製品** 131は鋏の刃先、132は鉄鍋、133・134は鉄鏝、135は弾丸である。273(第25図)は手斧で、柄上部に鉄製の楔が残り、柄内には木製柄の断片も遺存していた。大きさや形状から石工用と推測される。996～1011は銅銭である。

**石製品** 136は砥石で、仕上砥とみられる。137・138は茶臼の上臼で、挽木孔の周囲に菱形の台座文様をもつ。臼目は8分画である。139・140はバンドコの蓋と身である。蓋が被さった状態で出土し、内部から灰釉皿(101)、青磁皿(107・108)、白磁皿(111)、染付碗(119)の完形陶磁器5点がみつかった。141は花瓶、142は石仏、143は用途不明の台座状製品である。

## B区Ⅱ遺構面出土遺物(第18～27・60～63図、PL.32～41・74・75)

**越前焼** 144～146はⅣ群の大甕である。いずれも押印をもち、146にはヘラ記号も認められる。147は中甕である。148・149は肩部下に突帯が巡る短頸甕である。ヘラ記号をもつ149には鉄片の塊が入っていた。150～153は壺で、いずれにもヘラ記号が認められる。大形の150は片口をもつ。小形の151～153はいわゆるお歯黒壺で、152の底には厚い付着物が認められる。155～159は播鉢で、いずれもⅣ群に属す。155には扇形の同心弧文が認められる。160は破片の周囲を打ち欠いて成形した円盤である。

**土師質土器** 161～183は皿である。161・162はB類で、162には布目痕がよく残る。163はA類、164

～181はC類に属し、半数以上にタール痕が認められる。なお、口径6～7cm前後の皿については、I遺構面ではB類、II遺構面ではC類が目立つ。182・183はD類に属す。182の底外面には墨書が認められ、一部は「せた」と読める。184は土釜、185・186は小壺、187・188は灯芯押えである。

**瀬戸・美濃焼** 189～201は鉄釉を施すものである。189～192は天目茶碗で、189・192は削り出し輪高台、他は内反り高台をもつ。高台周辺の錆釉は189・191がやや濃く、他は薄い。193・194は丸皿で、194は見込にトチン、高台内に輪ドチの痕跡が認められる。195・196は徳利、197は小瓶、198は水滴、199は片口鉢、200・201は建水である。197の底面は糸切り痕未調整で、漆もしくは膠様の付着物が認められる。202～227は灰釉を施すものである。202～204は平碗で、203・204はヘラ彫りで蓮弁文を描く。202の高台内には輪ドチ跡が残る。205～209は丸碗で、207・208の高台内には輪ドチ跡が残る。210～216は端反皿で、多くは見込に印花、高台内に輪ドチ跡が認められる。217～221は丸皿で、218・219は内面に丸彫りの刻文(ソギ)を施すものである。222～224は反皿で、いずれも印花文をもつ。225は稜花皿で、高台内に輪ドチ跡が残る。226は口縁下に波状の櫛描文を配す無頸壺で、底部に糸切り痕が残る。227は小坏で、算盤玉状の体部に小さなつまみが付く。鳥餌皿と考えるものである。

**瓦質土器** 228・229は香炉である。229の体部には渦状のスタンプ文が巡る。230・231は燈火具(瓦燈)の蓋と台部である。第54次調査でも同形態の蓋部と台部が出土している。蓋の頂部と台部の中央には灯明皿を載せる受け皿がつく。蓋部の皿底には蓋内に抜ける穴があり、灯明の油をためない工夫とみられる。蓋部には正面にあいた大きな窓と背面斜め上方にあいた小さな窓があり、台部の口縁から上へ延びる目隠板との兼ね合いで調光したものと考えられる。なお、231は破片2点のみで目隠板の痕跡も残っていないが、第54次調査の報告(正報Ⅱ,51頁)に倣い230とセットになるよう復元した。

**須恵器** 232・233は須恵器の坏蓋と高坏である。いずれも古墳時代、6世紀後半のものともみられる。

**中国製陶磁器** 234～239は青磁である。234は龍泉窯系B4類の碗、235・236は内面に草花文をもつ稜花皿、237は輪花皿、238は直口の皿、239は筒形香炉である。240～249は白磁である。240～243は端反りの皿、244・245は菊皿、246は大皿、247は碁笥底で体部が外反する皿、248・249は小坏である。245・247の破断面には漆継ぎ痕が認められる。250～262は染付である。250はB群、251はC群の碗で、251の破断面には漆継ぎ痕が認められる。252は見込の浅い碗で、外面に大振りの唐草文、見込に「福」字をもつ。華南系とみられる。253～258は端反りの皿で、253～256はB1群、257・258はB2群に属す。259・260は碁笥底の皿C群で、259は華南系とみられる。261・262は大皿である。262はいわゆる罽皿で、体部に丸彫りの溝を縦方向に施している。

**朝鮮製陶磁器** 263・264は雑釉陶器の碗である。264の畳付には目跡が残る。

**産地不明陶磁器** 265は鉢である。輪積み痕が顕著で、体部上半にのみ施釉している。

**金属製品** 266～269は建築金具である。266は門金具、267は壺金、268は錠、269は錠前の部品で、いずれも鉄製とみられる。270は箸としたが、頭部側が緩く湾曲しており、転用の可能性がある。271・272は鉈である。272は木製柄が取り付けいた状態で出土したが、現在は失われている。274～276は容器類で、274は水滴、275は六器、276は菊皿である。276には赤色の付着物があり、紅皿として使用したものとみられる。277～281は武具類である。277は筭で、丸で囲んだ草花文を4箇所配置し、間を魚々子で埋めている。278・279は小柄で、278は紐通し孔をもつ。280は柄頭で、281の猿手金具と一緒に出土している。282は飾金具とみられ、幾何学的な毛彫文様を施している。283は銅鈴で、下半部のみ検出した。1012～1136は銅銭である。皇宋通寶や元豊通寶、元祐通寶などが比較的まとまってみられる。一

乗谷で希少な銭種としては1068の至和通寶や1123の皇宋元寶、1124の至大通寶が認められる。

**木製品** 284～289は漆塗椀である。284～287は内外面黒地に赤で扇文や蓬萊文を描く。288・289は内外とも赤色で無文の類だが、289は口唇部のみ黒色である。290・291は漆塗皿で、内面は赤色で無文、外面は黒地に赤で蓬萊文を描く。292は外面黒漆塗の皿もしくは盤で、高台裏に「吉」の朱書がある。293・294は黒漆塗りの容器、295は同じく蓋である。295の頂部にはロクロ目がよく残る。296は桶類の底あるいは蓋で、合釘で接ぎ合わせて使用したものである。接合面に2個一対の合釘穴が認められる。297は箸、298～300はその他の棒状具で、断面方形の298・299は片端を筧状に薄く仕上げている。301は露卯下駄の台部、302は雪下駄である。

**石製品** 303～305は硯である。すべて長方硯で、305の裏面には「継旭」の線刻が認められる。306・307は砥石である。306には木質と漆様の付着物が、307には文字のような線刻が認められる。308は有溝砥石で、隣接する第36次調査区で確認された水晶製数珠玉の製作跡との関連が考えられる。309は乳棒である。310～314は笏谷石製品である。310・311は前記76と同様の球状製品だが、310はやや扁平な形状を呈す。312は平面長方形の盤で、四隅に脚が付く。313は粉挽白の上白で、白面が著しく偏ってすり減っている。314は分厚い円盤の中央に孔をもつもので、用途は不明である。

**骨角製品** 315は骨あるいは鹿角製とみられる双六の駒である。両面の中央に円形の窪みがあり、内部は黒くなっている。塗装とも回転穿孔時の摩擦による焦げともみえる。

#### C区Ⅰ遺構面出土遺物(第28・29・31・63図、PL42・43・75・76)

**越前焼** 316はⅣ群の播鉢で、播目は7条1単位である。

**土師質土器** 317～353は皿である。336を除きすべてSF1608から出土したものである。317～327はB類で、ほとんどにタール痕が認められる。320には布目痕がよく残る。328～344はC類で、やはり多くにタール痕が認められる。330は口縁を小さく打ち欠いてそこに灯芯を載せたようである。345～353はD類で半数にタール痕が認められる。

**瀬戸・美濃焼** 354・355は天目茶碗で、354は鉄釉、355は黄瀬戸釉を施す。いずれも内反り高台をもち、高台周辺には薄く錆釉を施している。

**中国製陶磁器** 356～360は青磁である。356・357は稜花皿で、体部内面に草花文、見込に印花をもつ。358は八角形を呈す角皿、359は菊皿、360は筒形香炉である。361～363は白磁で、361は端反りの皿、362・363は小坏である。362は見込の釉を蛇の目状に剥いており、露胎部に漆様の付着物が認められる。364～366・414(第31図)は染付である。364は碗の高台部で、華南系とみられる。365・414は皿B1群である。365のように見込脇に界線がなく、内面全体に唐草文を描く例は少ない。366はF群の鍔皿である。

**金属製品** 367・368は箸である。367は断面八角形で頭部に鋸歯状の刻文をもつ。368は断面円形で頭部は丸みを帯びる。1140～1146は銅銭である。一乗谷で希少な銭種として1146の大和通寶がある。

**石製品** 369は球状石製品、370は平面楕円形のバンドコ蓋で、いずれも笏谷石製である。

#### C区Ⅱ遺構面出土遺物(第29～35・64・65図、PL44～50・76)

**越前焼** 371・372はⅣ群の大甕で、いずれも肩部に押印が巡る。373・374は壺で、374にはヘラ記号が認められる。375・376はⅣ群、377はⅢ群の播鉢である。376にはヘラ記号が認められる。378・379は鉢である。播鉢と同形の378にはヘラ記号が認められる。

**土師質土器** 380～387は皿で、主にSD501から出土したものである。380～385はC類、386はG類、387はD類に属す。385は底外面に「せた」と読める墨書をもつ。口縁を打ち欠いて灯芯を載せたとみられ、そこにのみタール痕が認められる。387も見込に墨書が認められるが、文字なのかどうか明らかでない。388は灯芯押えで、タール痕が認められる。

**瀬戸・美濃焼** 389～394は鉄釉を施すものである。389・390は天目茶碗で、高台周辺の錆釉はいずれも薄い。391は小坏で、口縁部に厚く施釉する。392は丸皿で、見込に3箇所の特チン跡、底部外面に輪ドチ跡が認められる。393は鉢、394は徳利である。395～400は灰釉を施すものである。395は丸碗で、蓮弁文風の押印文をもつ。396～399は端反皿で、底部外面に輪ドチ跡が認められる。400は丸皿である。

**瓦質土器** 401は香炉である。体部に渦状のスタンプ文が巡る。

**中国製陶磁器** 402～404は青磁で、402は龍泉窯系碗E類、403は同じくD類、404は菊皿である。405～411は白磁で、405は直口の皿、406は体部が外反する碁笥底の皿、407～409は端反りの皿、410は菊皿、411は小坏である。405は畳付から高台内、408は畳付の露胎部分を墨で黒く塗っているようである。412～413・415～422は染付で、412はE群、413はB群の碗、415～417はB1群、418はE群の皿である。417には漆継痕が認められる。419は端反りの皿で、口縁部形状と文様構成はB1群と同様だが、碁笥底となる。420も同類であろう。421・422は碁笥底の皿C群である。423は黒褐釉を施した茶入である。

**朝鮮製陶磁器** 424は白磁の皿である。見込と畳付に各4箇所の目跡が残る。

**金属製品** 425は天井や床板を固定するための目鋸釘で、赤色の付着物が認められる。426は飾金具で、小さな目釘穴がある。427は六葉の釘隠で、中央部に直径3cmの円状に黒色漆が残っており、菊座が取り付いていたものと考えられる。428は鋏、429は菊皿である。430・431は刀装具の口金物で、430の側面には魚々子地に果実文らしき文様が認められる。432は短刀である。刃区は認められない。433・434は小柄で、434には紐通し孔がある。1147～1220は銅銭で、熙寧元寶が比較的まとまって出土している。一乗谷で希少な銭種としては1175の治平通寶がある。

**木製品** 435～442は漆塗碗である。435は内面赤色、外面黒色で、外面に赤色で鶴・亀・松竹の文様を描いている。436～441は内外面黒地に赤色で蓬菜文などの文様を描く。442は端反りの碗で、内外面赤色の無文である。木胎にケヤキを用い、漆下地の上質品といえる。443は内外面黒色の漆塗皿で、口唇部に細かい刻み、体部に穿孔を施している。444は腰折れの漆塗容器で豆子とみられる。内面赤色、外面黒色(腰折部より上は赤色か)である。木胎はケヤキでやはり上質品といえる。445は粗くロクロ成形した壺である。447は刀柄で、2つ接してあいた目釘穴のひとつを木でふさいでいる。448は刀子の鞘である。446・450・451は蓋底板で、450・451には接ぎ合わせのための合釘穴・木釘が認められる。452は結桶の側板で、箍の圧痕が認められる。449は板状の部材で、対向する2側縁に釘穴が並ぶ。453～455は箸である。456～458は露卯下駄で、台部の平面形が長方形に近いもの(456)と長円形のもの(457・458)がある。459・460は陰卯下駄で、台部に逆台形の柄を彫り、その形状に合わせて接合部を成形した歯を横から差し込む「蟻継ぎ」方式を採用している。歯は著しく摩耗して短くなっている割に、台前後の摩耗は少ない。461～475は雪下駄で、一部には線刻などによる模様が表面踵部に認められる。476は草履下駄の一種と考えられるもので、ヘギ板を加工した上板が一部残存しており、本体との間に植物繊維の痕跡が認められる。477は舟形で、ヒノキの板目材を削り抜いている。478は棒状の部材で、断面半円形の棒に穿孔し、木釘を差し込んでいる。

**石製品** 479は長方硯である。陸中央部は摩耗により深く窪み、穴さえあいている。480は方形盤の口縁

部破片とみられる。内外面とも平滑に仕上げられており、内面には煤らしき黒色の付着物が認められる。外面に「于時天文廿辛亥年」「□月十六日敬(白)」と刻んでおり、出土したⅡ遺構面が天文20年(1551)以降であることを示している。481は平面D形のバンドコの蓋、482は平面楕円形のバンドコの身である。

**骨角製品** 483は骨製の双六駒である。484は鹿角製で、刀装具などの未製品と考えられる。

#### **D区Ⅰ遺構面出土遺物(第36～39・41・65～67図、PL.51～54・76・77)**

D区には帰属がⅠ遺構面からⅡ遺構面に改められた遺構が数多く存在する。土坑埋土のように出土場所が明白な遺物はそれに従って改めたが、整地土等については分別が困難であり、当初のままとした。よって、ここで報告する遺物にはⅡ遺構面に属するものを少なからず含んでいると想定される。

**越前焼** 485は中甕で、ヘラ記号が認められる。486・487はⅢ群の大甕で、486には押印が認められる。488・489は突帯をもつ短頸甕、490はⅣ群の播鉢である。

**土師質土器** 491～510・602(第41図)は皿で、主にSD1574、SF1612から出土したものである。491～493はB類に属し、492・493には布目痕がよく残る。494・495・497～502・602はC類、496はA類、503～509はD類、510はG類に属す。496は内面のナデが粗く、板状工具によるものと考えられる。602は成形段階で口縁に抉りを作出しており、タール痕がその脇に認められる。また、焼成後に底部穿孔を施している。511は土釜、512は土鈴である。

**瀬戸・美濃焼** 513～518は鉄釉を施すものである。513・514は天目茶碗で、削り出し輪高台をもつ。高台脇の削り幅が狭く、高台内の削り込みも浅い。515は壺である。底部は露胎で、糸切り痕を残す。516は徳利、517・518は茶入である。519～522は灰釉を施すものである。519は丸碗で、高台内に輪ドチ跡が残る。520は端反皿、521は丸皿で、印花文をもつ。520の高台内には輪ドチ跡が残る。522は茶入の蓋で、つまみ頂部と内面は露胎とする。523・524は須恵質で無釉の筒形香炉である。体部の上・中・下段に3本一組の平行沈線を巡らせ、底部には指で両側面をつまんだ三足を付す。内面と底外面には回転ヘラ削り調整の痕跡が明瞭に認められる。

**瓦質土器** 525は香炉で、体部に菊花のスタンプ文をもつ。

**中国製陶磁器** 526～532は青磁である。526は細い線描蓮弁文をもつ見込の浅い碗で、見込脇に沈線が巡る。527は小碗で、外面に2～3条単位の縦の刻線を間隔広く配す。高台以下は露胎で墨が付着している。528はやや端反りとなる皿、529は稜花皿である。530は袴腰香炉で、宋～元代の優品である。531は口が大きく開く鉢で、漆継痕が認められる。532は砧形の花瓶で、鯨をかたどった耳が付く。14世紀の南宋の製品とみられる。533は青白磁の輪花皿である。平面楕円形で、口縁が菊皿状となっている。534～541は白磁の皿、542～544は同じく小坏である。534～536は胴下部が菊花様となる稜花皿で、534には漆継ぎの痕跡が認められる。541は高台内に文字の朱書がある。545～551は染付で、545はC群、546はE群の碗、547～549はB1群、550はC群の皿、551は小坏である。550は華南系とみられる。

**朝鮮製陶磁器** 552・553は雑釉碗で、見込と畳付に各7ないし8箇所が目跡がある。554は青磁の水注で、把手や口縁部を欠く。注口部の直上と腰部に白象嵌の圏線を巡らせ、間を同じく雨滴文で埋めている。施釉は全面におよび、高台内には胎土目状の粘土塊が付着する。

**産地不明陶磁器** 555は竹節状の高台をもつ底部片である。畳付全体に重ね焼きの痕跡が認められる。

**金属製品** 556は鏝である。557は箸で、木柄を取り付けるための茎をもち、接着のための漆が付着している。558は熊手状の金具である。爪は2本で、基部は鉤形をなす。559は毛抜である。560は香炉とみ

られ、口縁は内面が肥厚して玉縁となる。頸部外面に細い沈線が2条巡る。561～565は武具類で561・562は鉄鏃、563は弾丸、564は小柄、565は靴である。566は丁形の金具で、用途は不明。567も用途不明のもので、断面略長方形のやや湾曲する棒状部から屈曲して薄く広がった板状部に別の薄い板材を重ねてかしている。仏具の常花などの可能性を考えている。1224～1282は銅銭である。皇宋通寶が最も多く、熙寧元寶がそれに次ぐ。一乗谷で希少な銭種として1273の正隆元寶、1274の淳熙元寶、1281の朝鮮通寶、1282の宣徳通寶がみられる。

**木製品** 569は雪下駄で、表面踵部に三角形の線刻をもつ。570は継手とみられる部材である。

**石製品** 571～574は砥石である。571・572は石質から荒砥とみられ、形状も近似する。573・574は中砥もしくは仕上げ砥とみられる。574は硯を転用しており、陸部であったところに文字線刻をもつ。

**その他** 568はSB1558の焼土面から出土した墨である。奈良の興福寺二諦坊で油煙を利用して作られたもので、表には蛟龍文様を、裏には「李家烟」の文字を型押しする。なお、同じ焼土面から「旨・自・入・啓」などの文字がみえる炭化紙片も出土している。

## D区Ⅱ遺構面出土遺物(第39～47・67・68図、PL.55～60・77・78)

**越前焼** 576・577はⅣ群、578・579はⅢ群の大甕で、前者には押印、ヘラ記号が認められる。580は片口をもつ小壺で、ヘラ記号が認められる。581～583・585はⅣ群の播鉢で、582には漆継ぎの痕跡が認められる。584は鉢で、胴部内面と見込に櫛状工具で描いた扇形の同心弧文をもつ。

**土師質土器** 586～601・603は皿で、586はG類、587・588・601はB類、589～594はC類、595～600はD類に属す。603はH類の耳皿である。B・C類の多くにはタール痕が認められる。599・600には墨書があり、それぞれ「かへ」、「御大」と読める。また、601には「大日山□」との線刻がある。なお、600の内面ナデは板状工具を用いているようである。604・605は土釜で、羽部以下には煤が付着する。606は小壺である。607は土鈴で、墨線を放射状に施している。608は円盤で、皿D類の底部を利用している。

**瀬戸・美濃焼** 609～613は天目茶碗で、612は黄瀬戸釉、他は鉄釉を施す。614～617も鉄釉を施すもので、614は丸皿、615は坏、616は水注、617は水滴である。618～630は灰釉を施すものである。618・619は丸碗で、618はヘラ彫りの蓮弁文、619は押印による蓮弁文風文様をもつ。620～624は端反皿で、620・621は印花文をもつ。622・623の高台内には輪ドチの痕跡が認められる。624の見込は施釉が及ばず露胎となっている。625は稜皿で、印花文をもつ。626・627は小形の丸皿である。628～630は稜花皿で、底部内外に輪ドチの痕跡が認められる。629・630の印花やその周りには炭化物が付着している。

**瓦質土器** 631～633は香炉で、胴部にスタンプ文が巡る。

**中国製陶磁器** 634～637は青磁碗で、634・635は龍泉窯系碗B4類、636はE類、637はD類である。638～644は青磁皿で、638は稜花皿、639・640は輪花皿、641～644は菊皿である。645～658は白磁で、645は碗、646～648は直口の皿、649～654は端反りの皿、655は稜花皿、656～658は小坏である。651の体部内面には不明瞭ながら唐草文らしき型押し浮文が認められる。645・654には漆継ぎの痕跡が認められる。659～671は染付で、659～662は碗C群、663は皿B1群、664～671は皿C群である。

**朝鮮製陶磁器** 672・673は口縁が鏝状をなす鉢である。672は口縁部付近に薄く釉がかかっている。

**金属製品** 674は大型の鉄釘で、先端が捩れている。上部には木質が付着している。675は箸で、持ち手部分の断面は長方形をなす。676は紡錘で、回転軸となる紡莖とその下部に取り付く皿形の紡輪からなる。紡莖は紡輪との接合部より上部がS字状に捩じれている。また、他の例からその上端には糸を引つ

掛ける鉤があったとみられる。表面全体は緑青に覆われているが、内部には鉄錆が認められ、銅分の多い鉄製品、もしくは鉄地に青銅を張っている可能性が考えられる。677は鉞で、刃部に木質が付着している。678は菊皿で、紅皿に使用したものと考えられる。679は八双金物で、鍍金の痕跡が認められる。680は鞋のように2つの円孔をもつが、薄手の作りから飾金具とした。1283～1338は銅銭である。皇宋通寶が最も多く、熙寧元寶がそれに次ぐ。

**木製品** 681・682は漆塗椀である。681は内面赤色で無文、外面は黒地に赤色で開扇文を描く。682は内外黒色の高台破片で、見込に何らかの漆絵、高台内に記号らしき痕跡が認められる。683は内外面黒色の漆塗皿で、見込に蓬萊文らしき文様がある。684は蓋で、全体が炭化している。685は小形の曲物容器である。686は「中村□□」・「図四十六さし」との墨書がある付札である。687は傘口クロで、全体が炭化している。688は全面黒色の漆塗製品である。家具類の部材と考えられる。689は刀子の鞘で、櫃を表現したとみられる細工を施している。690は羽子板、691・692は箸である。693は断面方形の棒状部材で、直交する2方向に細い木釘穴があり、一部には木釘が残る。694は片面に「金」の文字が残る将棋駒である。朝倉館外濠で出土した駒がへぎ板を利用したものであるのに対し、これは先端から尻部に向かって厚くなり、駒の体裁を整えている。695・696は釣瓶で、696は柄杓に転用したものとみられる(挿図8)。697は手桶の把手で、頂部からの亀裂を留めるため、側面から鉄釘を打ち込んでいる。698～700は連歯下駄で、歯はいずれも著しく摩耗している。700には台表面に模様とみられる線刻がある他、所々に意味不明の小さな穴が認められる。701～706は雪下駄である。701～703は表面踵部に線刻文様をもつ。704の前緒穴部分はU字の挟りとなっており、再加工かもしれない。大きさと形状が近似する705・706は一足分であろう。



挿図8 釣瓶696出土状況

**石製品** 707は炉(SX1701)、708はバンドコの蓋、709・710はバンドコの身である。

**その他** 575(第39図)はガラス製の小皿で、透明度の高い紫色を呈す。金属製鋳型による型押成形で、型抜き痕の研磨は省略されている。科学分析の結果、材質はカリウム鉛ガラスと判明した。

## E区I遺構面出土遺物(第47・48図、PL.61・62・78)

**土師質土器** 711～727はSF1617から出土した皿である。727がD類、他はC類に属す。

**中国製陶磁器** 728・729は青磁である。728は青磁の稜花皿で、見込に界線と印花文をもつ。729は大型の香炉の胴部破片で、算木文を配している。730は白磁の菊皿である。高台に砂が付着している。731～733は端反りの染付皿で、731・732がB1群、733がB2群に属す。

**金属製品** 1339～1345は銅銭である。一乗谷で希少な銭種としては1345の紹熙元寶がある。

**木製品** 734は漆塗皿で、体部は内外赤、口唇および畳付～高台内は黒色とする。ケヤキ製の上質品である。735は漆塗椀の高台部である。内外黒色で、見込に漆絵をもつ。736は解櫛である。737は将棋の駒で、「飛車・(龍)王」で、694と同じく駒の形状を整えている。738はSF1617から出土した板部材で、便所の床にはめ込む金隠と考えられる。片面中央部には墨で描いたような円が認められ、部分的には三重線となっている。739は連歯下駄、740は露卯下駄、741は雪下駄である。739の前歯中央部は前方から後方へ向かって強く弧状に摩耗しており、特殊な使われ方をしたのかもしれない。また、表面踵部から後歯に向かって打ち込まれた鉄釘が3本遺存し、歯の補修によるものと考えられる。

## Ⅴ区Ⅱ遺構面出土遺物(第48図、PL.62・78)

**瀬戸・美濃焼** 742は鉄釉を施す天目茶碗である。内反り高台で、高台周辺にはやや薄い錆釉を施している。743・744は灰釉を施す端反皿で、高台内に輪ドチ跡が残る。743は見込に菊の印花文をもつ。

**中国製陶磁器** 745は高台を弧状に挟む白磁皿である。

**朝鮮製陶磁器** 746は白磁碗である。

**金属製品** 1346～1350は銅銭である。

**木製品** 747は露卯下駄、748は雪下駄である。748の表面踵部には線刻が認められる。

## その他Ⅰ遺構面出土遺物(第49・50図、PL.63・64・78)

Ⅰ遺構面の遺物の中で、区画境とした溝などから出土した遺物を一括した。中でもB区とD区を分けるSD1574の出土遺物が多い。

**越前焼** 749はⅢ群の大甕、750は壺、751は瓶である。

**土師質土器** 752～760は皿である。752はB類、753～758はC類、759・760はD類に属し、多くにタール痕が認められる。761・762は土釜である。761の羽部上面には刻み列が認められる。763は灯芯押え、764～766は管状の土錘である。

**瀬戸・美濃焼** 767は黄瀬戸釉を施す平碗である。高台周辺には比較的濃い錆釉を施す。768は鉄釉、769は灰釉を施す丸皿である。高台内に輪ドチ跡が認められる。769は見込に印花をもつ。770は緑釉の皿である。見込に菊の印花をもつ。高台内に輪ドチ跡が認められる。771は灰釉を施す仏花瓶で、底外面に糸切り痕を残す。772は無釉で須恵質の香炉である。

**備前焼** 773は瓶である。

**中国製陶磁器** 774～776・782は青磁である。774は稜花皿で、口縁部内面に波状文を配している。見込の釉は蛇の目状に剥ぎ取る。775は輪花皿、776は香炉である。782は盤で、輪高台にさらに山形の脚を貼り付けている。見込にはうっすらと牡丹らしき文様が認められる。高台内周縁の釉は剥ぎ取っている。777～781は白磁である。777は稜花碗で、型押しにより成形している。778は端反りの皿である。779は直口の皿で、外面胴下部を露胎とする。780は碁笥底の小坏である。781は壺もしくは水差で、型押しの草花風文様をもつ。783～787は染付である。783は直口の碗で、花唐草文と芭蕉葉文風の文様をもつ。784・785は皿B1群、786・787は皿C群である。786は華南系とみられる。

**朝鮮製陶磁器** 788・789は口縁が玉縁状となる鉢、790は徳利の口頸部である。

**産地不明陶磁器** 791は須恵質の鉢で、鉄鉢形を呈す。11～12世紀の灰釉陶器の可能性が考えられる。

**金属製品** 792は箸である。上部に鋸歯状の刻み目を施している。1351～1365は銅銭である。一乗谷で希少な銭種としては1363の景定元寶がある。

**木製品** 793は漆塗皿である。内面は赤色で無文、外面は黒色で果実文らしき文様をもつ。794は梳櫛、795は連歯下駄である。

**石製品** 796は砥石で、浄教寺産とみられる。797は平面D形のバンドコの蓋で、中央部に方形の窓が並ぶ。798は用途不明の円盤状製品で、縁に段、中央に孔をもつ。

## その他Ⅱ遺構面出土遺物(第51～55図、PL.65～69・78・79)

Ⅱ遺構面の遺物の中で、区画境とした溝などから出土した遺物を一括した。Ⅰ遺構面と同様、B区と

D区を分けるSD1574の出土遺物が大半を占める。

**越前焼** 799はIV群の大甕である。肩部に押印が認められる。800は口縁が内湾する鉢である。

**土師質土器** 801～827は皿である。801・802はG類、807・808はB類、803～806・809～818・824～826はC類、819～822・827はD類に属す。824には「妙久」、826には「正」、825・827には「大」の墨書が認められる。823はナデを板状工具で行ったもので、見込の周囲には工具の圧痕が巡り、中央部には焼成後に穿孔を施している。828は小壺である。見込は兜巾状に盛り上がる。829～831は土釜である。830には植物の茎で描いたような記号が認められる。832は埴埜で、器壁断面は薄い層状となっている。底外面にガラス質の付着物が認められる。833・834は管状の土錘、835～838は土鈴である。

**瀬戸・美濃焼** 839～852は鉄釉を施すものである。839～844は天目茶碗で、内反り高台となるものが多い。高台周辺の錆釉は比較的濃い。845は丸碗で、やはり内反り高台をもつ。846・847は丸皿で、高台内に輪ドチ跡が認められる。847の見込にはトチン跡が3箇所残る。その他、848・849は茶入、850は水注、851は水滴、852は仏花瓶である。853～855は黄瀬戸釉を施すものである。853は建水で、底部内外面を除く全面に施釉している。854・855は平碗で、高台周辺には比較的濃い錆釉を施している。856～868は灰釉を施すもので、856・857は丸碗、858は反皿、859～863は端反皿、864～868は丸皿である。皿の多くは高台内に輪ドチ跡を残している。858の口縁には黒色の付着物が認められる。

**瓦質土器** 869～872は香炉である。872以外はスタンプ文を施す。無文の872は輪高台をもつ。

**備前焼** 873は徳利で、ヘラ記号が認められる。

**中国製陶磁器** 874～876は青磁である。874は龍泉窯系碗B4類、875は同じくE類で、875は見込脇に浅い段状の界線をもつ。876は稜花皿で、内面に草花文を描く。見込の印花は不明瞭である。877～881は白磁である。877～880は端反りの皿で、877は露胎の畳付周辺を黒く塗っている。881は直口の皿で、底部内外面に擦痕が認められる。882～885は染付である。882～884は碗で、882はD群、883はC群に属す。885は皿C群である。884・885は華南系とみられる。

**朝鮮製陶磁器** 886は雑釉、887は白磁の碗である。887の見込と畳付には目跡が4箇所認められる。

**金属製品** 888～890は建築金具で、888は鋸、889は引手金具、890は飾金具である。889の裏側には接着のための漆が残っている。表面にも黒色の付着物があり、漆を塗っていたのかもしれない。891は刀子、892は提子の把手である。893は菊皿で、鍍金したものとみられる。894は用途不明の筒形製品である。板材を曲げて接合した部分の内側に幅の狭い板を貼り付けて補強している。895は包丁のような形の鉄製品で、第54次調査出土で銑鉄と推測されている資料に断面形状や厚さがよく似ている。1366～1395は銅銭である。一乗谷で出土例の少ないものとしては1381の至和通寶がある。

**木製品** 896・897は漆塗碗で、いずれも内面赤色、外面黒色である。896は内面に漆が輪状に付着しており、塗装や補修の際の漆容器に利用したものとみられる。897は高台を刃物で削り取っている他、体部に横並びで2箇所の穿孔を施している。ここに柄を取り付けて杓子として利用した可能性がある。898は黒漆塗りの蓋である。内側にはロクロ目がよく残る。899は曲物等の蓋底板である。表面に刃物傷が認められる。900は将棋の「金将」駒である。ヒノキのヘギ板を利用している。901は鑿柄で、鉄製の冠が遺存する。902は栓で、ヒノキの丸木を素材としている。903は刀子の柄である。赤彩痕が所々に認められ、漆塗製品と考えられる。904は釣瓶である。各部材の接合には鉄釘を用いている。905は楔としたが、上部に方形の釘穴が認められ、何らかの部材かもしれない。906は桶類の蓋底板で、接ぎ合わせる際の合釘が遺存する。907は大型船の模型である。本体はヒノキ材を削り抜き、側面に船梁を固定する

方形の穴を3個穿つ。船べりの板を木釘で固定し、そこにも船梁の穴を設けている。帆柱の両脇には筒挟みを固定する窪みも表現している。帆柱の位置が台床船梁の前にあることや、丸みを帯びた船首の形状などから「北国船」の模型と考えられる。

**石製品** 908は浄教寺産とみられる砥石である。端部に施溝分割の痕跡が認められる。909は平面円形の笏谷石製盤である。

### Ⅲ遺構面出土遺物(第20・55・56・65・70図、PL.34・70・71・76・79)

Ⅲ遺構面出土として取り上げられた遺物を一括する。区画としてはほぼB・C・D区に限られ、中でも主要な区画溝であるSD501・1574から出土したものが大半を占める。

**越前焼** 910はⅢ群の大甕である。東西道路SS493の下層から出土した。154(第20図)は四角い木枠の中に埋置されていたⅣ群の播鉢(SX1786)である。片口をもち、古い要素を残す。胴下部と見込の播目はすり減ってほぼ消失し、内面全体に炭化物が付着している。

**土師質土器** 911～923は皿である。911～921はC類、922・923はD類に属す。ほとんどにタール痕が認められる。915は底部に穿孔を施している。924は土釜で、羽部上面に線刻が認められる。

**瀬戸・美濃焼** 925・926は鉄釉を施すものである。925は天目茶碗で、高台周辺には比較的濃い錆釉を施している。926は壺で、底部付近は露胎である。927は灰釉を施す端反皿で、高台内には輪ドチ跡が認められる。

**中国製陶磁器** 928は青磁で、龍泉窯系碗B4類に属す。胎土は黄土色で、釉調も黄褐色を呈す。

**朝鮮製陶磁器** 929は雑釉徳利である。底の大きいいわゆる舟徳利で、タタキ成形により器壁を非常に薄く仕上げている。胴部には線刻が認められる。

**金属製品** 930は鑿とみられる鉄製品で、鍛造品らしく層状に剥離している。931は558を小型にしたような熊手状の金具で、口金が付属する。932は断面U字形の金具で、端部に目釘穴をもつ。内側には接着のための漆が残っており、何らかの縁金具と考えられる。933は小柄、934は用途不明の円盤、1221～1223・1396～1398は銅銭である。

**木製品** 935・936は漆塗椀である。いずれも内外黒色で、935の見込には蓬葉文が認められる。937は内外黒色で無文の漆塗皿である。ケヤキ製の上質品である。938は折敷の底板である。正方形の四隅を切った形状で、側板を取り付け固定するための2個一対の穴が対向する2辺にあいている。同様のものと共に10枚程度重なって出土した(挿図9)。939・940は桶の側板で、箍による擦痕や摩耗が認められる。941は草履下駄、942は雪下駄である。943は組物の部材とみられる。側面には中央部の抉



挿図9 折敷938出土状況

りの他、端部に小さな穴がある。また、両面のおおよそ同じ位置に「三」の墨書が認められる。

**石製品** 944・945は大きさと形状がよく似た砥石である。石質から仕上砥とみられる。

### 床土出土・表採他遺物(第56～59・70図、PL.71～73・79)

水田床土から出土したものや排土等で採取したもの、グリッドや遺構面が不明なものを一括する。

**越前焼** 946は短頸甕である。947は片口をもつ壺で、ヘラ記号が認められる。948は小壺で底面にシカ

のような動物を描いた線刻が認められる。

**備前焼** 949は徳利、950は壺である。

**中国製陶磁器** 951は青磁の稜花皿で、体部内面に草花文を配す。見込には「富」銘の印花をもつ。952～960は白磁である。952～955は碗、956～958は端反りの皿、959は高台に弧状の挟りをもつ皿である。960は皿の底部で、高台内に呉須による「大明年造」銘をもつ。961は見込に梅月文を描く染付碗、962はB1群の染付皿である。

**朝鮮製陶磁器** 963は白磁の皿である。見込に4箇所の目跡が残る。

**金属製品** 964は燻止である。引っ掛けた先の金具が錆付いている。965は引手金具の縁の部分である。周囲に細かい線を刻んで菊花状に仕上げた上に鍍金したものとみられる。裏側には接着のための漆が付着している。966は周囲に刻みを施した切羽である。表面と側面に黒色漆が付着している。1399～1427は銅銭である。一乗谷で出土例の少ない銭種としては1427の延寧通寶がある。

**木製品** 967は露卯下駄である。表面は踵部に烏らしき線刻模様がある他、全体に点々と黒色の漆様付着物が認められる。また、後緒穴には横緒を留めるための楔が遺存している。968は雪下駄とみられるが、両側縁と後端部にも穿孔を施している。969は鋸挽きの痕跡をよく残す板材である。

**骨製品** 970・971は双六の駒である。971は両面に各6個の目があり、赤色顔料の付着もみられる。

**石製品** 972は箱形のミニチュア製品で、用途は不明である。973は球状石製品である。974は鉢で、内外面とも平滑に仕上げている。975は平面円形の盤で、三足を削り出している。976は粉挽白の上白、977・978は同じく下白である。白面はいずれも8分画で、976には鉄製の、977には木製の芯棒が遺存している。979・980は石仏である。979は如意輪観音像で、両脇に「/善秀童子也」、「/庚」「/□月三日」の銘文を彫刻している。銘文内には赤彩色が遺存する。980は地藏菩薩像で、赤彩色とその上の金彩色が遺存する。981は組合五輪塔の水輪である。982～984は一石五輪塔である。982は「妙法蓮華経」の題目と「永禄□年」「妙栄童女」「正月十四日」の銘文をもつ。983は「妙法蓮華経」の題目をもつ。984は表面の剥落が著しいが、金彩を施した「正月十三日」の銘文が認められる。

最後に写真のみ掲載(PL.79・80)した遺物について記述しておきたい。出土位置などの詳細については表9(PL.80)に記載した。

1428～1431は墨書のある土師質皿で、「高」「聖」「般」「寅」といった文字が読み取れる。1431は中央に「大般若」、周囲に「寅」など十二支の文字を配したものと推定され、般若経を守る十六善神(十二神将および四天王)を表現した可能性がある。1432～1435は金箔を施した土師質皿である。1433の外面は金箔が剥がれ、接着に利用した漆様の付着物がわずかに遺存している。1436は元様式染付の稜花皿で、体部内面に唐草文、見込に蓮の葉と思しき文様を描く。1437は朝鮮製の雑釉碗で、見込と畳付に各8箇所の目跡がある。欠失部を含めると10箇所あったものと考えられる。1438は漆塗皿の高台部である。内面と畳付は黒色、外側面は赤色で、高台内に朱書の文字をもつ。1439は皮札を綴じ合わせて漆を施した小札である。1440・1441は数珠玉で、1440は藤色のガラス製、1441は水晶製である。1442は雲母片で、香道具と想定される。1443はスサを含む壁土で、径2cmの竹小舞の圧痕が認められる。壁土はD1区SX1822付近のⅡ遺構面で多く採取されている。1444は畳表である。経糸が確認でき、その間隔は6mm程度ではほぼ均等である。一目の中に2本の経糸を織り込んだ諸目表とみられる。1445は炭化糊で、表面に畳表やへぎ板が張り付いている。炭化糊はD1区東側のⅡ遺構面で集中的に出土している。

表3 土器・陶磁器観察表

注1：胎土の記号は次の通り。①微砂粒(径1mm以下)を少量含む、②微砂粒(径1mm以下)を多量含む、③砂粒(径1~2mm)を含む、④小石(径2mm以上)を含む。

注2：色調は新版「標準土色帖2007年版」に基づく。

No	種類		区画	面	地区	層/遺構	法量(cm)			胎土	色調		備考	図	PL
	大別	器種					口径	器高	底径		外面	内面			
1	越前	短頸甕	A	I	T72	石垣	19.8	-	-	②③	にぶい橙	橙	突帯付	11	25
2	越前	四耳壺	A	I	P73	石垣	11.6	-	-	①③	黒褐	暗赤褐		11	25
3	越前	播鉢	A	I	S・T69、T70、U72	SV1622、SS1564他	42.8	16.2	19.0	②③	にぶい橙	にぶい橙	IV群 播目9	11	25
4	越前	鉢	A	I	S70・72、T・U72	石垣	19.2	3.2	13.6	①③	浅黄橙	浅黄橙	播目8	11	25
5	越前	鉢	A	I	U70・72	焼土、SV1622	26.5	6.8	13.6	②③	にぶい赤褐	灰褐	片口 同心弧文・波状文	11	25
6	土師質	皿	A	I	P73	石垣	9.1	2.2	4.4	①	浅黄橙	橙	C類	11	25
7	土師質	皿	A	I	T70	石垣	9.8	2.3	4.8	①	明黄褐	明黄褐	C類 タール痕	11	25
8	土師質	皿	A	I	T70	SD1568	10.7	2.1	5.0	①	浅黄橙	橙	D類	11	25
9	土師質	皿	A	I	S70	石垣	10.6	2.1	6.0	①	浅黄橙	浅黄橙	D類 タール痕	11	25
10	土師質	皿	A	I	U72	SV1622	15.4	2.5	10.4	①	橙	橙	D類	11	25
11	土師質	皿	A	I	P73	石垣	14.3	2.6	10.2	①	浅黄橙	浅黄橙	D類	11	25
12	瀬戸・美濃	天目茶碗	A	I	U72	石垣	8.8	4.8	3.2	①	黒	黒	大窯1	12	26
13	瀬戸・美濃	鉄軸水注	A	I	S72	石垣	4.8	-	-	①	暗褐	暗褐	古瀬戸後IV古 注口に鉄片	12	26
14	瀬戸・美濃	灰釉平碗	A	I	T70	石垣	16.3	5.8	6.1	①	淡黄	浅黄	全面施釉	12	26
15	瀬戸・美濃	灰釉腰折皿	A	I	U70・72	焼土、SV1622	11.0	2.4	3.7	①	浅黄	淡黄	古瀬戸後IV新 トチン跡3	12	26
16	瀬戸・美濃	灰釉腰折皿	A	I	U72	SV1622	11.5	2.5	4.2	②	浅黄	淡黄	古瀬戸後IV新 トチン跡	12	26
17	瀬戸・美濃	緑釉皿	A	I	Q72	焼土	-	-	5.8	①	浅黄	灰白	大窯2か 輪ドチ跡	12	26
18	瀬戸・美濃	灰釉大皿	A	I	P73	石垣	29.8	-	-	①	オリブ黄	オリブ黄	古瀬戸後IV古	12	26
19	中国	白磁皿	A	I	N67、U72	SV1622	12.3	3.0	6.8	①	灰	灰		12	26
20	中国	白磁皿	A	I	Q71・72	焼土、床土	11.4	2.5	5.0	①	明緑灰	明緑灰	見込界線	12	26
21	中国	白磁皿	A	I	Q72	焼土、床土	11.0	2.9	5.8	①	灰白	灰白		12	26
22	中国	白磁皿	A	I	A70	SD501	-	-	9.8	①	灰白	灰白		12	26
23	中国	白磁鉢	A	I	T70	石垣	-	-	-	①	灰白	灰白	縫留めの穴4箇所	12	26
24	中国	白磁鉢	A	I	P65、S70	石垣他	6.6	4.0	2.8	①	灰白	灰白		12	26
25	中国	白磁杯	A	I	P73	石垣	-	-	2.3	①	灰白	灰白	見込鉢の目釉剥ぎ	12	26
26	中国	白磁杯	A	I	Q72	石垣	-	-	2.4	①	灰白	灰白	高台内に「福」	12	26
27	中国	白磁杯	A	I	T72	石垣	-	-	2.6	①	灰白	灰白		12	26
28	中国	染付碗	A	I	T70	石垣	-	-	5.1	①	明緑灰	明緑灰		12	26
29	中国	染付皿	A	I	T70	石垣、床土	11.7	2.9	6.4	①	明緑灰	明緑灰	B1群	12	26
30	中国	染付皿	A	I	U72	SV1622	11.7	2.8	6.4	①	明緑灰	明緑灰	B1群	12	26
31	中国	染付皿	A	I	R71	炭層	-	-	3.6	①	明緑灰	明緑灰	C群	12	26
32	中国	染付碗	A	I	P73	石垣	-	-	4.4	②	灰白	灰白	見込「福」 華南系	12	26
33	朝鮮	雑釉碗	A	I	T・U70	石垣、焼土	-	-	5.7	①	灰白	灰白	見込・畳付に目跡	12	26
41	越前	大甕	A	II	Q71・72他	焼土、炭層、床土	-	-	-	②	灰褐	灰褐	IV群c 押印	13	27
42	越前	大甕	A	II	P72、Q71	炭層、焼土	-	-	-	③	灰褐	灰褐	III群a	13	27
43	越前	播鉢	A	II	O71	SX1774	33.6	11.2	12.6	②③	橙	橙	IV群 播目7	13	27
44	越前	鉢	A	II	S70、Q72、U68他	炭層、焼土他	42.6	11.9	20.4	②③	明赤褐	にぶい赤褐	黒色付着物を拭ったような痕跡	13	27
45	土師質	皿	A	II	Q70	SF1741	6.9	1.7	3.4	①	灰白	灰白	A類	13	27
46	土師質	皿	A	II	Q70	SF1741	7.1	1.8	3.1	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類	13	27
47	土師質	皿	A	II	Q70	SF1741	8.4	2.1	4.5	①	灰黄褐	灰黄褐	C類 タール痕	13	27
48	土師質	皿	A	II	Q70	SF1741	8.5	2.0	4.8	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類	13	27
49	土師質	皿	A	II	Q70	SF1741	8.6	1.9	5.3	①	灰白	灰白	C類	13	27
50	土師質	皿	A	II	Q70	SF1741	8.6	2.0	4.5	①	灰白	灰白	C類 内外墨書	13	27
51	土師質	皿	A	II	Q70	SF1741	9.6	2.2	4.4	①	明褐灰	明褐灰	D類 タール痕	13	27
52	土師質	皿	A	II	Q70	SF1741	10.9	2.0	5.5	①	灰白	灰白	D類	13	27
53	土師質	皿	A	II	Q70	SF1741	11.3	2.4	5.8	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	D類 タール痕	13	27
54	土師質	皿	A	II	Q70	SF1741	12.5	1.9	6.9	①	灰褐	灰褐	D類	13	27
55	土師質	皿	A	II	P71	焼土	20.8	2.7	15.6	①	浅黄橙	浅黄橙	D類	13	27
56	土師質	皿	A	II	Q70	SF1741	21.1	2.3	15.0	①	灰白	灰白	D類	13	27
57	土師質	小壺	A	II	P73	焼土	3.3	5.4	3.0	①	にぶい橙	にぶい橙		13	27
58	瀬戸・美濃	天目茶碗	A	II	P73	焼土	6.8	5.0	3.3	①	にぶい黄橙	にぶい黄	大窯2	14	28
59	瀬戸・美濃	鉄軸水注	A	II	R73	焼土、石垣下層	2.5	5.8	3.0	①	オリブ褐	オリブ褐		14	28
60	瀬戸・美濃	鉄軸水注	A	II	U70	SX1778	-	-	10.0	①	褐	灰白	底部糸切り痕	14	28
61	瀬戸・美濃	灰釉腰折皿	A	II	O72	炭層	10.4	2.8	6.2	①	灰白	灰白	大窯2	14	28
62	瀬戸・美濃	灰釉腰折皿	A	II	Q72	炭層	10.4	2.2	4.3	①	浅黄	浅黄	古瀬戸後IV新 見込輪ドチ跡	14	28
63	瀬戸・美濃	灰釉腰折皿	A	II	Q71	炭層	10.4	2.2	4.8	①	淡黄	淡黄	古瀬戸後IV新 見込輪ドチ跡	14	28
64	瀬戸・美濃	灰釉腰折皿	A	II	S70	炭層	10.8	-	-	①	灰白	灰白	古瀬戸後IV新	14	28
65	瀬戸・美濃	緑釉丸皿	A	II	Q71	炭層	10.3	2.7	5.5	①	オリブ灰	明緑灰	大窯2	14	28
66	瓦質	香炉	A	II	T71	粘土層	12.3	5.4	8.9	①	黒	褐灰	口縁外反	14	28
67	中国	白磁皿	A	II	P73、Q72	焼土、炭層	16.0	-	-	①	灰白	灰白	胴下部菊花状	14	28
68	中国	染付碗	A	II	Q72	炭層	12.2	-	-	①	灰白	灰白	B群	14	28
69	中国	染付碗	A	II	O72	炭層	11.8	-	-	①	明緑灰	明緑灰	B群	14	28
70	中国	染付碗	A	II	Q71・72、U66	炭層他	13.0	7.0	4.9	①	灰白	灰白	C群	14	28
71	朝鮮	雑釉碗	A	II	P72・73、S72	焼土、石垣	16.4	-	-	②	灰	灰		14	28
77	越前	大甕	B	I	T67	Iイウ、床土	-	-	-	④	褐灰	灰褐	IV群c ヘラ記号 押印	15	29
78	越前	大甕	B	I	Q57	Iイウ、床土	-	-	-	②	にぶい黄橙	灰褐	III群b 押印	15	29
79	越前	大甕	B	I	K69、M71・72	Iイウ、床土	-	-	-	③	灰褐	にぶい赤褐	IV群a 押印	15	29
80	越前	中甕	B	I	T69、U68	SD1695・501他	38.4	-	-	②	にぶい橙	灰	ヘラ記号	15	29
81	越前	中甕	B	I	J64、M71、P64、U65	灰色土、床土他	47.2	-	-	①	黒褐	暗褐	ヘラ記号 押印	15	29
82	越前	壺	B	I	S・T69	SD1695、SS1564	18.2	28.3	17.0	②③	灰黄褐	にぶい黄橙	ヘラ記号	15	29
83	越前	壺	B	I	Q57・58、R56	黄土他	16.7	-	-	①③	褐	灰褐		15	29
84	越前	壺	B	I	S69	SD1695	6.2	12.4	9.0	②③	にぶい褐	にぶい褐		16	30
85	越前	鉢	B	I	M65・67、P61他	SB1556、SD1572他	29.8	13.1	14.2	①③	黒褐	黄灰		16	30
86	越前	桶	B	I	T64	焼土石敷面	11.2	8.2	10.1	①	黒褐	黒褐		16	30
87	土師質	皿	B	I	P59	SD1575	6.4	2.0	3.4	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	B類	16	30
88	土師質	皿	B	I	R69	SF1604有機質土	6.8	1.6	4.3	①	灰黄	灰黄	B類 布目 タール痕	16	30

No.	種類		区画	面	地区	層/遺構	法量(cm)			胎土	色調		備考	図	PL
	大別	器種					口径	器高	底径		外面	内面			
89	土師質	皿	B	I	R69	SF1605有機質土	6.8	1.7	2.2	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	B類 布目	16	-
90	土師質	皿	B	I	R69	SF1605有機質土	7.4	2.0	5.1	①	灰黄	灰黄	B類	16	30
91	土師質	皿	B	I	R69	SF1605有機質土	6.7	1.6	3.6	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	B類 布目 タール痕	16	30
92	土師質	皿	B	I	R69	SF1605有機質土	7.5	1.6	5.3	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	B類	16	30
93	土師質	皿	B	I	R69	SF1605有機質土	5.7	1.5	2.4	①	灰白	灰白	C類 タール痕	16	30
94	土師質	皿	B	I	R69	SF1605有機質土	8.5	1.7	4.6	①	にぶい褐	にぶい褐	C類 タール痕	16	30
95	瀬戸・美濃	天目茶碗	B	I	R69	SF1605有機質土	11.8	-	-	①	黒褐	黒褐	大窯2	16	30
96	瀬戸・美濃	天目茶碗	B	I	P63、25区	SF1608、床土	11.8	6.4	4.1	①	褐	褐	大窯2	16	30
97	瀬戸・美濃	鉄釉四耳壺	B	I	N66・67、O66他	粘土、SD1570他	11.4	39.2	15.1	①	暗褐	暗褐	大窯 底外面「祖母懐」銘	16	30
98	瀬戸・美濃	黄瀬戸平碗	B	I	T65	礎石面	12.8	4.0	4.1	①	灰白	灰白	大窯2	16	30
99	瀬戸・美濃	灰釉丸皿	B	I	U68	SD501カ	11.2	2.8	6.5	①	淡黄	灰白	大窯2 輪ドチ跡 漆継痕	16	30
100	瀬戸・美濃	灰釉腰折皿	B	I	Q57・58	SD1574他	11.8	2.6	4.4	①	灰白	灰白	古瀬戸後IV新 見込トチン跡	16	30
101	瀬戸・美濃	灰釉丸皿	B	I	Q67	バンドコ内	10.9	2.4	6.4	①	灰白	灰白	大窯1 印花 高台内輪ドチ跡	16	30
102	瀬戸・美濃	灰釉丸皿	B	I	U68	SD501	8.7	2.3	4.5	①	灰白	灰白	大窯2	16	30
103	瀬戸・美濃	灰釉香炉	B	I	R69・70	SD1569・1695他	8.2	6.0	8.0	①	浅黄	灰白	大窯	16	30
104	中国	青磁碗	B	I	T64、U65	SX1788、SB1555	10.2	5.9	3.4	①	灰オリーブ	灰オリーブ	龍泉窯系B4類 見込「富」印花	16	31
105	中国	青磁皿	B	I	T67、U68、A66他	SD501、SE1596他	14.0	3.8	6.0	①	オリーブ灰	オリーブ灰	見込界線・印花文	16	31
106	中国	青磁皿	B	I	T51・65、U68他	SD501、SB1555他	14.4	-	-	①	朝オリーブ灰	朝オリーブ灰	草花文	16	31
107	中国	青磁皿	B	I	Q67	バンドコ内	11.0	2.7	3.6	①	浅黄	浅黄	釉淡い 内外面下部は露胎	16	31
108	中国	青磁皿	B	I	Q67	バンドコ内	10.7	2.9	3.5	①	浅黄	浅黄	釉淡い 内外面下部は露胎	16	31
109	中国	青磁鉢	B	I	L71・72	-	21.4	-	-	①	明緑灰	明緑灰		16	31
110	中国	青磁瓶	B	I	M68、P69他	SD1695他	-	-	8.9	①	朝オリーブ灰	-	下蕪瓶 46次出土品と接合	16	31
111	中国	白磁皿	B	I	Q67	バンドコ内	11.7	3.1	6.4	①	灰白	灰白		16	31
112	中国	白磁皿	B	I	Q57	-	10.8	2.6	5.2	①	灰オリーブ	灰オリーブ	見込蛇の目釉剥ぎ	16	31
113	中国	白磁皿	B	I	O58	SD1576	10.4	2.7	5.3	①	灰白	灰白	見込蛇の目釉剥ぎ露胎赤彩	16	31
114	中国	白磁皿	B	I	R69	SD1695	12.0	2.9	5.9	①	灰白	灰白	高台内に青花による角福銘	16	31
115	中国	白磁皿	B	I	L71・72	-	16.0	-	-	①	灰白	灰白	口唇釉剥ぎ 青白磁カ	16	31
116	中国	白磁杯	B	I	A66	SD501	6.9	2.3	-	①	灰白	灰白		16	31
117	中国	白磁杯	B	I	O66	SD1570	-	-	2.1	①	灰白	灰白	見込蛇の目釉剥ぎ	16	31
118	中国	白磁杯	B	I	N69・70	-	-	2.4	①	灰白	灰白	見込蛇の目釉剥ぎ	16	31	
119	中国	染付碗	B	I	Q67	バンドコ内	11.6	6.1	4.3	①	明緑灰	明緑灰	E群 「宣徳年製」	17	31
120	中国	染付碗	B	I	L69	粘土	-	-	4.4	①	灰白	灰白	漆継痕	17	31
121	中国	染付蓋	B	I	N67他	焼土、床土	8.7	3.7	3.2	①	灰白	灰白	122の蓋	17	31
122	中国	染付壺	B	I	L57他	Iイワ、床土	9.8	6.6	6.3	①	灰白	灰白	121の身	17	31
123	中国	天目茶碗	B	I	A68	SD501	11.7	7.9	3.3	①	青黒	青黒	黒釉 禾目 覆輪痕	17	31
124	中国	褐釉茶入	B	I	U64	SD501	2.4	-	-	①	暗褐	灰黄褐	肩衝茶入	17	31
125	中国	褐釉壺	B	I	J63	-	7.8	-	-	①	黒褐	褐灰		17	31
126	朝鮮	白磁碗	B	I	J68	粘土	-	-	5.6	①	灰白	灰白		17	31
127	朝鮮	白磁碗	B	I	A・U65	SB1555、SS493他	13.2	5.4	5.0	①	灰白	灰白		17	31
128	朝鮮	雑釉碗	B	I	K・M69、L71・72	-	-	5.0	②	灰	灰	見込・畳付に目跡各5	17	31	
129	朝鮮	雑釉碗	B	I	M71・72、Q・R69	SF1605他	-	-	5.4	②	黄灰	黄灰	見込・畳付に目跡各8	17	31
130	朝鮮	雑釉鉢	B	I	Q57	-	33.3	-	-	①	灰	灰		17	31
144	越前	大甕	B	II	N66・68	粘土、暗褐色土他	88.0	-	-	③	灰黄褐	灰褐	IV群 c 押印	18	33
145	越前	大甕	B	II	Q65-68、R・U68-69	SD1730-1733、SX1652他	72.4	-	-	④	にぶい褐	にぶい褐	IV群 c 押印	18	33
146	越前	大甕	B	II	Q・R64、R・S65他	粘土、焼土、炭層他	83.4	-	-	②	灰黄褐	にぶい赤褐	IV群 c 押印 ヘラ記号	19	33
147	越前	中甕	B	II	P56、K57、M66	SD1574・1732	38.2	-	-	④	褐灰	褐灰		19	33
148	越前	短頸甕	B	II	M64・66、R57、I56	粘土、黄土	20.4	-	-	②③	灰褐	灰赤	突帯付	19	33
149	越前	短頸甕	B	II	T67	炭層	16.2	22.9	13.4	②④	にぶい赤褐	にぶい赤褐	突帯付 ヘラ記号 内部に鉄片	19	33
150	越前	壺	B	II	M55・66他	SD1570他	14.0	26.3	18.0	①③	褐	灰褐	片口 ヘラ記号	19	33
151	越前	壺	B	II	R・S66	炭層	6.9	12.0	9.0	①②	黒褐	暗灰黄	ヘラ記号	19	33
152	越前	壺	B	II	S64	粘土	-	-	8.0	②③	にぶい黄橙	浅黄橙	ヘラ記号 底部内面に付着物	19	33
153	越前	壺	B	II	M66	粘土	4.6	10.6	7.2	②③	暗赤褐	褐	ヘラ記号	19	33
154	越前	播鉢	B	III	T66	SX1786	34.4	11.2	15.4	②③	灰褐	明褐灰	IV群 片口 播目11 炭化付着物	20	34
155	越前	播鉢	B	III	U67	炭層	22.6	9.1	11.5	①②	明赤褐	明赤褐	IV群 播目5 同心・弧文	20	34
156	越前	播鉢	B	III	U68	炭層	23.8	8.0	12.5	①④	褐	灰黄褐	IV群 播目11	20	34
157	越前	播鉢	B	III	M・O62他	粘土他	37.6	13.9	16.0	①③	にぶい赤褐	灰褐	IV群 播目9	20	34
158	越前	播鉢	B	III	P57	ピット層	32.3	10.6	13.8	②④	明赤褐	にぶい橙	IV群 播目12	20	34
159	越前	播鉢	B	III	R68・S67他	SX1652、炭層他	41.9	18.2	17.6	②③	明赤褐	にぶい橙	IV群 播目9	21	34
160	越前	円盤	B	III	N68	暗褐色土	径5.0	厚1.2	-	①④	褐灰	褐灰		21	35
161	土師質	皿	B	II	M66	SD1570	6.7	2.2	3.9	①	にぶい橙	にぶい橙	B類	21	35
162	土師質	皿	B	II	S66	炭層	7.0	1.7	3.8	①	橙	橙	B類 布目	21	35
163	土師質	皿	B	II	S64	粘土	6.1	1.4	2.0	①	灰白	にぶい黄橙	A類 タール痕	21	35
164	土師質	皿	B	II	M66	SD1570	6.3	1.4	3.0	①	灰白	灰白	C類	21	35
165	土師質	皿	B	II	M66	SD1570	6.6	1.6	3.9	①	灰白	灰白	C類	21	35
166	土師質	皿	B	II	S66	炭層	6.5	1.6	2.4	①	浅黄橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	21	35
167	土師質	皿	B	II	S67	炭層	6.6	1.6	3.4	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	21	35
168	土師質	皿	B	II	M66	SD1570	6.1	1.5	3.3	①	浅黄橙	浅黄橙	C類	21	35
169	土師質	皿	B	II	M66	SD1570	6.6	1.5	3.7	①	灰白	灰白	C類	21	35
170	土師質	皿	B	II	S66	炭層	6.8	1.7	3.0	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類	21	35
171	土師質	皿	B	II	M66	SD1570	7.2	1.7	3.7	①	にぶい橙	にぶい橙	C類	21	35
172	土師質	皿	B	II	S66	炭層	7.1	1.5	3.2	①	灰白	にぶい橙	C類 タール痕	21	35
173	土師質	皿	B	II	S64	粘土	8.6	2.0	2.8	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	21	35
174	土師質	皿	B	II	S66	炭層	8.7	1.9	4.4	①	にぶい橙	にぶい橙	C類 タール痕	21	35
175	土師質	皿	B	II	M66	SD1570	8.5	1.9	5.0	①	灰白	淡黄	C類 タール痕	21	35
176	土師質	皿	B	II	S66	炭層	9.0	2.0	4.6	①	にぶい橙	にぶい橙	C類	21	35
177	土師質	皿	B	II	S66	炭層	9.3	2.0	3.4	①	にぶい橙	淡橙	C類	21	35
178	土師質	皿	B	II	S66	炭層	9.1	2.2	4.0	①	にぶい黄橙	灰黄褐	C類 タール痕	21	35
179	土師質	皿	B	II	S66	炭層	9.2	1.9	4.8	①	にぶい橙	にぶい橙	C類	21	35
180	土師質	皿	B	II	M66	SD1570	9.0	2.3	4.4	①	浅黄橙	浅黄橙	C類 タール痕	21	35
181	土師質	皿	B	II	M66	SD1570	9.8	2.5	5.5	①	にぶい橙	にぶい橙	C類 タール痕	21	35
182	土師質	皿	B	II	L65	粘土	10.8	2.4	6.0	①	灰白	灰白	D類 底部外面墨書	21	35

No	種類		区画	面	地区	層/遺構	法量(cm)			胎土	色調		備考	図	PL
	大別	器種					口径	器高	底径		外面	内面			
183	土師質	皿	B	II	K72	粘土	16.5	2.4	9.0	①	橙	橙	D類 底部内外面煤け	21	35
184	土師質	土釜	B	II	K72	粘土	11.5	-	-	①	にぶい褐	にぶい橙		21	35
185	土師質	小壺	B	II	L57	粘土	2.6	2.7	1.0	①	灰白	灰白		21	35
186	土師質	小壺	B	II	O72	炭層	2.6	2.4	2.8	①	灰白	灰白		21	-
187	土師質	灯芯押え	B	II	U68	炭層	径1.7	厚0.4	-	①	にぶい橙	明褐色		21	35
188	土師質	灯芯押え	B	II	O57	焼土	径2.1	厚0.4	-	①	にぶい黄褐	にぶい黄橙		21	35
189	瀬戸・美濃	天目茶碗	B	II	K57	SF1744粘土	11.5	6.7	3.9	①	にぶい黄褐	にぶい黄褐	大窯1	22	36
190	瀬戸・美濃	天目茶碗	B	II	M71	粘土	12.4	6.4	4.4	①	暗褐	暗褐	大窯2	22	36
191	瀬戸・美濃	天目茶碗	B	II	K・M68、N70	粘土他	12.6	6.2	4.9	①	黒褐	黒褐	大窯2	22	36
192	瀬戸・美濃	天目茶碗	B	II	M66	SD1570	11.2	5.9	4.6	①	黒褐	黒褐	大窯3 高台周辺露胎	22	36
193	瀬戸・美濃	鉄軸丸皿	B	II	Q64	粘土	10.9	2.6	5.7	①	黒褐	黒褐	大窯2	22	36
194	瀬戸・美濃	鉄軸丸皿	B	II	Q64	粘土	11.0	2.6	5.6	①	黒褐	黒褐	大窯2 トチン・輪ドチ跡	22	36
195	瀬戸・美濃	鉄軸徳利	B	II	P68	焼土	6.0	-	-	①	にぶい黄褐	にぶい黄橙		22	36
196	瀬戸・美濃	鉄軸徳利	B	II	K72	粘土	7.8	-	-	①	黄褐	オリブ褐		22	36
197	瀬戸・美濃	鉄軸小瓶	B	II	Q57・58	SD1574他	-	-	5.8	①	暗赤褐	暗褐	糸切り痕 底面漆様付着物	22	36
198	瀬戸・美濃	鉄軸水滴	B	II	Q69	青色整地土	2.1	2.1	3.8	①	暗褐	暗褐	糸切り痕	22	36
199	瀬戸・美濃	鉄軸片口鉢	B	II	L68	粘土	7.2	-	-	①	黒褐	黒褐	底部周辺露胎	22	36
200	瀬戸・美濃	鉄軸建水	B	II	Q69	粘土	15.0	-	-	①	オリブ黒	褐灰	口端面・体部内面露胎	22	36
201	瀬戸・美濃	鉄軸建水	B	II	U67他	炭層、表採	11.8	-	-	②	暗赤褐	淡黄	口端面・体部内面露胎	22	36
202	瀬戸・美濃	灰軸平碗	B	II	K57、M66、Q56	SD1574	17.6	5.9	5.8	②	オリブ黄	オリブ	大窯1 輪ドチ跡	22	36
203	瀬戸・美濃	灰軸平碗	B	II	M66	粘土	16.0	-	-	①	浅黄	浅黄	大窯1	22	36
204	瀬戸・美濃	灰軸平碗	B	II	U67・68	SX1780、炭層	15.8	-	-	①	浅黄	浅黄	大窯1	22	36
205	瀬戸・美濃	灰軸丸碗	B	II	M66	SD1570	12.2	-	-	①	灰白	灰白	大窯1	22	36
206	瀬戸・美濃	灰軸丸碗	B	II	L60、Q59	粘土他	11.4	-	-	①	灰白	灰白	大窯1	22	36
207	瀬戸・美濃	灰軸丸碗	B	II	T67、U68	炭層	11.0	6.9	5.4	①	淡黄	浅黄	大窯1 輪ドチ跡	22	36
208	瀬戸・美濃	灰軸丸碗	B	II	T67	炭層	-	-	5.2	①	淡黄	浅黄	大窯1 輪ドチ跡	22	36
209	瀬戸・美濃	灰軸丸碗	B	II	L69	粘土	11.6	-	-	①	浅黄	灰白	大窯1	22	36
210	瀬戸・美濃	灰軸端反皿	B	II	U67	炭層	9.4	2.4	5.0	①	灰白	灰白	印花	22	36
211	瀬戸・美濃	灰軸端反皿	B	II	U64	焼土	9.0	2.5	5.0	①	淡黄	淡黄	大窯1 印花	22	36
212	瀬戸・美濃	灰軸端反皿	B	II	M66	SD1570	10.5	2.4	6.2	①	浅黄	浅黄	大窯1 印花 輪ドチ跡	22	36
213	瀬戸・美濃	灰軸端反皿	B	II	T67	炭層	9.1	2.5	5.2	①	灰白	淡黄	大窯1 印花 輪ドチ跡	22	36
214	瀬戸・美濃	灰軸端反皿	B	II	L60	粘土	8.4	1.9	4.4	①	灰オリブ	灰オリブ	大窯1	22	36
215	瀬戸・美濃	灰軸端反皿	B	II	T・U67	炭層	11.0	2.6	5.6	①	灰黄	灰黄	大窯1 輪ドチ跡	22	36
216	瀬戸・美濃	灰軸端反皿	B	II	T67	炭層	11.4	3.0	6.2	①	淡黄	淡黄	大窯1 輪ドチ跡	22	36
217	瀬戸・美濃	灰軸丸皿	B	II	T65	暗褐色土	9.8	2.0	5.6	①	灰白	淡黄	大窯2 印花	22	36
218	瀬戸・美濃	灰軸丸皿	B	II	S64	粘土	10.2	2.9	5.6	①	淡黄	灰白	大窯2 内面ソギ 輪ドチ跡	22	36
219	瀬戸・美濃	灰軸丸皿	B	II	P59	黄土	11.2	3.0	6.0	①	明黄褐	浅黄	大窯2 内面ソギ	22	36
220	瀬戸・美濃	灰軸丸皿	B	II	U64	焼土	6.4	1.5	3.4	①	オリブ黄	オリブ黄	大窯2 底外面宛巾状	22	36
221	瀬戸・美濃	灰軸丸皿	B	II	T68	炭層	5.2	1.4	3.0	①	灰白	淡黄	大窯2 印花	22	36
222	瀬戸・美濃	灰軸反皿	B	II	U64	焼土	7.0	1.5	3.6	①	淡黄	浅黄	大窯2 印花	22	36
223	瀬戸・美濃	灰軸反皿	B	II	U63	-	7.1	1.7	3.3	①	浅黄	浅黄	大窯2 印花	22	36
224	瀬戸・美濃	灰軸反皿	B	II	U63	-	7.1	1.6	4.0	①	灰白	灰白	大窯2 印花	22	36
225	瀬戸・美濃	灰軸稜花皿	B	II	T67	炭層	11.2	2.7	6.2	①	灰白	灰白	大窯1 輪ドチ跡	23	37
226	瀬戸・美濃	灰軸無頸壺	B	II	N57	SD1738	4.7	5.6	5.0	②	浅黄	浅黄	波状の飾描文 糸切り痕	23	37
227	瀬戸・美濃	灰軸坏	B	II	L61	炭層	4.4	2.8	2.2	①	灰白	灰白	鳥顔皿カ	23	37
228	瓦質	香炉	B	II	S64	褐色土	6.5	4.7	5.5	①	黒	黒		23	37
229	瓦質	香炉	B	II	L58・59	粘土	16.8	4.7	15.6	①	黒	黒褐	渦状スタンプ文	23	37
230	瓦質	瓦燈蓋	B	II	N68	暗褐色土	7.8	17.4	16.0	①	オリブ黒	オリブ黒	細かなヘラミガキ	23	37
231	瓦質	瓦燈台	B	II	N68	粘土	12.8	-	-	①	オリブ黒	オリブ黒		23	37
232	須恵器	坏蓋	B	II	O65・66・68、Q67	粘土・焼土、SX1784他	16.2	-	-	①	灰	灰	古墳時代	23	37
233	須恵器	高坏	B	II	L・Q57、P58	ピット、SD1574他	15.0	-	-	①	灰	灰	古墳時代	23	37
234	中国	青磁碗	B	II	Q65・66・68他	炭層、焼土、SD1730	15.8	-	-	①	明緑灰	明緑灰	龍泉窯系B4類	23	37
235	中国	青磁皿	B	II	J59、N・O64	粘土砂利層他	13.9	3.4	6.2	①	オリブ灰	灰オリブ	内面草花文 見込界線	23	37
236	中国	青磁皿	B	II	S64、T・U65	粘土、SB1721	14.0	3.0	5.8	①	オリブ灰	オリブ灰	内面唐草文 見込「雷」印花	23	37
237	中国	青磁皿	B	II	T68・69、U69	SD1695他	16.2	-	-	①	明緑灰	明緑灰		23	37
238	中国	青磁皿	B	II	P57	焼土	10.2	2.9	5.0	①	灰白	灰白		23	37
239	中国	青磁香炉	B	II	N68	暗褐色土	7.6	5.7	7.5	①	オリブ灰	オリブ灰	筒形香炉 外面に沈線4条	23	37
240	中国	白磁皿	B	II	S67、T67・68	炭層	11.3	3.2	6.4	①	灰白	灰白		23	37
241	中国	白磁皿	B	II	U69	SD1695	11.0	2.6	5.2	①	灰白	灰白	見込袖剥ぎ	23	37
242	中国	白磁皿	B	II	T68	炭層	11.6	3.0	6.2	①	灰白	灰白	見込付近に墨書	23	37
243	中国	白磁皿	B	II	O・Q61	粘土、I々焼土	11.5	2.6	6.2	①	灰白	灰白		23	37
244	中国	白磁皿	B	II	N56・60、O59	粘土、SD1574他	10.7	2.9	4.3	①	灰白	灰白		23	37
245	中国	白磁皿	B	II	P67	黄土	-	-	6.6	①	灰白	灰白	高台内圏線 漆継痕	23	37
246	中国	白磁皿	B	II	U69	SD1695	-	-	11.5	①	灰白	灰白		23	37
247	中国	白磁皿	B	II	M72	褐色土	11.2	2.5	6.0	①	灰白	灰白	漆継痕	23	37
248	中国	白磁坏	B	II	U64	焼土	-	-	3.3	①	灰白	灰白	見込蛇の目釉剥ぎ	23	37
249	中国	白磁坏	B	II	S・T67	炭層	7.2	3.3	2.3	①	灰白	灰白	見込蛇の目釉剥ぎ	23	37
250	中国	染付碗	B	II	M70	粘土	14.0	-	-	①	明緑灰	明緑灰	B群	24	38
251	中国	染付碗	B	II	N57	粘土	-	-	3.7	①	明緑灰	明緑灰	C群 漆継痕	24	38
252	中国	染付碗	B	II	L57・72、Q72他	SD1574、炭層他	13.4	4.7	5.6	①	灰白	灰白	唐草文 見込「福」 華南系	24	38
253	中国	染付皿	B	II	K57、M66、Q57他	SD1574他	11.3	2.8	7.0	①	明緑灰	明緑灰	B1群	24	38
254	中国	染付皿	B	II	Q69	青色整地土	13.4	2.4	7.2	①	明緑灰	明緑灰	B1群	24	38
255	中国	染付皿	B	II	U64・65	粘土、SB1555	8.7	2.2	4.7	①	明緑灰	明緑灰	B1群	24	38
256	中国	染付皿	B	II	M66	SD1570	13.2	2.1	8.1	①	明緑灰	明緑灰	B1群	24	38
257	中国	染付皿	B	II	M68	粘土	14.4	-	-	①	明緑灰	明緑灰	B2群	24	38
258	中国	染付皿	B	II	M71	粘土	14.0	3.8	8.1	①	明緑灰	明緑灰	B2群 漆継痕	24	38
259	中国	染付皿	B	II	Q64、U68	SF1607、炭層	-	-	4.6	②	灰白	灰白	C群 華南系	24	38
260	中国	染付皿	B	II	U68、S67他	炭層	12.2	3.1	4.4	①	明緑灰	明緑	C群	24	38
261	中国	染付皿	B	II	K57、L54、M66他	SD1584・1574他	35.6	6.7	20.0	①	明緑灰	明緑灰	牡丹唐草文 四方構文	24	38
262	中国	染付皿	B	II	S・T64	粘土	31.8	6.0	18.6	①	明緑灰	明緑灰	鏝皿	24	38
263	朝鮮	磁軸碗	B	II	T67	炭層	13.8	-	-	②	灰	灰		25	39

No.	種類		区画	面	地区	層/遺構	法量(cm)			胎土	色調		備考	図	PL
	大別	器種					口径	器高	底径		外面	内面			
264	朝鮮	雑釉鉢	B	II	T69	SD1695	-	-	4.6	②	灰黄	灰白	畳付に目跡	25	39
265	不明	鉢	B	II	P・Q57、P・R58他	SD1574、焼土他	26.6	12.8	13.0	②	黒褐	灰褐	輪積み痕顕著	25	39
316	越前	播鉢	C	I	O56、Q59・61他	SD1574、SS1565他	33.0	11.0	16.0	②④	褐	にぶい褐	播目7	28	42
317	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	5.7	1.7	2.8	②	にぶい黄橙	にぶい橙	B類 タール痕	28	42
318	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	6.2	1.6	3.7	①	灰白	灰白	B類 タール痕	28	42
319	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	6.1	1.8	3.0	②	にぶい黄橙	にぶい黄橙	B類 タール痕	28	42
320	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	6.7	1.8	3.4	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	B類 布目 タール痕	28	42
321	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	6.6	1.6	3.7	③	にぶい黄橙	にぶい黄橙	B類 タール痕	28	42
322	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	6.6	1.9	4.6	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	B類 タール痕	28	42
323	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	6.4	1.8	3.0	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	B類 タール痕	28	42
324	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	7.3	2.0	4.1	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	B類 タール痕	28	42
325	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	7.2	1.8	4.3	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	B類 タール痕	28	42
326	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	6.8	2.3	3.8	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	B類	28	42
327	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	8.2	2.4	4.7	①	灰褐	灰白	B類 タール痕	28	42
328	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	5.2	1.5	2.8	①	灰白	灰白	C類	28	42
329	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	6.7	1.8	4.1	①	灰白	灰白	C類 全体に煤け	28	42
330	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	8.5	1.6	3.2	①	灰白	灰白	C類 口縁打欠 タール痕	28	42
331	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	8.0	1.9	3.6	③	灰白	灰白	C類	28	42
332	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	8.4	2.1	4.2	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	28	42
333	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	8.9	2.2	4.3	①	灰白	灰白	C類 タール痕	28	42
334	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	8.8	2.0	4.0	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	28	42
335	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	8.5	2.0	4.6	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	28	42
336	土師質	皿	C	I	Q62	SF1609	9.0	2.2	5.0	①	にぶい橙	にぶい橙	C類 タール痕	28	42
337	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	8.2	2.1	4.0	①	灰白	灰白	C類 タール痕	28	42
338	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	8.9	2.0	4.6	①	にぶい橙	にぶい橙	C類 タール痕	28	42
339	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	8.7	2.2	4.8	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	28	42
340	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	10.1	2.1	4.8	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	28	42
341	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	8.5	2.2	5.0	③	にぶい橙	にぶい橙	C類 タール痕	28	42
342	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	8.6	2.4	4.8	①	にぶい黄橙	灰白	C類 タール痕	28	43
343	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	8.5	2.2	4.4	①	にぶい黄橙	灰白	C類 タール痕	28	43
344	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	9.0	2.5	4.2	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	28	43
345	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	9.4	2.2	5.2	③	にぶい橙	にぶい橙	D類 タール痕	28	43
346	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	10.0	2.3	5.6	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	D類	28	43
347	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	9.8	2.0	5.0	①	灰白	灰白	D類 タール痕	28	43
348	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	10.5	2.2	5.7	①	灰白	灰白	D類 タール痕	28	43
349	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	10.6	1.9	6.2	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	D類 タール痕	28	43
350	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	11.0	2.1	6.9	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	D類	28	43
351	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	10.8	2.4	6.3	①	橙	橙	D類 タール痕	28	43
352	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	11.8	2.2	6.5	①	明褐灰	明褐灰	D類	28	43
353	土師質	皿	C	I	P63	SF1608	16.3	2.3	11.3	①	灰白	灰白	D類	28	43
354	瀬戸・美濃	天目茶碗	C	I	Q・R60、U61他	SD1572、焼土他	11.7	6.4	3.9	①	黒褐	黒褐	大窯2	28	43
355	瀬戸・美濃	天目茶碗	C	I	N65、P63、Q60他	SF1608、SD1572他	11.8	6.2	4.1	①	灰白	灰白	大窯2 黄瀬戸釉	28	43
356	中国	青磁皿	C	I	R53・60他	SD1572、SE1600他	13.3	3.6	6.0	①	灰オリーブ	灰オリーブ	内面草花文 見込印花文	28	43
357	中国	青磁皿	C	I	S59他	SD1572、床土他	11.8	3.3	5.8	①	明緑灰	明緑灰	内面草花文 見込「卍」印花	28	43
358	中国	青磁皿	C	I	S58・59、T59	SD1572他	9.5	-	-	①	灰白	灰白	角の丸い八角形	28	43
359	中国	青磁皿	C	I	A60、23区	SD501、床土	9.5	2.8	4.3	①	明緑灰	明緑灰	高台胎以下一部露胎	28	43
360	中国	青磁香炉	C	I	Q59・60他	SS1565、SD1572他	9.5	6.8	4.4	①	明青灰	青灰	筒形香炉	29	43
361	中国	白磁皿	C	I	A61	SD501カ	11.2	2.8	6.0	①	灰白	灰白		29	43
362	中国	白磁坏	C	I	S66、T59	焼土他	-	-	3.6	①	灰白	灰白	見込蛇の目刺ぎ→漆カ付着	29	43
363	中国	白磁坏	C	I	T60	炭層	6.8	-	-	①	灰白	灰白		29	43
364	中国	染付碗	C	I	T59	SD1572	-	-	5.0	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	華南系	29	43
365	中国	染付皿	C	I	S60、T59	焼土	15.3	3.4	9.0	①	灰白	灰白	B1群	29	43
366	中国	染付皿	C	I	P63	SF1608	15.6	-	-	①	明青灰	明緑灰	F群	29	43
371	越前	大甕	C	II	Q62、R60	SD1735、炭層	-	-	-	③	灰褐	褐灰	IV群c 押印	29	44
372	越前	大甕	C	II	Q60~63、P63	SD1734	-	-	-	③	褐灰	灰黄褐	IV群c 押印	29	44
373	越前	壺	C	II	Q・R60、R61	炭層	11.7	18.7	12.7	②③	にぶい赤褐	にぶい橙		29	44
374	越前	壺	C	II	S62、T63	暗褐色土、SD1571	10.0	-	-	①③	黒	黄灰	ヘラ記号	29	44
375	越前	播鉢	C	II	R60・61、S58・60他	炭層、SD1574他	34.9	13.2	16.4	②③	明赤褐	にぶい褐	IV群 播目9	30	44
376	越前	播鉢	C	II	Q61	炭層	21.1	7.6	10.7	①②	にぶい赤褐	灰黄褐	IV群 播目9 ヘラ記号	30	44
377	越前	播鉢	C	II	Q61・62、R61	SF1609、炭層	34.1	11.0	13.0	②④	にぶい赤褐	灰褐	III群b 播目10	30	44
378	越前	鉢	C	II	Q59・62・63	SS1565、炭層他	23.3	8.6	11.4	①③	赤褐	赤褐		30	44
379	越前	鉢	C	II	U62	-	14.4	5.8	10.8	①③	暗赤褐	灰褐		30	44
380	土師質	皿	C	II	A59	SD501	5.7	1.5	2.7	①	にぶい橙	にぶい橙	C類 全体的に煤け	30	45
381	土師質	皿	C	II	A59	SD501	6.0	1.3	3.2	①	灰白	灰白	C類	30	45
382	土師質	皿	C	II	A59	SD501	7.4	1.8	4.0	①	にぶい橙	にぶい橙	C類 タール痕	30	45
383	土師質	皿	C	II	A59	SD501	8.3	1.9	4.7	①	にぶい橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	30	45
384	土師質	皿	C	II	A59	SD501	8.8	2.1	4.9	①	にぶい橙	にぶい橙	C類	30	45
385	土師質	皿	C	II	Q61	炭層	7.6	1.6	3.8	①	灰白	灰白	C類 墨書 口縁打欠タール痕	30	45
386	土師質	皿	C	II	A59	SD501	8.5	1.5	6.6	①	にぶい橙	にぶい橙	G類	30	45
387	土師質	皿	C	II	A60	SD502	12.3	2.2	6.4	①	浅黄橙	浅黄橙	D類 墨書	30	45
388	土師質	灯芯押え	C	II	U62	炭層	径3.0	厚0.5	-	①	にぶい褐	にぶい褐	タール痕	30	45
389	瀬戸・美濃	天目茶碗	C	II	S55、T59	SD1572他	12.2	7.5	4.4	①	暗褐	暗褐	大窯2	30	45
390	瀬戸・美濃	天目茶碗	C	II	T64	SK1755	7.7	4.4	2.8	①	黒褐	黒褐	大窯1	30	45
391	瀬戸・美濃	鉄釉坏	C	II	S62	腐植土	5.4	2.1	2.5	①	黒褐	黒	大窯1	30	45
392	瀬戸・美濃	鉄釉丸皿	C	II	S61、U62	暗褐色土、炭層	11.0	2.6	6.2	①	褐	褐	大窯2 トチン跡3 輪ドチ跡	30	45
393	瀬戸・美濃	鉄釉鉢	C	II	S60	暗褐色土	16.4	-	-	①	黒	黒		30	45
394	瀬戸・美濃	鉄釉徳利	C	II	S62・63	焼土、暗褐色土	5.5	-	-	①	黒褐	黒褐		30	45
395	瀬戸・美濃	灰釉丸碗	C	II	A59	-	12.0	-	-	①	浅黄	浅黄	大窯1 蓮弁文風	30	45
396	瀬戸・美濃	灰釉端反皿	C	II	T62	-	11.4	3.0	5.8	①	淡黄	淡黄	大窯1 輪ドチ跡	30	45
397	瀬戸・美濃	灰釉端反皿	C	II	R60	炭層	9.3	2.4	5.6	①	淡黄	淡黄	大窯1 輪ドチ跡	30	45
398	瀬戸・美濃	灰釉端反皿	C	II	T59	SD1572	10.8	2.7	6.4	①	灰白	灰白	大窯1 輪ドチ跡	30	45

No.	種類		区画	面	地区	層/遺構	法量(cm)			胎土	色調		備考	図	PL
	大別	器種					口径	器高	底径		外面	内面			
399	瀬戸・美濃	灰釉端反皿	C	II	T・U60、A59	炭層、SD501	8.3	1.9	4.7	①	淡黄	浅黄	大窯1 印花 輪ドチ跡	30	45
400	瀬戸・美濃	灰釉丸皿	C	II	R62	SD1735	6.9	1.5	3.4	①	浅黄	灰白	大窯1	30	45
401	瓦質	香炉	C	II	T60	炭層	12.8	4.2	12.2	②	黒	暗灰	渦状スタンプ文	31	-
402	中国	青磁碗	C	II	Q 63	粘土	10.7	6.9	4.3	①	明オリブ灰	明オリブ灰	龍泉窯系統E類	31	46
403	中国	青磁碗	C	II	Q・R59	SD1572・1575	14.6	5.3	4.8	①	明オリブ灰	明オリブ灰	龍泉窯系統D類	31	46
404	中国	青磁皿	C	II	T61	炭層	14.6	3.8	8.2	①	明オリブ灰	明オリブ灰		31	46
405	中国	白磁皿	C	II	R60	-	12.5	2.5	7.8	①	灰白	灰白	畳付～高台内露胎→黒塗	31	46
406	中国	白磁皿	C	II	K58、O57、Q60	SD1572、粘土	11.8	2.3	6.0	①	灰白	灰白		31	46
407	中国	白磁皿	C	II	T61	焼土	14.2	3.2	8.0	①	灰白	灰白		31	46
408	中国	白磁皿	C	II	Q・R61、S60	粘土、炭層	12.6	3.5	6.8	①	灰白	灰白	畳付胎露胎→黒塗	31	46
409	中国	白磁皿	C	II	R63	焼土	11.4	2.7	6.6	①	灰白	灰白		31	46
410	中国	白磁皿	C	II	R59	SD1572	7.0	2.2	2.8	①	灰白	灰白	見込蛇の目釉剥ぎ	31	46
411	中国	白磁杯	C	II	T60他	焼土、床土	6.4	4.3	2.8	①	灰白	灰白	高台内に墨書・朱書	31	46
412	中国	染付碗	C	II	L56、P58、R60-61	炭層、SD1574他	11.6	6.3	4.2	①	明緑灰	明緑灰	E群	31	46
413	中国	染付碗	C	II	R60	SD1572	13.4	-	-	①	明緑灰	明緑灰	B群	31	46
414	中国	染付皿	C	II	P～U64-65、S60	粘土、焼土、床土	13.8	3.3	7.6	①	灰白	灰白	B1群	31	46
415	中国	染付皿	C	II	R61	炭層	8.9	2.5	4.0	①	明緑灰	明緑灰	B1群	31	46
416	中国	染付皿	C	II	Q62、S61	有機質土、SD1735	6.6	2.2	4.4	①	灰白	灰白	B1群	31	46
417	中国	染付皿	C	II	Q61、U58	SD1574	11.8	2.5	6.2	①	明緑灰	明緑灰	B1群 漆継痕	31	46
418	中国	染付皿	C	II	T63、U62、A65	焼土、炭層他	10.9	2.7	7.0	①	明緑灰	明緑灰	E群	31	46
419	中国	染付皿	C	II	S61	SD1735	13.0	3.8	5.6	①	明緑灰	灰白	C群	31	46
420	中国	染付皿	C	II	R60	炭層	-	-	7.0	①	明緑灰	明緑灰	C群	31	46
421	中国	染付皿	C	II	Q61・62	炭層	-	-	4.6	①	灰白	灰白	C群	31	46
422	中国	染付皿	C	II	R59	SD1572	-	-	3.8	①	明緑灰	明緑灰	C群	31	46
423	中国	黒褐釉茶入	C	II	T59	SD1572	3.4	-	-	①	黒	黒		31	46
424	朝鮮	白磁皿	C	II	O56、Q・A61他	粘土、SD1574他	-	-	4.8	①	明緑灰	明緑灰	見込・畳付に目跡各4	31	46
485	越前	中甕	D	I	U52他	焼土、床土	40.6	-	-	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヘラ記号	36	51
486	越前	大甕	D	I	A51	SD1590	-	-	-	④	褐灰	黄灰	皿群b 押印	36	51
487	越前	大甕	D	I	O55、P54	焼土	-	-	-	④	黒褐	黒褐	皿群a	36	51
488	越前	短頸甕	D	I	R51・52	焼土	20.3	-	-	②③	灰褐	灰黄褐	突帯付	36	51
489	越前	短頸甕	D	I	O51、Q53	SA1618他	20.3	-	-	②③	明赤褐	橙	突帯付	36	51
490	越前	罎鉢	D	I	R56-58、Q57-58他	SD1574、焼土他	33.6	12.0	17.0	②④	灰黄褐	灰褐	IV群 罎目10	36	51
491	土師質	皿	D	I	T58	SD1574	6.2	2.1	3.2	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	B類 タール痕	36	51
492	土師質	皿	D	I	Q53	SF1612	6.7	1.9	3.8	①	にぶい橙	にぶい橙	B類 布目	36	-
493	土師質	皿	D	I	Q53	SF1612	6.8	1.7	4.4	①	にぶい橙	にぶい橙	B類 布目 タール痕	36	-
494	土師質	皿	D	I	I52	焼土	5.7	1.3	2.8	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	36	51
495	土師質	皿	D	I	U58	SD1574	5.8	1.2	3.2	①	浅黄橙	浅黄橙	C類	36	51
496	土師質	皿	D	I	S58	SD1574	5.9	1.3	3.0	①	淡橙	橙	A類 タール痕	36	51
497	土師質	皿	D	I	R59	SD1574	8.9	2.3	4.1	①	橙	橙	C類 タール痕	36	51
498	土師質	皿	D	I	U58	SD1574	8.6	2.1	4.8	①	にぶい橙	にぶい橙	C類	36	51
499	土師質	皿	D	I	Q53	SF1612	8.4	2.1	4.6	①	灰黄褐	褐灰	C類 タール痕	36	51
500	土師質	皿	D	I	Q53	SF1612	8.7	1.9	4.1	①	にぶい橙	灰褐	C類 タール痕	36	-
501	土師質	皿	D	I	Q53	SF1612	9.0	2.3	4.7	①	にぶい橙	にぶい橙	C類 タール痕	36	51
502	土師質	皿	D	I	P53	黄土	9.2	2.3	5.0	①	にぶい橙	にぶい橙	C類 タール痕	36	51
503	土師質	皿	D	I	T58	SD1574	9.5	2.1	5.2	③	浅黄橙	浅黄橙	D類 タール痕	36	51
504	土師質	皿	D	I	K56	焼土	9.0	2.0	5.0	①	にぶい橙	にぶい橙	D類 タール痕	36	-
505	土師質	皿	D	I	Q53	SF1612	9.2	1.9	4.9	①	明褐灰	明褐灰	D類 タール痕	36	51
506	土師質	皿	D	I	P53	黄土	9.0	2.1	4.4	①	橙	にぶい橙	D類 タール痕	36	51
507	土師質	皿	D	I	K52	黄土	10.4	2.4	6.0	①	橙	橙	D類 タール痕	36	-
508	土師質	皿	D	I	J55	-	10.4	2.2	5.6	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	D類 タール痕	36	-
509	土師質	皿	D	I	T57	SX1675	13.0	2.7	7.0	①	明褐灰	明褐灰	D類	36	51
510	土師質	皿	D	I	R58	SD1574	5.7	1.4	4.7	①	にぶい橙	にぶい橙	G類	36	51
511	土師質	土釜	D	I	T57	SX1675	7.5	-	-	①	にぶい橙	にぶい橙		36	51
512	土師質	土鈴	D	I	A53	SD1590	径30	3.2	-	①	灰白	灰白	珠遺存	36	51
513	瀬戸・美濃	天目茶碗	D	I	T57	SX1675	11.0	5.9	4.2	①	黒褐	黒褐	大窯1	37	52
514	瀬戸・美濃	天目茶碗	D	I	K55・56	炭層、黄土	11.5	6.9	4.2	①	黒褐	黒褐	大窯1	37	52
515	瀬戸・美濃	鉄釉壺	D	I	U56他	黄土、床土、表採	-	-	8.0	①	黒	黒	糸切り痕	37	52
516	瀬戸・美濃	鉄釉徳利	D	I	S58、T58他	SD1574、床土	-	-	9.2	①	黒褐	黒褐		37	52
517	瀬戸・美濃	鉄釉茶入	D	I	S57、T58、A55	SD1574・1590他	6.1	6.1	4.8	①	黒	暗灰		37	52
518	瀬戸・美濃	鉄釉茶入	D	I	K53	SD1586	-	-	4.4	①	黒褐	暗褐	糸切り痕	37	52
519	瀬戸・美濃	灰釉丸碗	D	I	J50・52	炭層、ガラ石中	11.0	6.7	5.6	①	オリブ	オリブ黄	大窯1 輪ドチ跡	37	52
520	瀬戸・美濃	灰釉端反皿	D	I	P51	SD1582	8.6	2.5	4.9	①	浅黄	浅黄	大窯1 印花文 輪ドチ跡	37	52
521	瀬戸・美濃	灰釉丸皿	D	I	J53	SD1586	4.6	1.1	3.0	①	灰白	灰白	大窯2 印花文	37	52
522	瀬戸・美濃	灰釉蓋	D	I	T57	SX1675	2.7	1.5	4.0	①	にぶい黄	灰黄	つまみ頂部・内面露胎	37	52
523	瀬戸・美濃	無釉香炉	D	I	S58	SD1574	8.8	5.4	6.9	①	黒褐	灰	大窯3 須恵質	37	52
524	瀬戸・美濃	無釉香炉	D	I	R52	焼土	6.0	4.1	4.5	①	褐灰	黄灰	大窯3 須恵質	37	52
525	瓦質	香炉	D	I	U55	SD1578	7.4	5.2	6.1	①	黒	黒	菊花スタンプ文	37	52
526	中国	青磁碗	D	I	P54、Q53	焼土	13.2	5.6	5.7	①	灰白	灰白	漆継痕	37	52
527	中国	青磁碗	D	I	J55、U52	SD1585	7.0	4.0	3.3	①	オリブ灰	オリブ灰	高台以内は露胎で畳付着	37	52
528	中国	青磁皿	D	I	S56他	焼土、床土	13.4	4.0	7.8	①	オリブ灰	オリブ灰		37	52
529	中国	青磁皿	D	I	P54	-	11.2	3.1	5.0	①	オリブ灰	灰オリブ	見込に界線・印花文	37	52
530	中国	青磁香炉	D	I	A53	SD1590	12.6	-	-	①	緑灰	緑灰	袴腰香炉	37	52
531	中国	青磁鉢	D	I	P51	ガラ石中	22.6	-	-	①	オリブ灰	オリブ灰	漆継痕	37	52
532	中国	青磁花瓶	D	I	S・U53他	焼土、床土	9.5	26.4	8.7	①	オリブ灰	オリブ灰	鉢形 甕耳 畳付露胎	37	52
533	中国	青白磁皿	D	I	T52	焼土	7.2	2.1	4.3	①	明緑灰	明緑灰	平面楕円 口縁菊皿状	37	52
534	中国	白磁皿	D	I	R51	焼土	15.0	2.8	8.0	①	灰白	灰白	胴下部菊花様 漆継痕	37	52
535	中国	白磁皿	D	I	R52、S51、T51	SB1559焼土	14.8	2.9	7.9	①	灰白	灰白	胴下部菊花様	37	52
536	中国	白磁皿	D	I	Q・R・S・T51他	焼土	15.4	3.1	7.6	①	灰白	灰白	胴下部菊花様	37	52
537	中国	白磁皿	D	I	R58・59	SD1574	11.4	2.6	6.2	①	灰白	灰白		37	52
538	中国	白磁皿	D	I	R51	焼土	9.1	2.0	4.8	②	灰白	灰白		37	52
539	中国	白磁皿	D	I	R51・52、S51	焼土	11.2	3.2	5.8	①	灰白	灰白		37	52

No.	種類		区画	面	地区	層/濃構	法量(cm)			胎土	色調		備考	図	PL
	大別	器種					口径	器高	底径		外面	内面			
540	中国	白磁皿	D	I	L54	SD1660	8.4	2.7	3.2	①	灰白	灰白		37	52
541	中国	白磁皿	D	I	K53	SX1697カ	-	-	4.2	①	灰白	灰白	高台内朱書	37	52
542	中国	白磁坏	D	I	S58・59	SD1574、SS1565	6.4	-	-	①	灰白	灰白		37	52
543	中国	白磁坏	D	I	J51	黄土	-	-	2.0	①	灰白	灰白	見込蛇の目軸剥ぎ	37	52
544	中国	白磁坏	D	I	Q・R57・58	-	-	-	2.5	①	灰白	灰白	見込蛇の目軸剥ぎ	37	52
545	中国	染付碗	D	I	U55	SD1578	12.1	5.5	5.0	①	灰白	明緑灰	C群	38	53
546	中国	染付碗	D	I	R59、U58他	SD501、SD1574他	11.6	6.2	4.0	①	明緑灰	明緑灰	E群	38	53
547	中国	染付皿	D	I	M69、R58	SD1574他	14.2	3.8	7.8	①	灰白	灰白	B1群	38	53
548	中国	染付皿	D	I	Q53	焼土	-	-	6.6	①	灰白	明緑灰	B1群	38	53
549	中国	染付皿	D	I	S56、T57	SX1675、焼土	8.8	2.2	5.0	①	灰白	灰白	B1群	38	53
550	中国	染付皿	D	I	U54、S59	焼土他	-	-	3.4	①	浅黄	浅黄	C群 華南系	38	53
551	中国	染付坏	D	I	Q53	SA1618	6.5	3.7	2.4	①	灰白	灰白	見込蛇の目軸剥ぎ	38	53
552	朝鮮	雑釉碗	D	I	U56、A・B52~55	SS493、SD1590他	15.4	5.1	4.7	①	オリブ灰	オリブ灰	畳付に目跡8	38	53
553	朝鮮	雑釉碗	D	I	L54、Q・A51	SD1590・1584	-	-	5.2	①	黒褐	黒褐	見込に目跡7、畳付に8	38	53
554	朝鮮	青磁水注	D	I	A・B52~55他	SD1590、SS493他	-	-	4.9	①	明オリブ灰	明緑灰	象嵌雨滴文 底面粘土塊付着	38	53
555	不明	雑釉碗	D	I	R58	SD1574	-	-	5.6	②	灰	灰オリブ		38	53
576	越前	大甕	D	II	S55・59、A56他	SD1574、SS493他	68.0	-	-	④	褐灰	暗赤褐	IV群 a ヘラ記号 押印	39	55
577	越前	大甕	D	II	M51	SK1628	-	-	-	②	赤褐	灰赤	IV群 c 押印	40	55
578	越前	大甕	D	II	R50、S53	SD1580、焼土	-	-	-	④	褐灰	灰黄褐	III群 a	40	55
579	越前	大甕	D	II	N54	SB1560	-	-	-	③	灰黄	褐	III群 a	40	55
580	越前	小壺	D	II	T54	焼土	4.8	11.2	8.2	①③	黒褐	暗褐	IV群 ヘラ記号	40	55
581	越前	播鉢	D	II	T53		33.6	11.4	15.4	②③	橙	にふい橙	IV群 播目11	40	55
582	越前	播鉢	D	II	R57	粘土	33.4	10.7	15.3	①③	にふい橙	にふい橙	IV群 播目8 漆継痕	40	55
583	越前	播鉢	D	II	Q51	黄土	34.6	10.3	15.2	②④	にふい橙	にふい黄橙	IV群 播目11	40	55
584	越前	鉢	D	II	R57、A59	炭層、SD501	26.7	8.5	13.0	②③	にふい橙	黄褐	同心 弧文	40	55
585	越前	播鉢	D	II	S52	焼土	41.6	14.2	17.6	①③	にふい赤褐	黒褐	IV群 播目10	41	55
586	土師質	皿	D	II	R54	SX1829	6.7	1.2	3.8	①	浅黄橙	にふい黄橙	G類 タール痕	41	56
587	土師質	皿	D	II	L51	SK1627	6.5	2.1	3.3	①	にふい橙	にふい橙	B類 タール痕	41	56
588	土師質	皿	D	II	L51	SK1627	6.9	1.8	4.4	①	黒	黒	B類 タール痕	41	56
589	土師質	皿	D	II	K52	SD1584	6.8	1.6	3.4	①	明褐灰	褐灰	C類	41	56
590	土師質	皿	D	II	S51	SK1764	8.1	1.9	4.6	①	浅黄橙	灰白	C類 タール痕	41	56
591	土師質	皿	D	II	S51	SK1764	8.7	2.1	4.1	①	にふい橙	にふい橙	C類 タール痕	41	56
592	土師質	皿	D	II	L54	SD1584	9.0	2.0	4.7	①	にふい橙	にふい赤褐	C類 タール痕	41	56
593	土師質	皿	D	II	L51	SK1627	8.7	2.0	4.7	①	灰白	灰白	C類 タール痕	41	56
594	土師質	皿	D	II	L51	SK1627	8.7	2.2	3.9	①	にふい黄橙	にふい黄橙	C類 タール痕	41	56
595	土師質	皿	D	II	L51	SK1627	9.5	2.2	5.4	①	浅黄橙	にふい黄橙	D類	41	56
596	土師質	皿	D	II	L51	SK1627	10.0	2.2	5.6	①	にふい黄橙	灰黄褐	D類 タール痕	41	56
597	土師質	皿	D	II	S51	SK1764	10.1	2.3	5.8	①	にふい橙	にふい橙	D類 見込凹線	41	56
598	土師質	皿	D	II	L54	SD1584	10.6	2.4	5.0	①	にふい橙	にふい橙	D類	41	56
599	土師質	皿	D	II	T58	SD1574	12.6	1.7	4.0	①	灰白	灰白	D類 墨書「かへ」	41	56
600	土師質	皿	D	II	L53	粘土	12.7	1.9	3.5	①	にふい橙	にふい橙	D類 墨書「御大」 板ナデ	41	56
601	土師質	皿	D	II	T54	焼土	7.3	1.5	2.6	①	にふい褐	にふい褐	B類 線刻「大日山□」	41	56
602	土師質	皿	D	I	R59	SD1574	9.2	2.3	3.0	①	浅黄橙	浅黄橙	C類 口縁折りタール痕 底部穿孔	41	56
603	土師質	耳皿	D	II	R58	炭層	2.7	1.6	3.4	①	灰白	灰白	H類	41	56
604	土師質	土釜	D	II	J51	SS1567	6.8	5.5	4.6	①	にふい褐	にふい褐	羽部以下煤付着	41	56
605	土師質	土釜	D	II	K56	SX1695	8.8	6.8	4.4	①	にふい黄橙	にふい黄橙	羽部以下煤付着	41	56
606	土師質	小壺	D	II	R51	焼土	2.2	3.0	0.6	①	灰白	灰白		41	56
607	土師質	土鈴	D	II	L55	SD1584	径3.4	3.5	-	①	灰白	灰白	珠遺存 放射状の墨線	41	56
608	土師質	円盤	D	II	S56	焼土	径5.2	厚0.5	-	①	にふい黄橙	にふい黄橙	皿D類の底部を加工	41	56
609	瀬戸・美濃	天目茶碗	D	II	S51	黄土	11.8	6.5	4.2	①	黒褐	黒褐	大窯1	41	56
610	瀬戸・美濃	天目茶碗	D	II	O50、P52	焼土、粘土	11.8	6.5	4.0	①	黒褐	黒褐	大窯2	41	56
611	瀬戸・美濃	天目茶碗	D	II	U56・57	SA1752カ	11.6	6.1	3.9	①	褐	褐	大窯2	41	56
612	瀬戸・美濃	天目茶碗	D	II	U58	SD1574	12.2	6.9	4.2	①	にふい黄橙	にふい黄橙	大窯2 黄瀬戸釉	41	56
613	瀬戸・美濃	天目茶碗	D	II	R58、T58他	SD1574、床土他	8.4	4.6	3.0	①	褐	褐	古瀬戸後IV新	41	56
614	瀬戸・美濃	鉄釉丸皿	D	II	K52	SD1584	10.2	2.6	4.6	①	褐	褐	大窯2	41	56
615	瀬戸・美濃	鉄釉坏	D	II	U58	SD1574	5.6	-	-	①	暗褐	黒褐	鳥飼皿カ	41	56
616	瀬戸・美濃	鉄釉水注	D	II	T56	焼土	2.6	3.7	3.6	①	黒	黒	糸切り痕	41	56
617	瀬戸・美濃	鉄釉水滴	D	II	R53	焼土	2.6	2.0	3.4	①	にふい褐	にふい褐	糸切り痕	41	56
618	瀬戸・美濃	鉄釉丸碗	D	II	R56	焼土	11.6	-	-	①	浅黄	浅黄	大窯1	42	57
619	瀬戸・美濃	鉄釉丸碗	D	II	R52	黄土	11.6	-	-	①	淡黄	浅黄	大窯1	42	57
620	瀬戸・美濃	鉄釉端反皿	D	II	Q51	SX1832	12.0	2.9	6.0	①	灰白	淡黄	大窯1 印花文	42	57
621	瀬戸・美濃	鉄釉端反皿	D	II	L54	SD1584	11.4	2.7	6.0	①	灰白	灰白	大窯1 印花文	42	57
622	瀬戸・美濃	鉄釉端反皿	D	II	U58	SD1574	9.0	2.6	4.6	①	浅黄	灰オリブ	大窯1 輪ドチ跡	42	57
623	瀬戸・美濃	鉄釉端反皿	D	II	K54	焼土	8.9	2.2	5.2	①	灰白	灰白	大窯2 輪ドチ跡	42	57
624	瀬戸・美濃	鉄釉端反皿	D	II	J50、M51	SK1628他	16.6	3.6	8.4	①	淡黄	浅黄	大窯1 見込露胎	42	57
625	瀬戸・美濃	鉄釉稜皿	D	II	R56	焼土	9.1	2.6	4.2	①	浅黄	浅黄	大窯2 印花文	42	57
626	瀬戸・美濃	鉄釉丸皿	D	II	U58	SD1574	5.5	1.4	3.0	①	灰白	灰白	大窯2	42	57
627	瀬戸・美濃	鉄釉丸皿	D	II	L54	SD1584	5.4	1.3	2.8	①	灰白	灰白	大窯2	42	57
628	瀬戸・美濃	鉄釉稜花皿	D	II	R57他	粘土、表採	12.2	2.6	5.0	①	浅黄	浅黄	大窯1 印花文 輪ドチ跡	42	57
629	瀬戸・美濃	鉄釉稜花皿	D	II	U56・57	焼土他	12.0	2.7	5.4	①	浅黄	浅黄	大窯1 印花文 輪ドチ跡	42	57
630	瀬戸・美濃	鉄釉稜花皿	D	II	T56	焼土	12.8	2.7	6.2	①	浅黄	浅黄	大窯1 印花文 輪ドチ跡	42	57
631	瓦質	香炉	D	II	I55	黄土	12.9	-	12.2	②	灰	灰	渦状スタンプ文	42	57
632	瓦質	香炉	D	II	R52	-	14.4	-	12.5	②	黒	黒	渦状スタンプ文	42	57
633	瓦質	香炉	D	II	R53	焼土	10.3	4.9	9.0	①	黒	黒	重六角形スタンプ文	42	57
634	中国	青磁碗	D	II	S51	SK1764	10.6	-	-	①	明緑灰	明緑灰	龍泉窯系統B4類	42	58
635	中国	青磁碗	D	II	L54	SD1584	9.7	-	-	①	オリブ黄	灰オリブ	龍泉窯系統B4類	42	58
636	中国	青磁碗	D	II	K51他	SD1584、黄土他	12.2	5.4	5.5	①	灰白	灰白	龍泉窯系統E類	42	57
637	中国	青磁碗	D	II	M51	SK1628	14.8	-	-	①	緑灰	緑灰	龍泉窯系統D類	42	58
638	中国	青磁皿	D	II	S・U58他	SD1574、床土	13.8	3.3	5.8	①	灰オリブ	灰オリブ		42	58
639	中国	青磁皿	D	II	S53、T52	黄土、焼土	12.8	3.3	7.3	①	オリブ灰	オリブ灰	見込胎に重ね焼きの痕跡	42	57

No	種類		区画	面	地区	層/遺構	法量(cm)			胎土	色調		備考	図	PL
	大別	器種					口径	器高	底径		外面	内面			
640	中国	青磁皿	D	II	S51、T・R52他	黄土、焼土、床土	136	3.2	7.2	①	朝刈-灰	朝刈-灰		42	58
641	中国	青磁皿	D	II	Q51、R・S52	焼土、黄土	152	3.2	7.4	①	朝刈-灰	朝刈-灰		42	57
642	中国	青磁皿	D	II	R52、S・T51他	黄土、焼土、表探	9.8	3.0	4.4	①	淡黄	浅黄		42	57
643	中国	青磁皿	D	II	R52	黄土、焼土	10.1	3.2	4.8	①	灰白	浅黄		42	57
644	中国	青磁皿	D	II	R52・58、T70	黄土、SD1574他	9.8	3.2	4.3	①	淡黄	淡黄		42	57
645	中国	白磁碗	D	II	J56	粘土	12.0	-	-	①	灰白	灰白	漆継痕	42	58
646	中国	白磁皿	D	II	R52、S51	SK1764、黄土他	9.6	2.0	4.4	①	灰白	灰白		42	58
647	中国	白磁皿	D	II	S51	SK1764	9.3	1.9	4.4	①	灰白	灰白		42	58
648	中国	白磁皿	D	II	R52、S51	黄土、焼土	9.0	1.8	4.4	①	灰白	灰白		42	58
649	中国	白磁皿	D	II	M51	焼土、SK1628	8.8	1.9	4.4	①	灰白	灰白	見込蛇の目釉剥ぎ	42	58
650	中国	白磁皿	D	II	Q51、R52、P50	黄土、SX1832	11.2	3.1	6.4	①	灰白	灰白		42	58
651	中国	白磁皿	D	II	R52	黄土	17.3	3.2	10.0	①	灰白	灰白	内面に型押し浮文(唐草文)	43	58
652	中国	白磁皿	D	II	S51	SK1764	13.0	-	-	①	灰白	灰白		43	58
653	中国	白磁皿	D	II	Q・S51	黄土、SK1764	11.4	3.0	6.2	①	灰白	灰白		43	58
654	中国	白磁皿	D	II	R58	SD1574	12.2	2.6	6.4	①	灰白	灰白	漆継痕	43	58
655	中国	白磁皿	D	II	R51・52、S51	黄土、SK1764他	15.3	2.9	8.0	①	灰白	灰白	胴下部菊花状	43	58
656	中国	白磁杯	D	II	M51	SK1628	7.6	-	-	①	灰白	灰白		43	58
657	中国	白磁杯	D	II	R58	粘土	6.5	3.1	2.3	①	灰白	灰白	見込蛇の目釉剥ぎ	43	58
658	中国	白磁杯	D	II	M51	SK1628	-	-	3.1	①	灰白	灰白		43	58
659	中国	染付碗	D	II	U58	SD1574	15.4	6.2	5.8	①	明緑灰	明緑灰	C群	43	59
660	中国	染付碗	D	II	S51	SK1764	13.6	6.8	4.0	①	明緑灰	明緑灰	C群	43	59
661	中国	染付碗	D	II	S51	SK1764	16.0	5.9	5.5	①	明緑灰	灰白	C群	43	58
662	中国	染付碗	D	II	R58	SD1574	13.0	4.8	4.8	①	明緑灰	明緑	C群	43	59
663	中国	染付皿	D	II	Q57、S58他	SD1574他	9.1	2.2	5.0	①	灰白	灰白	B1群	43	58
664	中国	染付皿	D	II	R51・52、S51	SK1764他	9.4	2.4	2.0	①	灰白	灰白	C群	43	58
665	中国	染付皿	D	II	Q・S51、R50・52	SK1764他	9.9	2.7	3.6	①	明緑灰	明緑灰	C群	43	58
666	中国	染付皿	D	II	R52、S51	SK1764、黄土他	10.3	3.0	3.2	①	明緑灰	明緑灰	C群	43	59
667	中国	染付皿	D	II	S51	SK1764他	10.0	2.9	2.7	①	明緑灰	明緑灰	C群	43	59
668	中国	染付皿	D	II	Q・S51、R51・52	SK1764他	9.5	3.0	3.0	①	明緑灰	明緑灰	C群	43	58
669	中国	染付皿	D	II	R52、S51	SK1764、黄土	10.1	3.0	2.8	①	明緑灰	明緑灰	C群	43	59
670	中国	染付皿	D	II	R51・52、S50・51他	SK1764他	10.0	3.0	2.9	①	灰白	灰白	C群	43	58
671	中国	染付皿	D	II	R52、S51・66他	SK1764、黄土他	10.4	2.6	3.1	①	淡黄	淡黄	C群	43	59
672	朝鮮	雑釉鉢	D	II	T・R53	焼土	23.0	6.8	11.9	①	褐灰	褐灰		44	59
673	朝鮮	雑釉鉢	D	II	Q51	SX1832	23.3	-	-	①	灰	灰		44	59
711	土師質	皿	E	I	I51	SF1617	6.5	1.5	3.1	①	明濁灰	明濁灰	C類 タール痕	47	61
712	土師質	皿	E	I	I51	SF1617	6.9	1.5	3.2	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類	47	61
713	土師質	皿	E	I	I51	SF1617	6.7	1.5	3.2	①	明濁灰	明濁灰	C類	47	61
714	土師質	皿	E	I	I51	SF1617	6.8	1.5	3.6	①	灰白	灰白	C類	47	61
715	土師質	皿	E	I	I51	SF1617	7.6	1.8	3.4	①	にぶい橙	にぶい橙	C類 タール痕	47	61
716	土師質	皿	E	I	I51	SF1617	8.6	2.0	4.5	①	にぶい橙	にぶい橙	C類 タール痕	47	61
717	土師質	皿	E	I	I51	SF1617	8.7	1.8	5.0	①	灰白	灰白	C類 タール痕	47	61
718	土師質	皿	E	I	I51	SF1617	9.3	2.0	4.4	①	にぶい橙	にぶい橙	C類 タール痕	47	61
719	土師質	皿	E	I	I51	SF1617	9.0	1.9	4.3	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	47	61
720	土師質	皿	E	I	I51	SF1617	9.0	1.8	4.9	①	灰白	灰白	C類 タール痕	47	61
721	土師質	皿	E	I	I51	SF1617	9.3	2.1	5.0	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	47	61
722	土師質	皿	E	I	I51	SF1617	8.8	2.0	4.6	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	47	61
723	土師質	皿	E	I	I51	SF1617	9.1	1.6	4.6	①	灰白	灰白	C類 タール痕	47	61
724	土師質	皿	E	I	I51	SF1617	9.2	1.8	5.0	①	灰白	灰白	C類 タール痕	47	61
725	土師質	皿	E	I	I51	SF1617	9.9	2.0	4.0	①	灰白	灰白	C類 タール痕	47	61
726	土師質	皿	E	I	I51	SF1617	9.1	2.1	4.4	①	灰白	灰白	C類 タール痕	47	61
727	土師質	皿	E	I	I51	SF1617	9.9	2.1	4.4	①	にぶい黄橙	浅黄橙	D類	47	61
728	中国	青磁皿	E	I	J50	ガラ石中	13.2	3.2	5.2	①	朝刈-灰	朝刈-灰	内面草花文 見込界線・印花	47	61
729	中国	青磁香炉	E	I	T50	SF1613	-	-	-	①	緑灰	朝刈-灰	算木文	47	61
730	中国	白磁皿	E	I	O50	SF1616	-	-	6.0	①	灰白	灰白		47	61
731	中国	染付皿	E	I	O50	焼土	13.6	4.0	8.9	①	明緑灰	明緑灰	B1群	47	61
732	中国	染付皿	E	I	O50	SF1616	14.2	-	-	①	灰白	灰白	B1群	47	61
733	中国	染付皿	E	I	O50	SF1616	14.0	3.2	7.3	①	灰白	灰白	B2群	47	61
742	瀬戸・美濃	天目茶碗	E	II	R・S49	焼土	12.4	6.1	3.7	①	黒褐	黒褐	大窯2	48	62
743	瀬戸・美濃	灰釉端反皿	E	II	R49	焼土	11.6	2.9	5.8	①	灰白	淡黄	大窯1 印花 輪ドチ跡	48	62
744	瀬戸・美濃	灰釉端反皿	E	II	S49	焼土	11.0	2.7	6.4	①	灰白	灰白	大窯1 輪ドチ跡	48	62
745	中国	白磁皿	E	II	R・S49	焼土	9.2	2.2	3.5	①	灰白	灰白	高台弧状抉り4箇所	48	62
746	朝鮮	白磁碗	E	II	R49	焼土	14.3	-	-	②	明緑灰	明緑灰		48	62
749	越前	大甕	B/C/D	I	Q59	SS1565	-	-	-	③	暗褐	暗赤褐	皿群b	49	63
750	越前	壺	B/D	I	N56・57	SD1574、焼土	16.4	-	-	③	黄灰	褐灰		49	63
751	越前	瓶	B/D	I	O56	SD1574	3.8	-	-	①②	灰白	褐灰		49	63
752	土師質	皿	C/D	I	U58	SD501	6.1	1.6	2.8	①	橙	黒	B類 全体に煤け	49	63
753	土師質	皿	B/D	I	O56	SD1574	5.9	1.6	2.5	①	灰白	灰白	C類	49	63
754	土師質	皿	C/D	I	U58	SD501	7.2	2.0	3.0	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	49	63
755	土師質	皿	B/D	I	K57	SD1574	8.4	2.0	4.5	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	49	63
756	土師質	皿	B/D	I	M57	SD1574	8.5	2.2	4.0	①	にぶい橙	にぶい橙	C類 タール痕	49	63
757	土師質	皿	C/D	I	U58	SD501	8.5	1.8	4.2	①	浅黄橙	浅黄橙	C類 タール痕	49	63
758	土師質	皿	C/D	I	U58	SD501	8.9	2.5	4.4	①	にぶい橙	にぶい橙	C類 タール痕	49	63
759	土師質	皿	C/D	I	U58	SD501	10.5	2.8	5.4	①	にぶい橙	にぶい橙	D類 タール痕	49	63
760	土師質	皿	C/D	I	U58	SD501	10.3	2.4	5.6	①	にぶい橙	にぶい橙	D類 タール痕	49	63
761	土師質	土釜	B/D	I	K57	SD1574	6.6	-	-	①	浅黄橙	浅黄橙	羽部上面に刻み列	49	63
762	土師質	土釜	C/D	I	U58	SD501	11.0	-	-	①	にぶい橙	にぶい橙	羽部以下に煤け	49	63
763	土師質	灯芯押え	D	I	P53	石垣	径30	厚0.5	-	①	にぶい橙	にぶい橙		49	63
764	土師質	土鉢	B/D	I	L57	SD1574	径2.8	長7.6	-	②	橙	橙	孔径0.7cm	49	63
765	土師質	土鉢	B/D	I	J57	SD1574	径2.8	長7.9	-	②	橙	橙	孔径0.8cm	49	63
766	土師質	土鉢	B/D	I	L57	SD1574	径2.6	-	-	②	橙	橙	孔径0.8cm 両端欠	49	63
767	瀬戸・美濃	黄瀬戸平碗	B/D	I	M56	SD1574	12.9	3.7	4.3	①	灰白	灰白	大窯2	49	63

No.	種類		区画	面	地区	層/遺構	法量(cm)			胎土	色調		備考	図	PL		
	大別	器種					口径				器高	底径				外面	内面
							口径	口径	口径								
768	瀬戸・美濃	鉄釉丸皿	B/D	I	K57	SD1574	11.0	2.2	6.4	①	黒褐	黒褐	大窯2 トチン・輪ドチ跡	49	63		
769	瀬戸・美濃	灰釉丸皿	B/D	I	Q57	SD1574	8.2	1.9	4.4	①	浅黄	浅黄	大窯2 印花	49	63		
770	瀬戸・美濃	緑釉皿	B/D	I	U59・69	SD1572、1695	-	-	6.0	②	灰白	青オリブ灰	印花 輪ドチ跡	49	63		
771	瀬戸・美濃	灰釉仏花瓶	B/D	I	M56	SD1574	-	-	5.5	②	浅黄	灰黄褐	糸切り痕	49	63		
772	瀬戸・美濃	無釉香炉	-	I	B54	SD1591	7.8	6.8	6.9	①	灰	灰	大窯3 須恵質	49	63		
773	備前	瓶	B/D	I	K59、L57	SD1574	-	-	5.5	①③	黒褐	暗灰		49	63		
774	中国	青磁皿	B/D	I	K・L57	SD1574	11.6	3.0	5.1	①	オリブ灰	オリブ灰	内面波状文 蛇の目軸剥ぎ	49	63		
775	中国	青磁皿	C/D	I	A58	SD501	-	-	5.2	①	明オリブ灰	明オリブ灰		49	64		
776	中国	青磁香炉	A/B	I	P73、R69、O66・67他	SS1564、粘土他	-	-	11.8	①	緑灰	オリブ灰	筒形	49	64		
777	中国	白磁碗	B/C	I	P60	SD1572	13.8	5.9	5.5	①	灰白	灰白	型押し 貫入多	49	64		
778	中国	白磁皿	B/D	I	Q57	SD1574	10.8	2.8	5.6	①	オリブ黒	黄灰		49	64		
779	中国	白磁皿	-	I	B54他	SS493、床土	9.8	2.2	3.2	①	灰白	灰白	外面胴下部露胎	49	64		
780	中国	白磁環	B/D	I	P56	SD1574	6.4	4.0	3.0	①	灰白	灰白	見込蛇の目軸剥ぎ	49	64		
781	中国	白磁壺	B/C	I	P62、T68・69	焼土他	-	-	-	①	灰白	灰白	水差カ 型押し 草花風文様	49	64		
782	中国	青磁盤	B/D	I	N55、O57、Q56・58他	SD1574・1583他	29.7	6.0	17.2	①	オリブ灰	オリブ灰	牡丹文 高台脚貼付 漆継痕	50	64		
783	中国	染付碗	B/D	I	N56	SD1574	14.5	-	-	①	灰白	灰白		50	64		
784	中国	染付皿	B/D	I	P56、Q57・58、T59	SD1572・1574他	8.0	3.2	7.6	①	灰白	灰白	B1群	50	64		
785	中国	染付皿	B/C	I	P61・62他	SD1572、床土	12.6	3.2	7.4	①	灰白	灰白	B1群	50	64		
786	中国	染付皿	B/D	I	O56	SD1574	10.5	3.1	4.7	①	灰白	灰白	C群 華南系	50	64		
787	中国	染付皿	A/B	I	T64・70、U64	SX1788、焼土他	12.2	-	-	①	明緑灰	明緑灰	C群	50	64		
788	朝鮮	鉢	B/D	I	O56・58他	SD1574・1576、床土	28.2	-	-	①	褐灰	灰	口縁肥厚	50	64		
789	朝鮮	鉢	B/D	I	M57	SD1574	31.4	-	-	①	黒褐	褐灰	口縁肥厚	50	64		
790	朝鮮	徳利	B/D	I	J57	SD1574	6.2	-	-	①	黒褐	黒褐	舟徳利	50	64		
791	須恵質	鉢	C/D	I	U68、A51	SD1590・SD501	11.0	-	-	①	灰オリブ	黄褐	鉄鉢形 胴部に沈線1条	50	64		
799	越前	大甕	D	II	O51、Q53	焼土、茶褐色整地層	-	-	-	③	灰黄	灰黄褐	IV群c 押印	51	65		
800	越前	鉢	B/D	II	Q56	SD1574	15.6	6.4	11.3	②③	にぶい赤褐	にぶい褐		51	65		
801	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	4.2	1.2	3.4	①	浅黄橙	浅黄橙	G類	51	65		
802	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	5.1	1.3	2.8	①	灰白	灰白	G類	51	65		
803	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	5.7	1.4	3.4	①	浅黄橙	浅黄橙	C類 タール痕	51	65		
804	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	6.3	1.5	3.7	①	浅黄橙	浅黄橙	C類	51	65		
805	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	6.6	1.5	3.4	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	51	65		
806	土師質	皿	B/C	II	P61	SD1572	6.8	1.5	3.6	①	明褐灰	明褐灰	C類 タール痕	51	65		
807	土師質	皿	B/C	II	P61	SD1572	6.6	1.8	2.0	①	灰白	灰白	B類	51	65		
808	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	6.8	1.5	4.6	①	灰白	灰白	B類	51	65		
809	土師質	皿	B/C	II	P61	SD1572	7.1	1.6	3.0	①	浅黄橙	浅黄橙	C類 タール痕	51	65		
810	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	7.0	1.7	4.1	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	51	65		
811	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	6.6	1.7	3.9	①	にぶい橙	にぶい橙	C類	51	65		
812	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	8.1	2.0	5.0	①	浅黄橙	浅黄橙	C類 タール痕	51	65		
813	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	8.4	1.8	4.9	①	浅黄橙	浅黄橙	C類	51	65		
814	土師質	皿	B/C	II	P61	SD1572	8.6	2.0	4.4	①	灰白	灰白	C類 タール痕	51	65		
815	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	8.6	2.2	4.7	①	浅黄橙	浅黄橙	C類	51	65		
816	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	8.7	2.1	5.2	①	灰白	灰白	C類 タール痕	51	65		
817	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	9.1	2.5	4.2	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類 タール痕	51	65		
818	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	9.7	2.0	6.4	①	灰白	灰白	C類	51	65		
819	土師質	皿	B/C	II	P61	SD1572	9.2	1.9	5.0	①	明褐灰	明褐灰	D類 タール痕	51	65		
820	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	10.2	2.5	5.6	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	D類 圏線 タール痕	51	65		
821	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	10.1	2.0	5.8	①	にぶい橙	にぶい橙	D類 圏線	51	65		
822	土師質	皿	B/C	II	P61	SD1572	10.0	2.3	4.8	①	灰白	灰白	D類 タール痕	51	66		
823	土師質	皿	B/D	II	O56	SD1574	9.0	2.4	4.0	①	浅黄橙	浅黄橙	板ナデ 底部穿孔	51	66		
824	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	9.1	1.6	4.2	①	灰白	灰白	C類 内面墨書「妙久」	51	66		
825	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	6.4	1.4	3.0	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	C類 外面墨書「大」	51	66		
826	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	6.9	2.0	3.8	①	灰白	灰白	C類 外面墨書「正」	51	66		
827	土師質	皿	-	II	-	-	10.7	2.2	6.0	①	にぶい橙	にぶい橙	D類 内外面墨書「大」	51	66		
828	土師質	小壺	B/D	II	J57	SD1574	2.3	2.3	2.8	①	灰白	灰白		51	66		
829	土師質	土釜	B/D	II	J57	SD1574	10.0	-	-	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	羽部以下煤付着	51	66		
830	土師質	土釜	B/D	II	K57	SD1574	10.0	-	-	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	へラ記号 羽部以下煤付着	51	66		
831	土師質	土釜	B/D	II	P56	SD1574	10.6	-	-	①	にぶい黄橙	にぶい黄橙	羽部以下煤付着	51	66		
832	土師質	埴輪	B/D	II	N57、U58	SD1574・1738	-	-	5.4	①	にぶい黄橙	灰白	底外面にガラス質付着物	51	66		
833	土師質	土錘	-	II	-	-	径1.7	長5.4	-	②	灰白	灰白	孔径0.5cm	51	66		
834	土師質	土錘	B/D	II	K57	SD1574	径2.8	-	-	②	にぶい橙	にぶい橙	孔径0.8cm 片端欠	51	66		
835	土師質	土鈴	B/D	II	O56	SD1574	径3.1	3.4	-	①	灰白	にぶい橙		51	66		
836	土師質	土鈴	B/D	II	O56	SD1574	径2.8	3.6	-	①	灰白	灰白		51	66		
837	土師質	土鈴	B/D	II	Q57	SD1574	径2.7	3.2	-	①	浅黄橙	浅黄橙		51	66		
838	土師質	土鈴	B/D	II	O56	SD1574	径3.1	3.2	-	①	浅黄橙	浅黄橙		51	66		
839	瀬戸・美濃	天目茶碗	B/D	II	R・Q59	SD1574	11.5	6.0	4.4	①	黒褐	黒褐	大窯1	52	66		
840	瀬戸・美濃	天目茶碗	B/D	II	L57、N・O56	SD1574	11.9	6.7	4.6	①	暗褐	暗褐	大窯2	52	66		
841	瀬戸・美濃	天目茶碗	B/D	II	M55、Q56	SD1574他	11.9	6.0	4.2	①	暗褐	暗褐	大窯2	52	66		
842	瀬戸・美濃	天目茶碗	B/D	II	Q57・58	SD1574	11.4	6.3	4.4	①	にぶい褐	にぶい褐	大窯2	52	66		
843	瀬戸・美濃	天目茶碗	B/D	II	P56、Q57	SD1574	11.5	6.8	4.1	①	黒	黒	大窯2	52	66		
844	瀬戸・美濃	天目茶碗	B/D	II	J57	SD1574	9.7	4.3	4.0	①	黒	黒	大窯1	52	66		
845	瀬戸・美濃	鉄釉丸碗	B/D	II	N56	SD1574	9.0	3.4	3.9	①	暗褐	黒褐	大窯2	52	67		
846	瀬戸・美濃	鉄釉丸皿	B/D	II	P56	SD1574	10.6	2.4	4.8	①	褐	褐	大窯2 輪ドチ跡	52	67		
847	瀬戸・美濃	鉄釉丸皿	B/D	II	O56	SD1574	11.2	2.8	5.8	①	黒褐	黒褐	大窯2 トチン・輪ドチ跡	52	67		
848	瀬戸・美濃	鉄釉茶入	B/D	II	N・O56、Q54・57	SD1574、SF1611	5.9	5.8	6.0	①	黒	黒	大窯2・3	52	67		
849	瀬戸・美濃	鉄釉茶入	B/D	II	Q57	SD1574	-	-	4.5	①	暗褐	にぶい黄橙		52	67		
850	瀬戸・美濃	鉄釉水注	B/C	II	P61	SD1572	3.2	4.1	3.2	①	暗褐	暗褐		52	67		
851	瀬戸・美濃	鉄釉水滴	B/D	II	Q56	SD1574	2.5	2.4	3.5	①	暗褐	黒褐	糸切り痕	52	67		
852	瀬戸・美濃	鉄釉仏花瓶	B/D	II	K57	SD1574	4.7	15.5	5.7	①	灰黄褐	灰黄褐	糸切り痕	52	67		
853	瀬戸・美濃	黄瀬戸建水	B/D	II	M66、N57、Q56・57他	SD1574他	9.6	8.2	7.5	①	灰白	灰白		52	67		
854	瀬戸・美濃	黄瀬戸平碗	B/D	II	M66、Q56、R58	SD1574他	12.2	4.2	3.8	①	灰白	灰白	大窯2	52	67		
855	瀬戸・美濃	黄瀬戸平碗	B/D	II	N57、P56、S58	SD1574	12.2	4.3	3.8	①	オリブ	オリブ	大窯2	52	67		

No	種類		区画	面	地区	層/遺構	法量(cm)			胎土	色調		備考	図	PL
	大別	器種					口径	器高	底径		外面	内面			
856	瀬戸・美濃	灰釉丸碗	B/D	II	J 57	SD1574	11.6	-	-	①	浅黄	浅黄	大窯1	52	67
857	瀬戸・美濃	灰釉丸碗	B/D	II	K 57	SD1574	11.6	-	-	①	浅黄	浅黄	大窯1	52	67
858	瀬戸・美濃	灰釉反皿	B/D	II	Q 56	SD1574	9.3	2.2	5.0	①	淡黄	淡黄	口縁に褐色付着物	52	67
859	瀬戸・美濃	灰釉端反皿	B/D	II	P 56、Q 57	SD1574	10.6	2.6	6.0	①	灰白	灰白	大窯1 印花 輪ドチ跡	52	67
860	瀬戸・美濃	灰釉端反皿	B/D	II	J 57	SD1574	11.0	2.5	6.0	①	灰白	灰白	大窯1 印花 輪ドチ跡	52	67
861	瀬戸・美濃	灰釉端反皿	B/D	II	O 56	SD1574	9.1	2.7	4.8	①	淡黄	淡黄	大窯1 印花 輪ドチ跡	52	67
862	瀬戸・美濃	灰釉端反皿	D/E	II	I 51	SS1567	9.0	2.5	4.4	①	浅黄	浅黄	大窯1 輪ドチ跡	52	67
863	瀬戸・美濃	灰釉端反皿	B/D	II	K 57	SD1574	8.6	2.3	4.2	①	浅黄	浅黄	大窯1 輪ドチ跡	52	67
864	瀬戸・美濃	灰釉丸皿	B/D	II	O 56、M66、N 56	SD1570・1574	10.9	2.5	6.4	①	淡黄	灰白	大窯2 内面ソギ 輪ドチ跡	52	67
865	瀬戸・美濃	灰釉丸皿	B/C	II	N 57、S 58	SD1574・1738	11.4	2.6	6.2	①	灰白	浅黄	大窯2 印花 輪ドチ跡	52	67
866	瀬戸・美濃	灰釉丸皿	B/C/D	II	N 57、O 56、S 58、T 59	SD1572・1574	11.3	2.9	4.6	①	灰白	淡黄	大窯2 印花 輪ドチ跡	52	67
867	瀬戸・美濃	灰釉丸皿	B/D	II	K 57	SD1574	11.7	3.0	4.8	①	灰白	灰白	大窯2 印花 輪ドチ跡	52	67
868	瀬戸・美濃	灰釉丸皿	B/D	II	J 57	SD1574	5.9	1.5	3.0	①	灰白	灰白	大窯2 印花 輪ドチ跡	52	67
869	瓦質	香炉	B/D	II	L・N 57、O 56	SD1574・1737・1738	7.8	5.0	6.8	①	黒	黒	渦状スタンプ文	52	68
870	瓦質	香炉	B/D	II	P 56	SD1574	9.5	4.7	8.2	①	黒	黒	円形スタンプ文	52	68
871	瓦質	香炉	B/D	II	N 56、Q 57	SD1574	11.2	-	10.0	①	黒	黒褐	円形スタンプ文	52	68
872	瓦質	香炉	B/C	II	P 63	SD1734	5.4	3.1	3.8	①	黒褐	にぶい黄褐	輪高台	52	68
873	備前	徳利	B/D	II	J・K 57	SD1574	-	-	-	①	黒褐	黄灰	ヘラ記号	53	68
874	中国	青磁碗	B/D	II	J 57	SD1574	10.0	-	-	①	オリ-ブ黄	オリ-ブ黄	龍泉窯系統B 4類	53	68
875	中国	青磁碗	B/D	II	L 57、M66、P 56他	SD1574	12.2	4.7	4.6	①	オリ-ブ灰	オリ-ブ灰	龍泉窯系統E類	53	68
876	中国	青磁皿	B/D	II	J・K・L 57	SD1574	11.8	3.2	5.8	①	灰オリ-ブ	灰オリ-ブ		53	68
877	中国	白磁皿	B/D	II	K・Q 57	SD1574	17.8	3.6	10.2	①	灰白	灰白	畳付周辺墨塗	53	68
878	中国	白磁皿	B/D	II	J 57	SD1574	12.0	3.4	5.4	①	灰白	灰白	碁笥底	53	68
879	中国	白磁皿	B/D	II	K 57	SD1574	9.6	2.6	4.8	①	灰白	灰白		53	68
880	中国	白磁皿	B/D	II	J 57	SD1574	8.6	1.9	5.0	①	灰白	灰白		53	68
881	中国	白磁皿	B/D	II	J 57	SD1574	12.4	2.5	7.0	①	灰白	灰白	底部内外に擦痕	53	68
882	中国	染付碗	B/D	II	Q 56	SD1574	13.8	6.1	4.8	①	明緑灰	明緑灰	D群	53	68
883	中国	染付碗	C/D	II	R 63、T 58	SD1574、焼土	13.8	5.0	4.2	①	明緑灰	明緑灰	C群	53	68
884	中国	染付碗	B/D	II	P 56	SD1574	-	-	4.4	①	灰白	灰白	華南系	53	68
885	中国	染付皿	B/C	II	U 62・A 64	SD501、炭層	9.6	2.7	3.6	①	淡黄	灰白	C群 華南系	53	68
886	朝鮮	雜釉碗	B/D	II	Q 57	SD1574	14.1	-	-	②	灰	灰		53	68
887	朝鮮	白磁碗	B/D	II	Q 59	SD1574	-	-	5.9	①	灰白	灰白	見込・畳付に目跡各4	53	68
910	越前	大甕	-	III	A 56トレンチ	SS493下層	-	-	-	④	褐灰	褐灰	皿群B	55	70
911	土師質	皿	C	III	A 59	SD501	6.3	1.7	3.0	①	浅黄橙	浅黄橙	C類 タール痕	55	70
912	土師質	皿	C	III	A 59	SD501	5.9	1.7	3.0	①	浅黄橙	浅黄橙	C類 タール痕	55	70
913	土師質	皿	B	III	P 59	-	6.2	1.5	3.1	①	浅黄橙	浅黄橙	C類	55	70
914	土師質	皿	B	III	P 59	-	6.7	1.5	3.0	①	灰白	灰白	C類 タール痕	55	70
915	土師質	皿	D	III	Q 59	SD1574	7.3	1.7	3.8	①	灰白	灰白	C類 底部穿孔	55	70
916	土師質	皿	D	III	Q 59	SD1574	7.2	1.9	3.8	①	浅黄橙	にぶい橙	C類 タール痕	55	70
917	土師質	皿	D	III	Q 59	SD1574	7.2	1.7	3.2	①	浅黄橙	にぶい橙	C類 タール痕	55	70
918	土師質	皿	C	III	A 60	SD501	8.6	2.0	4.4	①	灰白	灰白	C類 タール痕	55	70
919	土師質	皿	C/D	III	A 58	SD501	8.7	2.0	4.4	①	にぶい橙	にぶい橙	C類 タール痕	55	70
920	土師質	皿	C/D	III	A 58	SD501	8.6	1.8	4.4	①	にぶい黄褐	にぶい黄褐	C類 タール痕	55	70
921	土師質	皿	D	III	Q 59	SD1574	8.9	1.7	4.6	①	にぶい橙	にぶい橙	C類 タール痕	55	70
922	土師質	皿	D	III	Q 59	SD1574	10.8	2.4	5.4	①	にぶい橙	浅黄橙	D類 タール痕	55	70
923	土師質	皿	C/D	III	A 58	SD501	10.8	2.5	6.0	①	にぶい黄褐	にぶい黄褐	D類 タール痕	55	70
924	土師質	土釜	B/D	III	Q 59	SD1574	9.6	-	-	①	にぶい黄褐	にぶい黄褐	羽部上面線刻 胴部煤付着	55	70
925	瀬戸・美濃	天目茶碗	B	III	P 65	石列粘土層	8.8	4.2	3.4	①	にぶい黄褐	暗褐	大窯1	55	70
926	瀬戸・美濃	鉄釉壺	C	III	A 59	SD501	-	-	11.2	①	黒	にぶい黄褐	大窯	55	70
927	瀬戸・美濃	灰釉端反皿	D	III	S 56	青色整地土	12.0	3.0	5.9	①	浅黄	浅黄	大窯1 輪ドチ跡	55	70
928	中国	青磁碗	C/D	III	A 58、Q 59他	SD501・1574他	13.2	8.1	4.6	②	明黄褐	明黄褐	龍泉窯系B4類	55	70
929	朝鮮	雜釉徳利	D	III	S 55、T・U 53	青色整地土他	6.5	19.8	12.6	①	灰オリ-ブ	黄褐	舟徳利 線刻	55	70
946	越前	短頸甕	-	-	18・28区	床土	14.0	19.4	14.0	①③	黒褐	灰黄褐		56	71
947	越前	壺	-	-	15・16区	床土	10.0	-	-	①②	灰褐	褐灰	片口 ヘラ記号	56	71
948	越前	壺	-	-	18・28区	床土	-	-	6.8	①③	灰黄褐	灰黄褐	底面に線刻	56	71
949	備前	徳利	-	-	-	表採	6.2	-	-	①②	灰黄褐	黄灰		57	72
950	備前	壺	-	II	-	表採	4.3	-	-	①③	灰褐	にぶい褐		57	72
951	中国	青磁皿	-	-	18・28区	床土	13.6	3.7	6.3	①	明緑灰	明緑灰	草花文 「富」銘	57	72
952	中国	白磁碗	-	-	-	床土	13.6	-	-	①	灰白	灰白		57	72
953	中国カ	白磁碗	-	-	19区	床土	12.0	-	-	①	灰白	灰白	近現代カ	57	72
954	中国	白磁碗	-	-	22区	床土	-	-	4.8	①	灰白	灰白	見込蛇の目釉剥ぎ	57	72
955	中国	白磁碗	-	-	9・14区	床土	-	-	4.6	①	灰白	灰白	高台内は弱い兜巾状	57	72
956	中国	白磁皿	-	-	-	床土	11.4	-	-	①	灰白	灰白		57	72
957	中国	白磁皿	-	II	-	表採	9.0	2.0	4.2	①	灰白	灰白		57	72
958	中国	白磁皿	-	-	18・28区	床土	11.2	2.6	6.8	①	灰白	灰白		57	72
959	中国	白磁皿	-	-	25区	床土	9.0	2.0	4.0	①	灰白	灰白	高台弧状挟り 見込に目跡	57	72
960	中国	白磁皿	-	-	24区	床土	-	-	9.4	①	灰白	灰白	高台内「大明年造」銘	57	72
961	中国	染付碗	-	-	-	-	-	-	6.5	①	灰白	明緑灰	梅月文	57	72
962	中国	染付皿	-	-	12区	-	-	-	4.3	①	灰白	明緑灰	B 1群	57	72
963	朝鮮	白磁皿	-	-	18・28区	床土	-	-	4.5	①	明緑灰	明緑灰	見込に目跡4	57	72

表4 金属製品観察表(銭貨を除く)

注1: 274~276、429、678、893の法量については「長」が「口径」、「幅」が「器高」、「厚」が「底径」を示す。

注2: 法量の( )数値は残存値を示す。

注3: 材質については外観から慣例的に判断したものであり、科学分析を経た結果ではない。

No	種類	材質	区画	面	地区	層/遺構	法量(cm)			備考	図	PL
							長	幅	厚			
34	小柄	青銅	A	I	R71	焼土	-	1.2	0.4	刀身欠	12	26
131	鋏先	鉄	B	I	K68	粘土	19.6	13.9	1.5		17	32
132	鋏	鉄	B	I	L71	粘土	底径228				17	32
133	鋏	鉄	B	I	O67	-	6.8	1.2	1.0	茎長4.2cm	17	32
134	鋏	鉄	B	I	N70	焼土混り土	3.9	1.1	0.9	茎長1.7cm 先端整刃状	17	32
135	彈丸	鉛	B	I	A66	SD501	径1.3				17	32
266	門金具	鉄	B	II	S65	炭層	13.5	13.2	0.85	先端の4cm程度が細くなる	25	39
267	壺金	鉄	B	II	L57	粘土	9.8	1.9	1.4		25	39
268	鏝	鉄	B	II	O57	焼土	10.2	4.0	0.9		25	39
269	錠前	鉄	B	II	T64	焼土	6.5	(2.2)	0.6		25	39
270	箸	青銅	B	II	Q67	SD1730	15.8	径0.4		頭部側湾曲	25	39
271	鉞	鉄	B	II	T68	炭層	20.2	3.8	0.4		25	39
272	鉞	鉄	B	II	L64	暗褐色土	15.5	4.4	0.5	木製の柄付きで出土	25	39
273	手斧	鉄	B	I	O58	SD1576	17.0	3.5	2.8	柄上部に鉄製の楔が遺存	25	39
274	水滴	青銅	B	II	N71	黄褐色土	0.9	2.9	3.0		25	39
275	六器	青銅	B	II	T66	炭層	4.2	1.8	2.0		25	39
276	菊皿	青銅	B	II	U64	焼土	5.1	2.3	1.8	赤色付着物	25	39
277	筭	青銅	B	II	L59	粘土	(18.3)	1.2	0.2	先端・耳かき欠 毛彫文様 魚々子	25	39
278	小柄	青銅	B	II	T68	炭層	10.0	1.6	0.6	刀身欠 頭部に紐通し孔	25	39
279	小柄	銅	B	II	Q69	青色整地土層	(9.4)	1.4	0.4	刀身欠	25	39
280	柄頭	青銅	B	II	T64	SK1755	4.0	3.5	1.5	擦痕	25	39
281	猿手金具	青銅	B	II	T64	SK1755	2.5	2.0	0.4	280に付属	25	39
282	飾金具	真鍮カ	B	II	N57	SD1738	3.1	0.9	0.3		25	39
283	鈴	青銅	B	II	O57	暗褐色土	(1.0)	径1.8		下半のみ	25	39
367	箸	青銅	C	I	P63	SF1608	18.0	径0.3		断面八角形 上部部に刻み	29	43
368	箸	青銅	C	I	A59	SD501	23.6	径0.5		断面円形 上部は丸みを帯びる 漆塗カ	29	43
425	目録釘	鉄	C	II	A59	SD501	5.8	2.4	0.2	赤色付着物あり	31	47
426	飾金具	真鍮カ	C	II	T61	-	(12.8)	1.0	0.1	文様の痕跡あり	31	47
427	釘隠	鉄	C	II	R61	粘土	8.3	7.3	0.4	六葉 中央部に黒色漆が遺存	31	47
428	鏝	鉄	C	II	S59	SD1572	(16.0)	(1.2)	0.3		31	47
429	菊皿	青銅	C	II	U62	炭層	5.3	2.4	2.1		31	47
430	口金物	青銅	C	II	T62	-	4.2	2.1	0.6	側面は魚々子地に果実文カ 接合部ずれ	32	47
431	口金物	青銅	C	II	Q60	炭層	3.5	1.4	0.8	鏝カ	32	47
432	刀	鉄	C	II	S62	炭層	(27.7)	2.1	0.4	刃区なし	32	47
433	小柄	真鍮カ	C	II	T61	-	9.6	1.5	0.5	法量は柄部のみ	32	47
434	小柄	真鍮カ	C	II	S61	炭層	9.5	1.4	0.5	法量は柄部のみ 紐通し孔あり	32	47
556	鏝	鉄	D	I	I51	SF1617	6.1	3.1	0.5		38	54
557	箸	青銅	D	I	N54	焼土	31.7	1.0	0.8	木柄を取り付ける茎あり 茎に漆付着	38	54
558	熊手状	鉄	D	I	S54	-	13.9	(6.0)	9.5	2爪	38	54
559	毛抜	鉄	D	I	I51	SF1617	8.3	0.45	0.15		38	54
560	香炉	青銅	D	I	R58	SD1574	-	-	-	復元口径28.0 頭部外面に沈線2条	38	54
561	鏝	鉄	D	I	K53	黄土	(7.5)	1.1	1.0	先端整刃状	38	54
562	鏝	鉄	D	I	K55	黄土	(8.3)	1.2	1.1		38	54
563	彈丸	鉛	D	I	O51	黄土	径1.2				38	54
564	小柄	青銅	D	I	K56	炭層	(9.0)	1.4	0.6	刀身欠 横縞模様	38	54
565	幹	青銅	D	I	U54	焼土	6.3	1.9	0.5		38	54
566	丁字形	青銅	D	I	N55	焼土層	6.6	3.3	0.6	断面円形	38	54
567	把手状	青銅	D	I	R58	SD1574	(6.9)	(3.2)	(3.2)	仏具(常花)カ	38	54
674	釘	鉄	D	II	S56	焼土	17.7	2.6	2.1	先端振じれ 上半に木質の痕跡	44	59
675	箸	青銅	D	II	T54	腐植土	20.3	0.5	0.3		44	59
676	紡錘	鉄	D	II	L54	SD1584	(18.5)	4.2	4.2	紡錘上半振じれ 緑青→青銅張りカ	44	59
677	鉞	鉄	D	II	T56	焼土	26.2	4.8	0.6	刃部に木質付着	44	59
678	菊皿	青銅	D	II	I52	粘土	5.0	2.0	2.1	赤色付着物	44	59
679	飾金具	青銅	D	II	Q51	SX1832	5.8	1.7	0.1	八双金物 鍍金	44	59
680	飾金具	青銅	D	II	T56	焼土	4.2	(2.9)	0.3	2孔	44	59
792	箸	青銅	B/C	I	P62	SD1572	17.8	径0.3		断面八角形 上部部に刻み	50	64
888	鏝	鉄	B/D	II	L56	SD1574	5.8	2.9	0.3		53	68
889	引手金具	青銅	-	II	-	-	径3.4		0.8	表面漆塗カ 裏面漆付着	53	68
890	飾金具	真鍮カ	B/C	II	P61	炭・粘土	8.0	0.9	0.5		53	68
891	刀子	鉄	B/D	II	M57	SD1574	(21.5)	1.4	0.2		53	68
892	提子把手	青銅	B/D	II	M57	SD1574	7.5	3.2	0.5		53	68
893	菊皿	青銅	B/D	II	J57	SD1574	4.2	1.4	1.5	鍍金	53	68
894	筒形製品	青銅	B/D	II	N56	SD1574	径2.3		2.3		53	68
895	刃物状	鉄	B/D	II	K57	SD1574	22.1	5.8	0.8	銃鉄カ	53	68
930	髪	鉄	B/D	III	Q57	腐植土	(23.7)	2.5	1.8		56	71
931	熊手状	鉄	B	III	L58	黒色有機質土	(10.0)	(7.0)	(3.5)	2爪 口金遺存	56	71
932	縁金具	青銅	C/D	III	A58	SD501	(9.5)	0.7	0.8	断面U字 目釘穴 内側に漆付着	56	71
933	小柄	青銅	D	III	S55	青色整地土	9.6	1.4	0.5	刀身欠	56	71
934	円盤	青銅	C	III	T62	炭層	径2.5		0.4		56	71
964	廻止	鉄	-	-	22区	床土	8.1	2.3	-		57	72
965	引手金具	青銅	-	-	-	-	9.7	4.9	0.1	菊花状の細工 鍍金 裏面漆付着	57	72
966	切羽	青銅	-	-	22区	床土	4.3	2.4	0.2	周りに刻み 表面・側面に黒色漆	57	72

表5 漆塗碗・皿観察表

注1：本表は(南1987)の第8表をもとに作成した。  
 注2：法量の( )数値は復元推定値を示す。  
 注3：樹種は(鈴木・能城1991)に拠る。

No	器種	区画	面	地区	層/遺構	法量(cm)				内面		外面		備考	図	PL
						口径	総高	高台径	高台高	色	文様	色	文様			
284	碗	B	II	K57	-	15.4	(8.0)	(7.7)	(2.6)	黒	開扇文	黒	開扇文	トチノキ 略完形 漆膜剥離激しい	26	-
285	碗	B	II	A66	SD501	13.3	4.2	7.0	0.8	黒	蓬菜文	黒	蓬菜文	ブナ属 断片 漆膜安定	26	-
286	碗	B	II	L57	粘土	13.9	4.4	7.0	0.8	黒	松扇文	黒	松扇文	トチノキ 略完形 漆膜剥離激しい	26	40
287	碗	B	II	L58	粘土	-	-	8.2	0.7	黒	開扇文	黒	不明	ブナ属 底部破片 漆膜安定	26	-
288	碗	B	II	L58	粘土	-	-	-	-	赤	ナシ	赤	ナシ	ケヤキ 断片 漆膜に細かい亀裂あり不安定	26	-
289	碗	B	II	L59	粘土	14.3	-	-	-	赤	ナシ	赤	ナシ	口縁部片 口唇部は黒 漆膜安定 器壁厚い 鉢カ	26	-
290	皿	B	II	L59	粘土	9.0	(2.5)	(6.8)	(0.8)	赤	ナシ	黒	蓬菜文	トチノキ 半欠 漆膜剥離激しい 高台部先端欠	26	-
291	皿	B	II	O58	黒色有機質土	9.2	(2.4)	(5.9)	(0.7)	赤	ナシ	黒	蓬菜文	トチノキ 略完形 高台部欠 口唇部薄く仕上げる	26	40
292	皿	B	II	L64	暗褐色土	-	-	11.5	1.0	-	-	黒	-	底部片 「吉」朱書銘 内面漆膜剥離	26	40
435	碗	C	II	Q63	粘土	(13.8)	(7.2)	-	-	赤	ナシ	黒	青・黒・黄斑	ブナ属 略完形 漆膜の亀裂激しい	32	47
436	碗	C	II	Q63	粘土	(15.6)	(10.1)	8.7	2.9	黒	木瓜文	黒	木瓜文	ブナ属 略完形 漆膜の亀裂激しい 口唇削平	32	47
437	碗	C	II	P61	炭粘土	(15.4)	-	-	-	黒	柑橘文	黒	柑橘文	口唇部、高台部の一部を欠損 漆膜の亀裂激しい	32	47
438	碗	C	II	Q61	炭層	(13.8)	(5.6)	(7.5)	(0.8)	黒	蓬菜文	黒	蓬菜文	ブナ属 略完形 漆膜安定 木質の保存度良好	32	47
439	碗	C	II	S61	炭層	-	-	5.9	0.7	黒	蓬菜文	黒	-	ヤシャブシ節 底部片 他は焼失	32	-
440	碗	C	II	Q61	炭層	-	-	7.3	2.1	黒	蓬菜文	黒	-	トチノキ 高台部片 高台部外面に轆轤目残す	32	-
441	碗	C	II	R62	SD1735	-	-	8.0	-	黒	カタハシ文	-	-	ブナ属 高台部片 畳付削平→2次加工カ	32	-
442	碗	C	II	Q61	炭層	13.5	6.7	7.3	1.1	赤	ナシ	赤	ナシ	ケヤキ 完形 菊反り 下地黒 漆膜安定 上質品	32	47
443	皿	C	II	Q60	SD1572	9.8	3.8	6.3	0.8	黒	不明	黒	不明	完形 口唇部に刻み 体部に穿孔→転用例カ	32	47
444	皿	C	II	S61	炭層	-	-	5.7	0.9	赤	ナシ	黒	ナシ	ケヤキ 漆膜安定 豆子(すつ)カ 上質品	32	47
681	碗	D	II	T54	焼土	(13.3)	(4.7)	7.0	0.7	赤	ナシ	黒	開扇文	略完形 保存度良好 内面に横走るひっかきキズあり	44	59
682	碗	D	II	Q51	焼土	-	-	(7.7)	(2.0)	黒	不明	黒	-	ブナ属 高台部破片 漆膜不安定 畳付欠→2次加工カ	44	59
683	皿	D	II	J54	炭層	8.4	2.7	6.0	0.6	黒	蓬菜文カ	黒	ナシ	カツラ 略完形 漆膜、木質共に安定 保存度良好	44	59
734	皿	E	I	S50	SF1614	13.3	3.7	6.3	0.5	赤	ナシ	赤	ナシ	ケヤキ 口唇部水切り 口唇・畳付・高台内は黒色 上質品	48	62
735	碗	E	I	I51	SF1617	-	-	8.6	2.6	黒	果実文カ	黒	-	高台部破片 漆膜比較的安定	48	62
793	皿	B/D	I	N56	SD1574	8.6	2.5	5.5	0.6	赤	ナシ	黒	果実文カ	ハンノキ節 略完形 漆膜の剥離激しい	50	-
896	碗	B/D	II	J57	SD1574	12.9	-	-	-	赤	ナシ	黒	ナシ	ブナ属 高台欠→2次加工カ 内面輪状に漆付着	53	68
897	碗	B/D	II	J57	SD1574	11.7	-	-	-	赤	ナシ	黒	不明	高台刃物により削平 体部穿孔あり→転用(杓子)カ	53	-
935	碗	B	III	N57	SD1738カ	12.8	4.2	7.6	0.8	黒	蓬菜文	黒	不明	ブナ属 外面は少し赤味がかかる(下地に赤色漆カ)	56	71
936	碗	D	III	Q57	腐植土	13.8	5.2	7	0.6	黒	不明	黒	不明	半欠 内外面共に漆膜の剥離著しい	56	-
937	皿	D	III	Q57	腐植土	8.7	2.7	5.6	0.6	黒	ナシ	黒	ナシ	ケヤキ 保存度良好 木質安定 上質品	56	71

表6 木製品観察表(漆塗碗・皿を除く)

注1：445、685の法量については「長」が「口径」、「幅」が「器高」、「厚」が「底径」を示す。  
 注2：法量の( )数値は残存値を示す。  
 注3：樹種は(鈴木・能城1991・1992)に拠る。

No	器種	区画	面	地区	層/遺構	法量(cm)			備考	図	PL
						長	幅	厚			
72	雪下駄	A	II	Q70	SF1741	15.6	7.2	1.8	つま先部分の摩耗顕著	14	28
293	漆塗容器	B	II	T64	SK1755	-	-	12.0	全面黒漆塗り	26	40
294	漆塗容器	B	II	L64	暗褐色土	-	-	-	全面黒漆塗り 下地にCa-O系化合物(酸化カルシウムと推定)を混和(武田他2008)	26	40
295	漆塗蓋	B	II	L58	灰青色土	径3.2		1.1	全面黒漆塗り 高台内に轆轤目	26	40
296	蓋底板	B	II	T65	焼土	(25.7)	(9.0)	1.3	接ぎ合わせの部材 接合面に2個一対の合釘穴	26	40
297	箸	B	II	L57	粘土	(21.2)	0.8	0.7	削り出し	26	40
298	篋状	B	II	L58	粘土	(20.1)	1.1	0.9		26	40
299	篋状	B	II	L58	粘土	(17.2)	1.2	1.0		26	40
300	棒状	B	II	L58	粘土	20.3	1.3	1.3		26	40
301	露卯下駄	B	II	K57	-	(24.3)	10.1	1.7	台部のみ 針葉樹	26	40
302	雪下駄	B	II	S66	炭層	20.6	8.1	1.8	全面焦げ	26	40
445	壺	C	II	R61	炭層	3.8	4.0	3.9	ナツツバキ属 肩部・体部内面に轆轤目 口唇に付着物	32	47
446	蓋底板	B	II	R61	炭層	(13.6)	(3.1)	0.3		32	48
447	刀柄	B	II	R61	炭層	16.5	3.4	(0.5)	モクレン属 目釘穴が2個接してあけられ、片方は木で栓がされている	32	48
448	刀子鞘	B	II	S61	炭層	17.2	2.4	1.6		32	48
449	板状部材	C	II	R61	焼土層	39.1	(18.8)	1.2	対向する縁辺に釘穴が並ぶ	33	48
450	蓋底板	C	II	R61	炭層	(25.1)	5.7	1.3	接ぎ合わせの部材 接合面に合釘穴	33	48
451	蓋底板	C	II	R61	焼土層	(37.0)	11.1	1.6	接ぎ合わせの部材 接合面は楕円形で平滑に削る 合釘穴・木釘	33	48
452	桶側板	C	II	Q62	炭層	(24.7)	4.6	1.4	箍痕	33	48
453	箸	C	II	R61	炭層	(21.3)	0.8	0.8	断面略六角形 削り出し	33	48
454	箸	C	II	Q60	SD1572	(16.9)	0.8	0.6	断面略長方形 削り出し	33	48
455	箸	C	II	S61	炭層	(13.6)	0.7	0.7	断面略八角形 削り出し	33	48
456	露卯下駄	C	II	Q62	炭層	22.1	14.9	15.3	台幅9.7cm/台厚4.0cm	33	48
457	露卯下駄	C	II	Q63	粘土	21.2	14.1	9.0	広葉樹 台幅8.5cm/台厚3.6cm	33	48
458	露卯下駄	C	II	Q63	炭層	16.1	13.1	9.1	広葉樹 緒穴内焦げ	34	48
459	陰卯下駄	C	II	S60	焼土	15.0	7.5	3.4	失敗した前緒穴に木で栓 後緒穴に緒残存	34	48
460	陰卯下駄	C	II	Q63	SK1756・1757	16.5	(9.2)	3.5	台部と歯部は蟻継ぎ 歯は著しく摩耗	34	48
461	雪下駄	C	II	R61	炭層	21.1	(8.2)	1.5	指圧痕 刃物傷	34	48
462	雪下駄	C	II	R61	炭層	20.5	8.4	1.8		34	48
463	雪下駄	C	II	T60	炭層	19.7	8.1	1.9	表面踵側に微細な凹点6箇所 指圧痕 横緒痕 裏面炭化	34	48
464	雪下駄	C	II	U60	むしろ面	18.9	7.8	2.0	指圧痕 横緒痕 裏面両端摩耗	34	48
465	雪下駄	C	II	R61	炭層	(16.8)	8.6	1.3	指圧痕	34	48
466	雪下駄	C	II	R61	炭層	(20.3)	8.0	2.0	指圧痕 側面・裏面炭化	34	48
467	雪下駄	C	II	P61	炭・粘土	17.5	7.4	2.0	針葉樹 板目 指圧痕	34	48
468	雪下駄	C	II	S60	焼土	16.6	7.8	2.0	針葉樹 指圧痕	34	48
469	雪下駄	C	II	S60	炭層	16.3	7.1	1.2		34	48
470	雪下駄	C	II	S62	粘土	16.3	6.8	1.2	表面踵側に三角形の線刻	34	48

No.	器種	区画	面	地区	層/遺構	法量(cm)			備考	図	PL
						長	幅	厚			
471	雪下駄	C	II	T60	炭層	16.6	(7.0)	1.5	表面踵側に二重弧線 中央部側面に抉り 横緒痕	35	49
472	雪下駄	C	II	T60	炭層	15.0	6.8	0.9	針葉樹 柾目	35	49
473	雪下駄	C	II	R61	炭層	14.4	7.0	1.5	針葉樹 柾目 緒穴内焦げ 横緒痕	35	49
474	雪下駄	C	II	U60	むしろ面	14.1	7.1	1.6	緒穴内焦げ 焦げた微細な凹点と直線 横緒痕	35	49
475	雪下駄	C	II	U60	むしろ面	14.0	7.1	1.5	横緒による摩耗	35	49
476	草履下駄	C	II	Q63	粘土	19.6	6.2	2.8	緒穴内焦げ 上板一部遺存 上板の下に植物繊維痕	35	49
477	舟形	C	II	U62	炭層	(13.0)	2.7	2.2	ヒノキ 板目	35	49
478	棒状部材	C	II	A59	SD501	(20.7)	2.2	1.1	断面半円形 3~4.5cm間隔で設けた径3~5mmの孔に細い棒材を差し込む	35	49
569	雪下駄	D	I	T57	SX1675カ	21.0	8.4	2.2	表面踵部に三角形の線刻 指圧痕 裏面前後の摩耗顕著	39	54
570	継手	D	I	P54	-	(9.2)	(5.7)	(5.7)	-	39	54
684	蓋	D	II	L55	焼土	5.3	4.8	1.9	コウヤマキ	44	59
685	曲物	D	II	L53	SD1584	5.2	2.9	5.8	-	44	59
686	付丸	D	II	L54	SD1584	(12.1)	2.0	-	「中村□□」「国十六さし」	44	60
687	傘口クロ	D	II	M52	焼土	-	径6.2	2.5	モクレン属	44	59
688	漆塗製品	D	II	R51	SK1764	(8.8)	(3.7)	1.7	スギ 全面黒漆塗り 家具カ	44	60
689	刀子鞘	D	II	L55	SD1584	32.6	1.6	2.3	接合しないため長さは推定 片側に襷を表現した加工あり	44	59
690	羽子板	D	II	U57	SX1674カ	(19.3)	8.3	0.7	-	44	60
691	箸	D	II	L53	SD1584	(14.9)	0.5	0.5	断面六角形	44	60
692	箸	D	II	L53	SD1584	(13.0)	0.9	0.6	先端部の断面は円形	44	60
693	棒状部材	D	II	L54	SD1584	(14.4)	1.1	0.7	断面方形 2方向に木釘(穴)	44	60
694	将棋駒	D	II	L51	SK1627	2.3	2.2	-	「□□・金」	44	60
695	釣瓶	D	II	S55	有機質土	-	-	-	側板のみ 鉄釘遺存	45	60
696	釣瓶	D	II	S55	有機質土	-	-	-	側板および底板 鉄釘遺存 柄杓として再利用されたものか	45	60
697	桶把手	D	II	L53	SD1584	(22.4)	6.2	1.2	上端付近に側面から鉄釘が刺さる	45	60
698	連歯下駄	D	II	J54	炭層	20.0	9.1	2.3	広葉樹 歯は著しく摩耗し裏面全体も摩耗 739と大きさ・形状近似	46	60
699	連歯下駄	D	II	J54	炭層	18.9	8.2	2.7	針葉樹 歯は著しく摩耗	46	60
700	連歯下駄	D	II	S55	有機質土	21.9	8.2	3.1	広葉樹 表面側面に幾何学的な線刻文様 中央部および後部に小孔	46	60
701	雪下駄	D	II	S55	有機質土	20.7	8.2	1.8	針葉樹 表面踵部分に鳥・草木等を簡略化した線刻文様 横緒による摩耗	46	60
702	雪下駄	D	II	S56	焼土	19.5	7.6	1.6	表面踵側に線刻 指圧痕 横緒による摩耗	46	-
703	雪下駄	D	II	T54	腐植土	17.9	8.7	1.9	針葉樹 表面踵部に鳥の彫刻文様	46	60
704	雪下駄	D	II	P53	暗褐色土	17.8	7.1	2.0	板目 緒穴の部分は「U」形の抉りとなる 裏面側面の中央付近が摩耗	46	60
705	雪下駄	D	II	J55	暗褐色土	14.0	6.8	1.3	板目 緒穴方形 裏面の加工弱い 横緒による摩耗	46	60
706	雪下駄	D	II	J55	暗褐色土	14.2	6.6	1.3	板目 緒穴方形 裏面の加工弱い 横緒による摩耗	46	60
736	解櫛	E	I	I51	SF1617	(3.9)	(6.9)	-	歯16本(推定)	48	62
737	将棋駒	E	I	I51	SF1617	3.4	2.8	-	針葉樹 「飛車・(龍)王」 先端厚0.2cm・尻部厚0.9cm	48	62
738	金隠	E	I	I51	SF1617	31.1	20.0	2.5	クリ 円形の墨書カ 全体的に炭化	48	62
739	連歯下駄	E	I	I51	SF1617	19.6	9.7	6.2	台厚4.5cm 前歯中央部弧状に摩耗 後歯を鉄釘で補修 698と大きさ・形状近似	48	62
740	露卯下駄	E	I	N50	SF1616カ	(20.5)	8.3	(4.5)	台厚2.8cm 歯部一部遺存	48	62
741	雪下駄	E	I	N50	SF1616カ	(20.2)	7.9	2.0	表面前縁は斜めに削り 裏面および表面後縁は炭化 表面は全体に剝離	48	62
747	露卯下駄	E	II	L49	SF1746	21.6	(8.7)	3.7	針葉樹	48	62
748	雪下駄	E	II	K50	SD1584	18.8	8.0	2.0	表面踵部に線刻および黒の着色痕 指圧痕 横緒による摩耗	48	62
794	梳櫛	C/D	I	U58	SD501	4.5	8.7	1.4	-	50	64
795	連歯下駄	B/D	I	M56	SD1574	(16.3)	(9.1)	4.1	台厚1.5cm 表面炭化 前歯は後方へ傾斜して摩耗	50	65
898	漆塗蓋	B/D	II	O56	SD1574	径4.8	2.0	-	全面黒漆塗り	53	68
899	蓋底板	B/D	II	Q57	SD1574	18.3	(8.9)	0.4	-	53	68
900	将棋駒	B/D	II	L57	SD1574	3.0	2.6	-	ヒノキ 斜目 「金将」	53	68
901	撃柄	B/D	II	J57	SD1574	(7.9)	径2.7	-	柄径2.3cm 鉄製の冠が遺存	54	69
902	栓	B/D	II	O56	粘土	7.3	径(3.1)	-	ヒノキ 丸木 栓部径1.7cm	54	69
903	刀子柄	B/C	II	P63	SD1734	9.0	2.2	1.5	ヒノキ 赤彩が部分的に遺存 漆塗製品か	54	69
904	釣瓶	D/E	II	J51	黒色土	19.0	18.3	17.0	鉄釘遺存	54	69
905	榎	B/D	II	K57	SD1574	(16.3)	3.8	1.9	上部に方形の釘穴あり	54	69
906	蓋底板	B/C	II	P63	SD1734	(30.8)	(9.5)	1.0	接ぎ合わせの部材 板目 両接合面に木(竹)の合釘遺存	54	69
907	船模型	B/D	II	J57	SD1574砂	48.5	(15.8)	(9.0)	帆柱遺存 側面に船梁固定用の穴 船べりの板を木釘で固定 「北国船」模型	54	69
938	折敷	C	III	T62	炭層	10.0	10.7	0.3	側板を固定する穴あり 10枚程度が重なって出土	56	71
939	桶側板	C	III	T62	炭層	22.0	6.1	1.3	箍による擦痕	56	71
940	桶側板	C	III	T62	炭層	21.9	6.7	1.3	箍による擦痕	56	71
941	草履下駄	B	III	L57	粘土	20.0	5.5	2.3	針葉樹 板目 緒穴内焦げ 裏面に手斧状工具による加工痕	56	71
942	雪下駄	B	III	L57	炭粘土	14.8	7.0	1.1	板目	56	71
943	組物部材	D	III	Q57	腐植土	21.5	1.9	0.7	スギ 墨書「三」	56	71
967	露卯下駄	-	-	-	-	21.6	(11.7)	8.5	台幅8.6/台厚3.5 鳥の線刻 黒色の漆塗付着物 後緒穴に鼻緒を留める榎遺存	57	72
968	雪下駄	-	-	-	-	19.6	8.6	1.3	柾目 両側縁・後端にも孔あり	57	72
969	板材	-	-	-	-	12.3	47.8	1.4	鋸痕	58	72

表7 石・骨・角・墨・ガラス製品観察表

注1: 141、575、909、974、975の法量については「長」が「口径」、「幅」が「器高」、「厚」が「底径」を示す。

注2: 法量の( )数値は残存値を示す。

注3: 材質は肉眼観察(一部実体顕微鏡使用)によるもので、科学分析を経た結果ではない。

No.	器種	材質	区画	面	地区	層/遺構	法量(cm)			備考	図	PL
							長	幅	厚			
35	硯	凝灰岩	A	I	T72、A70、18・28区	SF1604、SD501、床土	15.9	8.5	1.9	長方硯	12	26
36	硯	凝灰岩	A	I	T70	SD1568	14.3	6.5	1.5	長方硯	12	26
37	硯	凝灰岩	A	I	T70	石垣	8.5	3.5	0.7	長方硯	12	26
38	硯	頁岩	A	I	T70	石垣	9.7	4.0	0.7	楕円硯	12	26
39	バンドコ蓋	笏谷石	A	I	T72	石垣	(12.5)	(7.2)	1.9	平面楕円形、中央部に長方形の窓	13	27
40	サル	笏谷石	A	I	A71	-	12.8	5.8	5.9	下半燻け	13	27
73	砥石	粘板岩	A	II	P72	炭層	9.8	3.4	1.4	-	14	28
74	砥石	粘板岩	A	II	P73	焼土	8.6	3.4	1.2	両小口を除く4面を使用 小口・側面に鋸痕	14	28
75	バンドコ蓋	笏谷石	A	II	Q72	炭層	16.1	19.6	3.6	平面D形	14	28
76	球状	笏谷石	A	II	R72	炭層	径4.7	4.4	-	略球形 頂部から深さ0.9cmの孔 反対側は平坦	14	28

№	器種	材質	区画	面	地区	層/遺構	法量(cm)			備考	図	PL
							長	幅	厚			
136	砥石	凝灰岩	B	I	O66	SD1570	14.0	3.4	1.7	仕上砥 小口と側面に削痕	17	32
137	茶臼	安山岩	B	I	O57	SD1576	径20.0		11.8	上白 8分画 菱形を重ねた台座文様	17	32
138	茶臼	安山岩	B	I	S69	SD1695	径18.4		11.3	上白 8分画 菱形の台座文様	18	32
139	バンドコ蓋	笏谷石	B	I	Q67	-	17.1	23.2	2.6	平面楕円形 138とセット	18	32
140	バンドコ身	笏谷石	B	I	Q67	-	18.7	25.2	13.6	平面楕円形 137とセット 陶磁器収納	18	32
141	花瓶	笏谷石	B	I	K69	-	7.5	13.0	7.4	-	18	32
142	石仏	笏谷石	B	I	U68	SD501	(10.9)	(12.8)	(6.0)	十一面観音 金箔、赤・黒色顔料(漆カ)付着	18	32
143	台座状	笏谷石	B	I	J69	-	30.8	33.6	8.2	底面にツル状工具の粗い加工痕	18	32
303	硯	粘板岩	B	II	U64	焼土	15.2	8.9	2.3	長方硯	27	41
304	硯	凝灰岩	B	II	U68	炭層	10.6	4.8	(1.6)	長方硯 墨付着	27	41
305	硯	凝灰岩	B	II	N71	黄褐色土	(5.9)	6.9	1.8	長方硯 線刻「継旭」	27	41
306	砥石	粘板岩	B	II	L59	粘土	10.7	3.2	1.4	木質および漆様の付着物 粗い削痕	27	41
307	砥石	粘板岩	B	II	M66	粘土	8.2	3.4	1.4	文字線刻 削痕	27	41
308	有溝砥石	粘板岩	B	II	U68	炭層	(4.5)	(7.8)	0.8	-	27	41
309	乳棒	凝灰岩	B	II	P68	焼土	5.7	2.1	2.1	-	27	41
310	球状	笏谷石	B	II	N71	黄褐色土	径4.8		3.4	頂部から深さ2.2cmの孔 反対側は平坦	27	41
311	球状	笏谷石	B	II	N71	黄褐色土	径5.0		4.6	頂部から1.7cmの孔 反対側は平坦	27	41
312	盤	笏谷石	B	II	O・P57・Q56他	ビット、SD1574他	(31.1)	(22.4)	12.4	平面長方形	27	41
313	粉挽臼	笏谷石	B	II	O69	溝石(SD1695カ)	14.3	30.4	30.4	上白 8分画 著しく摩耗	27	41
314	環状	笏谷石	B	II	P68	-	径12.5		6.8	-	27	41
315	双六駒	鹿角カ	B	II	T63	焼土	径2.0		0.5	目の凹内は塗装もしくは焦げにより黒色	27	41
369	球状	笏谷石	C	I	A60	SD501	径5.0		5.7	頂部から深さ2.3cmの孔 反対側はやや平坦	29	-
370	バンドコ蓋	笏谷石	C	I	P60・61	SD1572	17.0	21.6	3.6	平面楕円形	29	43
479	硯	凝灰岩	C	II	U62	炭層	15.0	5.7	1.5	長方硯 陸部中央著しく摩耗し穴があく 墨痕	35	50
480	盤	笏谷石	C	II	T61	炭層	(15.1)	(24.4)	3.0	「于時天文廿辛亥年」「□月十六日歌白」 内面煤	35	50
481	バンドコ蓋	笏谷石	C	II	R60	炭層	13.4	17.2	2.7	平面D形 全面黒化	35	50
482	バンドコ身	笏谷石	C	II	Q62、R60・61	SD1735、炭層	15.2	22.8	18.0	平面楕円形 透かし窓7個 割付線遺存	35	50
483	双六駒	骨	C	II	T62	焼土	径1.9		0.6	両面・側面に擦痕	35	50
484	筒状	鹿角	C	II	S61	炭層	1.9	2.6	3.0	刀装具未製品か	35	50
568	墨	油煙	D	I	T52	SB1558焼土面	(3.0)	1.8	1.0	蛭龍文様 「李家烟」型押 興福寺二諦坊製	38	54
571	砥石	安山岩	D	I	M51	-	16.7	7.7	6.4	荒砥	39	54
572	砥石	砂岩	D	I	S57	-	17.0	6.5	6.0	荒砥	39	54
573	砥石	凝灰岩	D	I	J52	粘土	10.4	5.1	3.3	両小口を除く4面を使用 小口に削痕	39	54
574	砥石	凝灰岩	D	I	T54	焼土	7.2	3.3	0.5	硯を転用 文字線刻「大住□□」	39	54
575	皿	ガラス	D	I	L51	SK1627	8.4	1.9	4.8	カリウム鉛ガラス製 紫色	39	54
707	炉	笏谷石	D	II	J52	炭層	57.1	62.3	14.2	上端面を除き粗い加工痕残す	46	60
708	バンドコ蓋	笏谷石	D	II	Q51	SX1832	13.0	(14.5)	2.7	平面長方形	47	-
709	バンドコ身	笏谷石	D	II	S55	焼土中	20.6	24.1	14.2	平面楕円形	47	60
710	バンドコ身	笏谷石	D	II	Q51	SX1832	18.2	(17.8)	(16.3)	平面は長方形に近いD形	47	60
796	砥石	凝灰岩	B/C	I	P62	SD1572	11.0	4.7	3.3	浄教寺産 小口を除く4面使用 両小口に削痕	50	64
797	バンドコ蓋	笏谷石	B/D	I	K57	SD1574	14.7	(10.5)	3.0	平面D形 中央部に長方形の窓が並ぶ	50	64
798	円盤状	笏谷石	-	I	A61	SS493カ	径17.8		4.9	中央に円孔 周縁段状 ツル状加工痕	50	64
908	砥石	凝灰岩	B/C	II	P61	SD1572	19.5	5.0	5.0	浄教寺産 小口を除く4面使用 施溝分割痕	55	69
909	盤	笏谷石	B/D	II	P56、N56・65、S58	SD1574	32.2	11.1	29.0	平面円形 被熱赤化	55	69
944	砥石	粘板岩	B	III	L57	有機質土	6.0	3.2	1.1	-	56	71
945	砥石	粘板岩	B	III	O59	黒色イコウ面	6.0	3.5	0.8	小口・側面は未使用で削痕あり	56	71
970	双六駒	骨	-	-	-	-	1.9	1.9	0.5	擦痕	58	73
971	双六駒	骨	-	-	-	-	1.5	1.9	0.4	赤彩	58	73
972	箱状	珪質岩	-	-	-	床土	3.0	1.9	0.9	ミニチュア	58	73
973	球状	笏谷石	-	-	9・14区	床土	径4.8		4.3	略球形 頂部から深さ1.9cmの孔 反対側は平坦	58	73
974	鉢	笏谷石	-	-	19区	床土	52.0	16.0	22.6	全面平滑に仕上げ 外面に浅い鑿痕	58	73
975	盤	笏谷石	Aカ	Iカ	U70カ	SX1634カ	34.4	12.6	30.0	平面円形 三足 見込中央部・口縁に煤付着	58	73
976	粉挽臼	花崗砂岩	-	-	-	-	径27.0		11.2	8分画 鉄製芯棒遺存	58	73
977	粉挽臼	花崗砂岩	-	-	-	-	径26.0		10.0	下白 8分画 芯棒遺存(炭化)	59	73
978	粉挽臼	笏谷石	-	-	-	-	径30.9		11.8	下白 8分画	59	73
979	石仏	笏谷石	-	-	28区	床土	(31.6)	28.9	(10.8)	如意輪観音 「善秀童子也」「庚」「□月三日」 銘文内赤彩	59	73
980	石仏	笏谷石	-	-	28区	床土	(19.7)	(10.0)	(5.8)	地藏菩薩 赤・金彩色遺存	59	73
981	組合五輪塔	笏谷石	-	-	18・28区	床土	径25.0		15.8	水輪	59	73
982	一石五輪塔	笏谷石	-	-	9区	床土	(39.8)	18.2	-	題目「妙法蓮華経」 「永禄□年」「妙栄童女」「正月十四日」	59	73
983	一石五輪塔	笏谷石	-	-	21区	床土	53.5	15.9	-	題目「妙法蓮華経」	59	73
984	一石五輪塔	笏谷石	-	-	-	床土	(45.7)	17.5	-	「正月十三日」 銘文内金彩	59	73

表8 錢貨觀察表

No	錢貨名	区面	面	地区	層/遺構	法量(mm,g)		書體	初鑄年	備考	図	PL
						径	厚					
985	開元通寶	A	I	A70	SD501	24.0	1.4	3.1 (真書)	唐	621	60	74
986	開元通寶	A	I	U72	SV1622	23.7	1.0	2.3 (真書)	唐	621	60	74
987	皇宋通寶	A	I	T72	SX1835	24.4	1.1	2.7 真書	北宋	1038	60	74
988	開元通寶	A	II	U70	SX1778	24.0	0.9	1.8 (真書)	唐	621	60	74
989	開元通寶	A	II	P73	燒土	23.5	1.5	3.6 (真書)	唐	621	60	74
990	天聖元寶	A	II	Q71	燒土	24.9	1.4	4.5 篆書	北宋	1023	60	74
991	嘉祐通寶	A	II	O72	炭層	23.3	1.1	3.0 篆書	北宋	1056	60	74
992	熙寧元寶	A	II	T70	燒土	23.6	0.7	1.7 篆書	北宋	1068	60	74
993	元豐通寶	A	II	O72	炭層	23.2	1.2	2.2 行書	北宋	1078	60	74
994	元祐通寶	A	II	P71	燒土	23.9	0.9	1.9 行書	北宋	1086	60	74
995	紹熙元寶	A	II	T71	粘土	24.1	1.1	2.5 (真書)	南宋	1190 背元	60	74
996	開元通寶	B	I	N68	-	24.3	1.1	2.5 (真書)	唐	621	60	74
997	開元通寶	B	I	P62	SD1572	24.0	0.9	2.7 (真書)	唐	621	60	74
998	至道元寶	B	I	A68	SD501	24.3	1.0	2.9 真書	北宋	995	60	74
999	咸平元寶	B	I	N66	SB1556	24.4	1.1	3.1 真書	北宋	998	60	74
1000	元豐通寶	B	I	O66	-	24.8	1.0	2.6 篆書	北宋	1078	60	74
1001	皇宋通寶	B	I	U64	燒土	23.9	1.0	3.2 真書	北宋	1038	60	74
1002	至和元寶	B	I	S66	-	23.7	0.8	1.9 篆書	北宋	1054	60	74
1003	嘉祐通寶	B	I	N68	褐色土	24.3	1.1	3.3 真書	北宋	1056	60	74
1004	治平元寶	B	I	L68	-	23.9	1.1	2.6 真書	北宋	1064	60	74
1005	皇宋通寶	B	I	P62	SD1572	24.5	1.1	3.2 真書	北宋	1038	60	74
1006	元豐通寶	B	I	O57	黄土	24.3	1.0	3.2 行書	北宋	1078	60	74
1007	元豐通寶	B	I	N70	燒土混り土	24.1	1.3	3.8 篆書	北宋	1078	60	74
1008	元祐通寶	B	I	P62	SD1572	23.7	1.0	3.1 行書	北宋	1086	60	74
1009	大觀通寶	B	I	O71	-	23.5	0.6	1.5 (真書)	北宋	1107	60	74
1010	政和通寶	B	I	P62	SD1572	23.8	1.0	3.1 篆書	北宋	1111	60	74
1011	嘉定通寶	B	I	S69	SD1695	23.9	1.0	2.7 (真書)	南宋	1208	60	74
1012	開元通寶	B	II	L64	暗褐色土	24.1	0.9	2.6 (真書)	唐	621	60	74
1013	開元通寶	B	II	M66	粘土	23.6	1.1	3.1 (真書)	唐	621	60	74
1014	開元通寶	B	II	M66	粘土	24.3	1.0	2.9 (真書)	唐	621	60	74
1015	開元通寶	B	II	P67	黄土	22.9	1.0	2.4 (真書)	唐	621	60	74
1016	開元通寶	B	II	S66	炭層	23.5	0.8	2.3 (真書)	唐	621	60	74
1017	開元通寶	B	II	U63	-	23.3	0.8	2.1 (真書)	唐	621	60	74
1018	開元通寶	B	II	L58	粘土	23.7	0.9	2.7 (真書)	唐	621	60	74
1019	開元通寶	B	II	T67	炭層	24.1	0.9	2.3 (真書)	唐	621	60	74
1020	太平通寶	B	II	L64	暗褐色土	24	1.0	2.7 (真書)	北宋	976	60	74
1021	太平通寶	B	II	N57	SD1738	24.1	1.0	3.0 (真書)	北宋	976	60	74
1022	太平通寶	B	II	M66	粘土	24.6	1.1	3.6 (真書)	北宋	976	60	74
1023	淳化元寶	B	II	M66	SD1570	24.5	1.1	3.4 真書	北宋	990	60	74
1024	淳化元寶	B	II	O68	燒土	24.3	1.0	2.6 真書	北宋	990	61	74
1025	淳化元寶	B	II	P57	燒土	24.3	1.0	3.0 真書	北宋	990	61	74
1026	至道元寶	B	II	O68	燒土	24.7	1.1	3.5 行書	北宋	995	61	74
1027	咸平元寶	B	II	L59	粘土	24.2	1.1	3.4 真書	北宋	998	61	74
1028	景德元寶	B	II	T64	SK1755	24.4	1.1	3.1 真書	北宋	1004	61	74
1029	景德元寶	B	II	L64	暗褐色土	24	1.2	3.2 真書	北宋	1004	61	74
1030	景德元寶	B	II	K72	粘土	23.6	1.1	3.0 真書	北宋	1004	61	74
1031	祥符元寶	B	II	O68	燒土	25.1	1.3	3.8 真書	北宋	1008	61	74
1032	祥符通寶	B	II	L64	暗褐色土	25.1	1.0	3.3 真書	北宋	1008	61	74
1033	祥符通寶	B	II	L58	粘土	25.1	1.1	3.4 真書	北宋	1008	61	74
1034	祥符通寶	B	II	N70	-	23.5	1.1	3.0 真書	北宋	1008	61	74
1035	祥符通寶	B	II	P57	燒土	24.4	1.0	2.9 真書	北宋	1008	61	74
1036	天聖元寶	B	II	O68	燒土	24.0	1.1	2.7 真書	北宋	1023	61	74
1037	天聖元寶	B	II	L64	暗褐色土	24.7	1.1	3.7 真書	北宋	1023	61	74
1038	天聖元寶	B	II	S66	炭層	24.7	0.9	3.4 真書	北宋	1023	61	74
1039	天聖元寶	B	II	T68	炭層	24.2	1.1	2.7 真書	北宋	1023	61	74
1040	天聖元寶	B	II	S66	炭層	24.7	1.0	2.9 真書	北宋	1023	61	74
1041	天聖元寶	B	II	T67	炭層	24.0	1.1	3.4 真書	北宋	1023	61	74
1042	天聖元寶	B	II	U67	炭層	23.7	1.1	2.7 真書	北宋	1023	61	74
1043	天聖元寶	B	II	O68	燒土	24.7	1.1	3.8 篆書	北宋	1023	61	74
1044	天聖元寶	B	II	N67	黄土	24.6	0.9	2.8 篆書	北宋	1023	61	74
1045	天聖元寶	B	II	R68	SX1652	24.8	1.0	2.8 篆書	北宋	1023	61	74
1046	天聖元寶	B	II	S66	炭層	24.6	1.1	3.4 篆書	北宋	1023	61	74
1047	明道元寶	B	II	S66	炭層	24.9	1.1	3.3 真書	北宋	1032	61	74
1048	明道元寶	B	II	S66	炭層	25.2	1.0	3.2 篆書	北宋	1032	61	74
1049	景祐元寶	B	II	L64	暗褐色土	24.8	0.9	3.0 篆書	北宋	1034	61	74
1050	皇宋通寶	B	II	L64	暗褐色土	24.5	1.0	2.9 真書	北宋	1038	61	74
1051	皇宋通寶	B	II	S66	炭層	24.3	1.1	3.9 真書	北宋	1038	61	74
1052	皇宋通寶	B	II	T67	炭層	24.7	0.8	2.1 真書	北宋	1038	61	74
1053	皇宋通寶	B	II	U63	-	24.1	1.0	2.8 真書	北宋	1038	61	74
1054	皇宋通寶	B	II	L59	粘土	25.0	0.9	3.1 真書	北宋	1038	61	74
1055	皇宋通寶	B	II	L59	粘土	24.5	1.2	3.9 真書	北宋	1038	61	74
1056	皇宋通寶	B	II	L64	暗褐色土	24.1	0.9	2.9 真書	北宋	1038	61	74
1057	皇宋通寶	B	II	M66	粘土	23.8	1.0	3.2 真書	北宋	1038	61	74
1058	皇宋通寶	B	II	P57	燒土	24.3	0.9	2.5 真書	北宋	1038	61	74
1059	皇宋通寶	B	II	L64	暗褐色土	23.1	1.1	2.8 真書	北宋	1038	61	74
1060	皇宋通寶	B	II	O68	燒土	24.1	1.0	3.2 真書	北宋	1038	61	74
1061	皇宋通寶	B	II	T68	炭層	24.3	1.0	2.9 真書	北宋	1038	61	74
1062	皇宋通寶	B	II	M64	粘土	24.8	1.1	3.4 篆書	北宋	1038	61	74
1063	皇宋通寶	B	II	L64	暗褐色土	23.9	0.9	2.6 篆書	北宋	1038	61	74
1064	皇宋通寶	B	II	Q64	粘土	23.6	0.9	2.4 篆書	北宋	1038	61	74
1065	皇宋通寶	B	II	T68	炭層	23.4	0.5	1.4 篆書	北宋	1038	61	75
1066	皇宋通寶	B	II	O66	粘土	24.0	0.9	2.7 篆書	北宋	1038	61	75
1067	皇宋通寶	B	II	U64	燒土	24.6	0.9	2.6 篆書	北宋	1038	62	75
1068	至和通寶	B	II	T67	炭層	23.9	1.1	3.2 真書	北宋	1054	62	75
1069	嘉祐通寶	B	II	L59	粘土	24.1	1.0	3.1 真書	北宋	1056	62	75
1070	嘉祐通寶	B	II	T68	炭層	22.9	0.9	2.6 真書	北宋	1056	62	75
1071	嘉祐元寶	B	II	A68	SD501	23.1	1.0	2.1 真書	北宋	1056	62	75

No.	銭貨名	区画	面	地区	層/遺構	法量(mm/g)			書体	初鑄年		備考	図	PL.
						径	厚	重						
1072	治平元寶	B	II	T68	炭層	24.0	1.0	3.0	真書	北宋	1064		62	75
1073	治平元寶	B	II	T68	炭層	24.1	1.2	3.8	真書	北宋	1064		62	75
1074	治平元寶	B	II	L59	粘土	23.8	1.1	3.1	篆書	北宋	1064		62	75
1075	治平元寶	B	II	T67	炭層	23.1	1.3	3.3	篆書	北宋	1064		62	75
1076	熙寧元寶	B	II	N57	SD1738	24.8	0.8	2.7	真書	北宋	1068		62	75
1077	熙寧元寶	B	II	L59	粘土	24.0	1.1	3.7	真書	北宋	1068		62	75
1078	熙寧元寶	B	II	L64	暗褐色土	24.2	1.1	3.4	真書	北宋	1068		62	75
1079	熙寧元寶	B	II	T68	炭層	24.8	1.0	3.5	真書	北宋	1068		62	75
1080	熙寧元寶	B	II	L64	暗褐色土	24.0	1.3	3.9	篆書	北宋	1068		62	75
1081	熙寧元寶	B	II	O68	焼土	24.4	1.2	2.9	篆書	北宋	1068		62	75
1082	熙寧元寶	B	II	O69	炭層	24.7	1.0	3.2	篆書	北宋	1068		62	75
1083	熙寧元寶	B	II	P68	-	24.0	1.1	2.6	篆書	北宋	1068		62	75
1084	元豐通寶	B	II	L59	粘土	24.4	1.0	3.2	行書	北宋	1078		62	75
1085	元豐通寶	B	II	L59	粘土	24.4	0.9	2.9	行書	北宋	1078		62	75
1086	元豐通寶	B	II	S66	炭層	23.8	1.0	3.5	行書	北宋	1078		62	75
1087	元豐通寶	B	II	S66	炭層	23.8	0.9	2.6	行書	北宋	1078		62	75
1088	元豐通寶	B	II	T65	暗褐色土	24.3	1.4	3.6	行書	北宋	1078		62	75
1089	元豐通寶	B	II	U66	焼土	25.0	1.1	3.1	行書	北宋	1078		62	75
1090	元豐通寶	B	II	U67	炭層	23.8	1.0	2.9	行書	北宋	1078		62	75
1091	元豐通寶	B	II	L58	粘土	23.7	1.2	3.6	篆書	北宋	1078		62	75
1092	元豐通寶	B	II	L59	粘土	24.7	1.1	3.8	篆書	北宋	1078		62	75
1093	元豐通寶	B	II	L59	粘土	23.7	1.2	3.2	篆書	北宋	1078		62	75
1094	元豐通寶	B	II	N57	SD1738	23.7	1.1	3.9	行書	北宋	1078		62	75
1095	元豐通寶	B	II	Q69	粘土	24.0	1.1	3.6	篆書	北宋	1078		62	75
1096	元豐通寶	B	II	T68	炭層	24.0	0.9	2.4	篆書	北宋	1078		62	75
1097	元豐通寶	B	II	U66	焼土	24.4	1.1	3.7	篆書	北宋	1078		62	75
1098	元祐通寶	B	II	T64	SK1755	23.9	1.0	3.3	行書	北宋	1086		62	75
1099	元祐通寶	B	II	L59	粘土	23.9	1.3	3.6	行書	北宋	1086		62	75
1100	元祐通寶	B	II	L64	暗褐色土	24.9	1.2	3.9	行書	北宋	1086		62	75
1101	元祐通寶	B	II	O68	焼土	23.0	1.0	2.2	行書	北宋	1086		62	75
1102	元祐通寶	B	II	P57	焼土	24.6	1.1	3.3	行書	北宋	1086		62	75
1103	元祐通寶	B	II	O68	焼土	24.5	0.9	2.6	行書	北宋	1086		62	75
1104	元祐通寶	B	II	T68	炭層	24.0	1.1	3.1	行書	北宋	1086		62	75
1105	元祐通寶	B	II	U63	-	23.3	1.0	2.3	行書	北宋	1086		62	75
1106	元祐通寶	B	II	O68	焼土	23.2	0.8	1.9	行書	北宋	1086		62	75
1107	元祐通寶	B	II	L59	粘土	24.1	1.1	3.6	篆書	北宋	1086		62	75
1108	元祐通寶	B	II	L64	暗褐色土	24.4	1.0	3.0	篆書	北宋	1086		62	75
1109	元祐通寶	B	II	L64	暗褐色土	23.8	1.1	3.1	篆書	北宋	1086		62	75
1110	元祐通寶	B	II	O68	焼土	24.3	1.0	2.8	篆書	北宋	1086		62	75
1111	元祐通寶	B	II	T68	炭層	24.1	1.0	3.0	篆書	北宋	1086		63	75
1112	元祐通寶	B	II	N67	黄土	23.5	1.0	3.0	篆書	北宋	1086		63	75
1113	元祐通寶	B	II	T65	暗褐色土	24.5	0.8	2.3	篆書	北宋	1086		63	75
1114	元祐通寶	B	II	O68	焼土	22.9	0.9	2.5	篆書	北宋	1086		63	75
1115	紹聖元寶	B	II	L64	暗褐色土	24.0	0.9	3.1	行書	北宋	1094		63	75
1116	紹聖元寶	B	II	O69	炭層	23.9	1.0	2.4	行書	北宋	1094		63	75
1117	聖宋元寶	B	II	S66	炭層	23.6	1.2	3.5	行書	北宋	1101		63	75
1118	聖宋元寶	B	II	N66	粘土	23.9	1.2	3.2	行書	北宋	1101		63	75
1119	大觀通寶	B	II	L64	暗褐色土	24.2	1.3	3.3	(真書)	北宋	1107		63	75
1120	政和通寶	B	II	L57	粘土	24.2	0.9	2.6	分楷	北宋	1111		63	75
1121	政和通寶	B	II	L59	粘土	24.6	1.2	3.4	篆書	北宋	1111		63	75
1122	政和通寶	B	II	P57	焼土	25.1	1.1	2.9	篆書	北宋	1111		63	75
1123	皇宋元寶	B	II	L64	暗褐色土	24.3	0.7	2.5	(真書)	南宋	1253	背四カ	63	75
1124	至大通寶	B	II	T68	炭層	23.3	1.3	3.5	(真書)	元	1310		63	75
1125	洪武通寶	B	II	L57	SD1574	23.4	1.2	3.1	(真書)	明	1368	背北平カ	63	75
1126	洪武通寶	B	II	N70	-	23.9	1.2	3.0	(真書)	明	1368	重点通・背漸カ	63	75
1127	洪武通寶	B	II	S66	炭層	23.2	1.2	3.0	(真書)	明	1368		63	75
1128	洪武通寶	B	II	T68	炭層	23.6	0.8	2.0	(真書)	明	1368		63	75
1129	永樂通寶	B	II	U67	SX1780	24.7	1.1	2.9	(真書)	明	1408		63	75
1130	永樂通寶	B	II	L57	粘土	24.9	1.5	3.4	(真書)	明	1408		63	75
1131	永樂通寶	B	II	L64	暗褐色土	24.7	1.2	3.2	(真書)	明	1408		63	75
1132	永樂通寶	B	II	L64	暗褐色土	25.0	1.1	3.2	(真書)	明	1408		63	75
1133	永樂通寶	B	II	N68	粘土	23.4	0.9	1.9	(真書)	明	1408		63	75
1134	永樂通寶	B	II	T64	焼土	24.5	1.2	3.4	(真書)	明	1408		63	75
1135	宣德通寶	B	II	L57	粘土	25.2	1.1	2.6	(真書)	明	1433		63	75
1136	宣德通寶	B	II	T67	炭層	25.3	1.2	3.4	(真書)	明	1433		63	75
1137	天聖元寶	B	III	N57	SD1738	24.9	1.1	3.1	真書	北宋	1023		63	75
1138	元豐通寶	B	III	L58	黒色有機質土	23.9	1.1	3.7	篆書	北宋	1078		63	75
1139	不明	B	III	S67	青色整地土	24.0	0.5	1.2	-	-	-		63	75
1140	開元通寶	C	I	T62	焼土	24.0	0.9	2.3	(真書)	唐	621		63	75
1141	祥符元寶	C	I	Q61	SX1799	25.0	1.2	3.7	真書	北宋	1008		63	75
1142	皇宋通寶	C	I	T60	炭層	24.0	1.0	2.4	真書	北宋	1038		63	75
1143	嘉祐通寶	C	I	S59	-	24.4	1.1	2.7	篆書	北宋	1056		63	75
1144	元祐通寶	C	I	R63	粘土	24.6	1.1	3.7	行書	北宋	1086		63	75
1145	政和通寶	C	I	U61	焼土	24.0	1.0	2.4	篆書	北宋	1111		63	76
1146	大和通寶	C	I	Q61	SX1799	24.0	1.2	3.6	(真書)	後黎	1443		63	76
1147	開元通寶	C	II	A60	SD501	24.3	1.1	2.7	(真書)	唐	621		64	76
1148	開元通寶	C	II	U62	炭層	24.4	0.9	3.1	(真書)	唐	621		64	76
1149	開元通寶	C	II	S62	暗褐色土	24.6	0.7	1.6	(真書)	唐	621		64	76
1150	開元通寶	C	II	S62	暗褐色土	24.6	1.2	2.4	(真書)	唐	621		64	76
1151	開元通寶	C	II	T60	-	24.6	1.0	2.9	(真書)	唐	621		64	76
1152	淳化元寶	C	II	T62	-	24.4	1.0	2.9	行書	北宋	990		64	76
1153	咸平元寶	C	II	U62	炭層	23.7	1.0	3.1	真書	北宋	998		64	76
1154	祥符元寶	C	II	U60	炭層	24.8	0.9	2.9	真書	北宋	1008		64	76
1155	祥符元寶	C	II	U61	SD1735	23.1	0.7	2.1	真書	北宋	1008		64	76
1156	祥符元寶	C	II	U62	炭層	23.8	0.8	2.7	真書	北宋	1008		64	76
1157	祥符通寶	C	II	U62	炭層	23.9	0.9	2.8	真書	北宋	1008		64	76
1158	祥符通寶	C	II	U62	炭層	23.6	1.0	2.6	真書	北宋	1008		64	76
1159	祥符通寶	C	II	R60	炭層	24.8	1.2	2.3	真書	北宋	1008		64	76
1160	天禧通寶	C	II	Q60	SD1752	25.0	1.0	3.0	真書	北宋	1017		64	76

No	銭貨名	区画	面	地区	層/遺構	法量(mm, g)			書体	初鑄年		備考	図	PL
						径	厚	重						
1161	天禧通寶	C	II	R61	炭層	24.9	1.0	3.2	真書	北宋	1017		64	76
1162	天聖元寶	C	II	S61	有機質土	24.8	1.2	3.5	真書	北宋	1023		64	76
1163	天聖元寶	C	II	U62	炭層	25.0	1.1	3.2	篆書	北宋	1023		64	76
1164	天聖元寶	C	II	Q61	炭層	23.1	1.0	2.3	真書	北宋	1023		64	76
1165	景祐元寶	C	II	A59	SD501	24.8	1.0	3.3	真書	北宋	1034		64	76
1166	景祐元寶	C	II	R63	焼土	25.0	0.9	1.8	真書	北宋	1034		64	76
1167	景祐元寶	C	II	T62	焼土	23.7	1.0	3.0	篆書	北宋	1034		64	76
1168	皇宋通寶	C	II	S61	SD1735	24.6	0.9	3.0	篆書	北宋	1038		64	76
1169	皇宋通寶	C	II	R62	SD1735	24.2	1.1	3.7	篆書	北宋	1038		64	76
1170	皇宋通寶	C	II	U62	炭層	24.2	1.1	3.3	篆書	北宋	1038		64	76
1171	皇宋通寶	C	II	Q61	炭層	24.5	1.0	2.4	篆書	北宋	1038		64	76
1172	至和元寶	C	II	U62	炭層	23.8	1.1	3.6	真書	北宋	1054		64	76
1173	嘉祐通寶	C	II	R62	SD1735	24.8	0.8	3.1	真書	北宋	1056		64	76
1174	嘉祐通寶	C	II	Q61	炭層	24.0	1.0	2.9	篆書	北宋	1056		64	76
1175	治平通寶	C	II	U62	炭層	23.7	0.9	2.8	篆書	北宋	1064		64	76
1176	熙寧元寶	C	II	Q60	炭層	23.3	1.1	2.5	真書	北宋	1068		64	76
1177	熙寧元寶	C	II	R61	焼土	24.3	1.1	3.7	真書	北宋	1068		64	76
1178	熙寧元寶	C	II	R60	炭層	24.1	1.1	3.6	真書	北宋	1068		64	76
1179	熙寧元寶	C	II	R62	SD1735	24.1	1.1	3.2	真書	北宋	1068		64	76
1180	熙寧元寶	C	II	R60	炭層	24.0	1.1	3.5	真書	北宋	1068		64	76
1181	熙寧元寶	C	II	S60	炭層	24.7	0.8	3.0	真書	北宋	1068		64	76
1182	熙寧元寶	C	II	R63	焼土	23.8	1.3	3.7	真書	北宋	1068		64	76
1183	熙寧元寶	C	II	T60	焼土	23.4	1.2	2.8	篆書	北宋	1068		64	76
1184	熙寧元寶	C	II	R61	焼土	24.2	0.9	3.3	篆書	北宋	1068		64	76
1185	熙寧元寶	C	II	R61	焼土	24.1	1.3	4.4	篆書	北宋	1068		64	76
1186	熙寧元寶	C	II	T59	-	24.4	1.3	4.1	篆書	北宋	1068		64	76
1187	熙寧元寶	C	II	R61	焼土	23.6	1.0	3.2	篆書	北宋	1068		64	76
1188	熙寧元寶	C	II	U62	炭層	24.0	1.1	3.3	篆書	北宋	1068		64	76
1189	元豐通寶	C	II	T60	-	23.7	1.0	2.5	行書	北宋	1078		64	76
1190	元豐通寶	C	II	S60	炭層	25.0	1.0	2.6	行書	北宋	1078		65	76
1191	元豐通寶	C	II	S62	暗褐色土	24.3	1.1	3.1	行書	北宋	1078		65	76
1192	元豐通寶	C	II	Q61	炭層	23.9	1.2	3.4	篆書	北宋	1078		65	76
1193	元豐通寶	C	II	A59	SD501	24.5	1.3	4.4	篆書	北宋	1078		65	76
1194	元豐通寶	C	II	S62	暗褐色土	24.1	1.1	2.8	篆書	北宋	1078		65	76
1195	元祐通寶	C	II	R61	焼土	23.5	1.2	3.6	行書	北宋	1086		65	76
1196	元祐通寶	C	II	U62	-	24.0	1.1	3.4	篆書	北宋	1086		65	76
1197	元祐通寶	C	II	Q60	SD1572	23.7	1.1	2.4	篆書	北宋	1086		65	76
1198	元祐通寶	C	II	Q61	炭層	24.1	1.0	2.5	篆書	北宋	1086		65	76
1199	紹聖元寶	C	II	T61	炭層	23.6	1.0	2.7	行書	北宋	1094		65	76
1200	紹聖元寶	C	II	R62	SD1735	23.8	1.3	3.5	篆書	北宋	1094		65	76
1201	紹聖元寶	C	II	R61	炭層	23.8	0.8	3.0	篆書	北宋	1094		65	76
1202	紹聖元寶	C	II	U62	炭層	23.8	0.9	2.9	篆書	北宋	1094		65	76
1203	聖宋元寶	C	II	U62	炭層	24.5	1.0	3.0	行書	北宋	1101		65	76
1204	聖宋元寶	C	II	Q61	炭層	25.3	1.2	3.1	行書	北宋	1101		65	76
1205	聖宋元寶	C	II	U62	炭層	24.9	1.3	4.0	篆書	北宋	1101		65	76
1206	聖宋元寶	C	II	Q60	SD1572	24.6	1.3	3.6	篆書	北宋	1101		65	76
1207	聖宋元寶	C	II	R61	炭層	23.6	1.0	2.7	篆書	北宋	1101		65	76
1208	政和通寶	C	II	R61	炭層	24.7	1.1	3.2	分楷	北宋	1111		65	76
1209	政和通寶	C	II	R60	-	24.5	1.2	3.2	篆書	北宋	1111		65	76
1210	政和通寶	C	II	Q61	炭層	24.9	1.0	2.8	分楷	北宋	1111		65	76
1211	宣和通寶	C	II	U62	炭層	23.3	0.9	2.4	篆書	北宋	1119		65	76
1212	淳熙元寶	C	II	U62	炭層	23.7	1.0	3.1	真書	南宋	1174	背月星	65	76
1213	洪武通寶	C	II	U60	炭層	23.9	1.3	3.7	(真書)	明	1368		65	76
1214	洪武通寶	C	II	Q61	炭層	23.2	0.9	2.7	(真書)	明	1368		65	76
1215	洪武通寶	C	II	S61	有機質土	20.5	1.4	2.6	(真書)	明	1368	背一銭カ	65	76
1216	洪武通寶	C	II	Q62	SD1735	20.3	0.7	1.4	(真書)	明	1368		65	76
1217	永樂通寶	C	II	A59	SD501	25.5	1.5	4.3	(真書)	明	1408		65	76
1218	永樂通寶	C	II	Q60	炭層	25.3	1.4	3.3	(真書)	明	1408		65	76
1219	永樂通寶	C	II	T62	-	24.9	1.1	2.5	(真書)	明	1408		65	76
1220	永樂通寶	C	II	Q61	炭層	24.9	1.2	2.6	(真書)	明	1408		65	76
1221	景祐元寶	C	III	A60	SD501	24.7	1.1	3.4	真書	北宋	1034		65	76
1222	熙寧元寶	C	III	A59	SD501	24.2	1.2	3.0	篆書	北宋	1068		65	76
1223	熙寧元寶	C	III	A59	SD501	23.9	0.8	2.2	真書	北宋	1068		65	76
1224	開元通寶	D	I	O53	SX1686	23.7	1.2	3.0	(真書)	唐	621		65	76
1225	開元通寶	D	I	I52	炭層	24.0	1.1	3.0	(真書)	唐	621		65	77
1226	開元通寶	D	I	M54	焼土	25.1	1.4	3.2	(真書)	唐	621		65	77
1227	開元通寶	D	I	M54	焼土	24.0	1.2	2.5	(真書)	唐	621		65	77
1228	開元通寶	D	I	S58	SD1574	23.6	1.1	2.7	(真書)	唐	621		66	77
1229	咸平元寶	D	I	A55	SS493	24.3	1.0	2.4	真書	北宋	998		66	77
1230	咸平元寶	D	I	A52	SD1590	24.5	0.9	3.0	真書	北宋	998		66	77
1231	景德元寶	D	I	M54	焼土	25.3	1.3	3.1	真書	北宋	1004		66	77
1232	景德元寶	D	I	R52	SB1559内焼土	24.3	1.1	2.3	真書	北宋	1004		66	77
1233	景德元寶	D	I	S58	-	24.2	1.0	2.3	真書	北宋	1004		66	77
1234	祥符元寶	D	I	A52	SD1590	24.1	0.9	2.1	真書	北宋	1008		66	77
1235	祥符元寶	D	I	Q52	焼土	25.0	1.2	3.8	真書	北宋	1008		66	77
1236	天禧通寶	D	I	R51	焼土	24.8	0.8	2.1	真書	北宋	1017		66	77
1237	天禧通寶	D	I	M54	焼土	25.5	1.3	3.2	真書	北宋	1017		66	77
1238	天聖元寶	D	I	R56	黄土	24.5	1.2	3.2	真書	北宋	1023		66	77
1239	天聖元寶	D	I	M55	ピット内焼土	22.7	1.1	2.3	真書	北宋	1023		66	77
1240	天聖元寶	D	I	M51	焼土	24.7	1.1	3.7	真書	北宋	1023		66	77
1241	天聖元寶	D	I	M54	焼土	24.1	1.3	3.1	真書	北宋	1023		66	77
1242	皇宋通寶	D	I	O56	焼土	24.9	1.3	3.2	真書	北宋	1038		66	77
1243	皇宋通寶	D	I	T58	SD1574	24.6	0.9	2.0	真書	北宋	1038		66	77
1244	皇宋通寶	D	I	T54	焼土	24.7	0.9	1.9	真書	北宋	1038		66	77
1245	皇宋通寶	D	I	A52	SD1590	24.8	1.0	2.5	真書	北宋	1038		66	77
1246	皇宋通寶	D	I	T57	SX1675	24.0	1.0	2.9	真書	北宋	1038		66	77
1247	皇宋通寶	D	I	U56	-	24.5	1.4	3.6	真書	北宋	1038		66	77
1248	皇宋通寶	D	I	O56	焼土	24.9	1.1	3.3	篆書	北宋	1038		66	77
1249	皇宋通寶	D	I	U52	焼土	24.7	1.4	3.6	篆書	北宋	1038		66	77

No	銭貨名	区画	面	地区	層/遺構	法量(mm,g)			書体	初鑄年		備考	図	PL
						径	厚	重						
1250	皇宋通寶	D	I	Q52	焼土	23.3	1.0	2.6	篆書	北宋	1038		66	77
1251	皇宋通寶	D	I	U52	焼土	24.0	0.9	2.6	真書	北宋	1038		66	77
1252	嘉祐通寶	D	I	M54	焼土	24.4	1.1	2.9	篆書	北宋	1056		66	77
1253	嘉祐通寶	D	I	O56	焼土	23.5	1.2	3.0	真書	北宋	1056		66	77
1254	熙寧元寶	D	I	A52	SD1590	23.4	1.3	2.9	真書	北宋	1068		66	77
1255	熙寧元寶	D	I	A55	SD1590	23.7	1.3	3.3	真書	北宋	1068		66	77
1256	熙寧元寶	D	I	T53	焼土	23.4	1.1	3.0	真書	北宋	1068		66	77
1257	熙寧元寶	D	I	M54	焼土	23.7	1.4	3.7	真書	北宋	1068		66	77
1258	熙寧元寶	D	I	T57	SX1675	23.5	1.2	3.1	篆書	北宋	1068		66	77
1259	熙寧元寶	D	I	U54	焼土	24.1	1.0	3.0	篆書	北宋	1068		66	77
1260	元豊通寶	D	I	U55	SD1578	24.7	1.0	2.7	篆書	北宋	1078		66	77
1261	元豊通寶	D	I	A55	SD1590	24.4	1.2	2.9	篆書	北宋	1078		66	77
1262	元祐通寶	D	I	Q52	焼土	24.4	1.2	3.4	篆書	北宋	1086		66	77
1263	元祐通寶	D	I	M56	SD1574	23.6	0.7	1.5	篆書	北宋	1086		66	77
1264	元祐通寶	D	I	J52	灰層	24.1	1.1	3.1	篆書	北宋	1086		66	77
1265	元祐通寶	D	I	A52	SD1590	24.5	1.0	2.9	行書	北宋	1086		66	77
1266	聖宋元寶	D	I	N55	-	24.6	0.8	2.0	行書	北宋	1101		66	77
1267	聖宋元寶	D	I	T58	SD1574	24.7	1.0	2.3	行書	北宋	1101		66	77
1268	聖宋元寶	D	I	M54	焼土	24.0	0.9	2.7	行書	北宋	1101		66	77
1269	聖宋元寶	D	I	T58	-	24.1	1.2	2.6	篆書	北宋	1101		66	77
1270	大觀通寶	D	I	U53	SD1579	24.9	1.0	2.6	(真書)	北宋	1107		66	77
1271	政和通寶	D	I	T54	焼土	24.1	1.4	3.5	分楷	北宋	1111		66	77
1272	政和通寶	D	I	A57	-	23.8	1.0	3.0	篆書	北宋	1111		67	77
1273	正隆元寶	D	I	T54	焼土	23.8	0.9	1.9	(真書)	金	1157		67	77
1274	淳熙元寶	D	I	M54	焼土	24.1	1.1	2.9	真書	南宋	1174	背十一、十二、十三のいずれか	67	77
1275	洪武通寶	D	I	M54	焼土	23.0	1.5	3.2	真書	明	1368		67	77
1276	洪武通寶	D	I	U53	SD1579	22.6	1.1	2.7	(真書)	明	1368		67	77
1277	洪武通寶	D	I	N55	SD1583	23.2	1.3	3.0	(真書)	明	1368	マ頭通・単点通	67	77
1278	永樂通寶	D	I	K55	黄土	25.0	1.3	3.4	(真書)	明	1408		67	77
1279	永樂通寶	D	I	K55	黄土	25.6	1.2	2.7	(真書)	明	1408		67	77
1280	永樂通寶	D	I	R52	焼土	23.1	0.8	1.2	(真書)	明	1408		67	77
1281	朝鮮通寶	D	I	T58	SD1574	24.1	1.1	2.9	真書	朝鮮	1423		67	77
1282	宣德通寶	D	I	J55	SD1585	24.8	0.9	1.3	(真書)	明	1433		67	77
1283	開元通寶	D	II	R52	黄土	23.5	1.1	2.7	(真書)	唐	621		67	77
1284	至道元寶	D	II	S58	-	23.0	0.9	2.3	真書	北宋	995		67	77
1285	至道元寶	D	II	T54	焼土	24.7	1.0	2.6	真書	北宋	995		67	77
1286	至道元寶	D	II	U58	SD1574	24.6	0.9	3.3	行書	北宋	995		67	77
1287	至道元寶	D	II	J54	粘土	24.2	1.1	2.8	行書	北宋	995		67	77
1288	至道元寶	D	II	N54	粘土	24.0	1.0	2.6	草書	北宋	995		67	77
1289	至道元寶	D	II	O56	暗褐色土	23.1	0.9	2.2	草書	北宋	995		67	77
1290	祥符通寶	D	II	R52	黄土	24.5	0.9	2.5	真書	北宋	1008		67	77
1291	祥符通寶	D	II	T52	黄土	24.9	0.8	2.1	真書	北宋	1008		67	77
1292	天禧通寶	D	II	S56	焼土	24.0	1.1	2.8	真書	北宋	1017		67	77
1293	天聖元寶	D	II	T53	-	24.8	1.5	3.9	真書	北宋	1023		67	77
1294	天聖元寶	D	II	R58	SD1574	22.4	0.9	2.6	篆書	北宋	1023		67	77
1295	明道元寶	D	II	R56	焼土	24.7	1.1	2.8	篆書	北宋	1032		67	77
1296	景祐元寶	D	II	T54	焼土	22.3	0.9	2.4	真書	北宋	1034		67	77
1297	皇宋通寶	D	II	A54	SD1590	24.0	0.8	2.0	真書	北宋	1038		67	77
1298	皇宋通寶	D	II	R52	黄土	23.9	1.0	2.5	真書	北宋	1038		67	77
1299	皇宋通寶	D	II	U58	SD1574	23.9	1.0	3.2	真書	北宋	1038		67	77
1300	皇宋通寶	D	II	L54	SD1584	24.5	1.0	2.0	真書	北宋	1038		67	77
1301	皇宋通寶	D	II	R56	焼土	24.5	1.2	3.3	真書	北宋	1038		67	77
1302	皇宋通寶	D	II	S51	黄土	24.5	1.0	3.0	篆書	北宋	1038		67	77
1303	皇宋通寶	D	II	U54	SK1758	23.8	1.1	2.2	篆書	北宋	1038		67	77
1304	皇宋通寶	D	II	I52	粘土	24.5	1.0	2.5	篆書	北宋	1038		67	77
1305	皇宋通寶	D	II	J54	粘土	24.5	1.0	2.8	篆書	北宋	1038		67	78
1306	皇宋通寶	D	II	T56	焼土	24.7	1.1	3.2	篆書	北宋	1038		67	78
1307	至和元寶	D	II	R58	炭層	24.2	1.0	2.7	真書	北宋	1054		67	78
1308	至和元寶	D	II	Q51	SX1832	23.3	1.1	2.7	篆書	北宋	1054		67	78
1309	嘉祐元寶	D	II	R52	黄土	24.6	1.1	2.8	篆書	北宋	1056		67	78
1310	嘉祐元寶	D	II	Q54	SX1829	23.1	1.0	2.3	篆書	北宋	1056		67	78
1311	治平元寶	D	II	T56	焼土	23.6	1.2	3.5	真書	北宋	1064		67	78
1312	熙寧元寶	D	II	R56	暗褐色土	24.8	0.8	2.7	真書	北宋	1068		67	78
1313	熙寧元寶	D	II	Q51	SX1832	24.6	1.1	3.1	真書	北宋	1068		67	78
1314	熙寧元寶	D	II	K52	炭層	24.1	1.0	2.7	真書	北宋	1068		67	78
1315	熙寧元寶	D	II	T56	焼土	23.6	1.2	3.6	真書	北宋	1068		68	78
1316	熙寧元寶	D	II	R54	SX1829	24.0	1.2	3.6	真書	北宋	1068		68	78
1317	熙寧元寶	D	II	R51	SK1764	23.5	1.3	3.0	篆書	北宋	1068		68	78
1318	熙寧元寶	D	II	Q51	SX1832	24.2	1.1	2.9	篆書	北宋	1068		68	78
1319	熙寧元寶	D	II	S51	SK1764	23.2	1.0	2.7	篆書	北宋	1068		68	78
1320	元豊通寶	D	II	S56	焼土	24.1	1.2	3.6	行書	北宋	1078		68	78
1321	元豊通寶	D	II	T53	-	23.8	1.2	3.1	篆書	北宋	1078		68	78
1322	元豊通寶	D	II	I56	黄土	24.0	1.1	3.2	篆書	北宋	1078		68	78
1323	元祐通寶	D	II	R52	黄土	23.9	0.8	2.4	行書	北宋	1086		68	78
1324	元祐通寶	D	II	U58	SD1574	24.1	1.1	3.7	篆書	北宋	1086		68	78
1325	元祐通寶	D	II	R56	焼土	24.4	1.0	3.1	篆書	北宋	1086		68	78
1326	元祐通寶	D	II	R56	焼土	23.7	1.0	2.0	行書	北宋	1086		68	78
1327	元祐通寶	D	II	S58	SD1574	24.2	1.0	3.3	篆書	北宋	1086		68	78
1328	紹聖元寶	D	II	R52	黄土	23.7	1.2	2.9	篆書	北宋	1094		68	78
1329	紹聖元寶	D	II	R52	黄土	23.7	1.1	2.8	篆書	北宋	1094		68	78
1330	元符通寶	D	II	R52	黄土	23.6	1.1	2.7	篆書	北宋	1098		68	78
1331	聖宋元寶	D	II	S51	黄土	24.3	1.4	3.1	行書	北宋	1101		68	78
1332	政和通寶	D	II	P55	粘土	24.5	1.1	2.8	篆書	北宋	1111		68	78
1333	政和通寶	D	II	U54	SK1758	24.7	1.0	2.6	篆書	北宋	1111		68	78
1334	宣和通寶	D	II	U58	SD1574	25.8	0.9	2.6	分楷	北宋	1119		68	78
1335	洪武通寶	D	II	S58	SD1574	22.0	0.8	2.1	(真書)	明	1368		68	78
1336	洪武通寶	D	II	S51	黄土	23.1	1.2	2.5	(真書)	明	1368		68	78
1337	永樂通寶	D	II	O56	暗褐色土	24.4	1.1	2.8	(真書)	明	1408		68	78
1338	永樂通寶	D	II	T53	-	24.3	1.1	2.8	(真書)	明	1408		68	78

No	銭貨名	区画	面	地区	層/遺構	法量(mm,g)			書体	初鑄年		備考	図	PL
						径	厚	重						
1339	開元通寶	E	I	J51	SD1587	245	1.1	3.0	(真書)	唐	621	通下屋カ	68	78
1340	天聖元寶	E	I	J50	ガラ石中	250	1.3	3.1	真書	北宋	1023		68	78
1341	熙寧元寶	E	I	I51	SF1617	247	1.3	3.5	真書	北宋	1068		68	78
1342	熙寧元寶	E	I	I51	SF1617	248	1.0	3.1	篆書	北宋	1068		68	78
1343	元祐通寶	E	I	I51	SF1617	239	1.0	3.2	篆書	北宋	1086		68	78
1344	大觀通寶	E	I	L50	焼土	240	1.2	2.4	(真書)	北宋	1107		68	78
1345	紹熙元寶	E	I	I51	ガラ石中	233	1.1	2.5	(真書)	南宋	1190	背四	68	78
1346	開元通寶	E	II	R49	焼土	235	0.8	2.4	(真書)	唐	621		68	78
1347	至道元寶	E	II	S49	焼土	236	0.6	1.2	真書	北宋	995		68	78
1348	祥符元寶	E	II	Q50	砂利	242	1.1	3.1	真書	北宋	1008		68	78
1349	天聖元寶	E	II	Q50	砂利	243	1.0	2.4	真書	北宋	1023		68	78
1350	治平元寶	E	II	Q50	砂利	241	1.1	3.0	真書	北宋	1064		68	78
1351	太平通寶	(C)	I	A61	SS493	240	1.1	2.4	(真書)	北宋	976		69	78
1352	祥符元寶	D/E	I	P51	ガラ石中	248	0.8	2.0	真書	北宋	1008		69	78
1353	天聖元寶	B/C	I	S63	焼土	237	0.9	2.4	真書	北宋	1023		69	78
1354	天聖元寶	D/E	I	P51	SD1582	252	1.4	3.4	篆書	北宋	1023		69	78
1355	嘉祐元寶	B/D	I	N56	SD1574	230	1.1	3.2	真書	北宋	1056		69	78
1356	嘉祐通寶	D/E	I	P51	SD1582	238	1.5	3.9	篆書	北宋	1056		69	78
1357	嘉祐通寶	D/E	I	P51	SD1582	240	0.8	2.0	篆書	北宋	1056		69	78
1358	熙寧元寶	C/D	I	A58	SD501	233	1.2	3.5	真書	北宋	1068		69	78
1359	元豐通寶	D/E	I	P51	SD1582	251	1.1	3.5	行書	北宋	1078		69	78
1360	紹聖元寶	D/E	I	P51	SD1582	237	1.2	2.7	行書	北宋	1094		69	78
1361	聖宋元寶	C/D	I	U58	SD501	244	1.0	3.2	行書	北宋	1101		69	78
1362	聖宋元寶	D/E	I	P51	SD1582	240	1.1	3.0	篆書	北宋	1101		69	78
1363	景定元寶	D/E	I	R50	SD1580	235	0.7	2.1	(真書)	南宋	1260	背元カ	69	78
1364	洪武通寶	B/D	I	Q56	SD1574	233	1.1	2.6	(真書)	明	1368	▽頭通・重点通カ	69	78
1365	洪武通寶	C/D	I	U58	SD501	241	0.9	2.1	(真書)	明	1368		69	78
1366	開元通寶	B/C	II	P61	SD1572	250	1.2	3.4	(真書)	唐	621		69	78
1367	開元通寶	B/D	II	L56	SD1574	240	1.0	2.9	(真書)	唐	621		69	78
1368	開元通寶	B/D	II	O56	SD1574	231	1.3	3.5	(真書)	唐	621		69	78
1369	開元通寶	B/D	II	Q56	SD1574	232	1.1	3.6	(真書)	唐	621		69	78
1370	開元通寶	D/E	II	R51	SD1580	235	1.1	2.5	(真書)	唐	621		69	78
1371	開元通寶	B/D	II	J57	SD1574	229	0.9	2.9	(真書)	唐	621		69	78
1372	淳化元寶	B/D	II	K57	SD1574	246	0.8	2.5	行書	北宋	990		69	78
1373	景元元寶	B/C	II	P61	SD1572	250	1.2	3.8					69	78
1374	祥符元寶	B/D	II	J57	SD1574	250	1.0	3.2	真書	北宋	1008		69	78
1375	祥符通寶	B/D	II	J57	SD1574	240	1.1	3.1	真書	北宋	1008		69	78
1376	祥符通寶	B/D	II	P56	SD1574	228	0.8	1.8	真書	北宋	1008		69	78
1377	天禧通寶	B/D	II	Q56	SD1574	244	1.1	3.3	真書	北宋	1017		69	78
1378	景祐元寶	B/D	II	J57	SD1574	243	1.2	3.2	真書	北宋	1034		69	78
1379	皇宋通寶	B/D	II	J57	SD1574	242	1.0	3.2	真書	北宋	1038		69	78
1380	皇宋通寶	B/D	II	Q56	SD1574	240	1.3	3.7	篆書	北宋	1038		69	78
1381	至和通寶	B/D	II	Q57	SD1574	245	1.1	3.0	真書	北宋	1054		69	78
1382	熙寧元寶	B/D	II	O56	SD1574	242	1.4	4.4	真書	北宋	1068		69	78
1383	熙寧元寶	B/D	II	Q57	SD1574	235	0.8	2.4	真書	北宋	1068		69	78
1384	元豐通寶	B/D	II	Q57	SD1574	237	1.2	3.6	行書	北宋	1078		69	78
1385	元豐通寶	B/D	II	K57	SD1574	237	1.1	3.4	行書	北宋	1078		69	79
1386	元豐通寶	B/D	II	K57	SD1574	230	0.9	2.8	行書	北宋	1078		69	79
1387	元祐通寶	B/D	II	J57	SD1574	245	1.3	4.0	篆書	北宋	1086		69	79
1388	元祐通寶	B/D	II	P56	SD1574	223	0.9	2.4	篆書	北宋	1086		69	79
1389	元祐通寶	D/E	II	P51	SD1580	242	1.1	2.6	篆書	北宋	1086		69	79
1390	紹聖元寶	B/D	II	P56	SD1574	239	1.2	2.8	篆書	北宋	1094		69	79
1391	紹聖元寶	B/D	II	Q56	SD1574	239	1.1	3.0	行書	北宋	1094		69	79
1392	聖宋元寶	B/D	II	Q56	SD1574	233	1.0	2.4	篆書	北宋	1101		69	79
1393	大觀通寶	B/D	II	L56	SD1574	245	1.4	3.4	(真書)	北宋	1107		70	79
1394	政和通寶	B/D	II	Q56	SD1574	244	1.2	3.6	篆書	北宋	1111		70	79
1395	洪武通寶	B/D	II	Q57	SD1574	225	1.3	2.4	(真書)	明	1368		70	79
1396	祥符元寶	C/D	III	A(Uカ)58	SD501	223	1.0	2.4	真書	北宋	1008		70	79
1397	皇宋通寶	B/D	III	Q57	腐植土	242	0.9	2.7	篆書	北宋	1038		70	79
1398	元豐通寶	C/D	III	A(Uカ)58	SD501	248	1.2	2.7	行書	北宋	1078		70	79
1399	開元通寶	-	II	表採	-	230	0.8	2.1	(真書)	唐	621		70	79
1400	開元通寶	-	II	表採	-	244	1.0	2.8	(真書)	唐	621		70	79
1401	咸平元寶	-	-	15-16区	床土	228	1.0	1.9	真書	北宋	998		70	79
1402	咸平元寶	-	II	表採	-	240	1.1	2.6	真書	北宋	998		70	79
1403	咸平元寶	-	II	表採	-	231	0.9	2.4	真書	北宋	998		70	79
1404	祥符元寶	-	-	19区	床土	245	0.7	2.3	真書	北宋	1008		70	79
1405	天禧通寶	-	-	9-14区	床土	245	1.0	2.1	(真書)	北宋	1017		70	79
1406	天聖元寶	-	II	-	-	249	1.2	2.9	真書	北宋	1023		70	79
1407	天聖元寶	-	II	-	-	225	0.9	2.3	真書	北宋	1023		70	79
1408	皇宋通寶	-	II	-	SS493	244	1.1	3.1	真書	北宋	1038		70	79
1409	嘉祐通寶	-	-	21区	床土	238	0.9	2.4	真書	北宋	1056		70	79
1410	嘉祐通寶	-	II	表採	-	230	1.1	2.4	篆書	北宋	1056		70	79
1411	治平元寶	-	II	表採	-	238	0.9	3.0	真書	北宋	1064		70	79
1412	治平元寶	-	-	15-16区	床土	240	1.0	2.0	篆書	北宋	1064		70	79
1413	熙寧元寶	-	-	8-11区	床土	242	1.3	1.8	篆書	北宋	1068		70	79
1414	熙寧元寶	-	II	表採	-	250	1.1	3.8	真書	北宋	1068		70	79
1415	元豐通寶	-	-	8-11区	床土	225	1.2	1.6	行書	北宋	1078		70	79
1416	元豐通寶	-	-	15-16区	床土	235	1.0	2.5	行書	北宋	1078		70	79
1417	元豐通寶	-	-	18-28区	床土	239	1.1	2.3	行書	北宋	1078		70	79
1418	元祐通寶	-	-	21区	床土	241	1.1	2.8	行書	北宋	1086		70	79
1419	元祐通寶	-	-	15-16区	床土	241	1.5	3.9	篆書	北宋	1086		70	79
1420	紹聖元寶	-	II	表採	-	234	1.0	2.6	篆書	北宋	1094		70	79
1421	大觀通寶	-	-	8-11区	床土	243	1.3	1.9	(真書)	北宋	1107		70	79
1422	永樂通寶	-	-	3区	床土	249	1.1	2.7	(真書)	明	1408		70	79
1423	永樂通寶	-	-	18-28区	床土	247	1.3	3.9	(真書)	明	1408		70	79
1424	永樂通寶	-	II	-	-	247	1.3	3.4	(真書)	明	1408		70	79
1425	永樂通寶	-	II	-	-	247	1.1	3.6	(真書)	明	1408		70	79
1426	永樂通寶	-	-	5区	床土	250	1.5	1.9	(真書)	明	1408		70	79
1427	延寧通寶	-	-	6-11区	床土	238	1.0	2.2	(真書)	後黎	1443		70	79

## V まとめ

第40次発掘調査区は、B区とした中央部の大規模な区画が第46次発掘調査区へ、E区とした小規模な区画群が第36次発掘調査区へと続いており、町割の区画単位としては完結していない。一方、赤渕・奥間野・吉野本地区として括られるこの一帯の調査成果については、一乗谷の都市計画を語るうえで欠かせないものとして、すでに多くの場所で総合的に紹介、論じられている(小野1997、小野・水藤編1990等)。ここでは、それらの内容にも触れつつ、若干のまとめを行う。

### 遺構面の時期について

本報告では検出した各遺構面を上層から下層へ向かってⅠ～Ⅳ遺構面とした。これは当調査区における相対的な区分であって、一乗谷全体に敷衍できるものではない。一乗谷全体の時期区分としては小野正敏氏が、Ⅰ期：一乗谷が町になる前の14～15世紀前半、Ⅱ期：越前国の首都としての「一乗谷」が成立した15世紀後半、Ⅲa期：文明14年(1482)の大火後に再建された町、Ⅲb期：Ⅲa期とⅢc期の中間、Ⅲc期：天正元年(1573)に滅亡した時の町、といった具合に整理し、これまで発掘された町の面のほとんどは同じ町割を踏襲したⅢ期のグループに含まれると述べている(小野前掲)。当調査区においても、東西道路SS493の下層で検出した遺構SX1824～1826が計画的な町割以前の遺構としてⅡ期に遡る可能性があるものの、Ⅰ～Ⅳ遺構面はすべてⅢ期に対比できる。Ⅰ遺構面をⅢc期、Ⅳ遺構面をⅢa期とすると、20～30年に1回は土地の高上げと建て替えが行われたことになる。各遺構面に炭・灰・焼土層が形成されていることから、その契機の多くは火災によるものであろう。なお、Ⅱ遺構面については、紀年銘のある石製盤(480)の出土から、天文20年(1551)以降と知ることができる。

### 町割の変遷について

挿図10は、各遺構面における遺構配置の模式図である。これによると、Ⅳ遺構面からⅠ遺構面まで東西道路SS493を基軸に、南北方向の石組溝SD1568・1572・1574・1580、同じく通路SS1564・1565・1567は一部作り替えられながらも位置を踏襲しており、A～E区とした大区画は維持されたといえよう。ただし、B区とD区の境界に比べて他はさほど明瞭なものではない。以下、各区画についてみる。

A区はⅡ遺構面までは一つの大きな区画であったようだが、Ⅰ遺構面の段階で小さな区画に分割される。ただし、B区との境界は一貫して明瞭さを欠く。

B区はⅡ遺構面まではB1区とした北西部とB2区とした南部との間が溝でおおよそ分けられるが、Ⅰ遺構面ではその境が認められなくなる。

C区はⅣ遺構面の段階から区割がなされ、Ⅰ遺構面まで続いている。なお、C区はⅡ遺構面まではむしろB1区と一体の区画であったようにもみえる。

D区はⅡ遺構面まではD1区とした北側とD2区とした中央部が一つの大きな区画であったが、Ⅰ遺構面の段階で分かれ、D1区は南北方向、D2区は東西方向に分割される。なお、南側のD3区との境界は一貫して存在する。

E区については、調査が各小区画の一部のみであり、他の区画のように区割の変遷を追うことはできない。残りの大部分を調査した第36次発掘調査においても、いくつかの小区画内で上下2面の遺構を検出しているが、区割の動向については不明である。



## 第40次発掘調査区の性格について

本調査区の中心的な区画であるB区については、周辺部も含め一石五輪塔や石仏、墨書土器などが出土したことで、当初から寺院跡と推測されていた。その後、第46次発掘調査において、B区の南端にあたる場所(C地区)で墓地が検出され、それは確定的となった。本調査区についてみると、中央部に位置する礎石建物SB1556は本堂、そこから東西道路SS493へ向かって延びるSS1565は参道と理解されており、Ⅱ遺構面の段階にはすでに存在していたとみられる。なお、第46次調査区の墓地も下層で検出されたものである。また、本堂と目されるSB1556は、東側が広い空地となっていることや参道SS1565の取り付け状況からみて、東向きの建物であったと考えられる(南1999)。

次にD区について、Ⅱ遺構面までの広い区画は、東西道路SS493に面する土塁SA1752を有すること、区画内に比較的大きな建物が複数存在することなどから武家屋敷と推測されるが、Ⅰ遺構面の段階にはこれが小規模な区画に分割され、町屋群を形成したと考えられる。注目されるのは、これらの中に井戸や石積施設(便所)をもたず、独立性を欠くといえる区画が存在する点であり、さらに南側のD3区から第46次調査区にかけては両方をもたない小区画が群をなしている。街路に直接面さない路地裏空間にあるこの小区画群について小野正敏氏は、共同井戸・便所をもつ町屋群で「借家」と推定している。これはE区で一部を、主には第36次調査区で確認された町屋群が、南北の基幹道路に面し、各戸に井戸と便所を備えていることと対照的であり、そこには住人の社会的階層差も想定されている(小野前掲)。

同様の状況はA区においても認められる。分割される前の性格については明らかでないが、B区との境界が不明瞭であることから、その敷地の一部とも考えられる<sup>1)</sup>。また、分割された後の小区画群についても、同様の理解をするならば、B区つまり寺院に従属する立場の居住者が想定されよう。

C区もA区と同じく元々B区の敷地であったところを切り取る形で造成されたと推測される。一方、早い段階に成立し何度も建て替えられていること、街路に面し、敷地も比較的広いことなどから、A区とはやや異なる立場の居住者を想定してもよいかもしれない。

## 出土遺物について

土器・陶磁器については、寺院を彷彿させる墨書土器(1431)や線刻土器(601)の他、白磁輪花鉢(23)や黒釉天目茶碗(123)、青磁鯨耳花瓶(532)、朝鮮半島製青磁水注(554)など、高級品とされる輸入陶磁器が目立つ。これらも寺院あるいは武家屋敷という当地区の性格を表しているといえよう。また、国産品でも一乗谷で出土例の少ない黄瀬戸釉を施す瀬戸・美濃製品(98・355・767・853～855)などがまとまって出土しており、住人の嗜好がうかがえる。

金属製品では建築金具の豊富さが特筆される。中でも目録釘(425)については従来注目されておらず、一乗谷の建築を考える上で今後重要な資料となるだろう<sup>2)</sup>。その他、工具・武具類も多種多様で、石工用とみられる手斧(273)や紡錘(676)といった職人の存在をうかがわせる道具も出土している。

木製品で特筆すべきは北国船の模型(907)である。これについては、青森県西津軽郡円覚寺に奉納されている船絵馬に描かれた北国船と共通する点が多く、それと確定された(水野2001)。細部まで表現した精巧な作りであり、船大工の手によるものとも考えられる。船絵馬と同じく奉納されたものとするれば、寺院に関連する遺物といえる。その他、多数出土した漆塗椀・皿が目立つ。ほとんどは黒地に赤色で漆絵を描いた普及品とみられるものだが、中には漆下地の上質品(442)も複数認められ、やはり寺院や武家屋敷に関係すると考えられる。また、石積施設を便所とする大きな根拠となった金隠(738)も重

要である。もちろん石積施設のすべてが便所というわけではなく、屋敷地内での位置や寄生虫卵分析などを踏まえて総合的に判断する必要があることはいうまでもない。さらに、金隠と特定された遺物は一乗谷のこれまでの調査で他になく、便所に必ずしも必要ない可能性、あるいは特徴のない板を取り付けた可能性も含めて検討する必要があるだろう。

石製品では石仏(142・979・980)や花瓶(141)、五輪塔(981～984)が寺院に関連する遺物として注目される。また、硯の出土量(破片数)が一乗谷の中で圧倒的に多く、第46次調査区で検出された大量の柿経や笹塔婆を書くのに用いられた可能性が指摘されている(宮永2013)。

硯とともに用いられたのが油煙墨(568)である。一乗谷でこれまで2点出土している内の1点であり(もう1点は第44次調査出土)、いずれもその特徴から奈良の興福寺二諦坊製と判断される。奈良から一乗谷に墨がもたらされた経緯については『大乗院寺社雑事記』や『興福寺文書』など<sup>3)</sup>にみることができ、かなりの量が入ってきているようである(水野2002)。

その他、ガラス製容器としては他に朝倉館跡出土の1点しかないガラス皿(575)は、武家屋敷の主要建物SB1560に近接する土坑SK1627から出土しており、その居住者像を考える手掛かりになるだろう。また、双六の駒石(315・483・970・971)からは遊びに興じる人々の生き生きとした様子が伝わってくる。

以上、他にも取り上げるべき事柄は多々あるが、紙数の都合上、これで本書のまとめとする。寺院や町屋群の敷地は第46次調査区に続いており、不足の点は今後計画しているその正報告書に譲りたい。

- 注 1) 調査担当者の一人である水野和雄氏は、建物SB1714とそれを囲む石垣SX1835(目地が白粘土で目張りされていたという)を「風呂屋」と考えている(水野2002)。  
2) 目録釘は第46次調査区でも1点確認されている(熊谷2020)。  
3) 最近紹介された「明星院宛朝倉義景書状」にも油煙墨に関する記述がある(石川2020)。

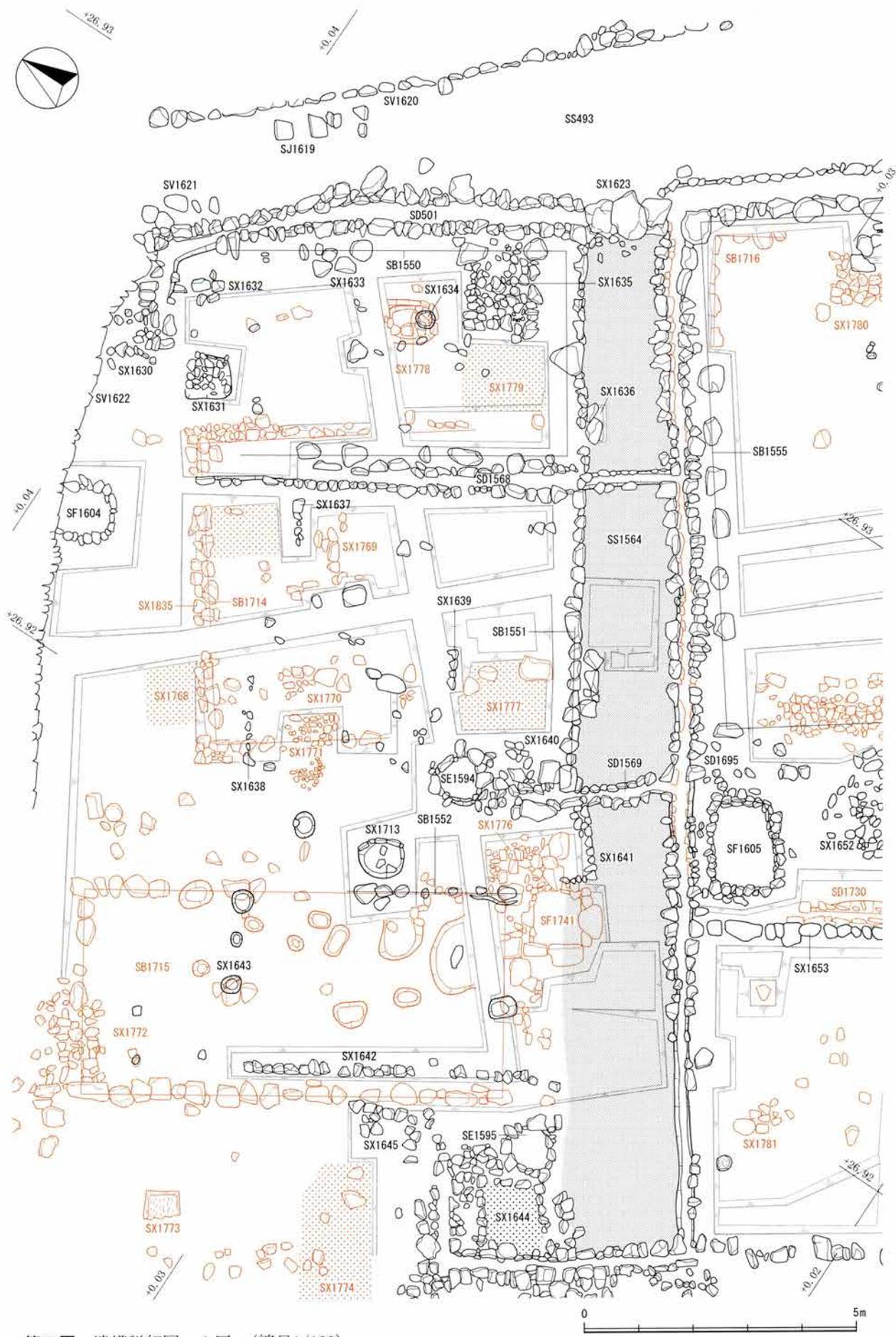
参考文献(本書全体) ※一乗谷朝倉氏遺跡の概報・報告書・展示図録については主なもののみ記載  
朝倉氏遺跡調査研究所1979『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告書Ⅰ』福井県教育委員会 真陽社  
石川美咲2020「平成30年度購入資料「明星院宛朝倉義景書状」について」『一乗谷朝倉氏遺跡資料館紀要2018』  
岩田 隆1985「一乗谷出土の朝鮮製陶磁器」『貿易陶磁研究』No.5 日本貿易陶磁研究会  
岩田 隆1986「中世遺跡出土の下駄」『朝倉氏遺跡資料館紀要1985』  
岩田 隆2002「一乗谷の消費と流通」『戦国大名朝倉氏と一乗谷』高志書院  
小野正敏1982「15、16世紀の染付碗・皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会  
小野正敏1983「一乗谷及び豊原寺出土の元様式の染付」『貿易陶磁研究』No.3 日本貿易陶磁研究会  
小野正敏・水藤真編1990『よみがえる中世6 実像の戦国城下町 越前一乗谷』平凡社  
小野正敏1997『戦国城下町の考古学 一乗谷からのメッセージ』講談社選書メチエ  
熊谷 透2020「一乗谷朝倉氏遺跡門ノ内地区出土の挽き板」『一乗谷朝倉氏遺跡資料館紀要2018』  
国立歴史民俗博物館1993『国立歴史民俗博物館資料調査報告4 日本出土の貿易陶磁』  
茶道資料館編1990『遺跡出土の朝鮮王朝陶磁-名碗と考古学-』茶道資料館・関西近世考古学研究会  
鈴木三男・能城修一1991「越前朝倉氏遺跡から出土した木製品の樹種」『朝倉氏遺跡資料館紀要1990』  
鈴木三男・能城修一1992「越前朝倉氏遺跡から出土した木製品の樹種(2)」『朝倉氏遺跡資料館紀要1991』  
瀬戸市史編纂委員会編1993『瀬戸市史 陶磁史篇四』愛知県瀬戸市  
武田昭子・赤沼英男・土屋信高2008「一乗谷朝倉氏遺跡出土漆器の下地調整に関する解析(1)」『一乗谷朝倉氏遺跡資料館紀要2007』  
月輪 泰1990「朝倉氏遺跡出土の銅銭について」『朝倉氏遺跡資料館紀要1989』  
中井 泉2014「一乗谷朝倉氏遺跡出土ガラスの分析」『第21回企画展 戦国時代の金とガラス』福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館  
福井県教育委員会・朝倉氏遺跡調査研究所1981『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡Ⅻ-昭和55年度発掘調査整備事業概報-』  
福井県教育委員会・福井県立朝倉氏遺跡資料館1982『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡ⅫⅢ-昭和56年度発掘調査整備事業概報-』  
福井県立朝倉氏遺跡資料館1983『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 県道鯖江・美山線改良工事に伴う発掘調査報告書』  
福井県立朝倉氏遺跡資料館1988『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告Ⅱ 第10・11、第54次調査』  
藤澤良祐2002「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『研究紀要第10輯』財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター  
藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院  
水野和雄2001『特別展 戦国城下町研究の最前線』福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館  
水野和雄2002「一乗谷のくらし」『戦国大名朝倉氏と一乗谷』高志書院  
水村伸行2002「一乗谷朝倉氏遺跡出土染付についての一様相」『一乗谷朝倉氏遺跡資料館紀要2002』  
南洋一郎1987「漆碗・皿に関する二、三の問題」『朝倉氏遺跡資料館紀要1986』  
南洋一郎1999「40・46次調査区の寺院の発掘」『第10回企画展 一乗谷の宗教と信仰』福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館  
宮永一美2013「展示概説」『第20回企画展 戦国のまなびや』福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館



※赤線が下層遺構(以下同じ)



第2図 下層遺構面全体図 (縮尺1/200)

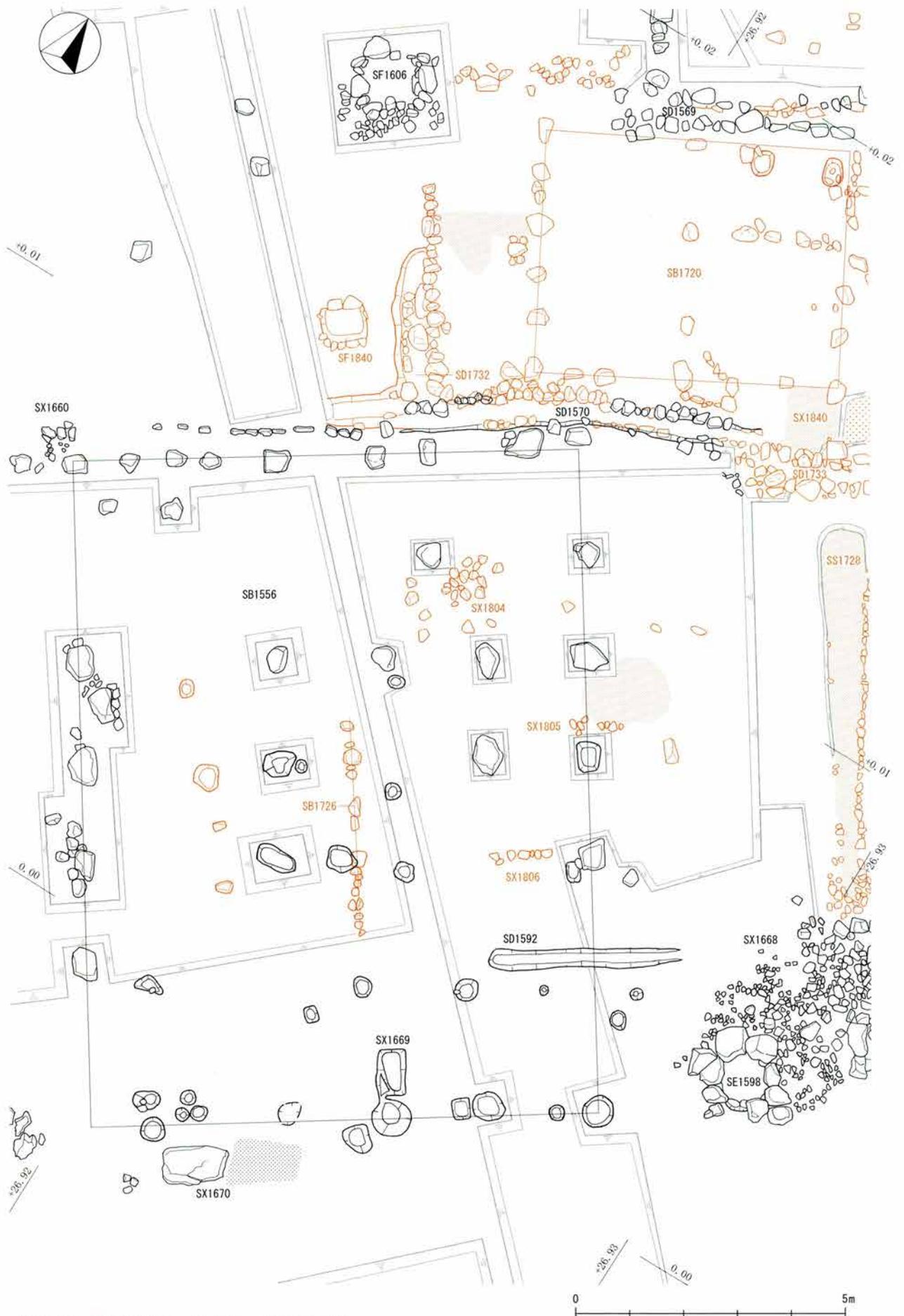


第3図 遺構詳細図 A区 (縮尺1/100)

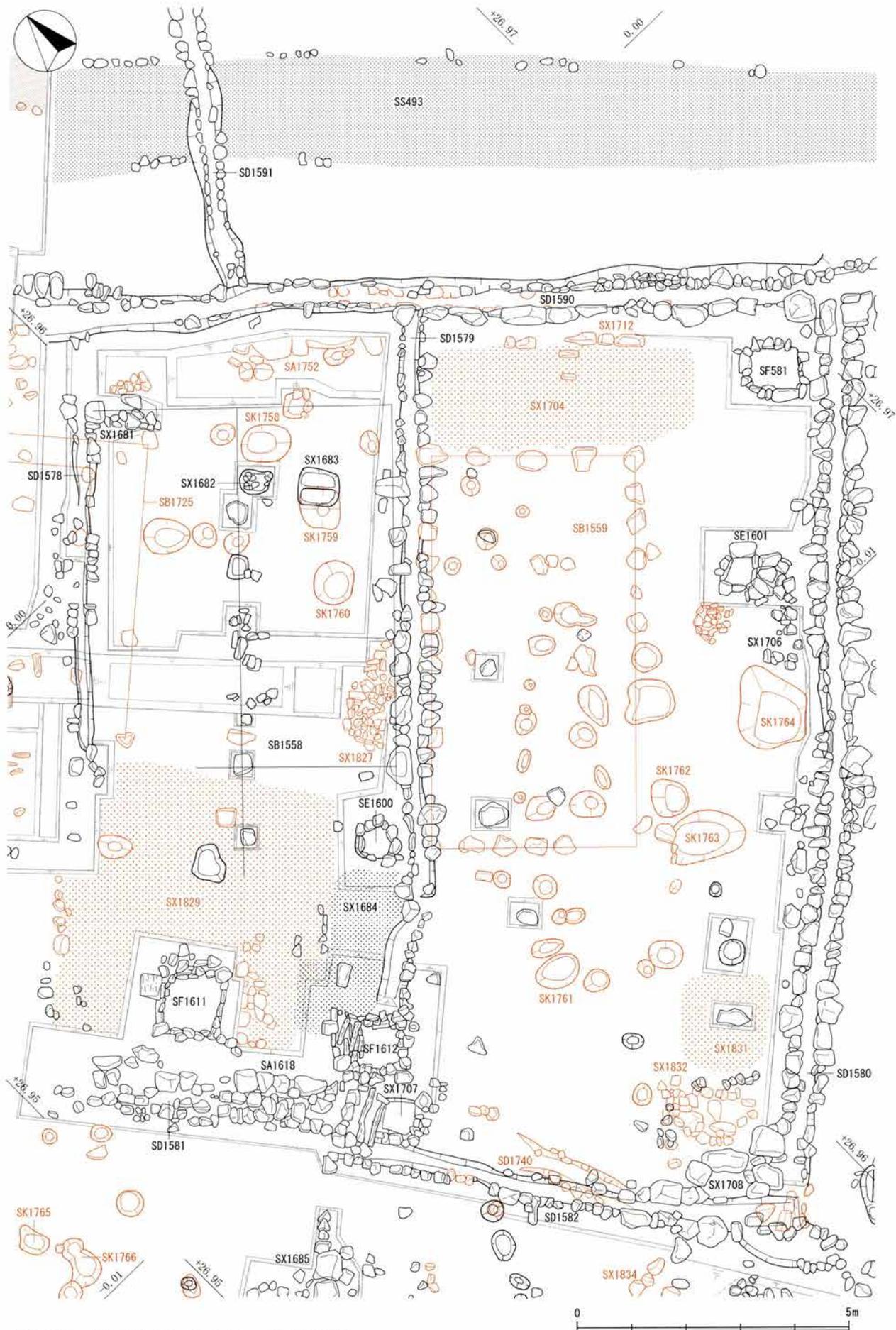




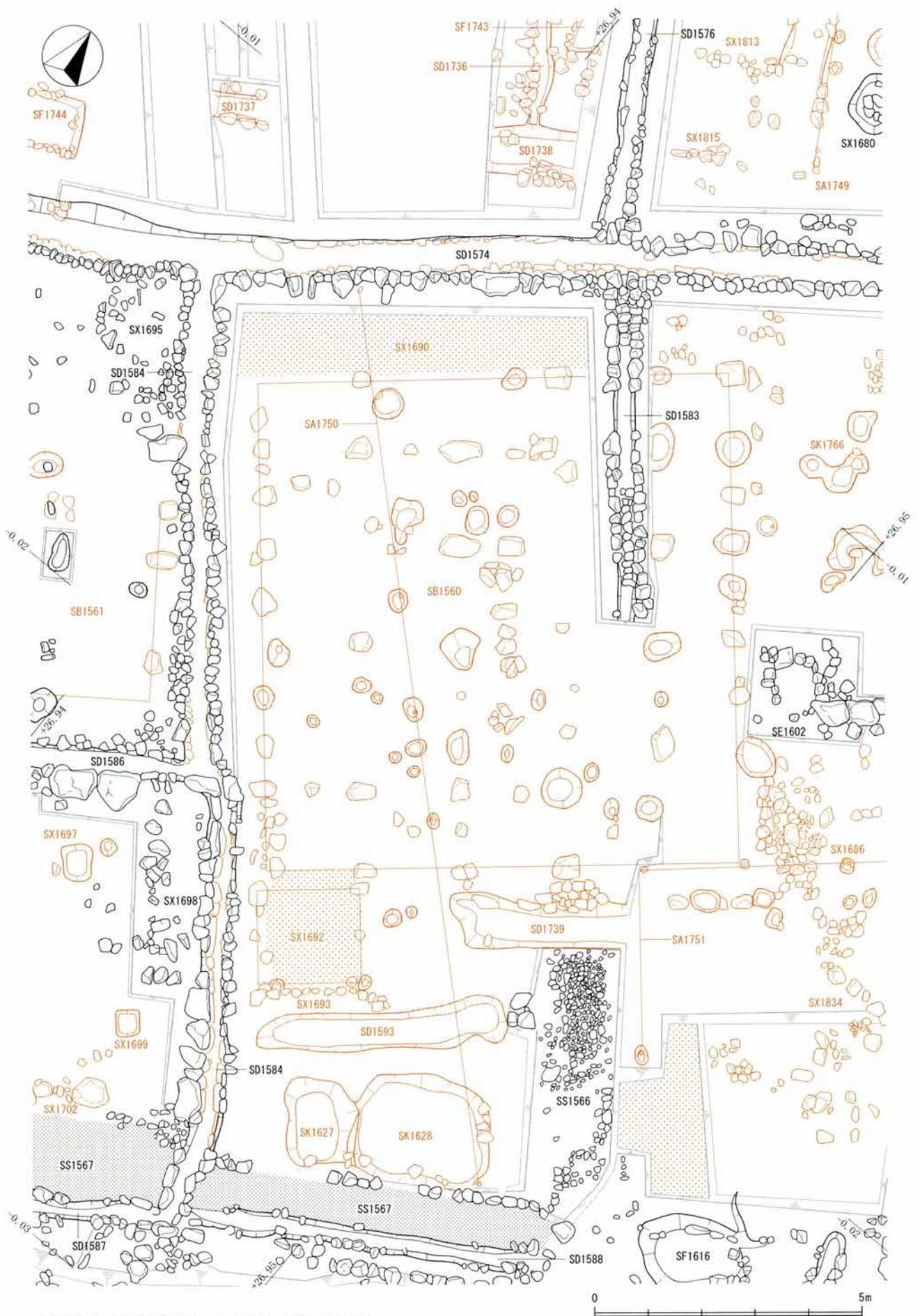
第5図 遺構詳細図 C区 (縮尺1/100)



第6図 遺構詳細図 B2区 (縮尺1/100)

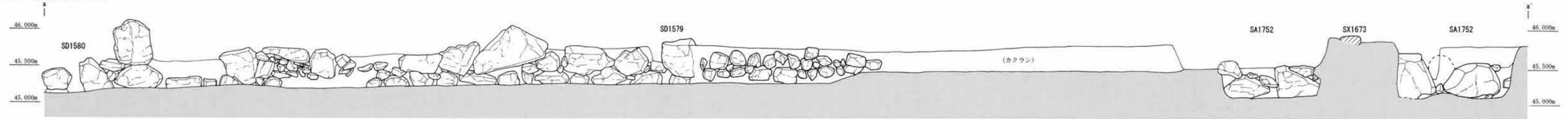


第7図 遺構詳細図 D1区 (縮尺1/100)

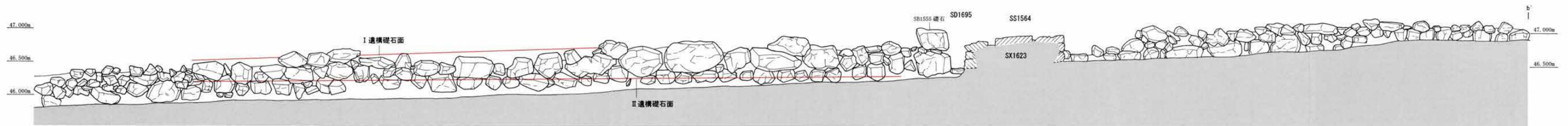
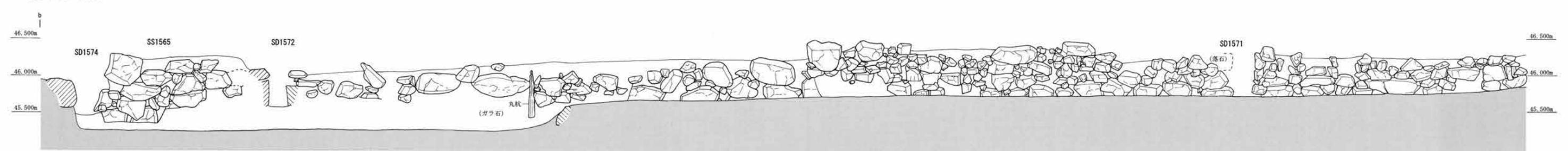


第8図 遺構詳細図 D2区 (縮尺1/100)

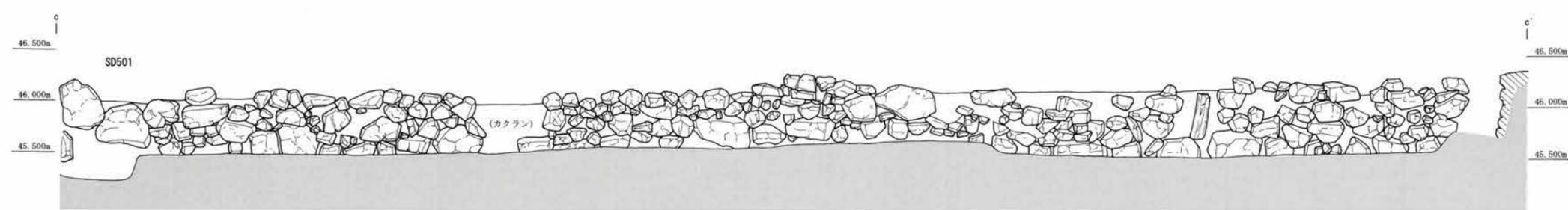
SD1590 南側石組立面図



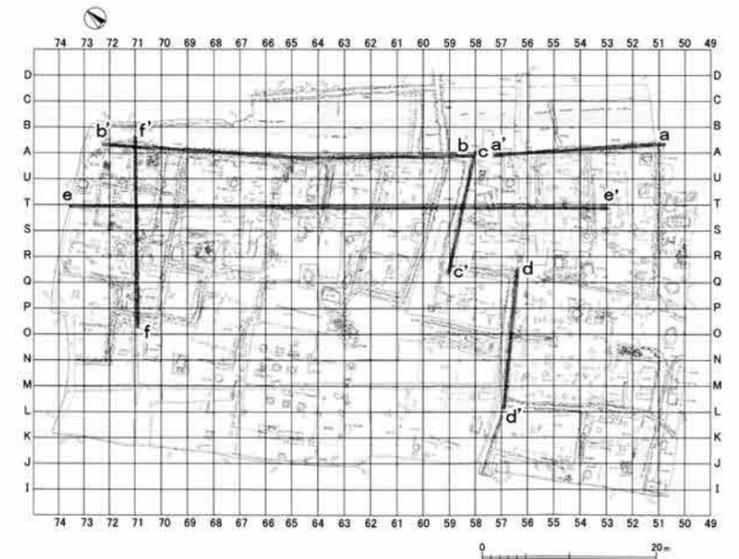
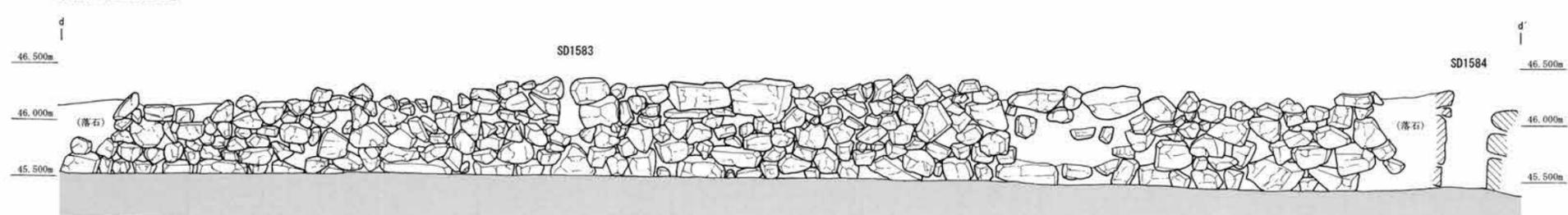
SD501 南側石組立面図



SD1574 東側石組立面図①



SD1574 東側石組立面図②

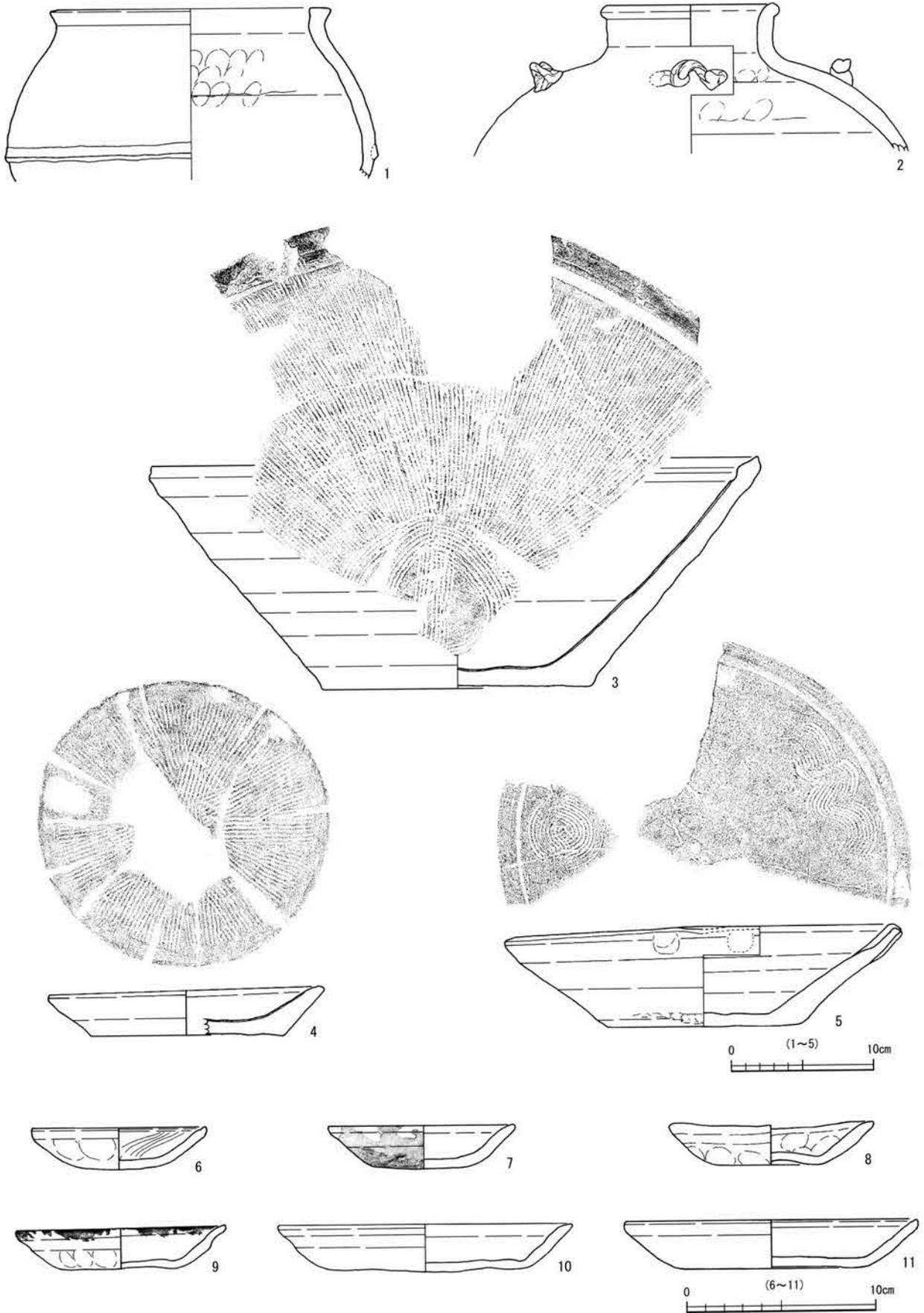


溝石立面図・土層断面図範囲



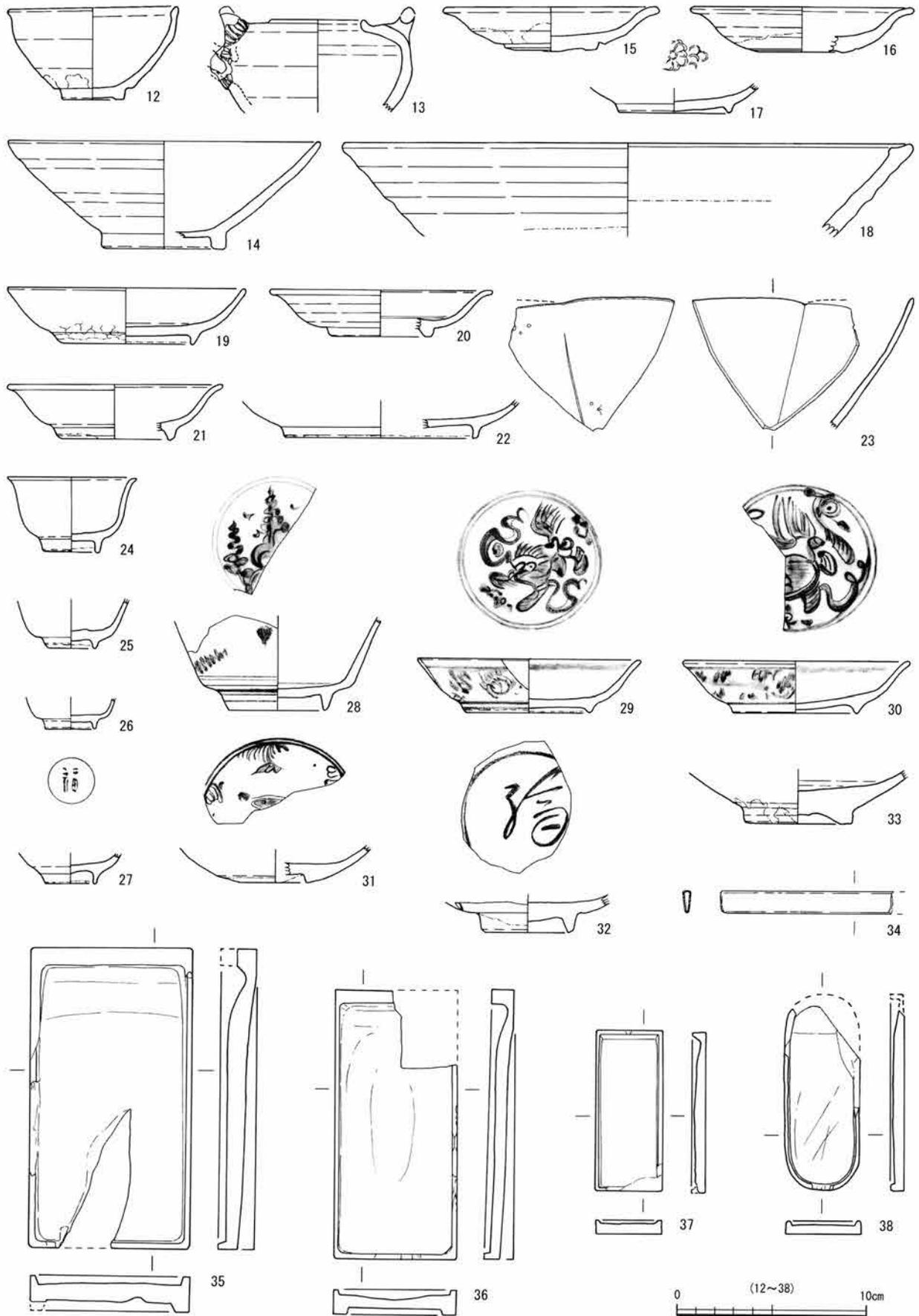


A区I遺構面(1)



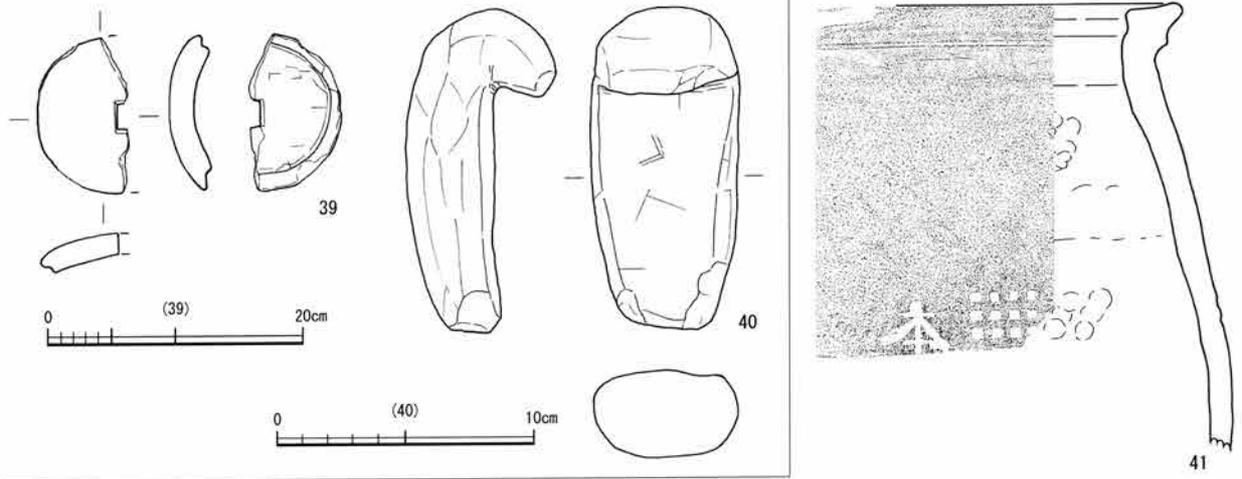
第11図 出土遺物 A区I遺構面(1)

A区I遺構面(2)

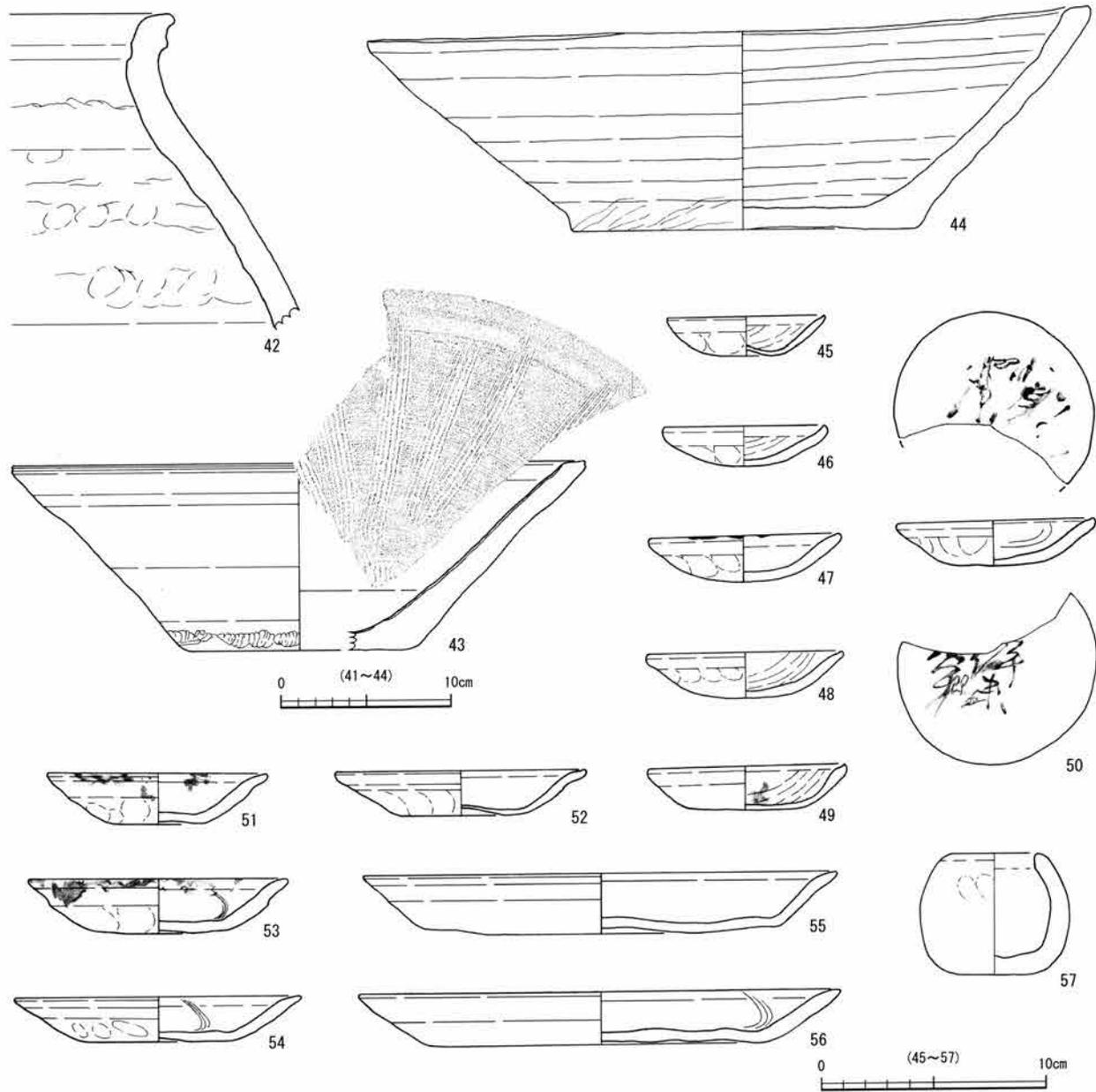


第12図 出土遺物 A区I遺構面(2)

A区I遺構面(3)

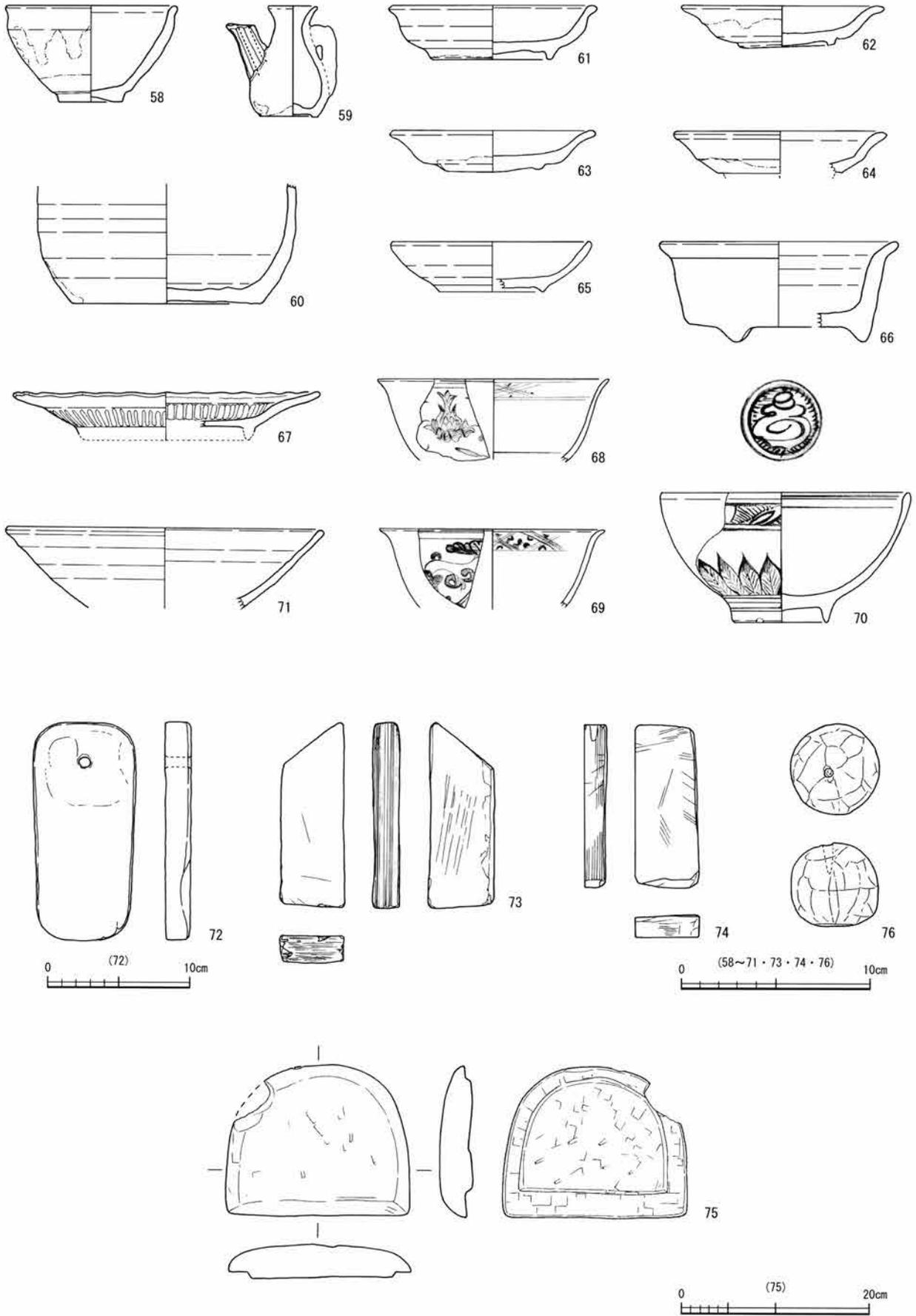


A区II遺構面(1)



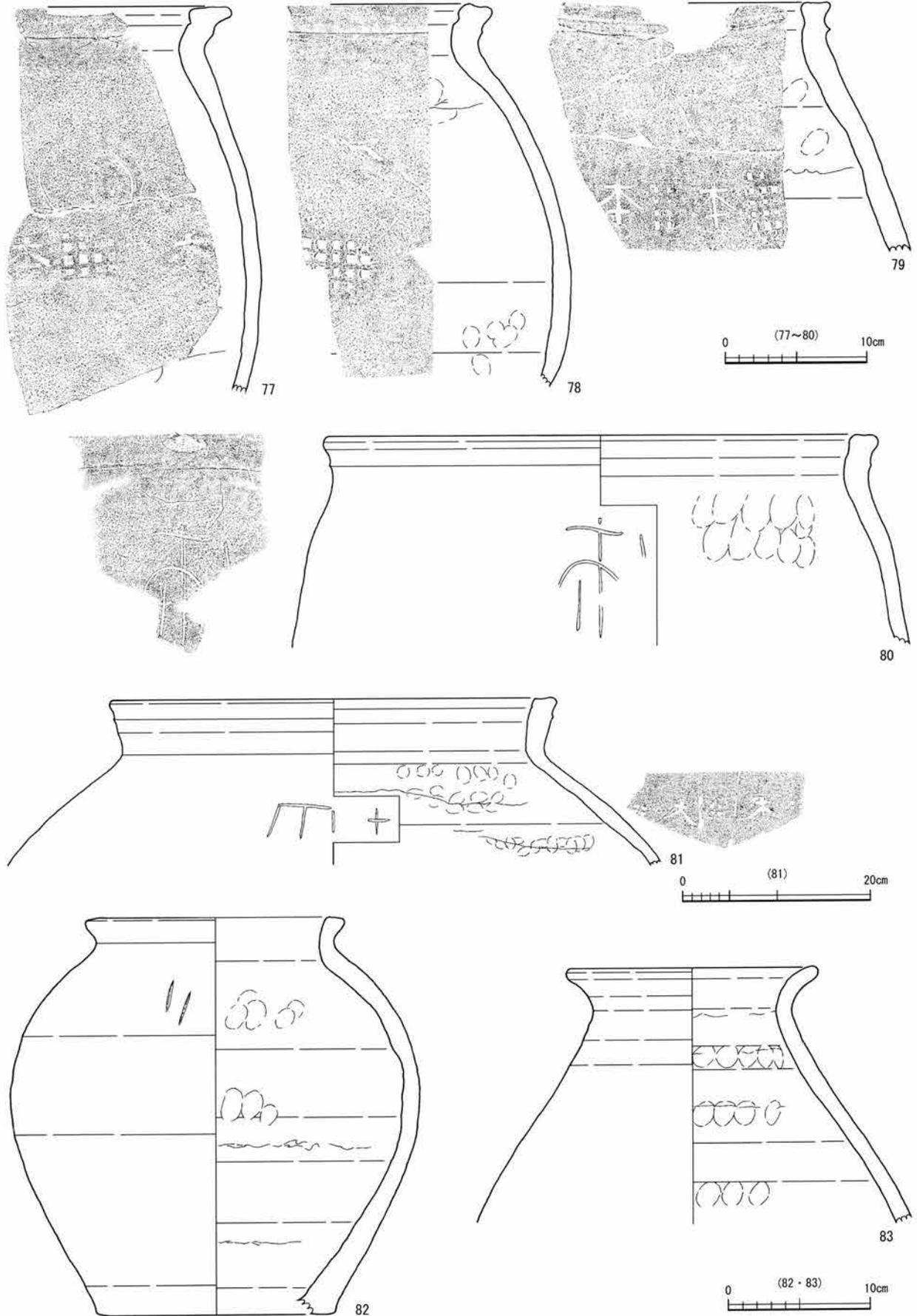
第13図 出土遺物 A区I遺構面(3)、A区II遺構面(1)

A区II遺構面(2)



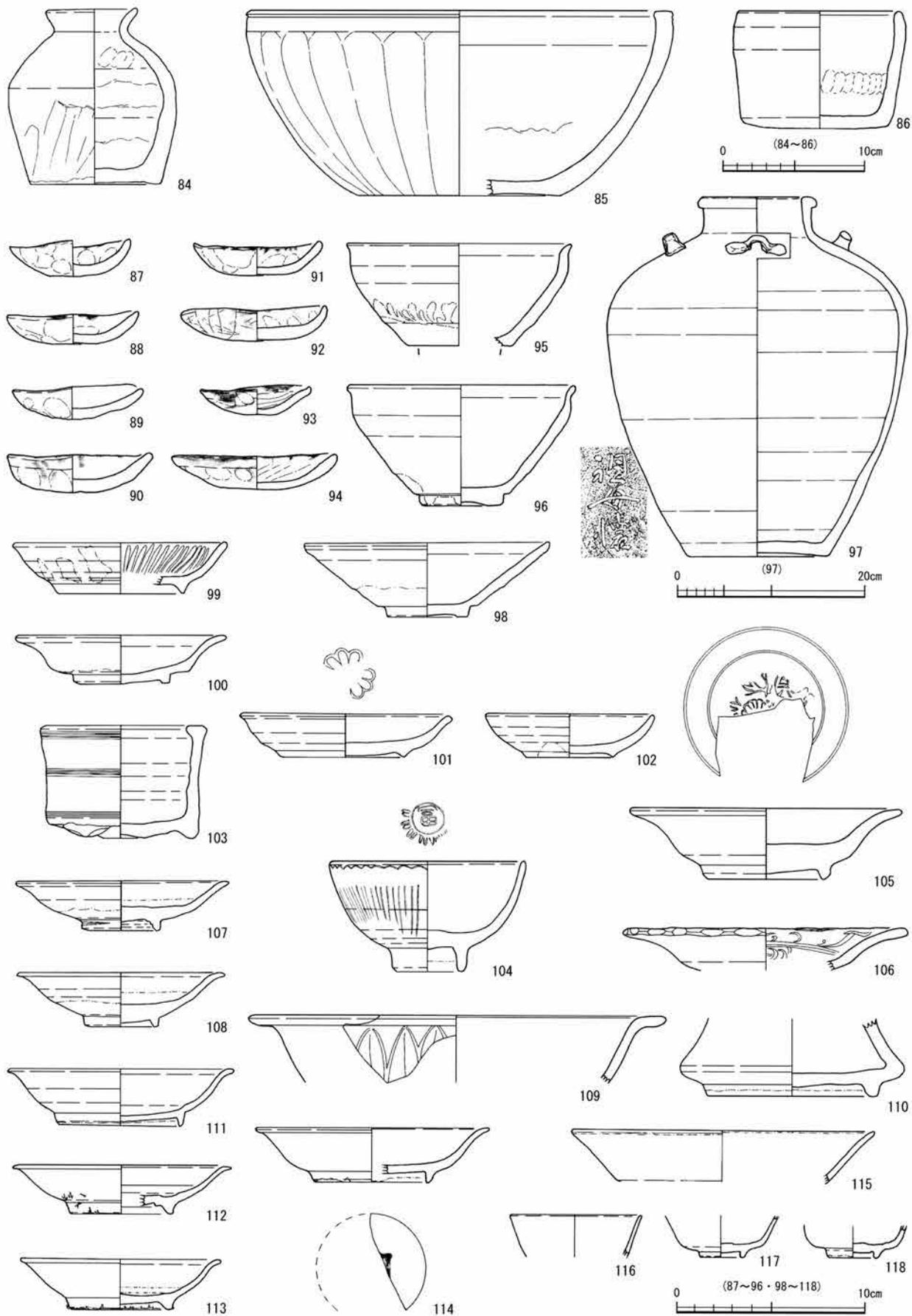
第14図 出土遺物 A区II遺構面(2)

B区I遺構面(1)



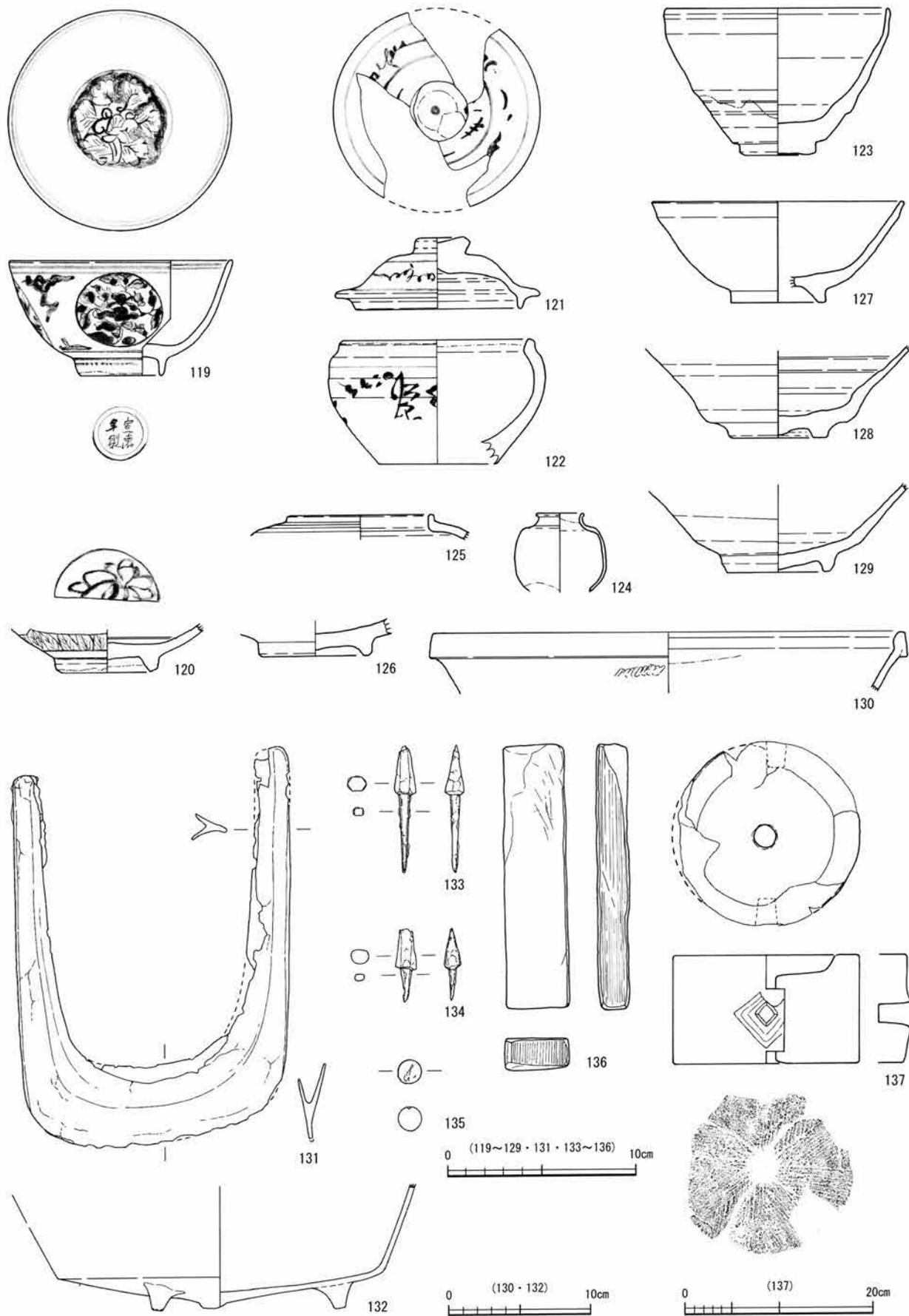
第15図 出土遺物 B区I遺構面(1)

B区 I 遺構面(2)



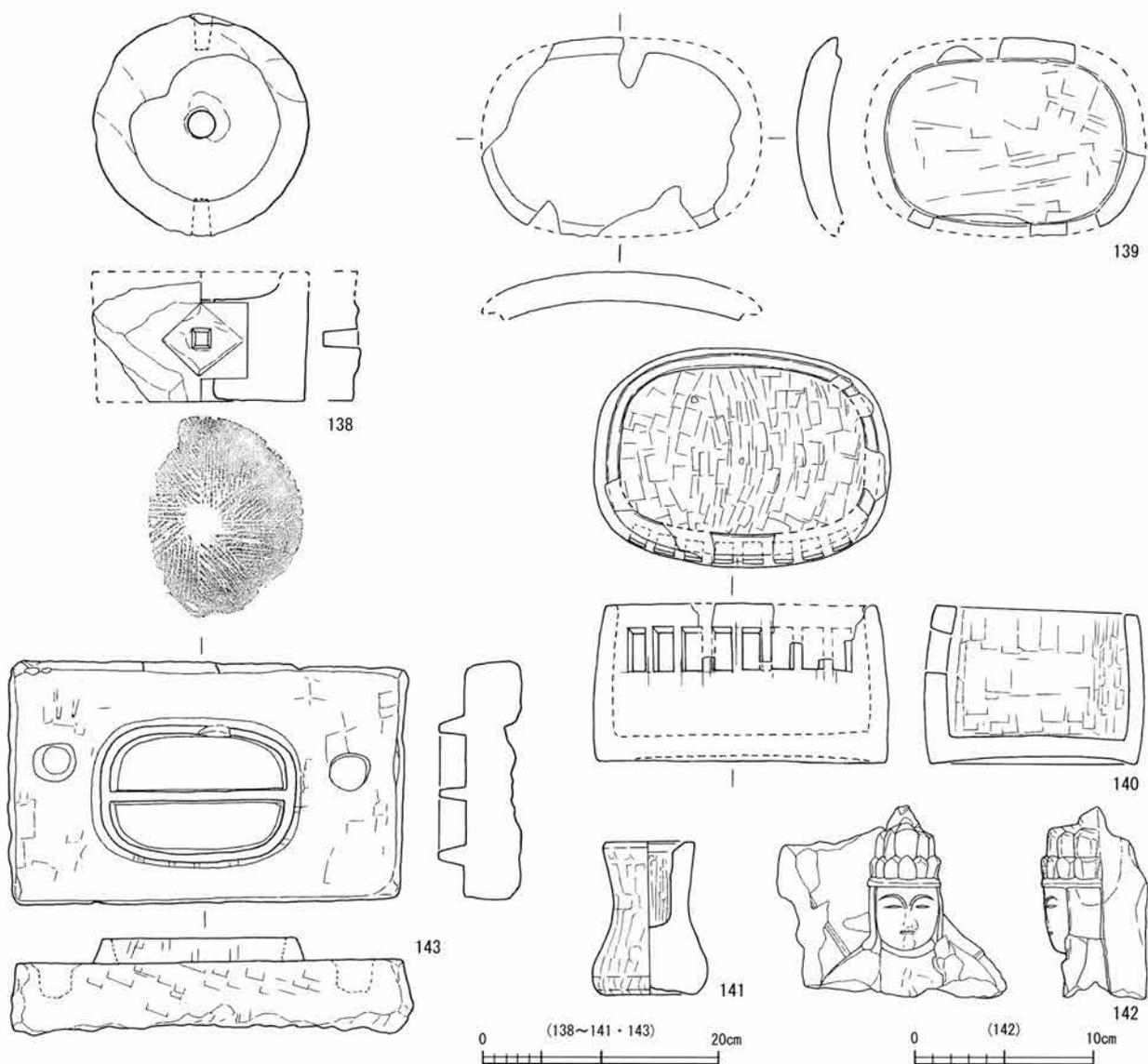
第16図 出土遺物 B区 I 遺構面(2)

B区I遺構面(3)

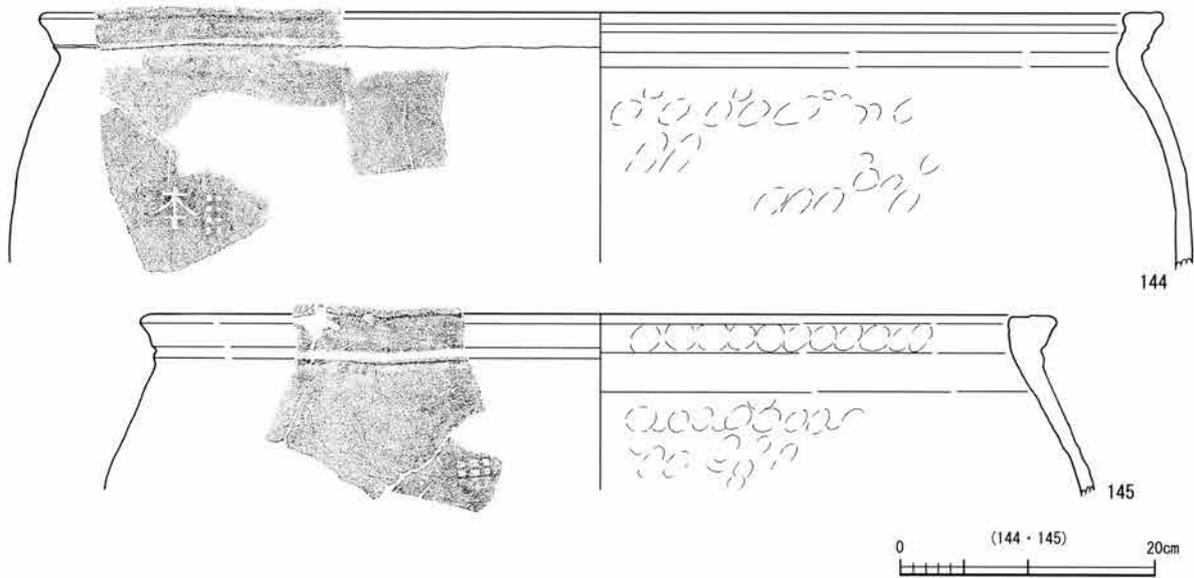


第17図 出土遺物 B区I遺構面(3)

B区 I 遺構面(4)

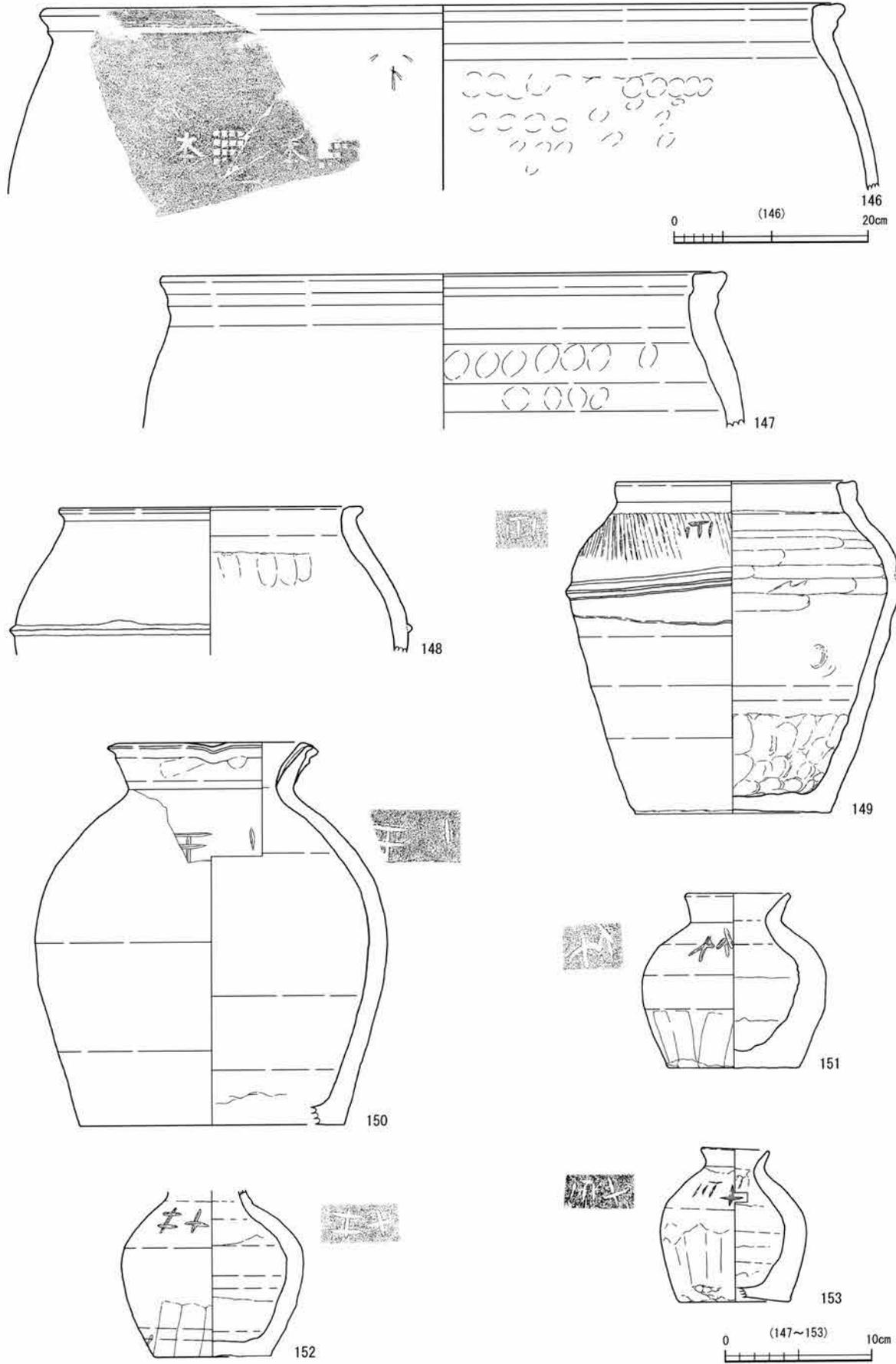


B区 II 遺構面(1)



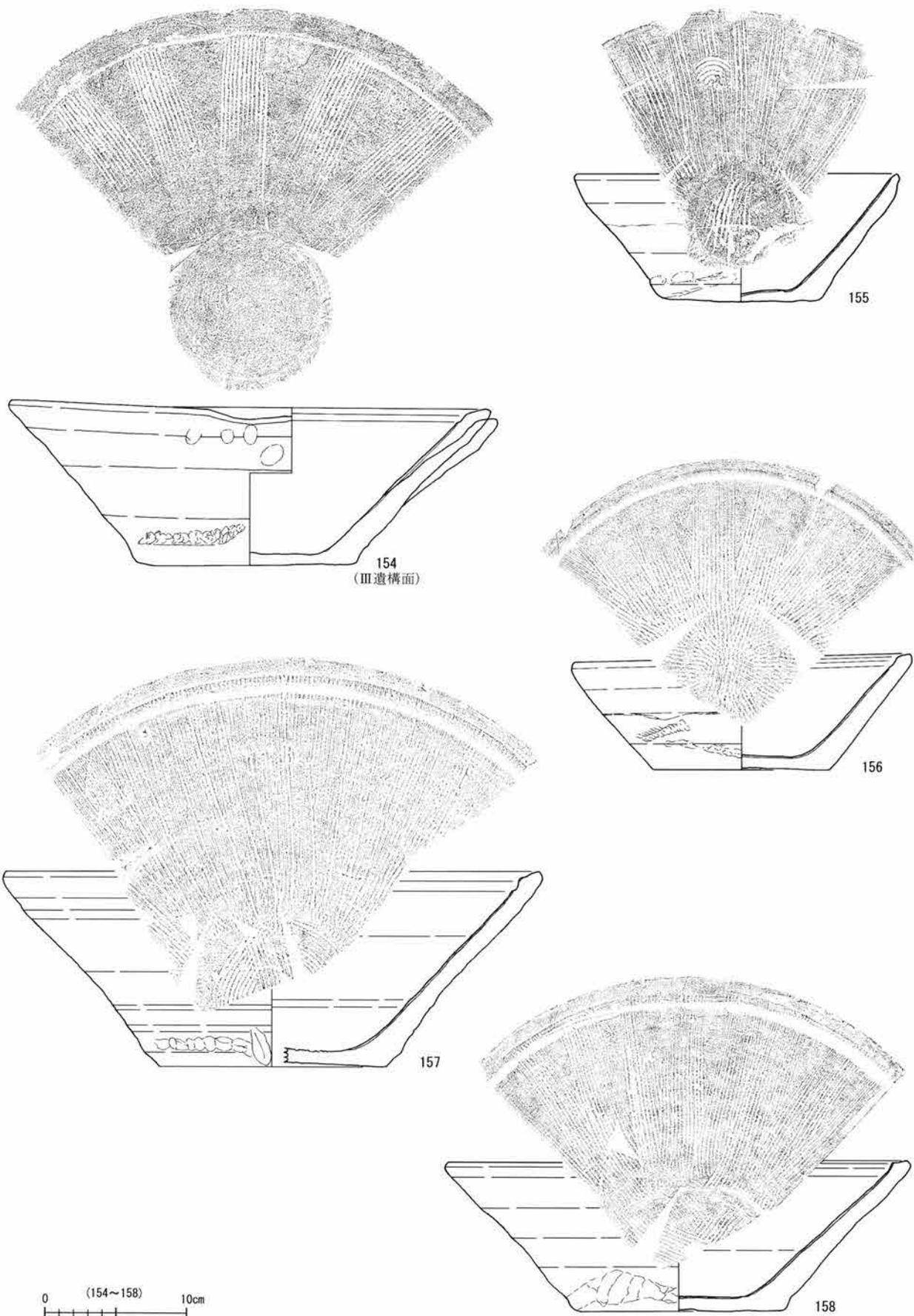
第18図 出土遺物 B区I遺構面(4)、B区II遺構面(1)

B区II遺構面(2)



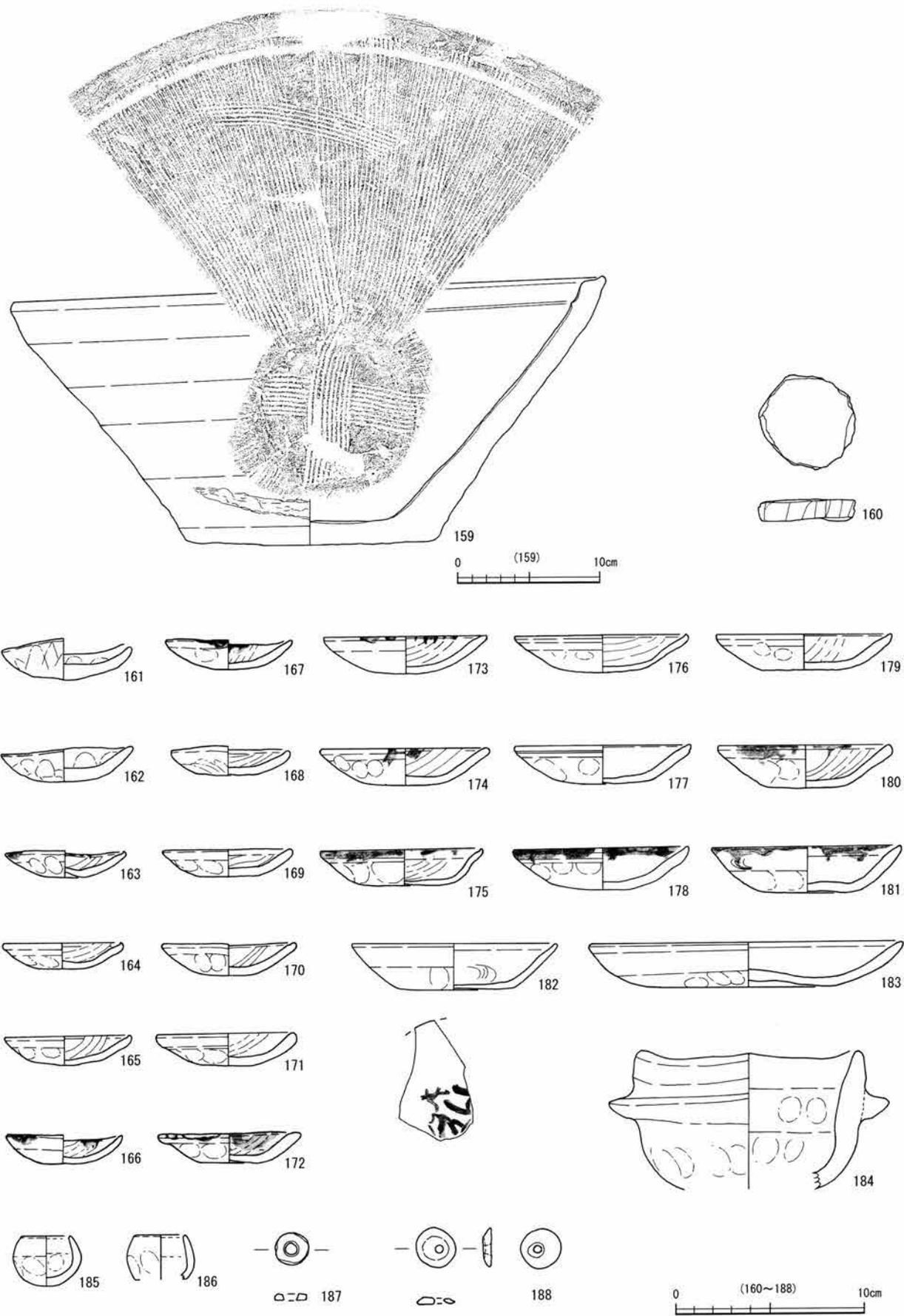
第19図 出土遺物 B区II遺構面(2)

B区II遺構面(3)



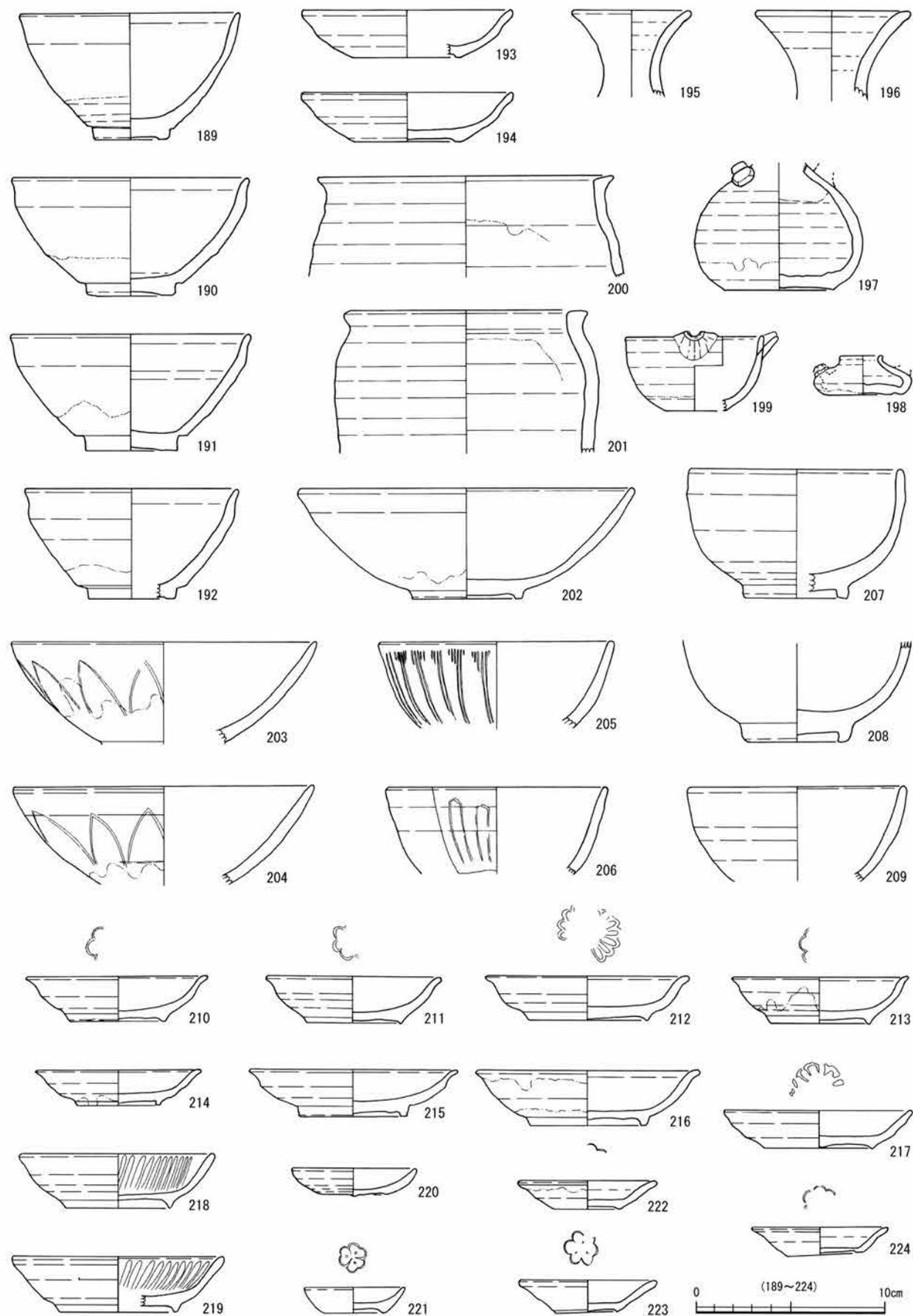
第20図 出土遺物 B区II遺構面(3)

B区II遺構面(4)



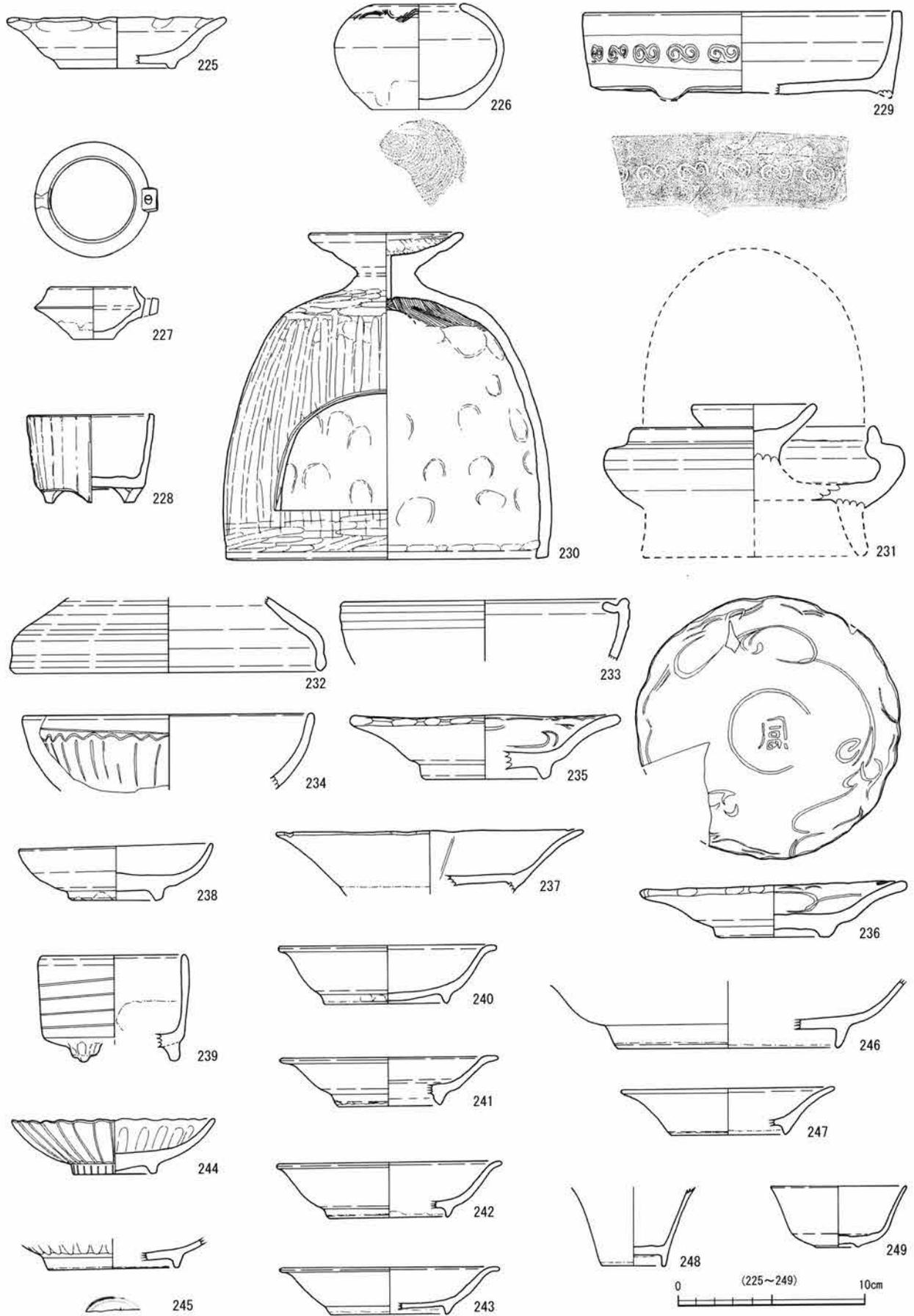
第21図 出土遺物 B区II遺構面(4)

B区II遺構面(5)



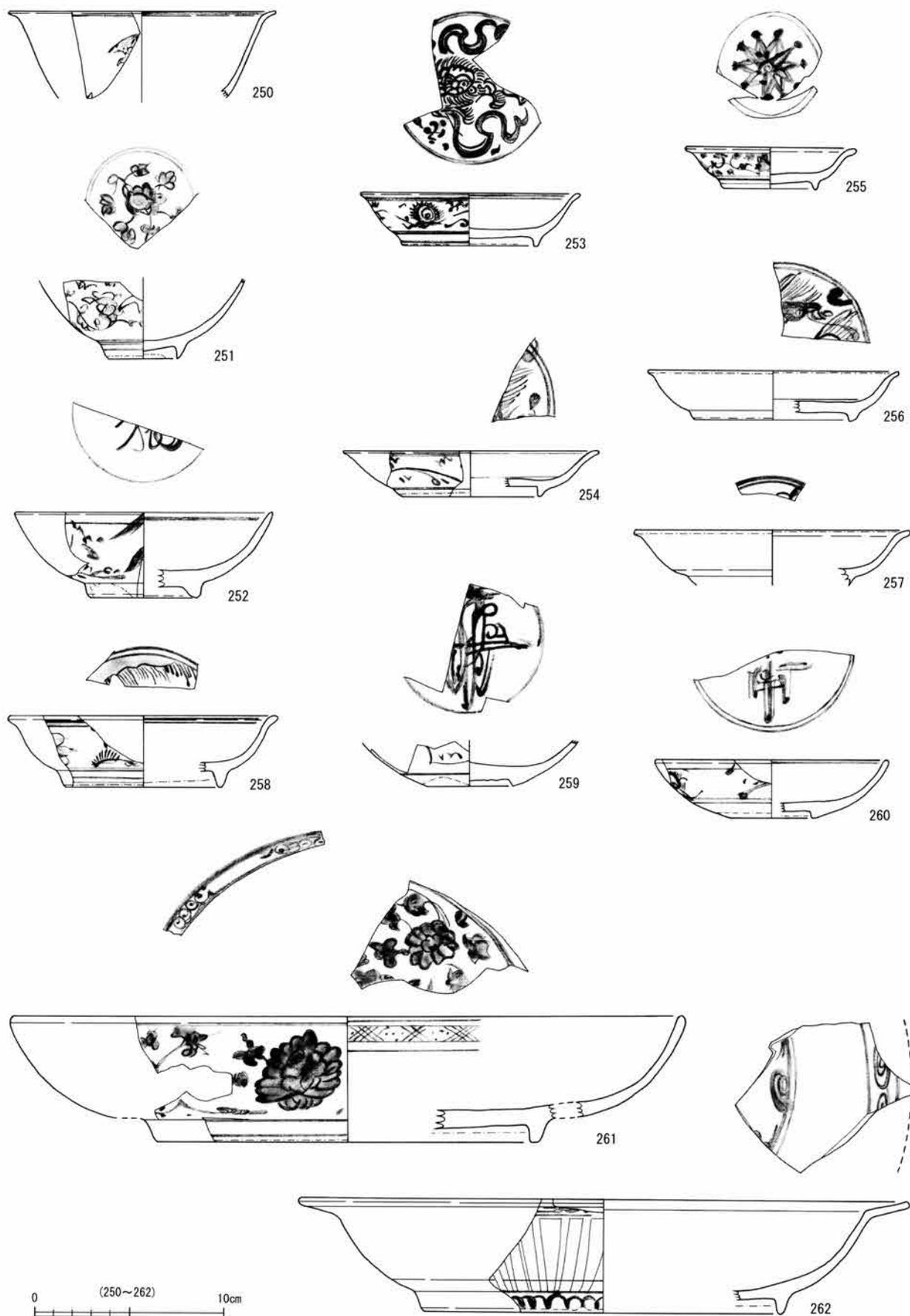
第22図 出土遺物 B区II遺構面(5)

B区II遺構面(6)



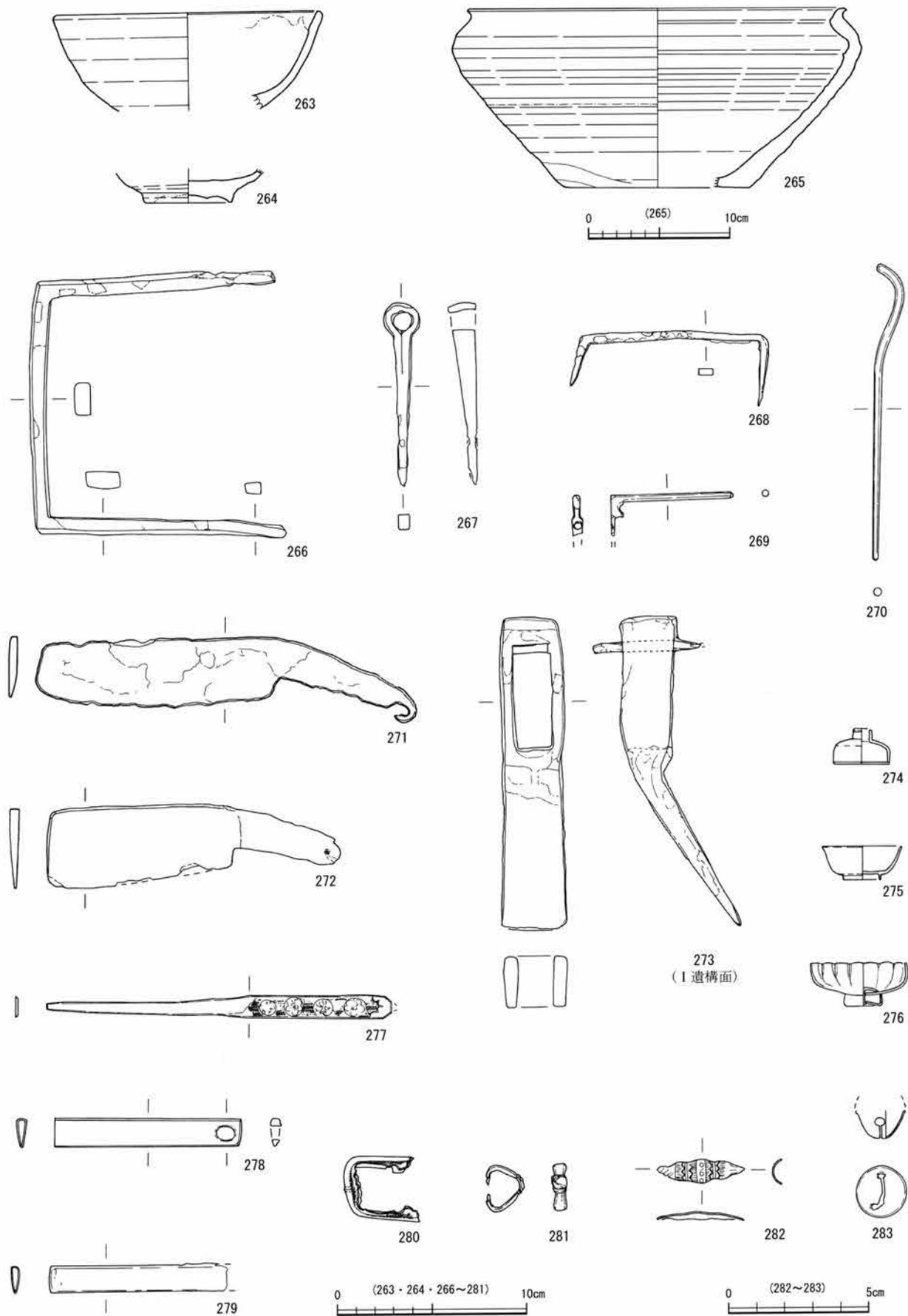
第23図 出土遺物 B区II遺構面(6)

B区II遺構面(7)



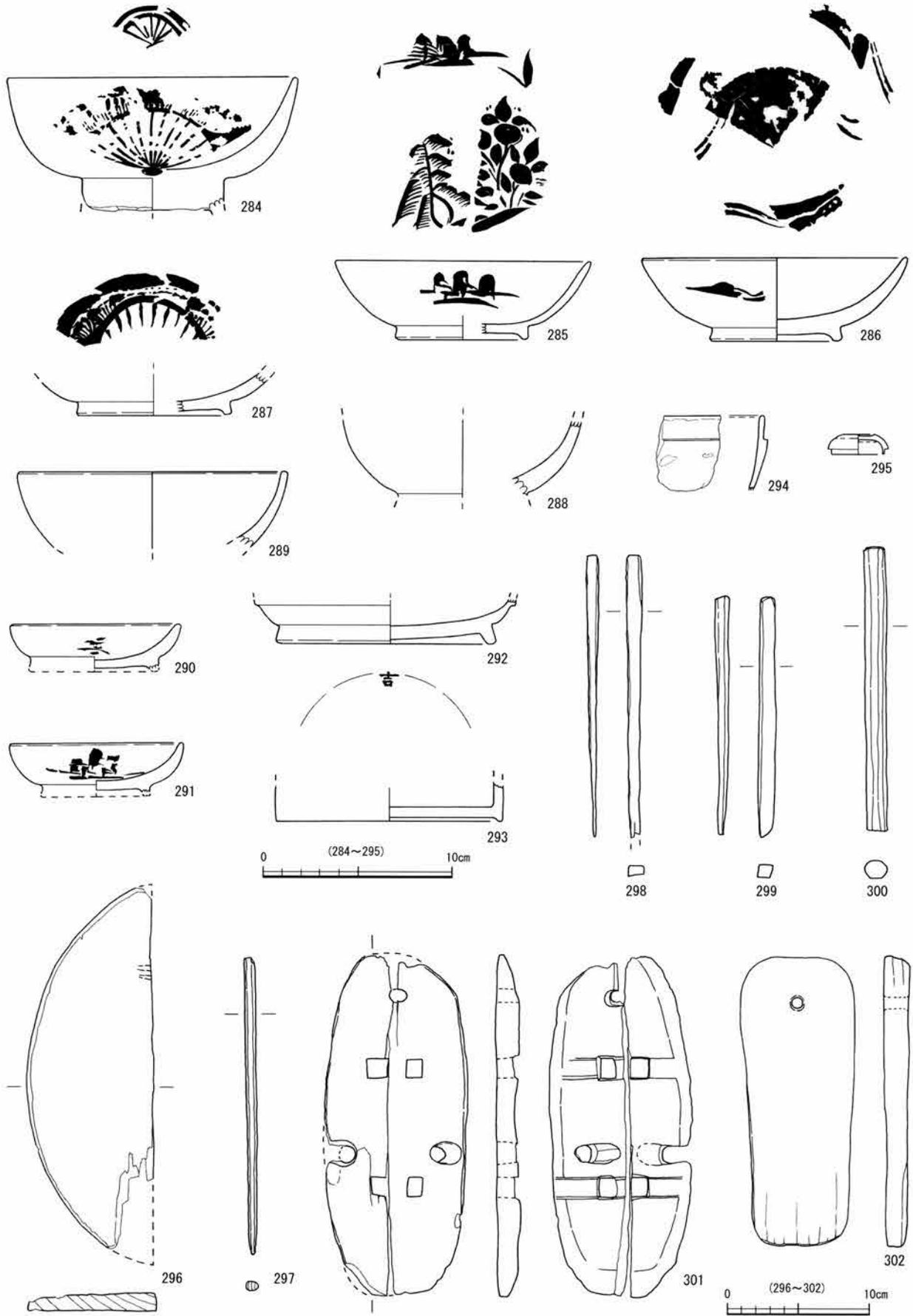
第24図 出土遺物 B区II遺構面(7)

B区II遺構面(8)



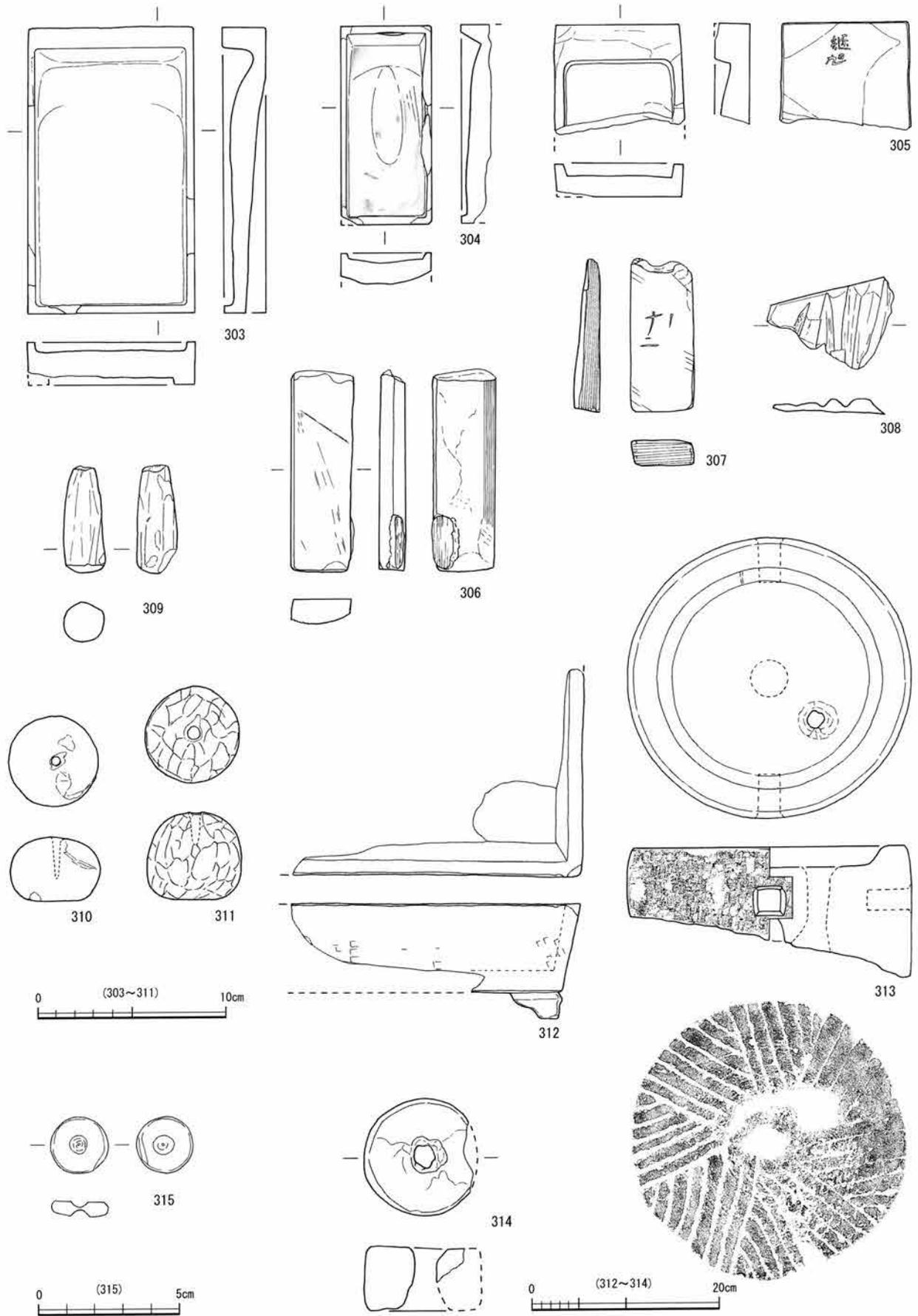
第25図 出土遺物 B区II遺構面(8)

B区II遺構面(9)



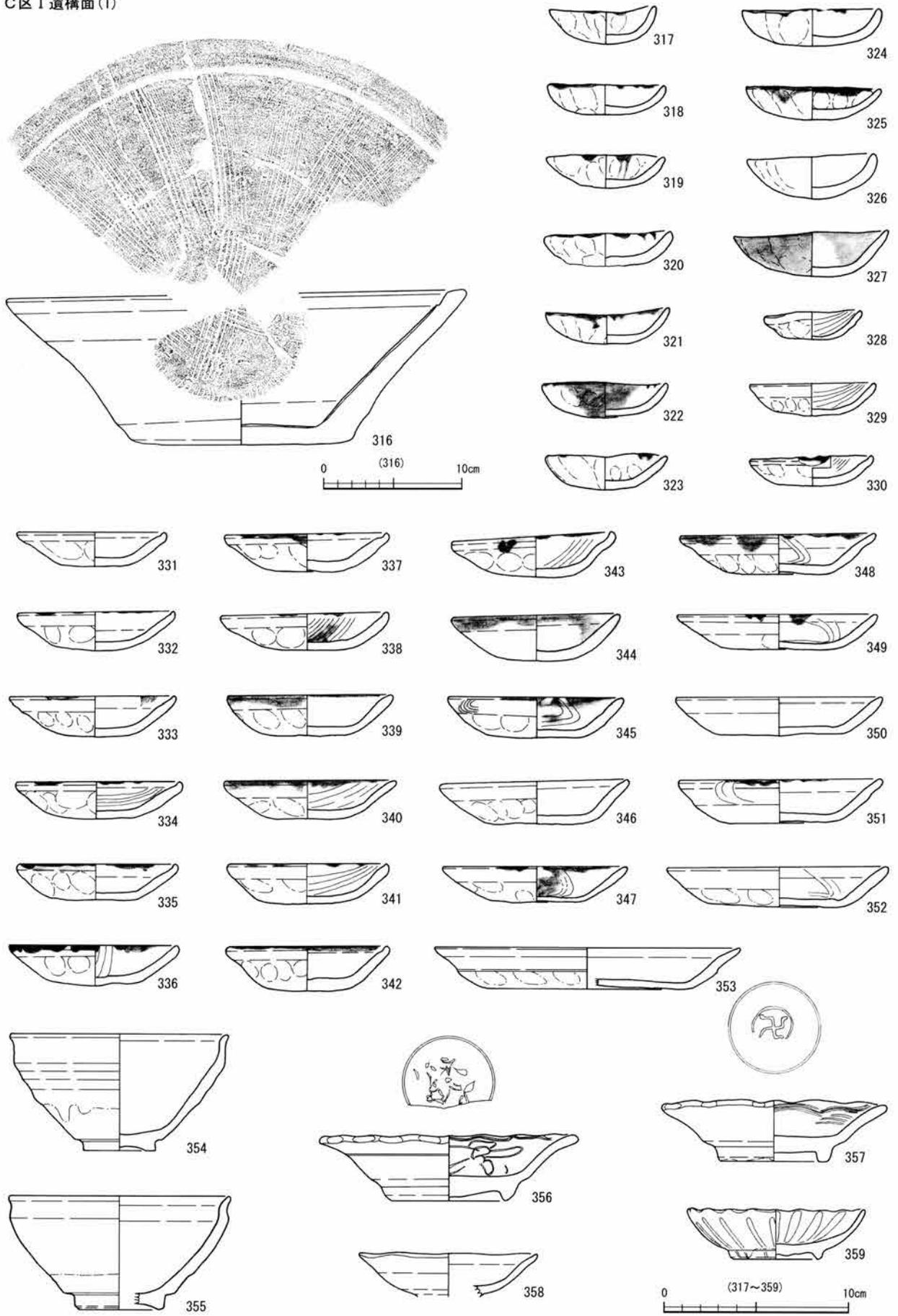
第26図 出土遺物 B区II遺構面(9)

B区II遺構面(10)



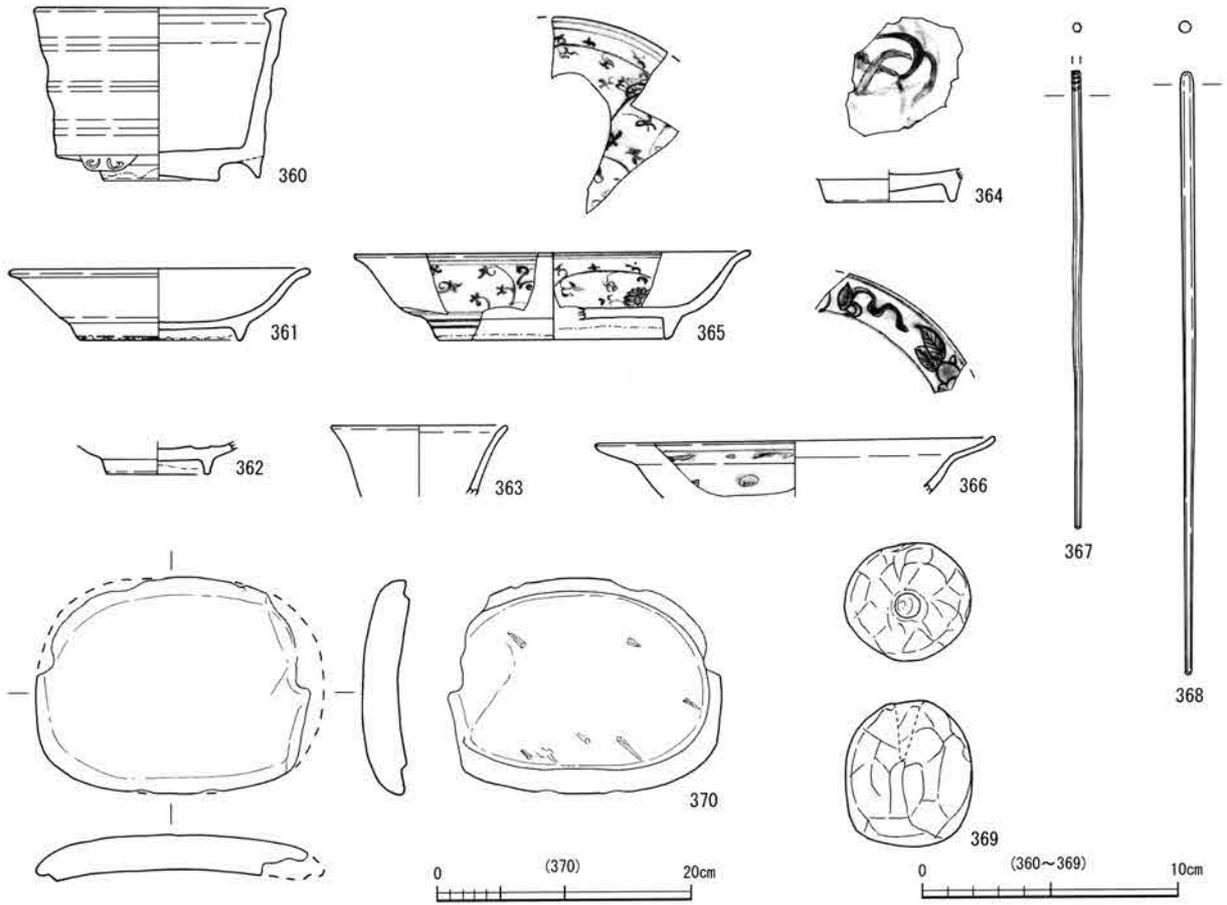
第27図 出土遺物 B区II遺構面(10)

C区I遺構面(1)

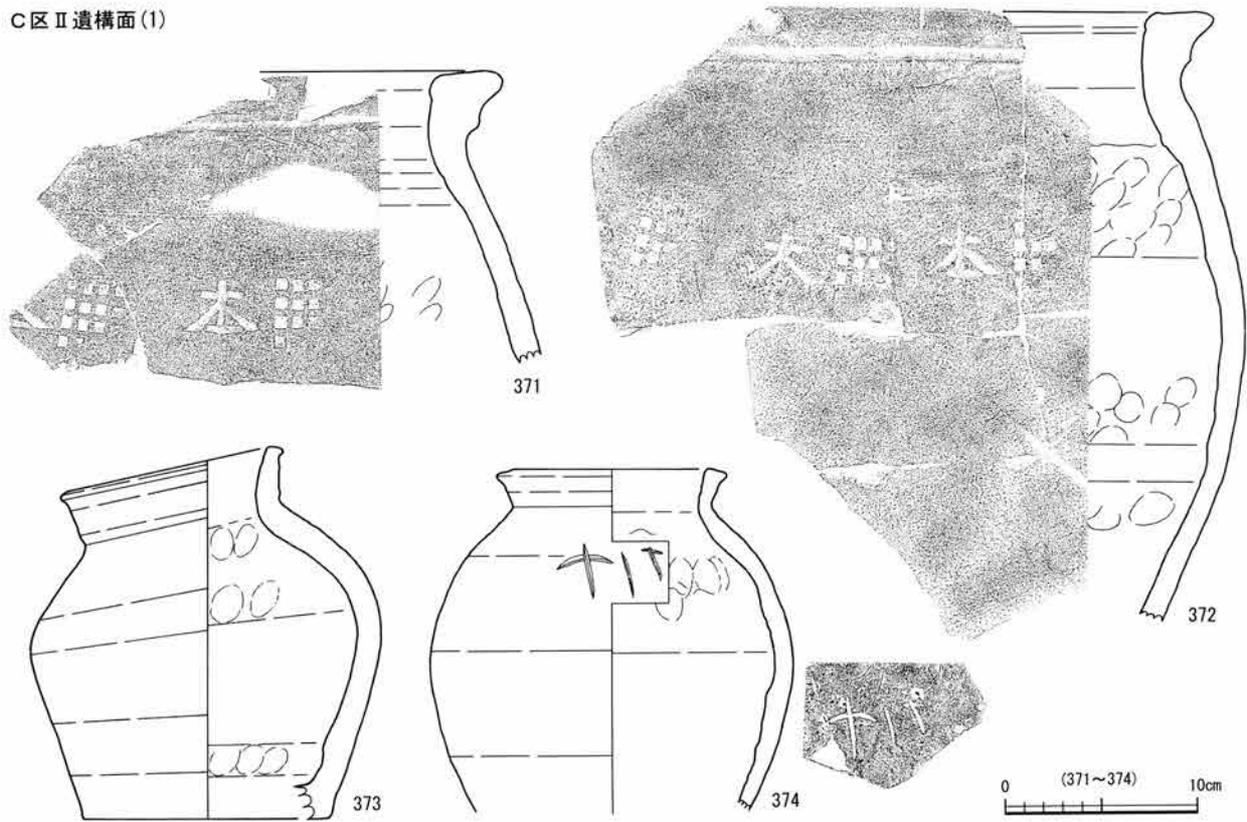


第28図 出土遺物 C区I遺構面(1)

C区I遺構面(2)

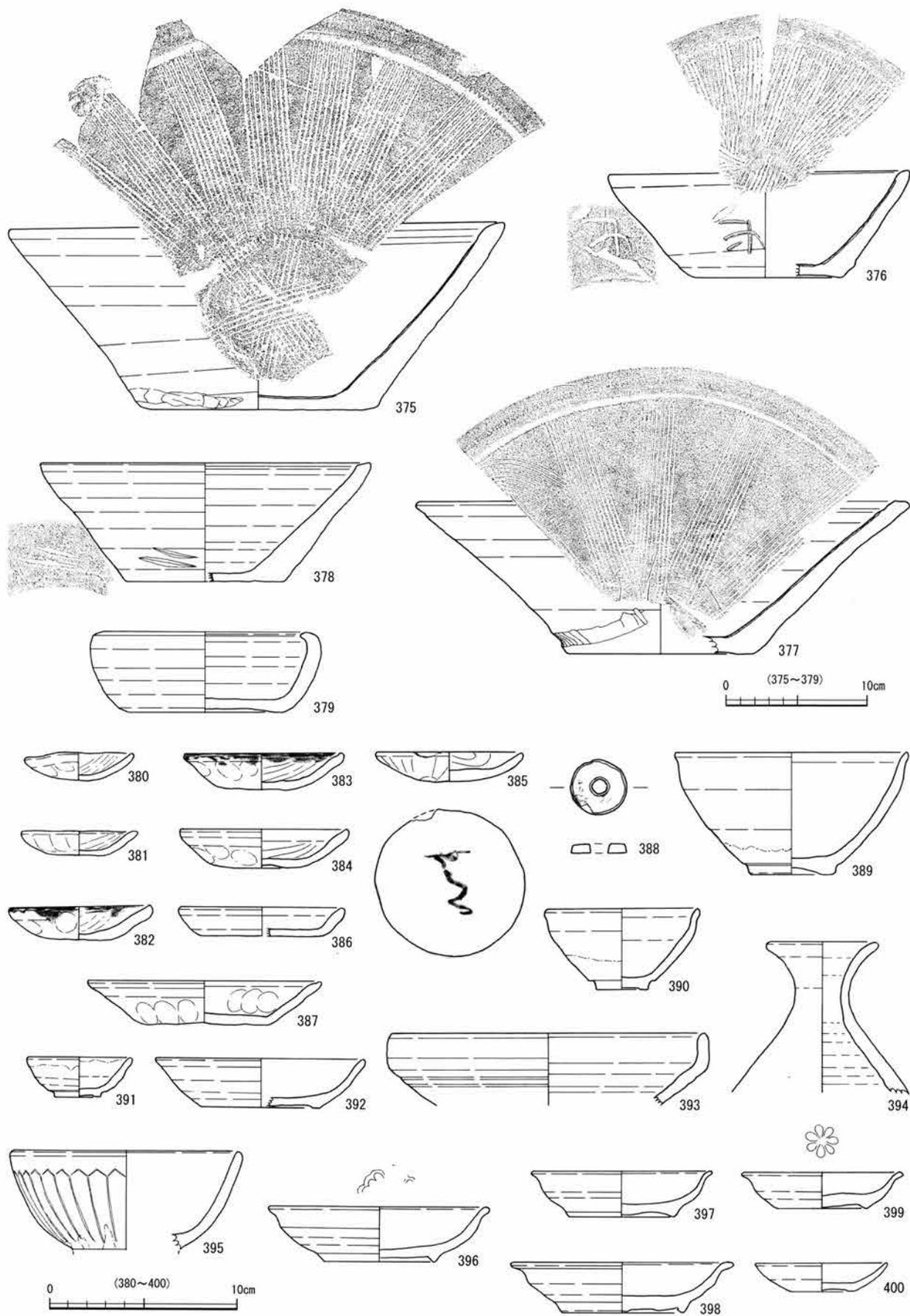


C区II遺構面(1)



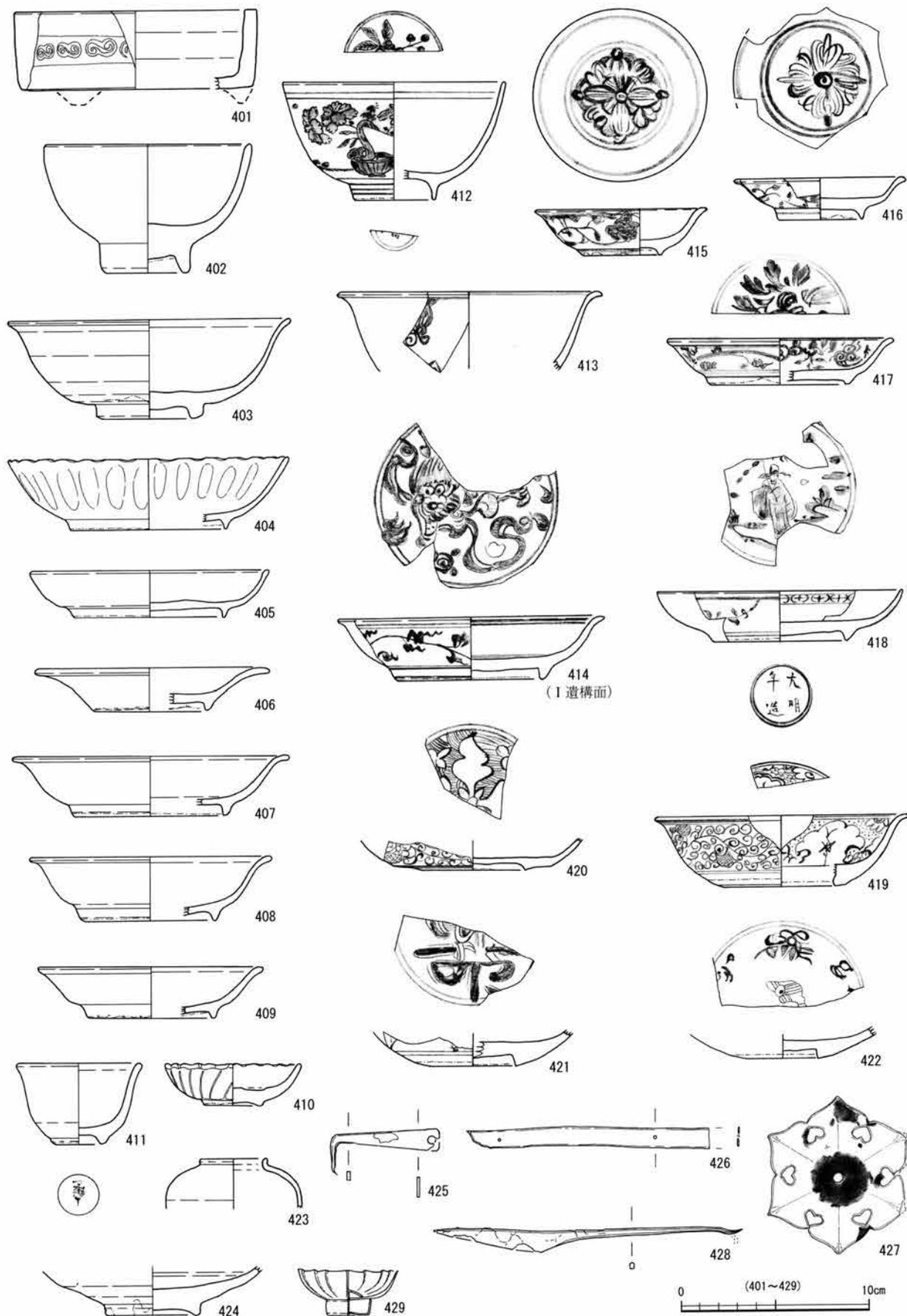
第29図 出土遺物 C区I遺構面(2)、C区II遺構面(1)

C区II遺構面(2)



第30図 出土遺物 C区II遺構面(2)

C区II遺構面(3)



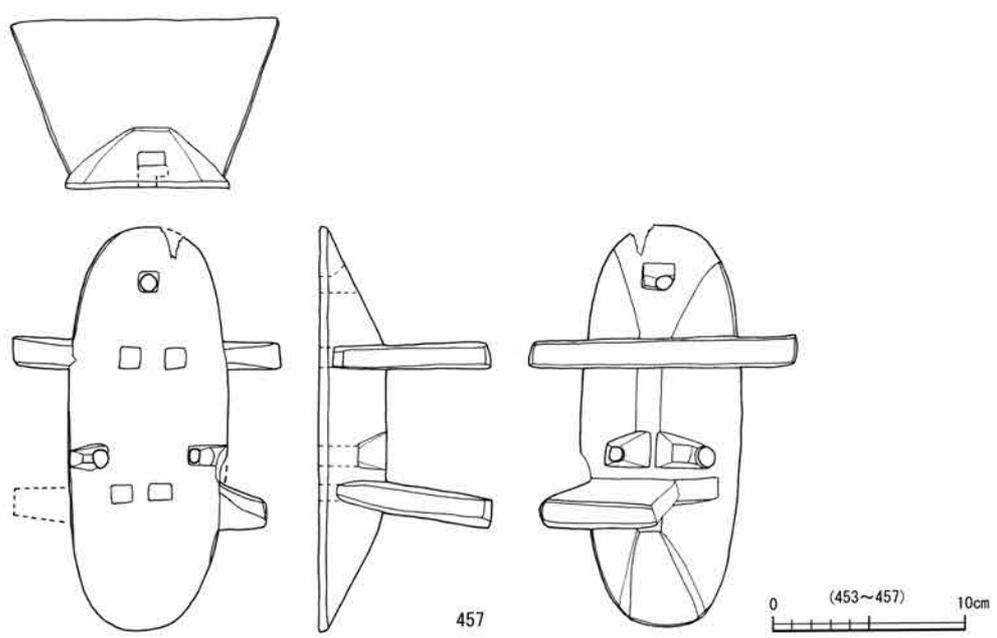
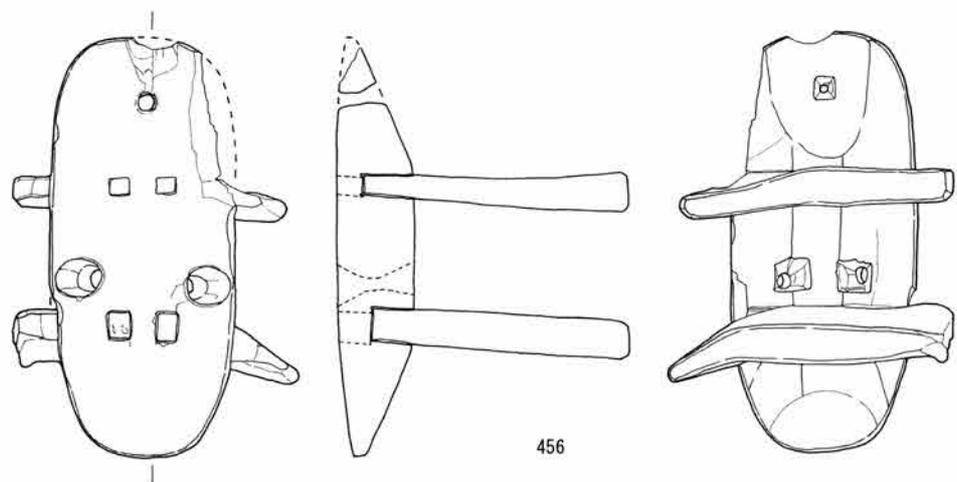
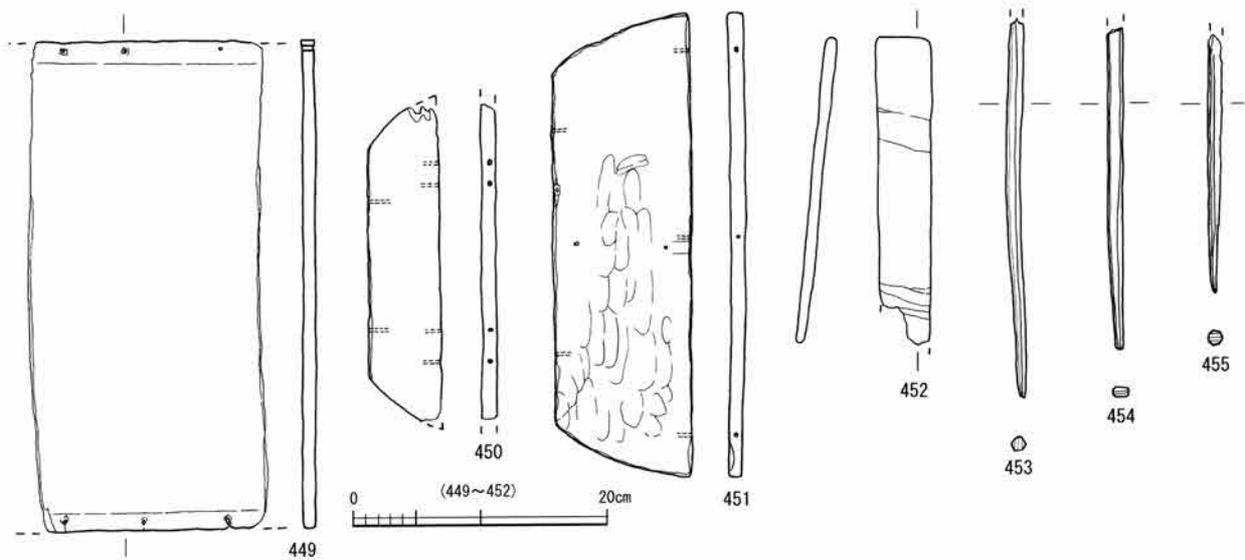
第31图 出土遺物 C区II遺構面(3)

C区II遺構面(4)



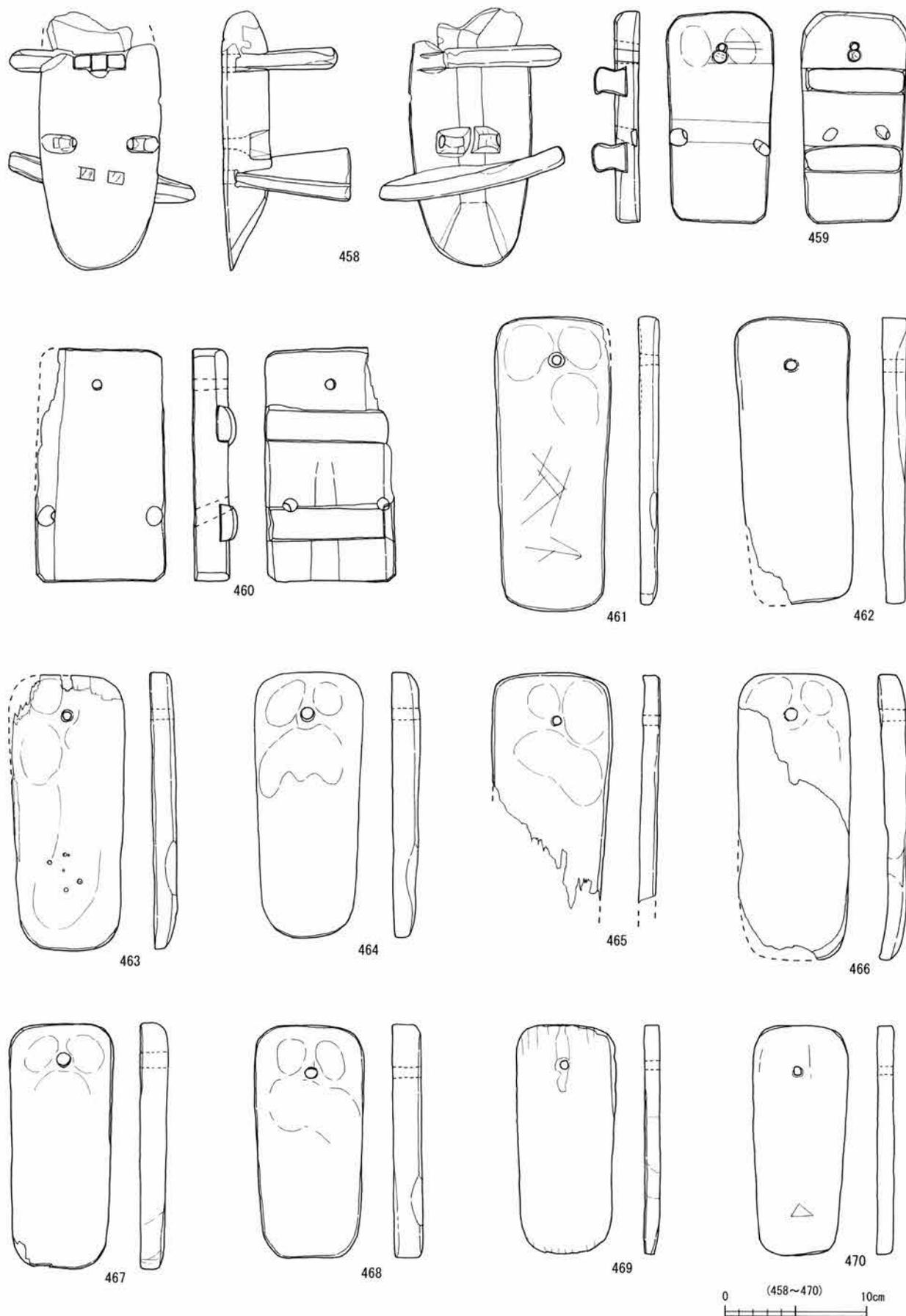
第32図 出土遺物 C区II遺構面(4)

C区II遺構面(5)



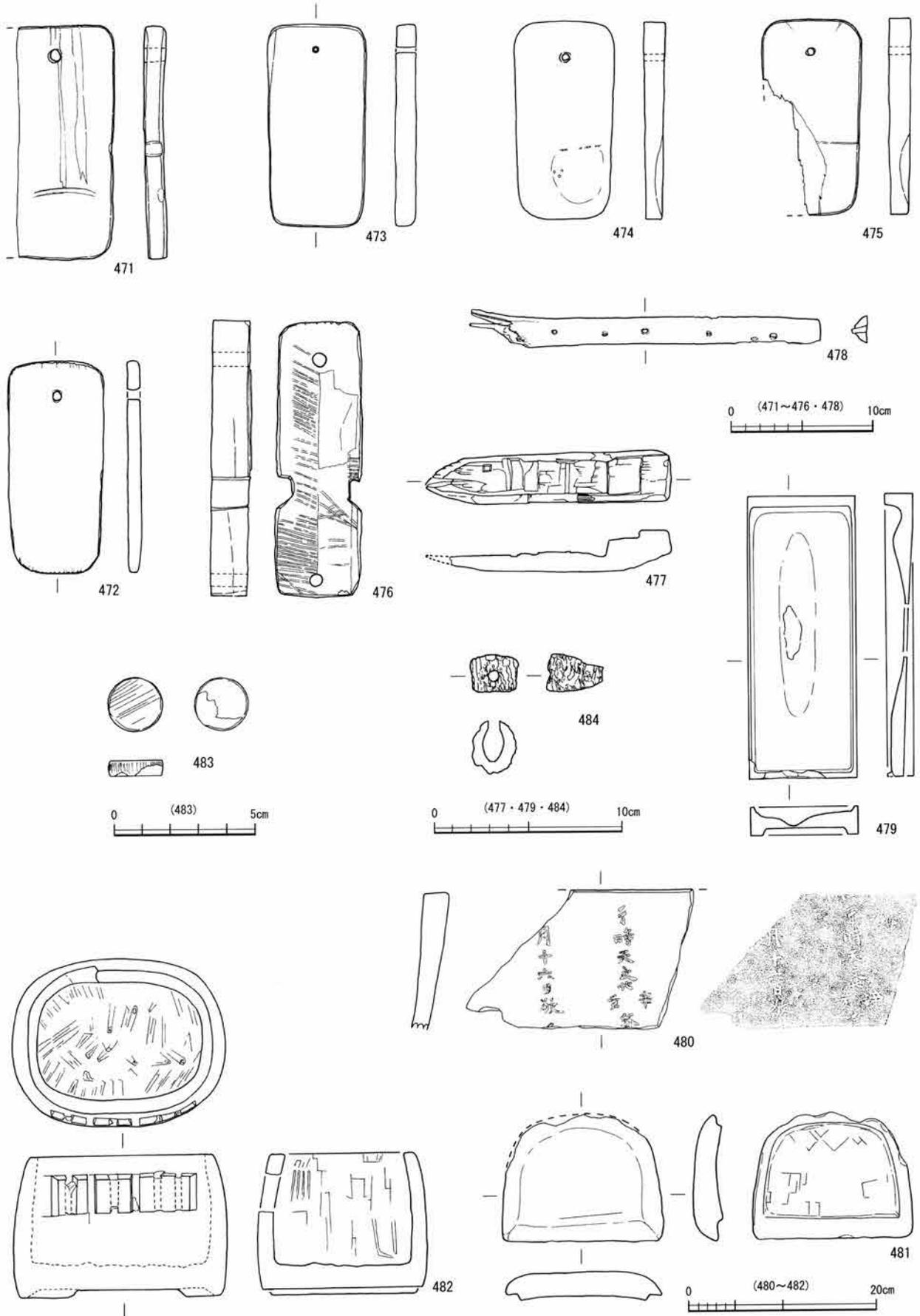
第33図 出土遺物 C区II遺構面(5)

C区II遺構面(6)



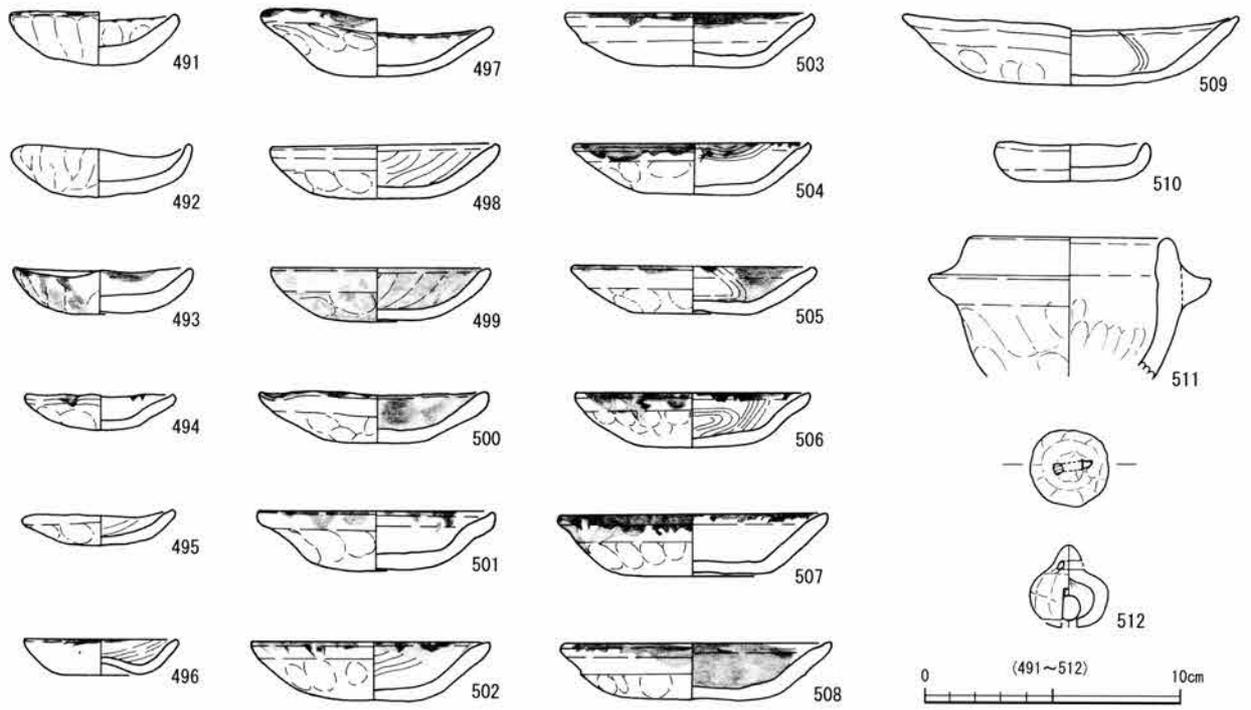
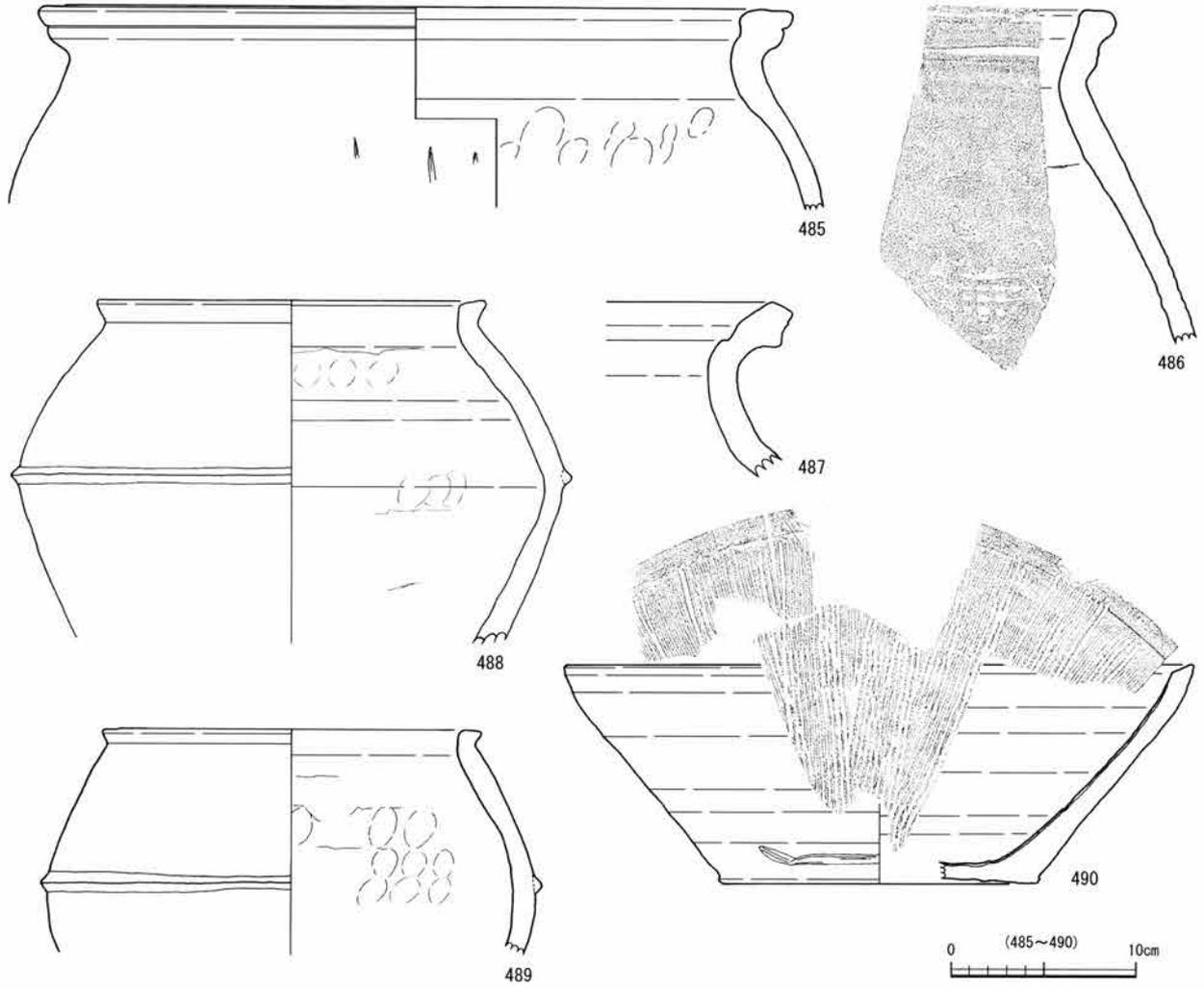
第34図 出土遺物 C区II遺構面(6)

C区II遺構面(7)



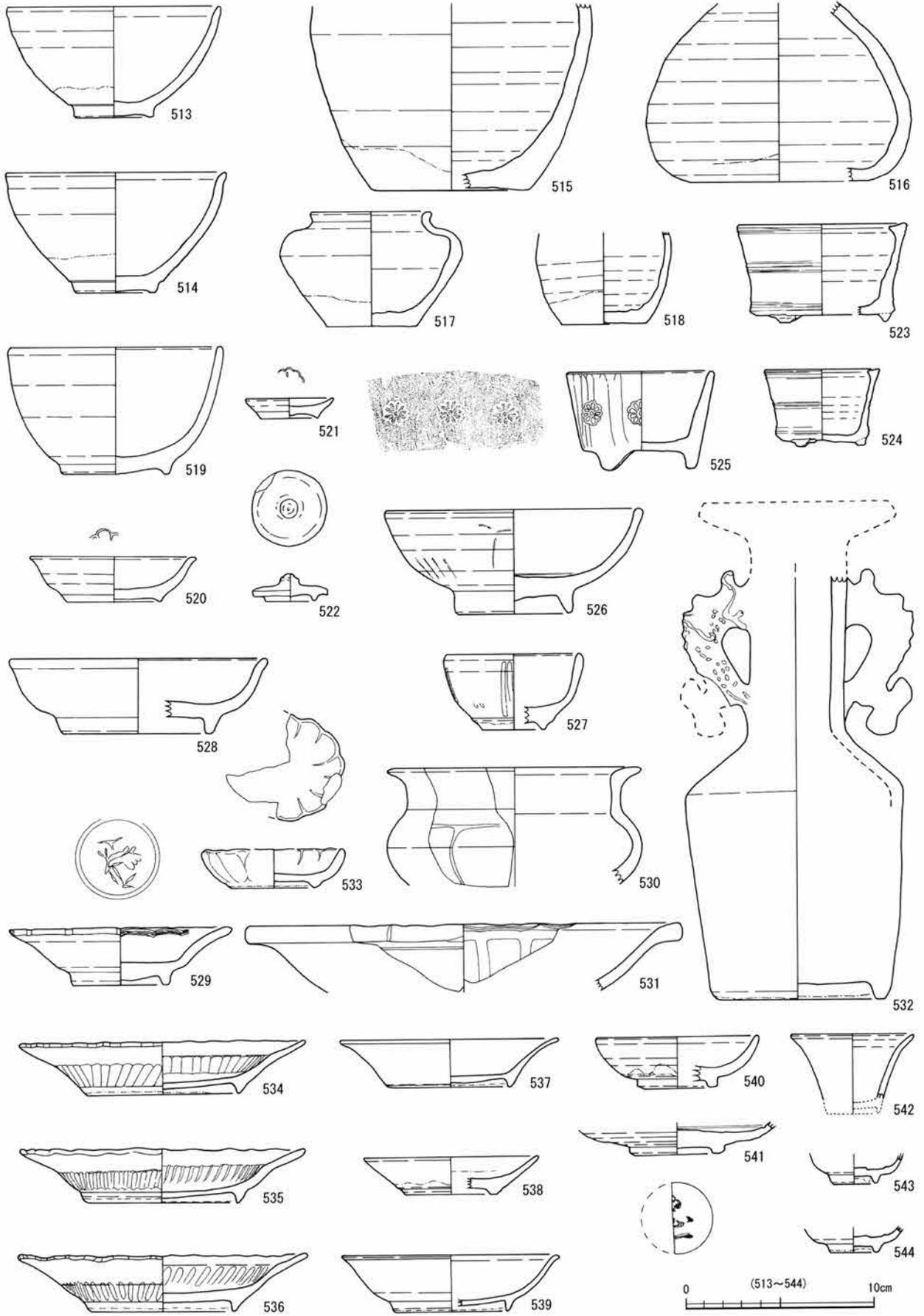
第35图 出土遺物 C区II遺構面(7)

D区 I 遺構面(1)



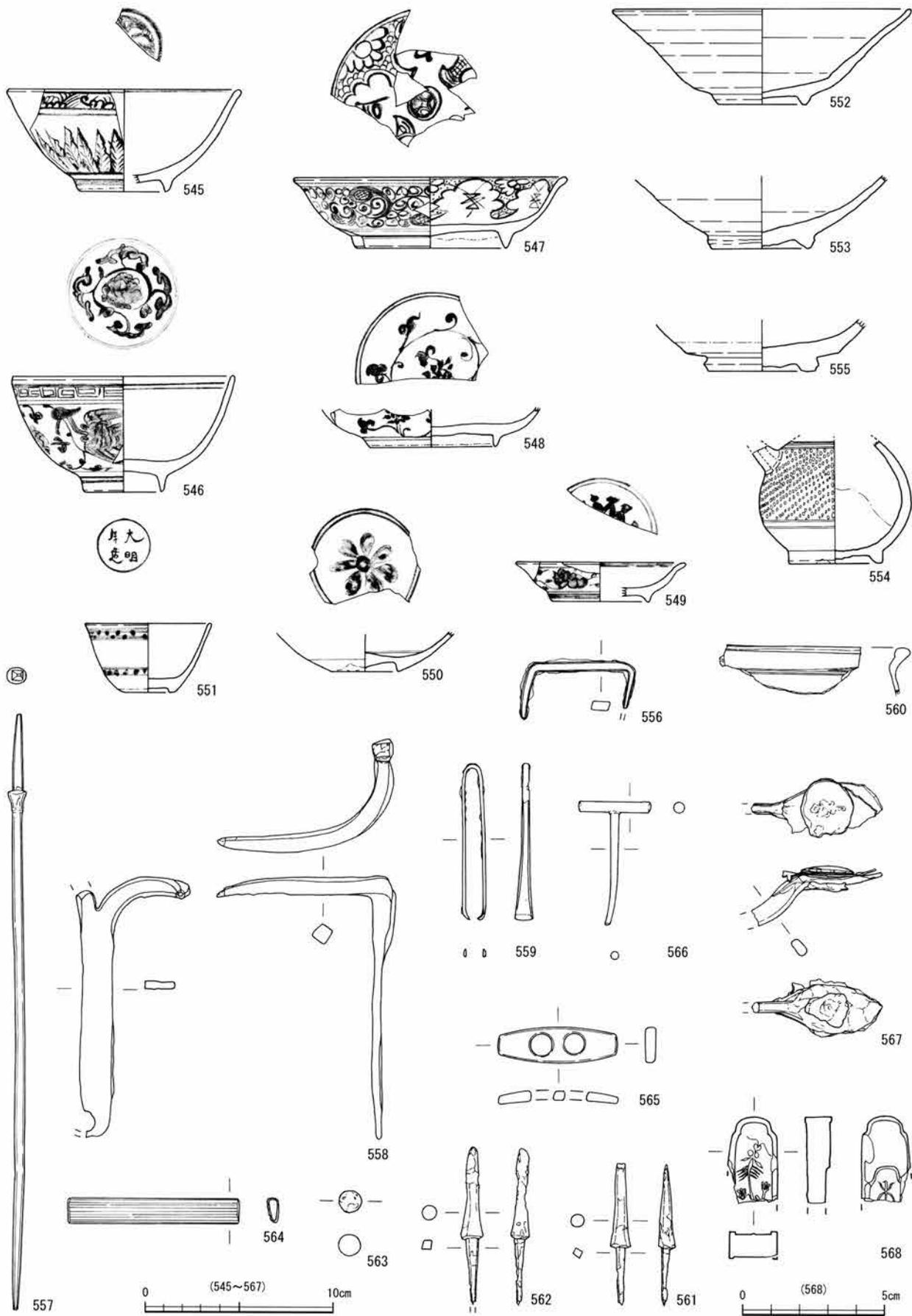
第36图 出土遺物 D区 I 遺構面(1)

D区I遺構面(2)



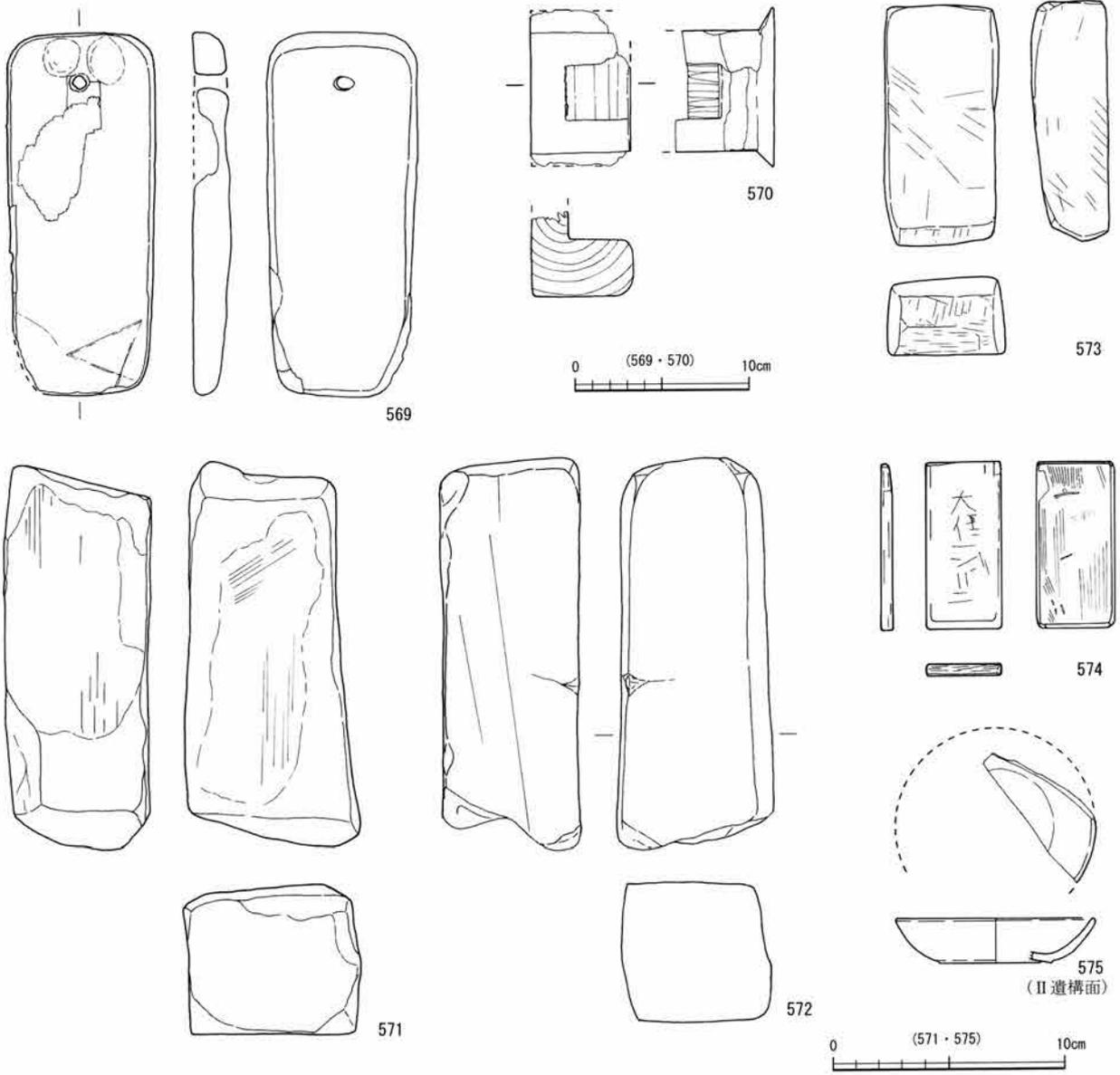
第37图 出土遺物 D区I遺構面(2)

D区I遺構面(3)

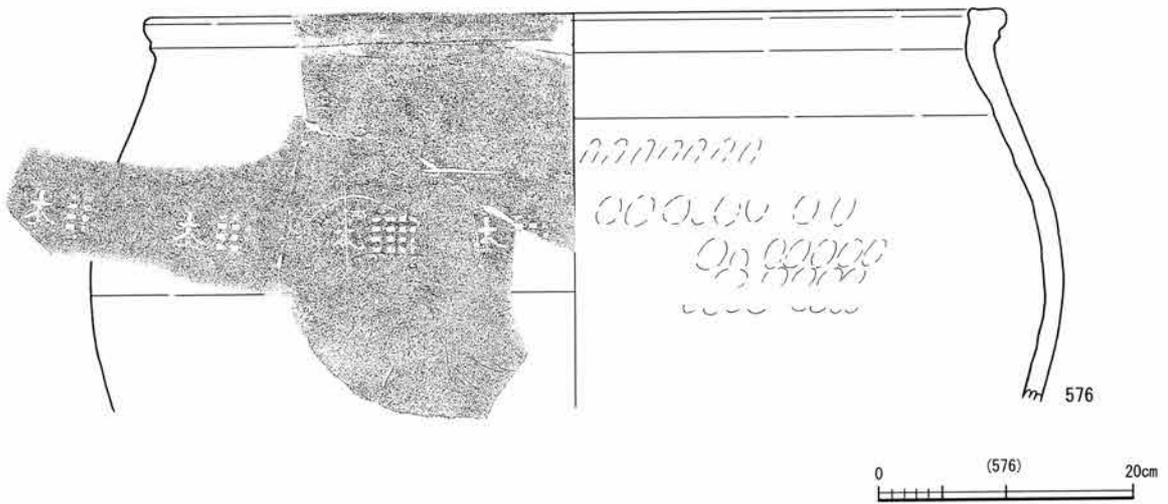


第38図 出土遺物 D区I遺構面(3)

D区I遺構面(4)

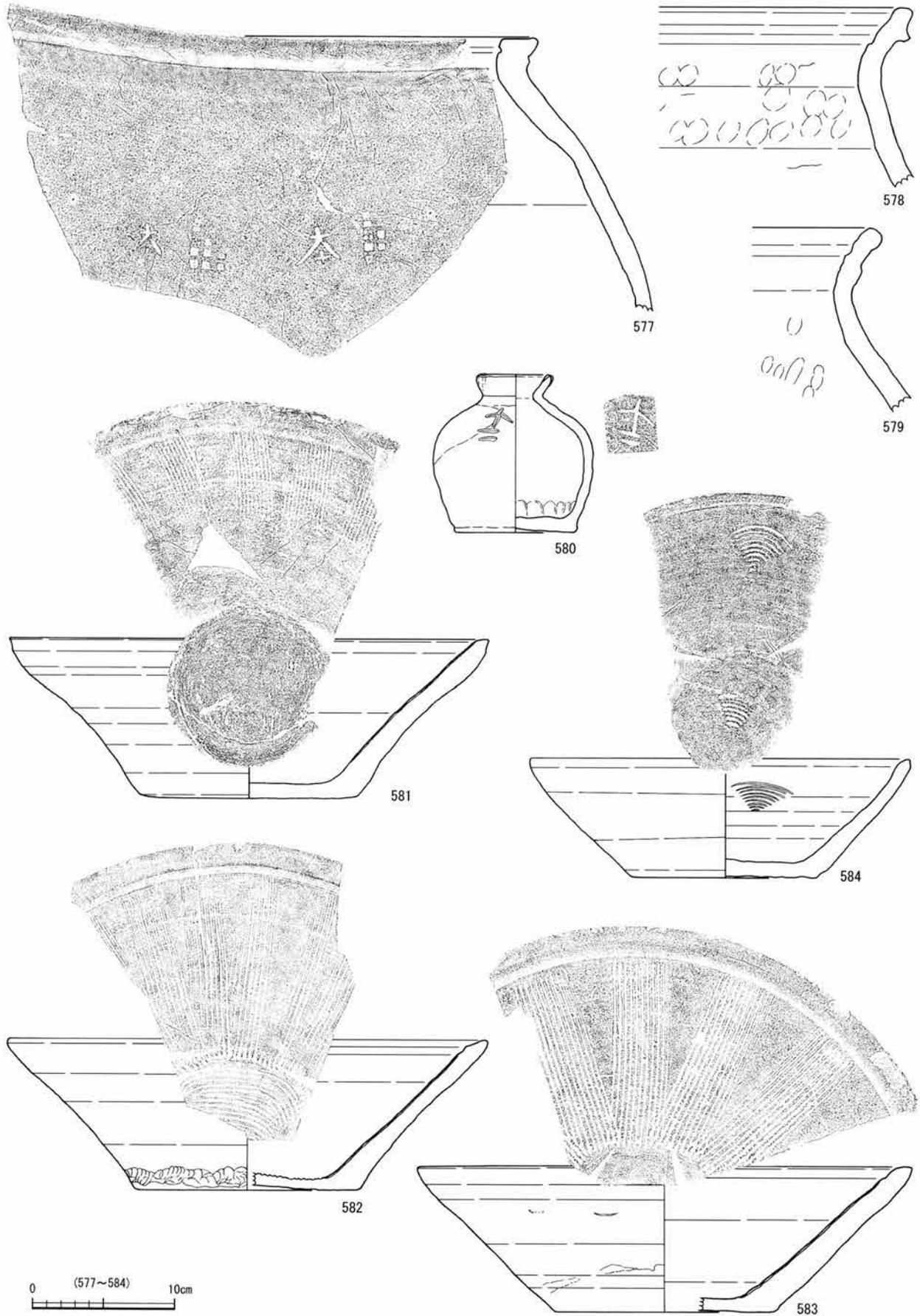


D区II遺構面(1)



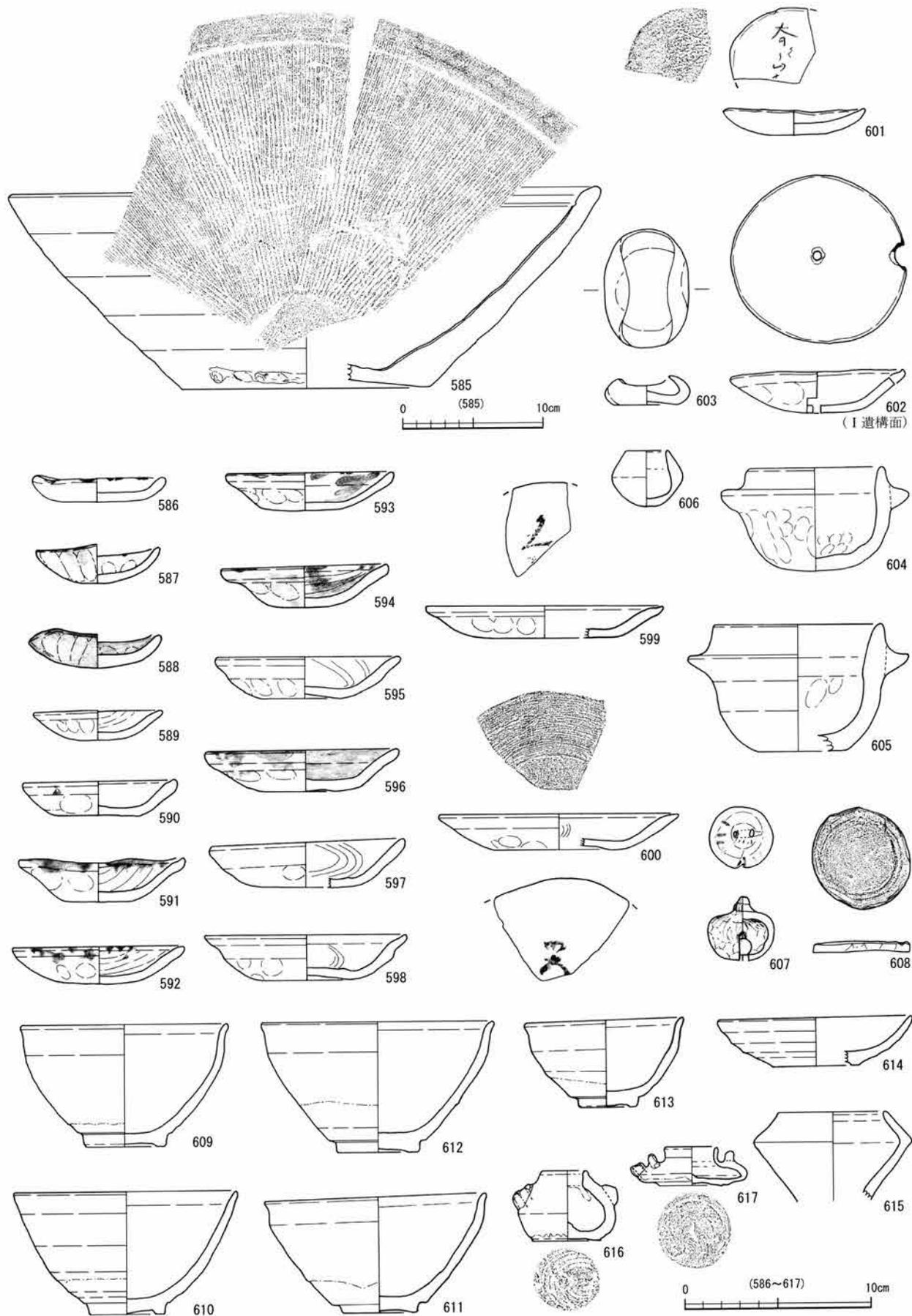
第39図 出土遺物 D区I遺構面(4)、D区II遺構面(1)

D区Ⅱ遺構面(2)



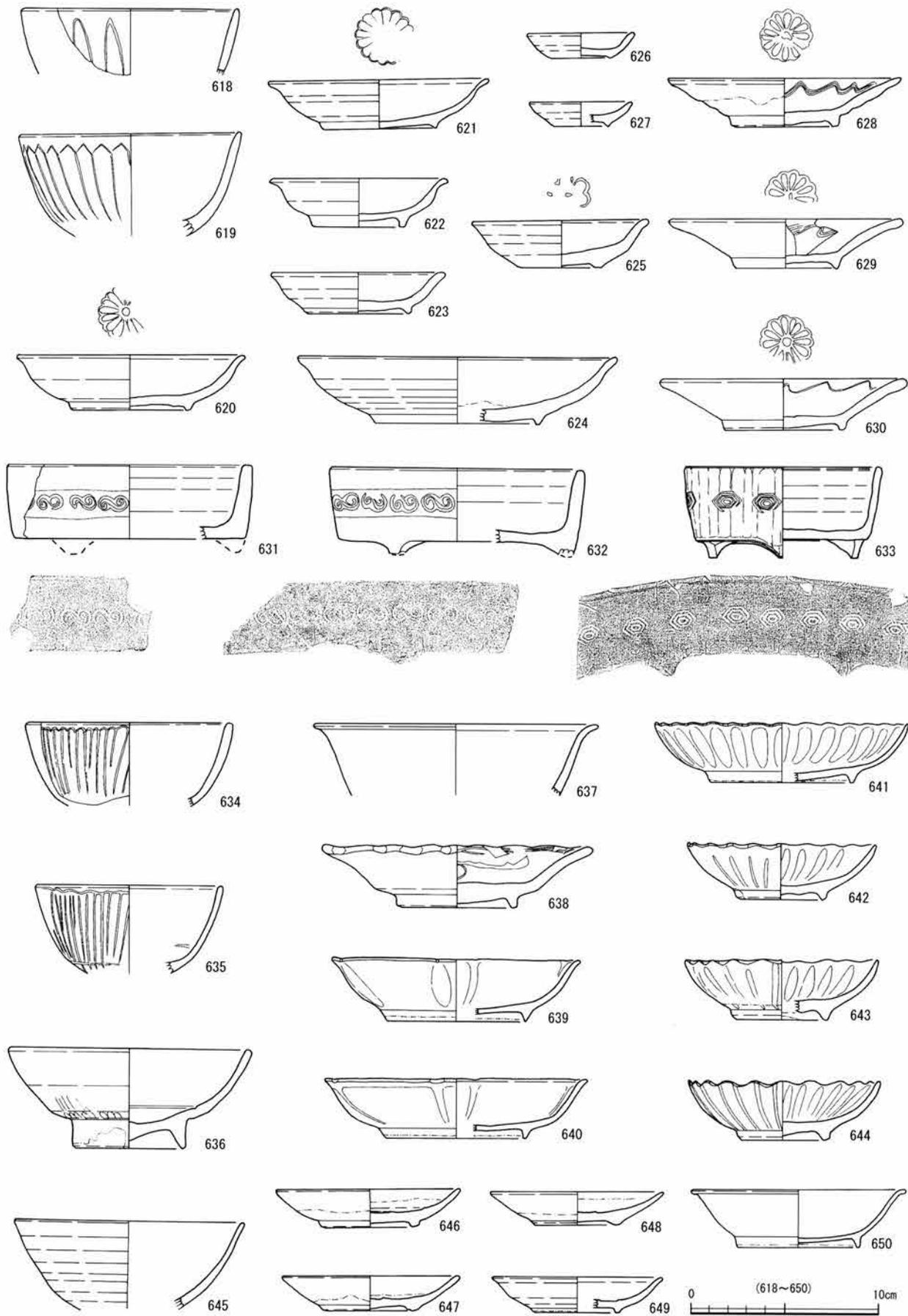
第40図 出土遺物 D区Ⅱ遺構面(2)

D区II遺構面(3)



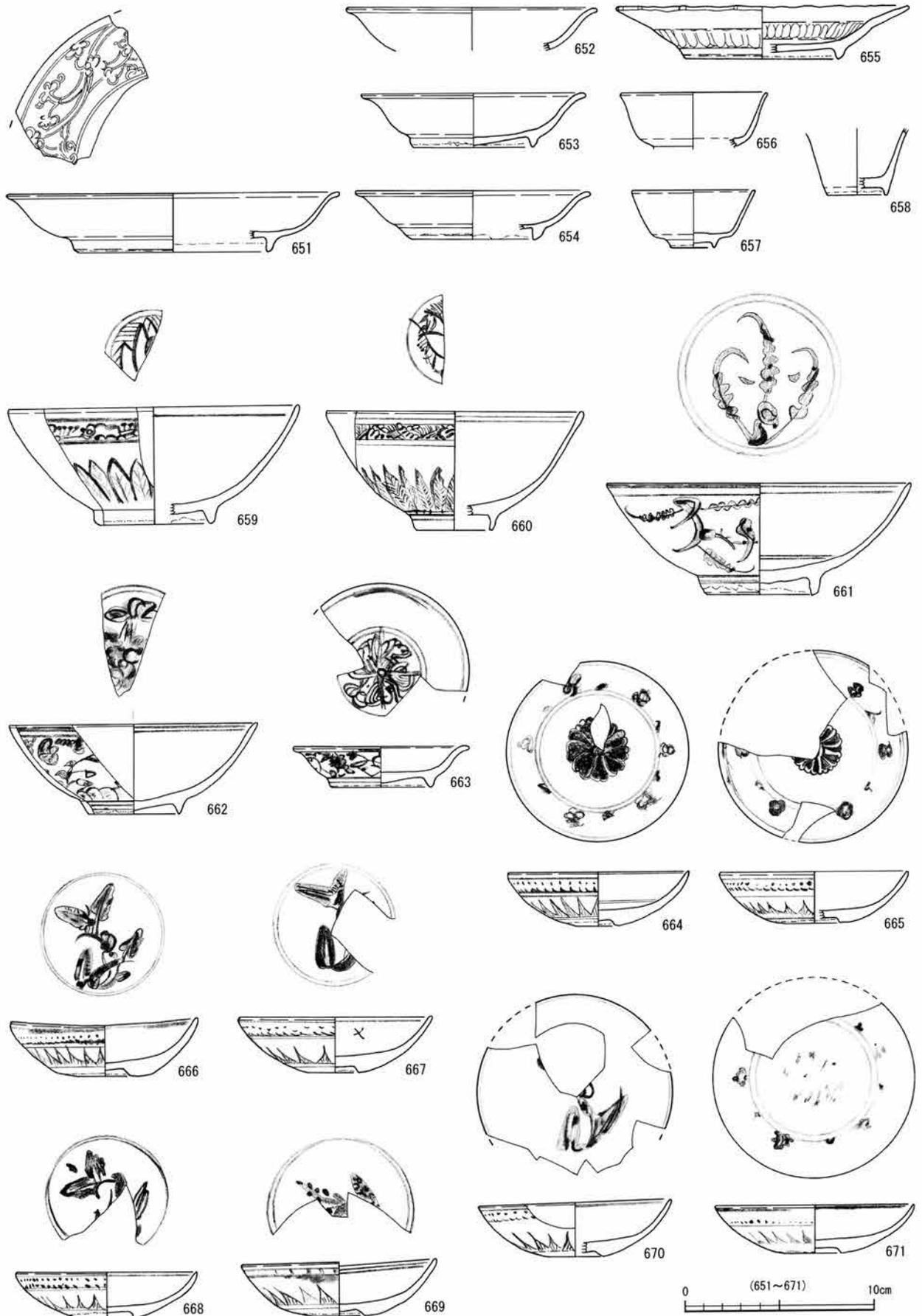
第41图 出土遺物 D区II遺構面(3)

D区Ⅱ遺構面(4)



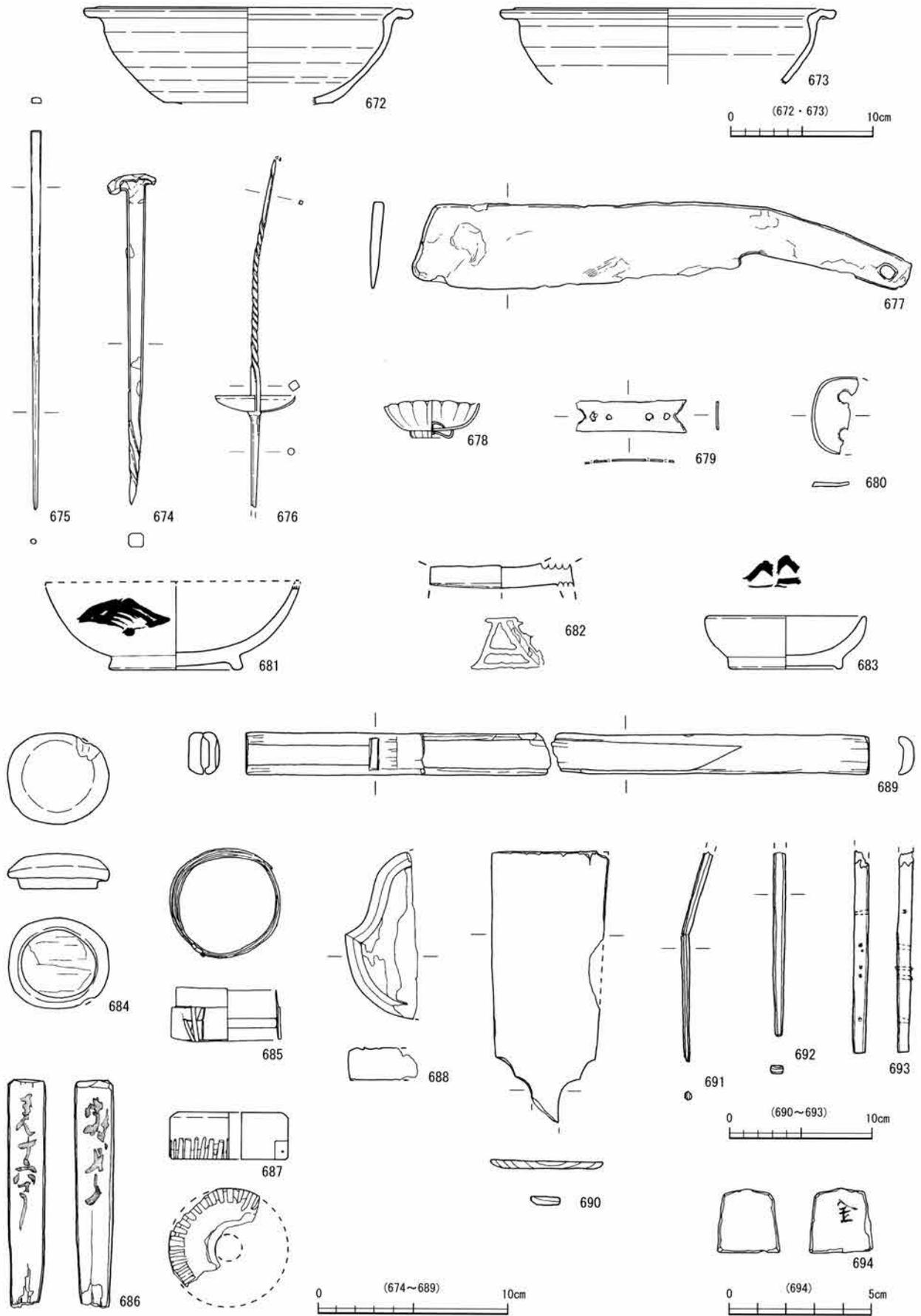
第42図 出土遺物 D区Ⅱ遺構面(4)

D区II遺構面(5)



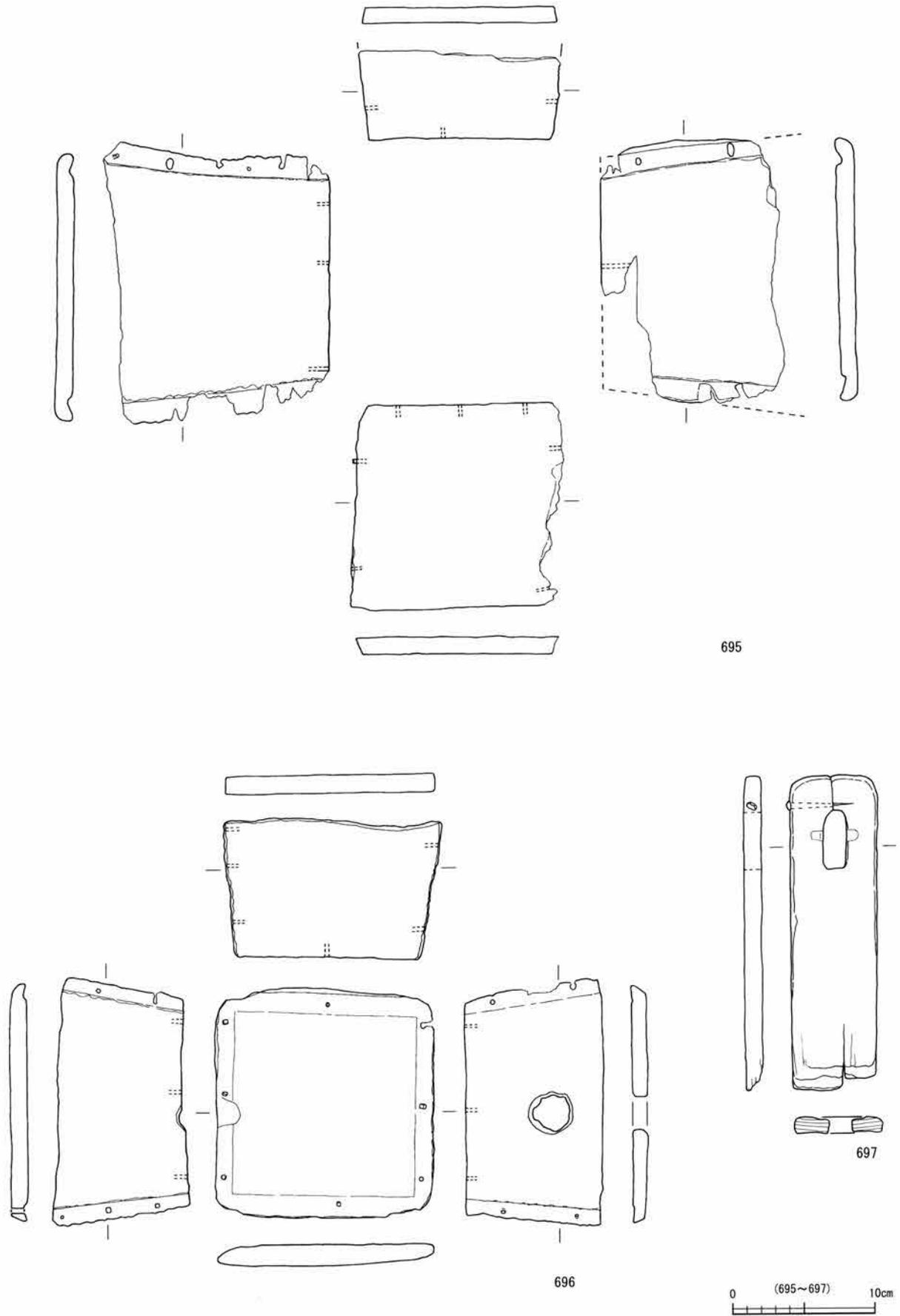
第43图 出土遺物 D区II遺構面(5)

D区II遺構面(6)



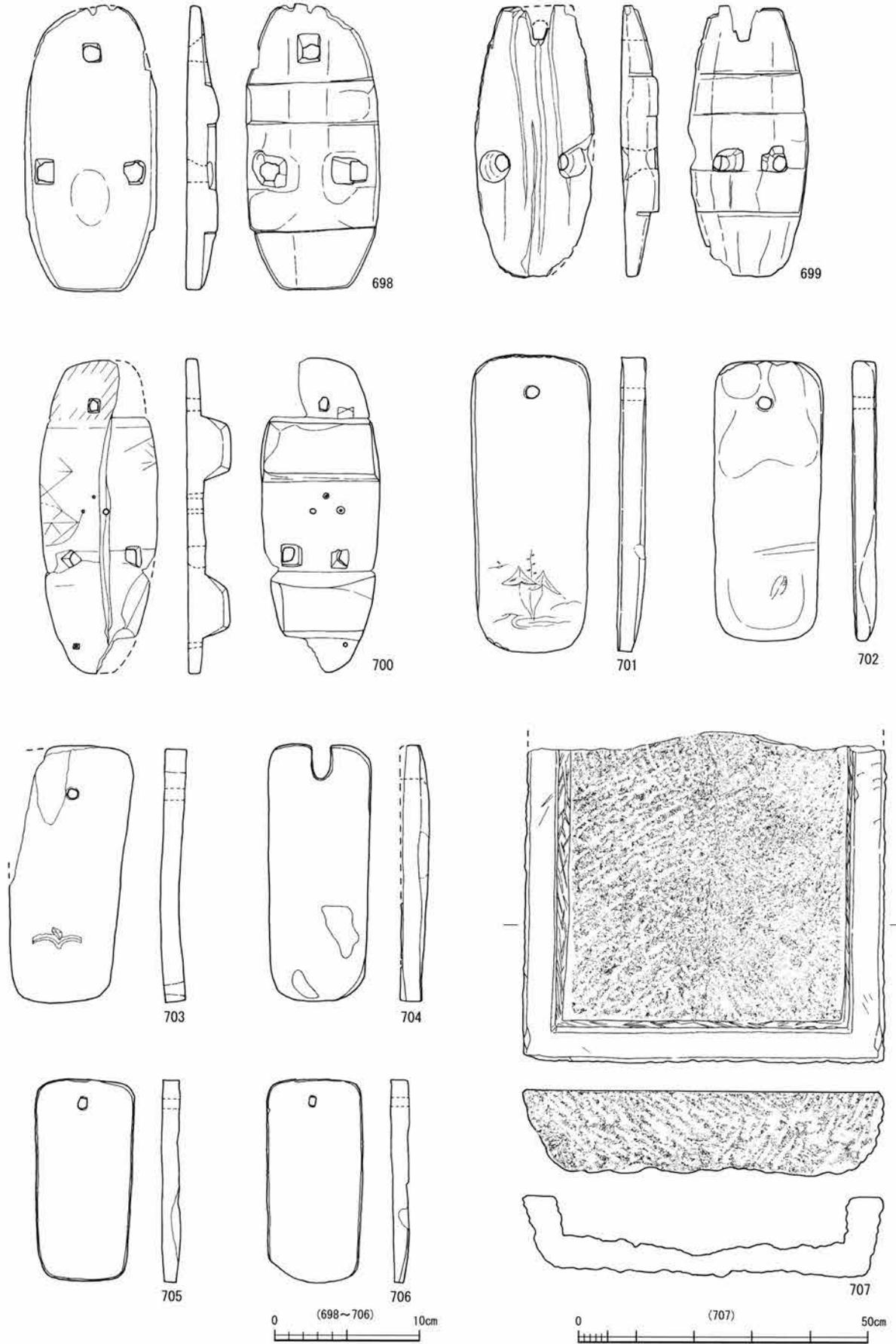
第44图 出土遺物 D区II遺構面(6)

D区II遺構面(7)



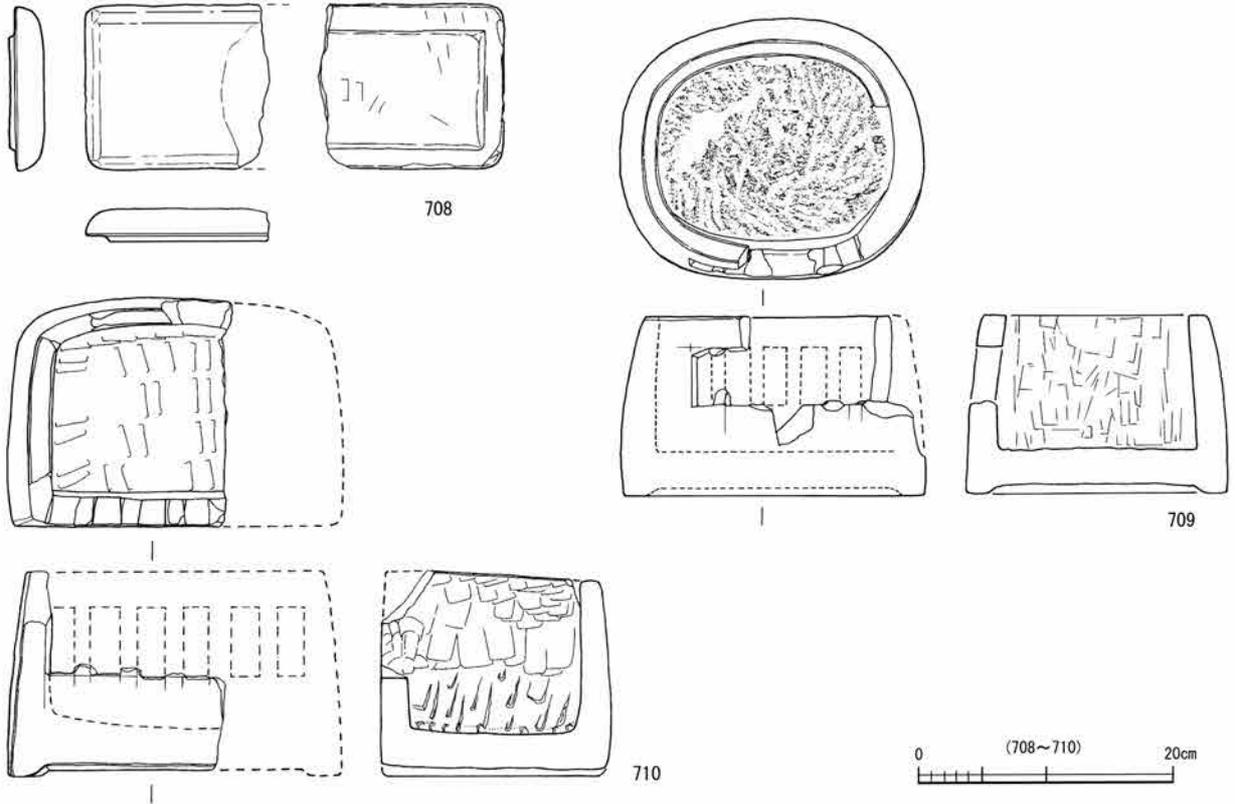
第45図 出土遺物 D区II遺構面(7)

D区II遺構面(8)

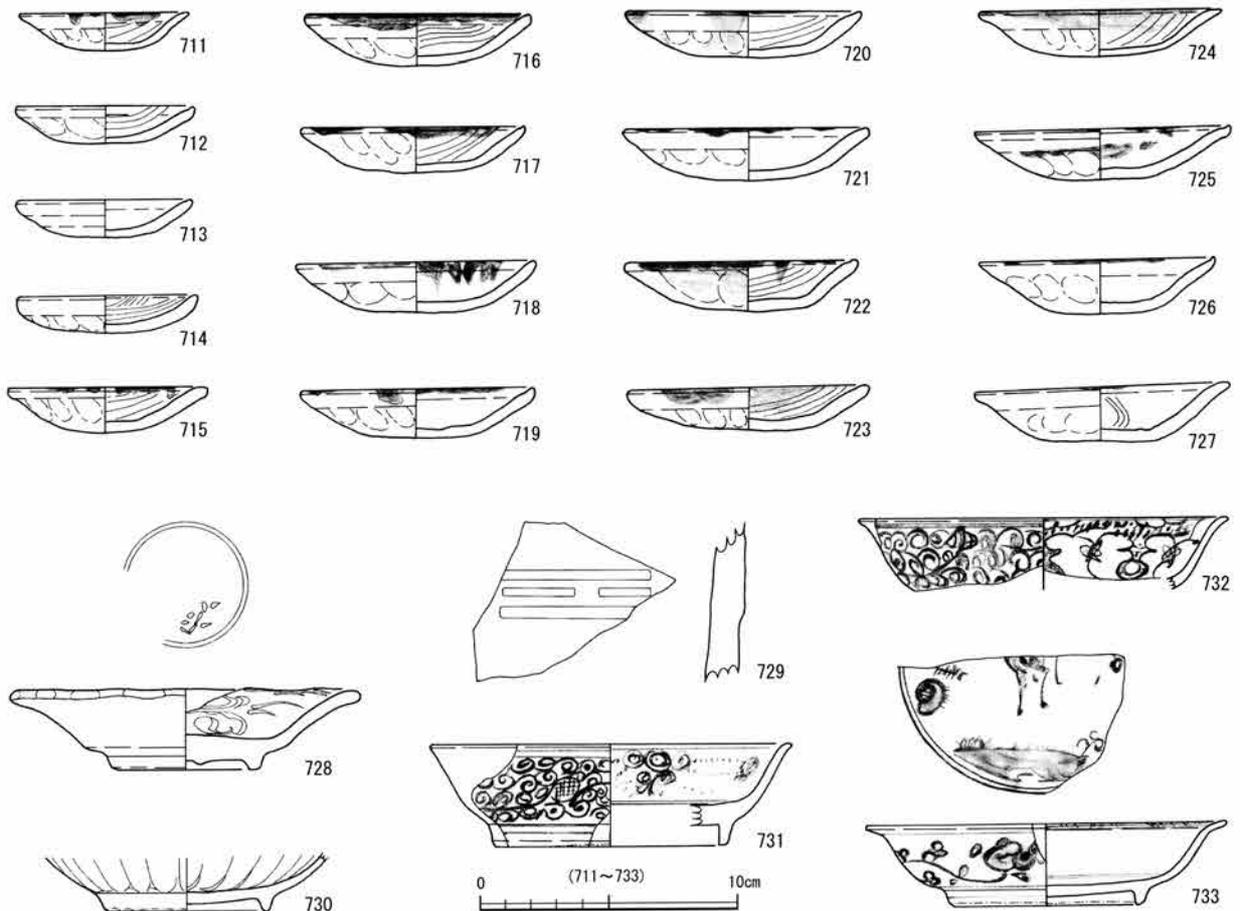


第46图 出土遺物 D区II遺構面(8)

D区II遺構面(9)

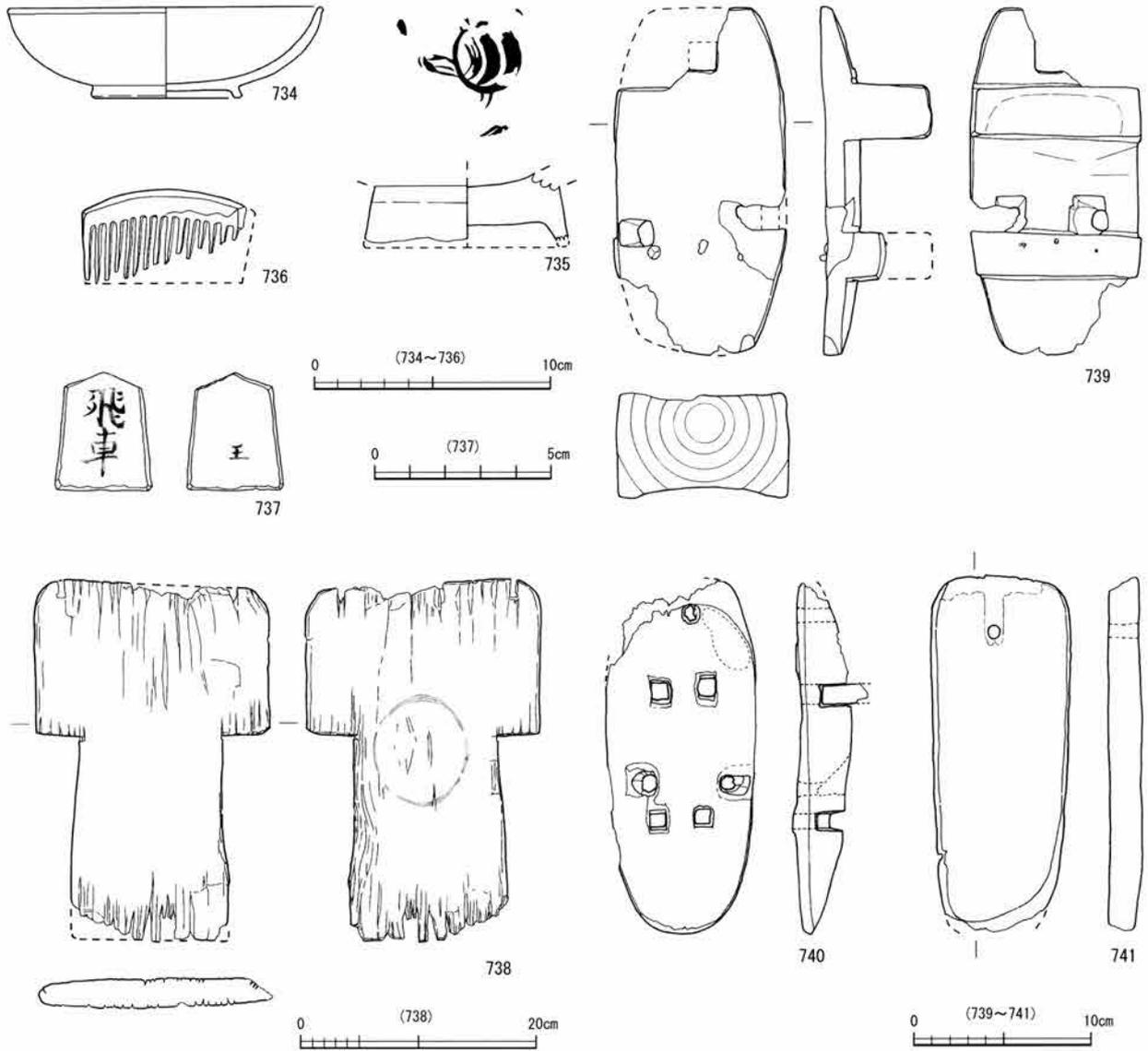


E区I遺構面(1)

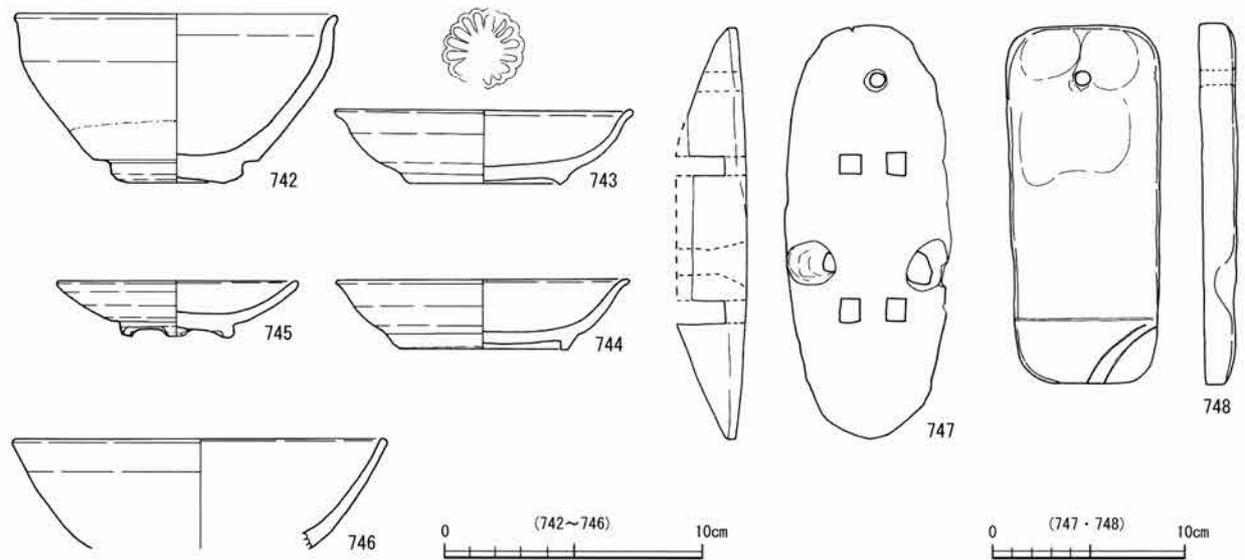


第47图 出土遺物 D区II遺構面(9)、E区I遺構面(1)

E区I遺構面(2)

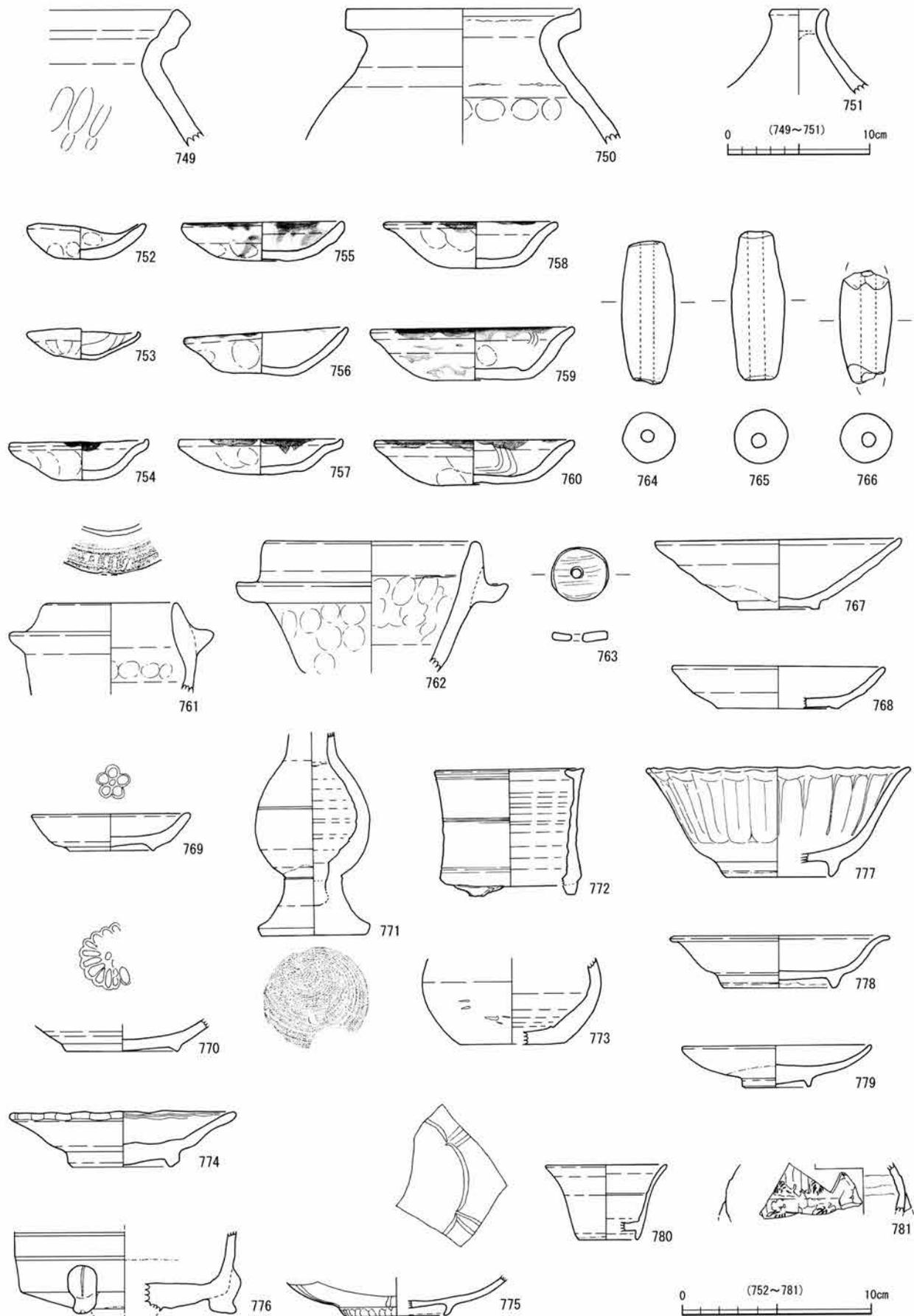


E区II遺構面



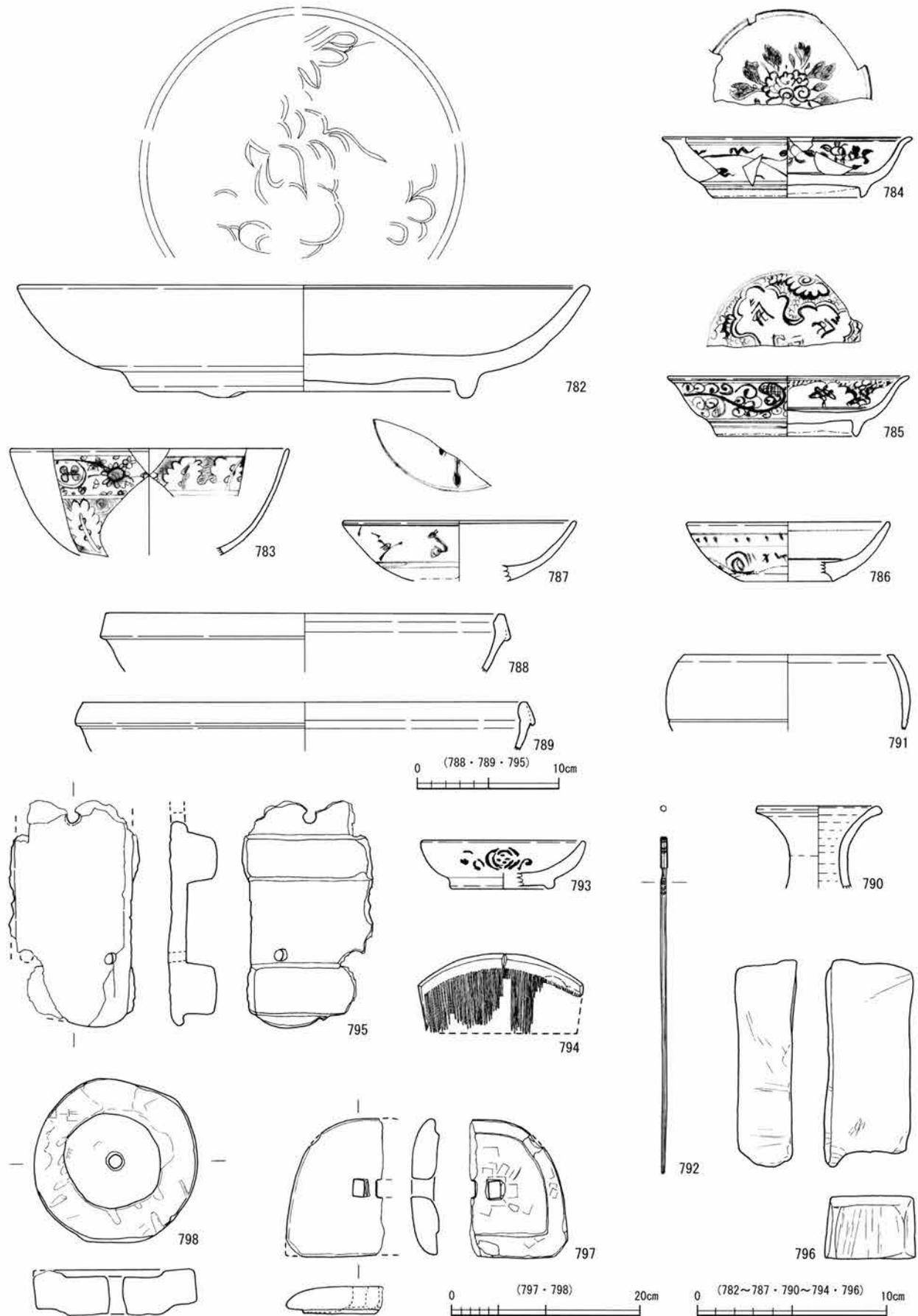
第48図 出土遺物 E区I遺構面(2)、E区II遺構面

その他 I 遺構面(1)



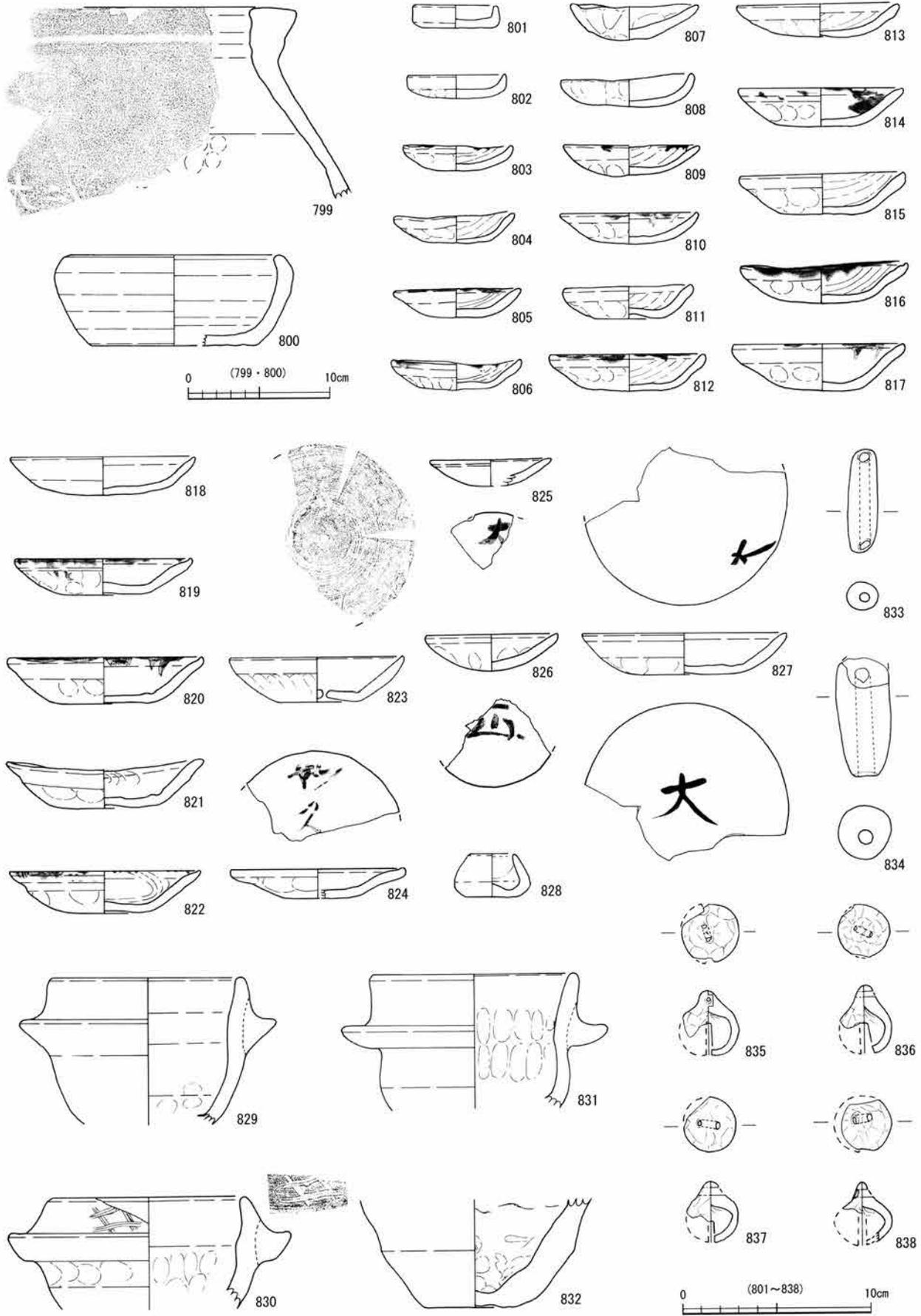
第49図 出土遺物 その他 I 遺構面(1)

その他 I 遺構面(2)



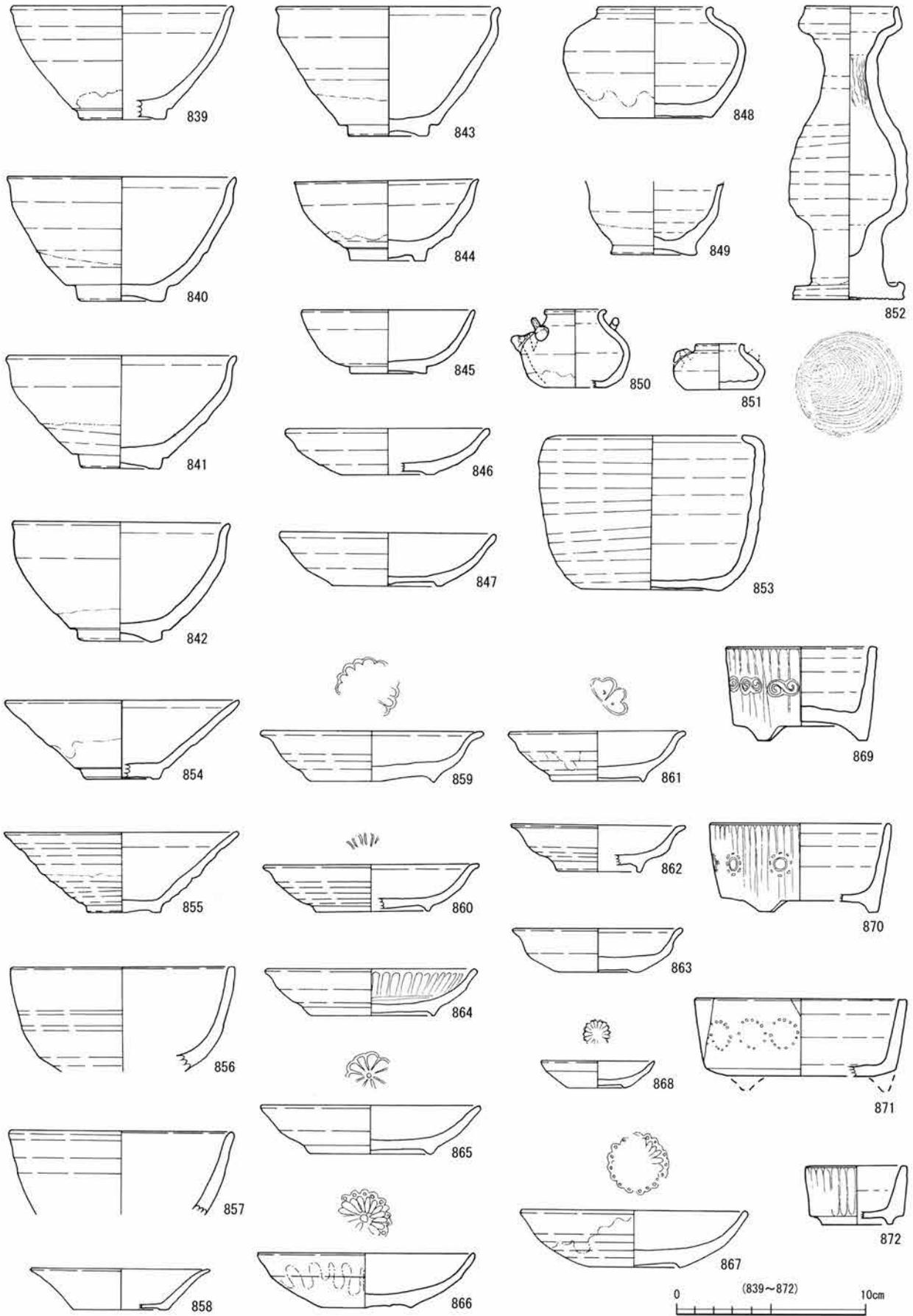
第50図 出土遺物 その他 I 遺構面(2)

その他Ⅱ遺構面(1)



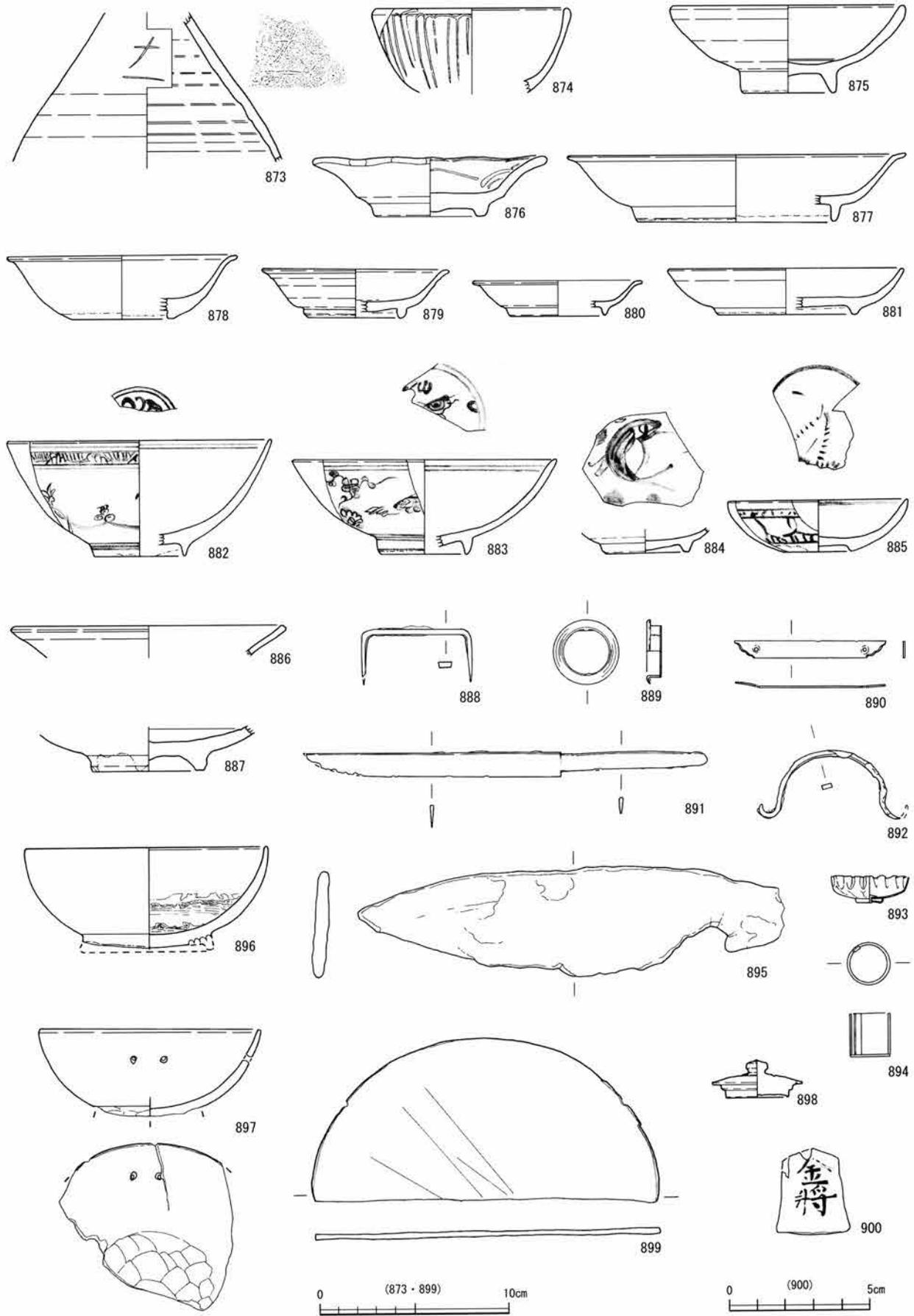
第51図 出土遺物 その他Ⅱ遺構面(1)

その他Ⅱ遺構面(2)



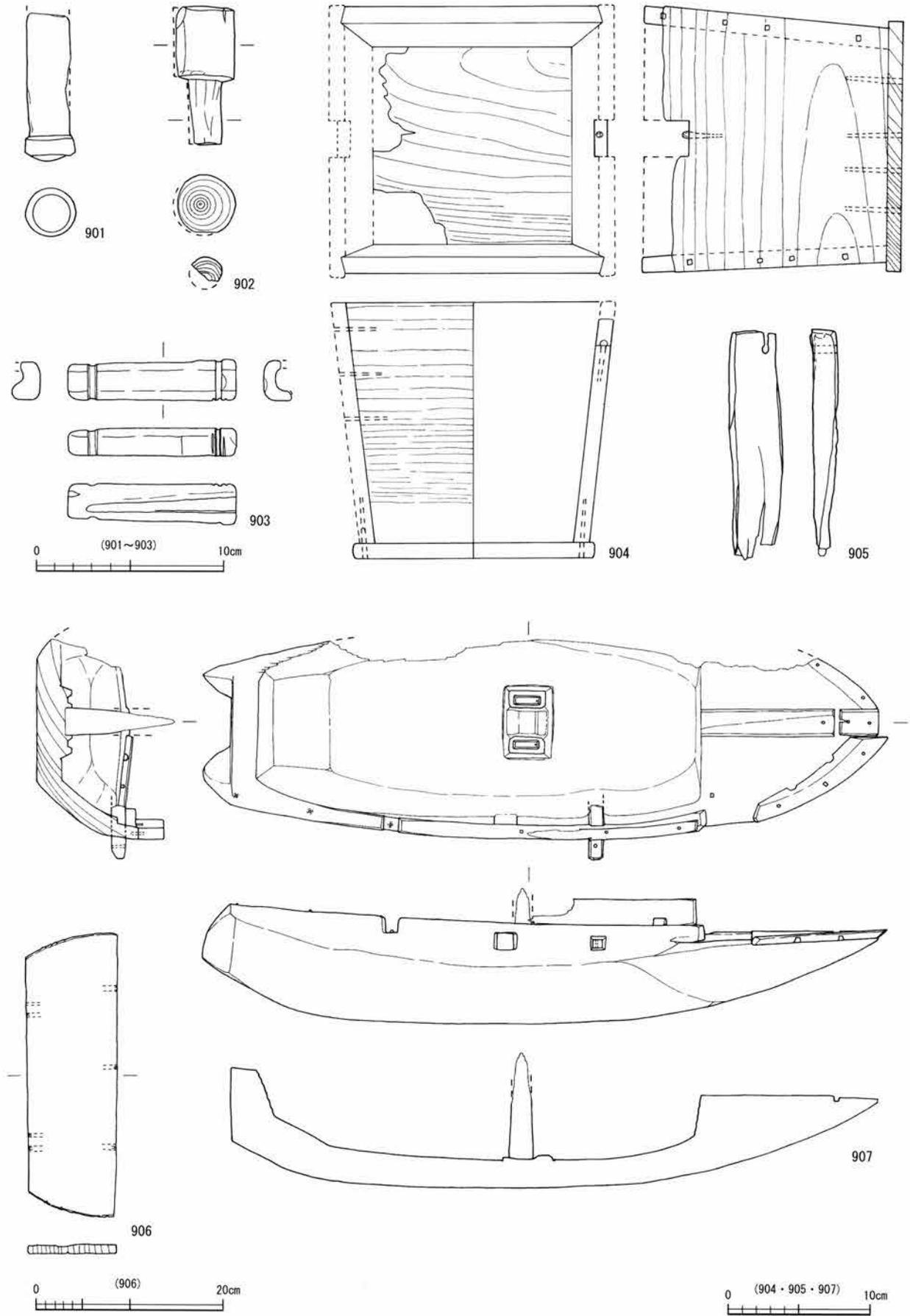
第52図 出土遺物 その他Ⅱ遺構面(2)

その他Ⅱ遺構面(3)



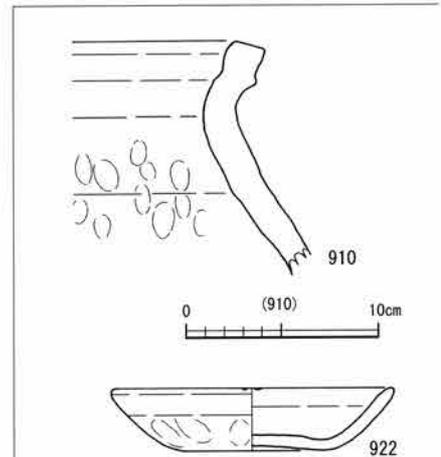
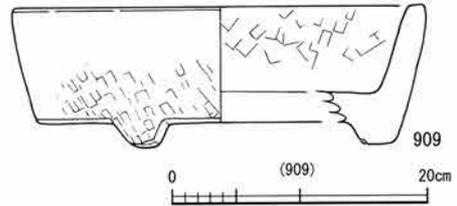
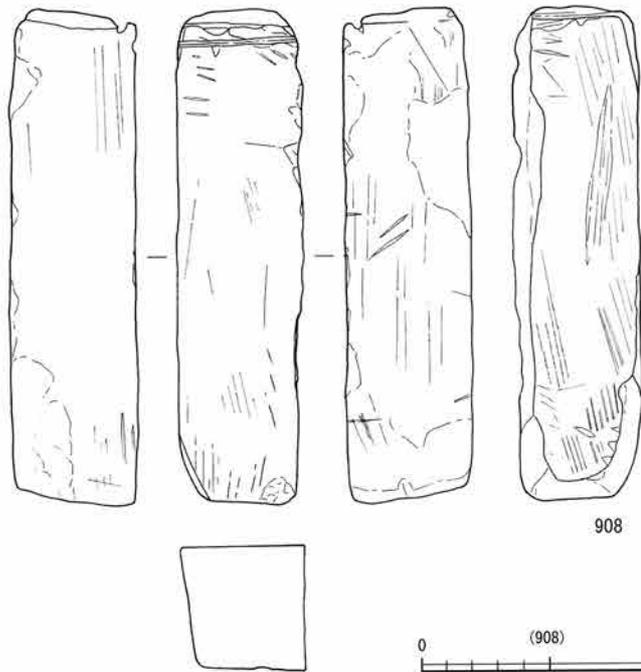
第53図 出土遺物 その他Ⅱ遺構面(3)

その他Ⅱ遺構面(4)

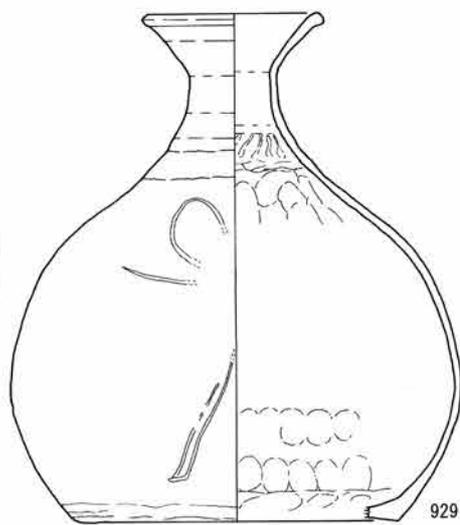
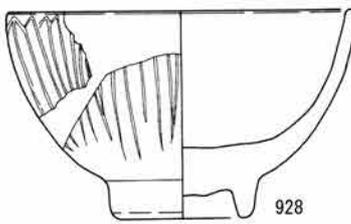
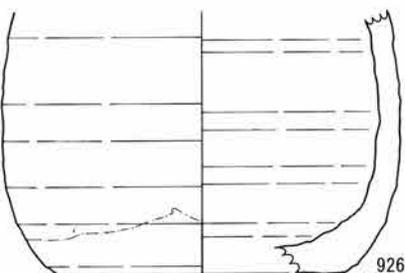
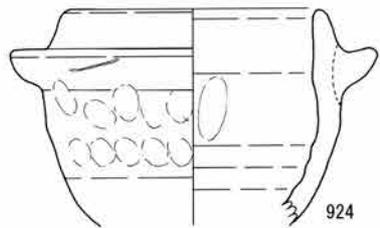
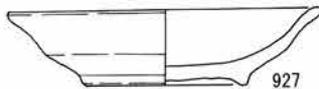
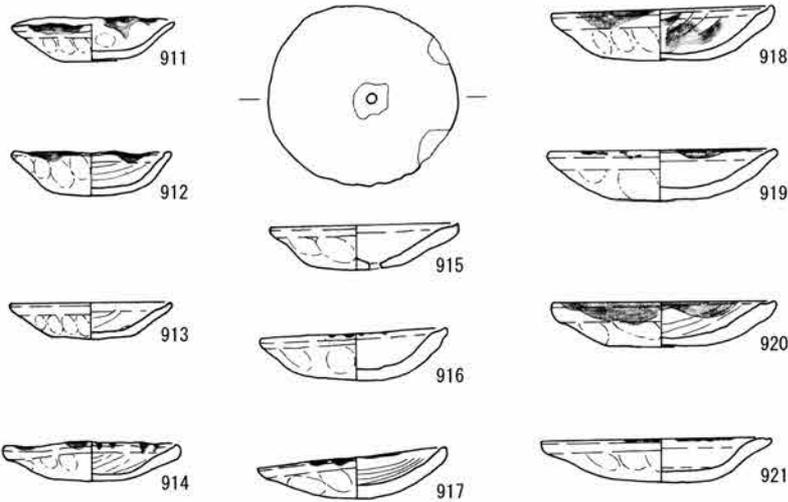


第54図 出土遺物 その他Ⅱ遺構面(4)

その他Ⅱ遺構面(5)

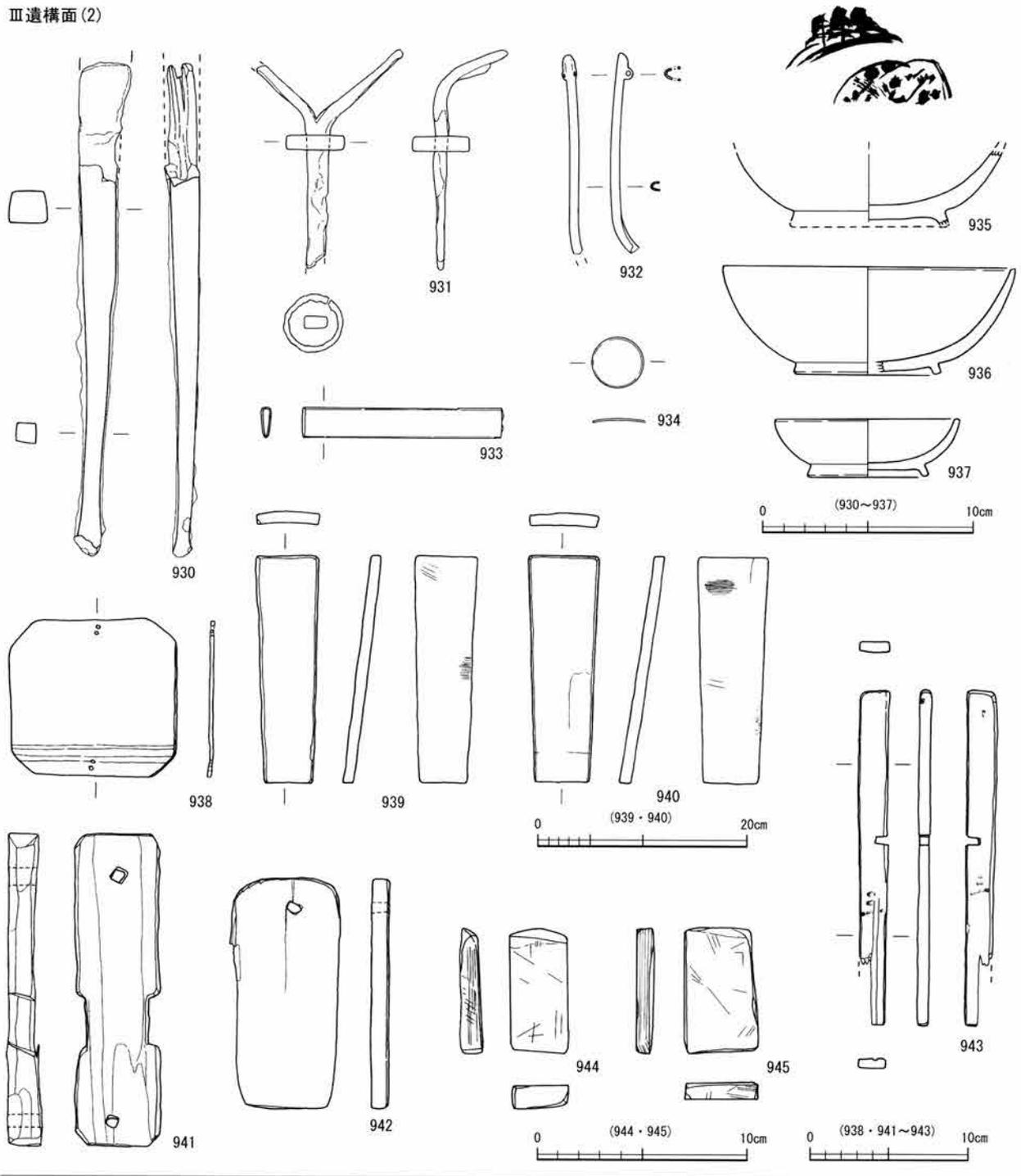


Ⅲ遺構面(1)

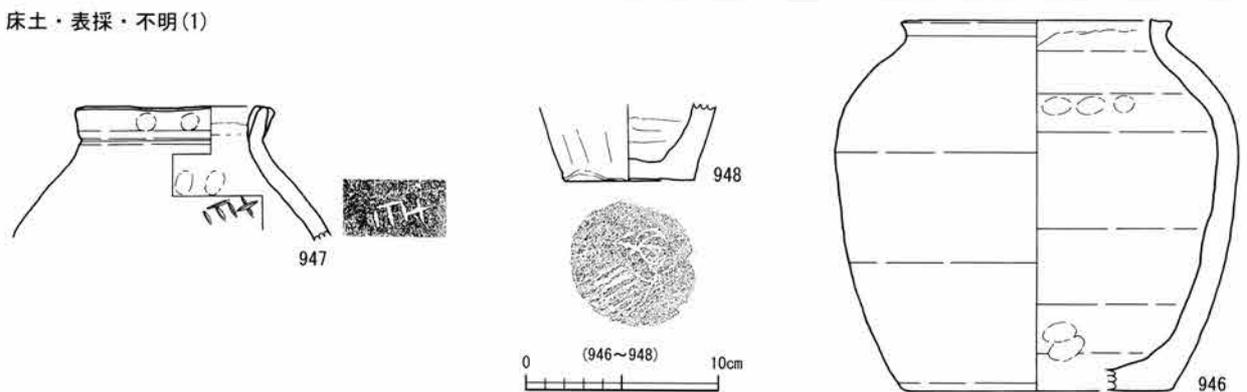


第55図 出土遺物 その他Ⅱ遺構面(5)、Ⅲ遺構面(1)

Ⅲ遺構面(2)

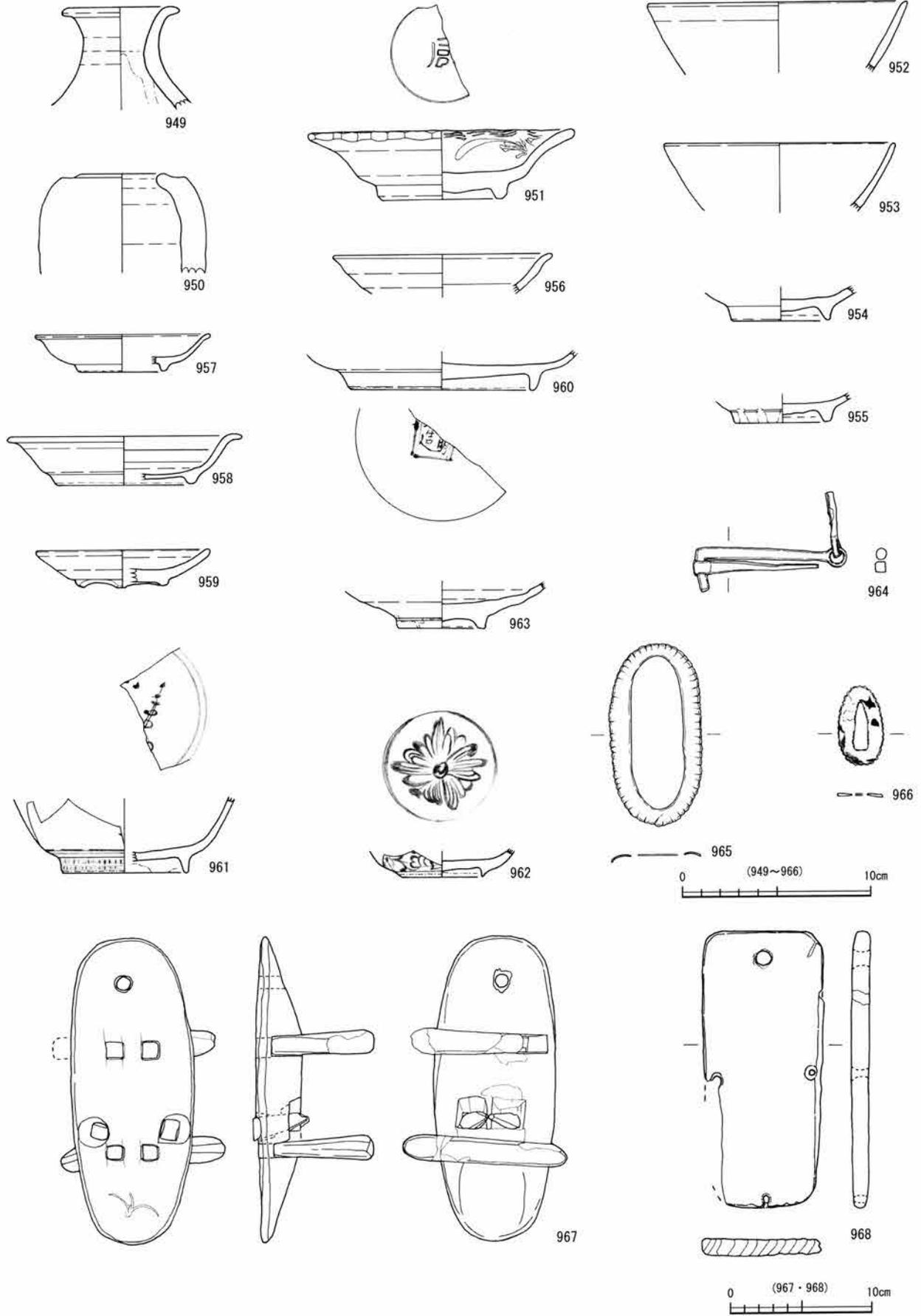


床土・表採・不明(1)

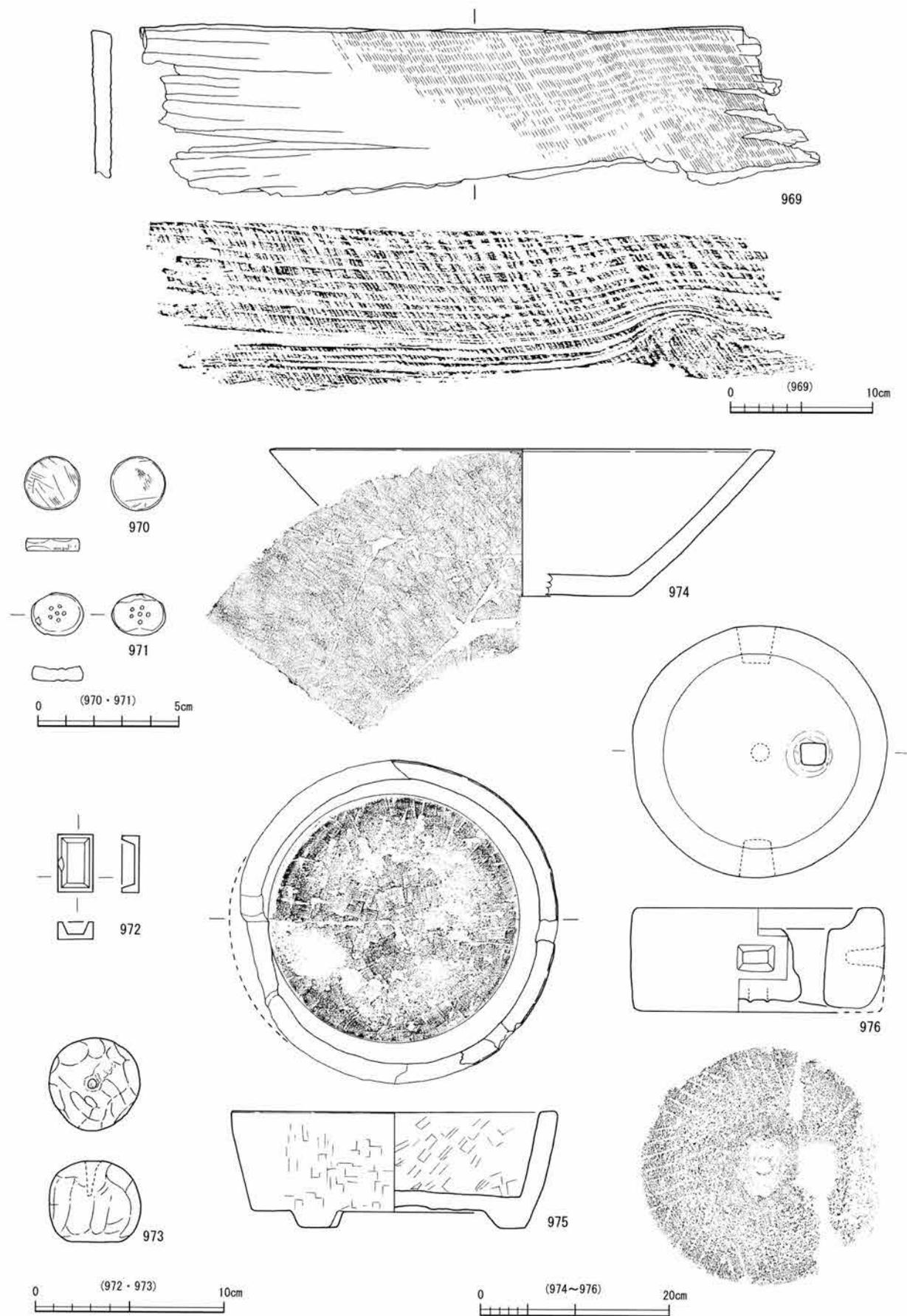


第56図 出土遺物 Ⅲ遺構面(2)、床土・表採・不明(1)

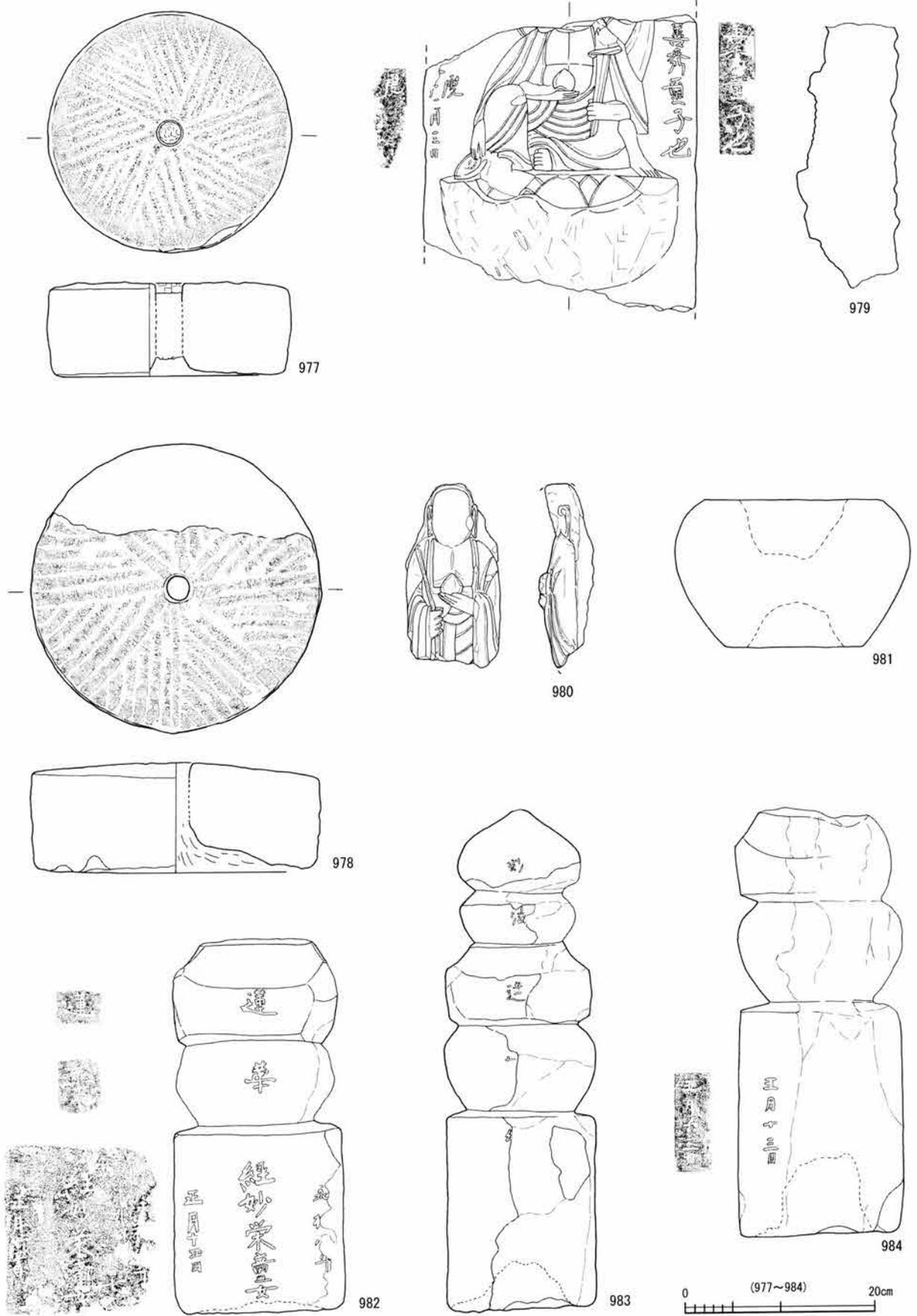
床土・表採・不明(2)



第57図 出土遺物 床土・表採・不明(2)



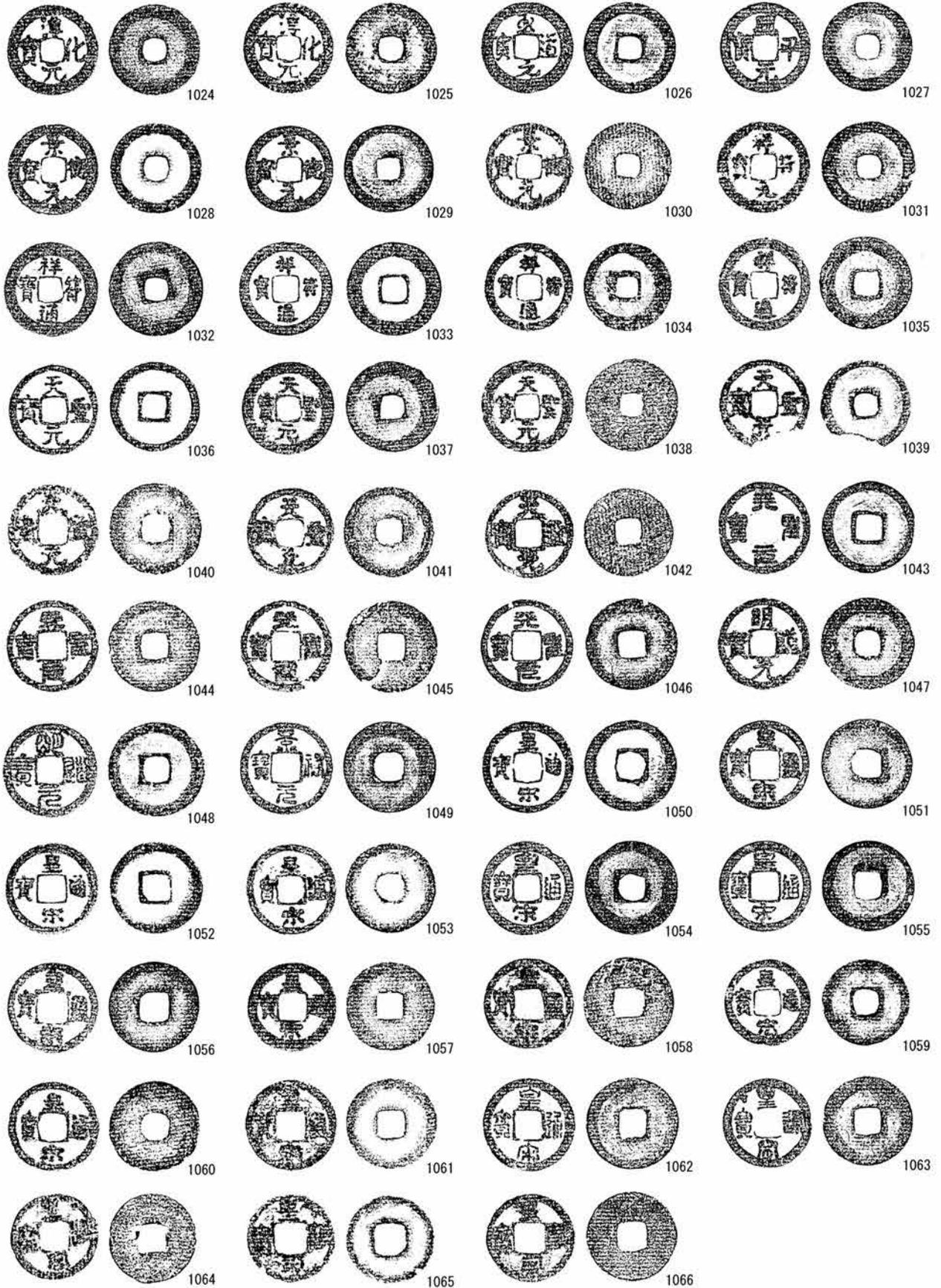
第58図 出土遺物 床土・表採・不明(3)



第59図 出土遺物 床土・表採・不明(4)



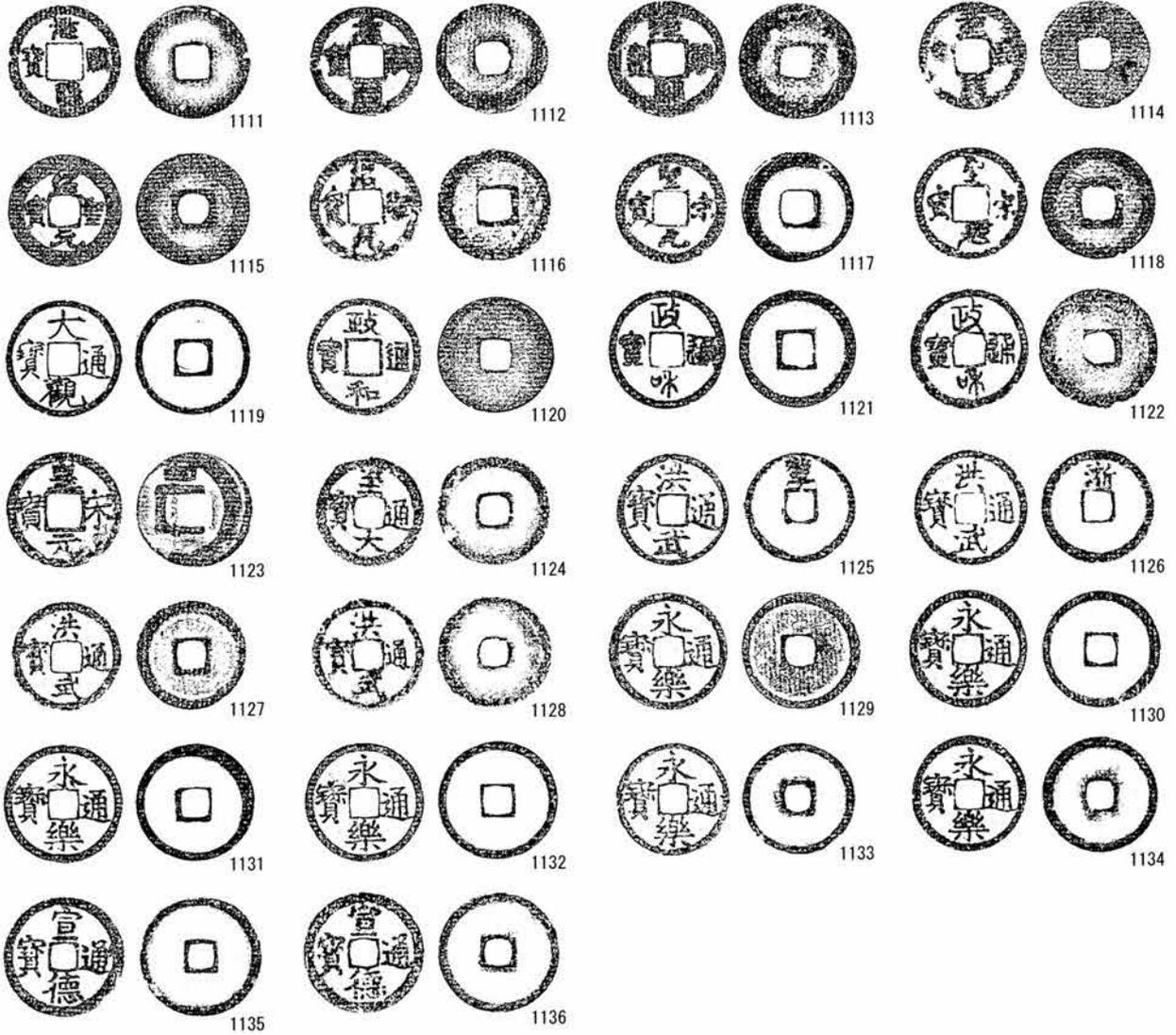
B区II遺構面(2)



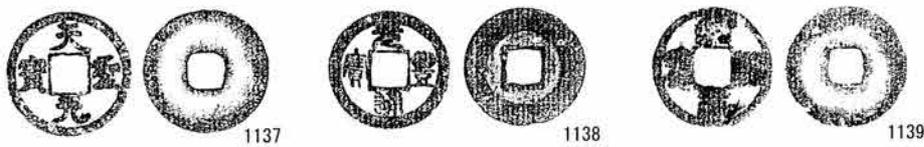
第61図 出土遺物 錢貨 B区II遺構面(2)



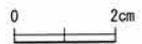
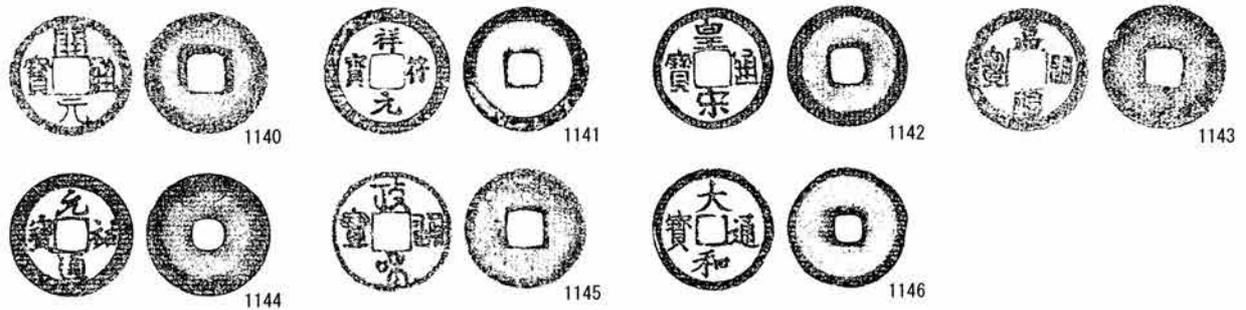
B区II遺構面(4)



B区III遺構面



C区I遺構面



第63図 出土遺物 錢貨 B区II遺構面(4)、B区III遺構面、C区I遺構面

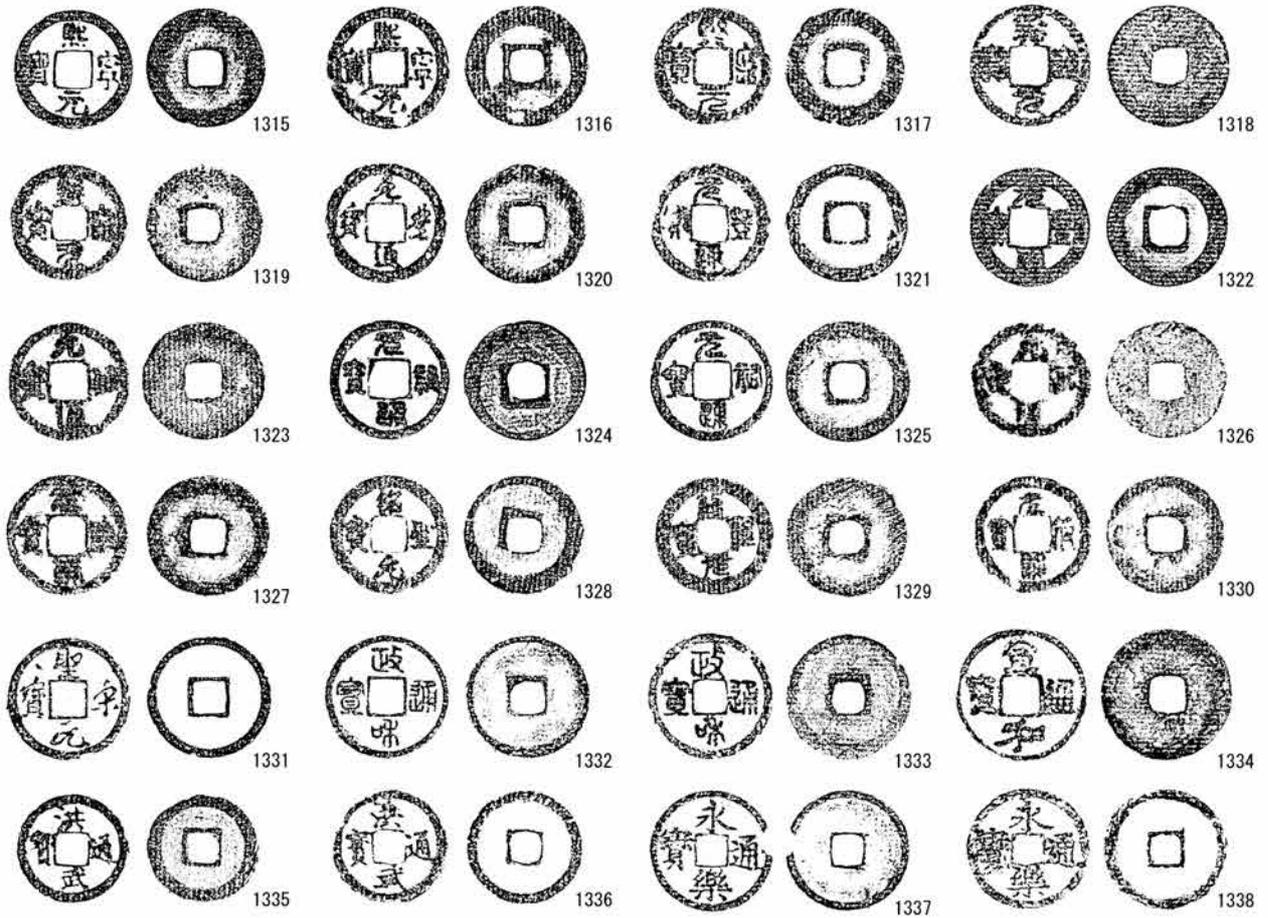




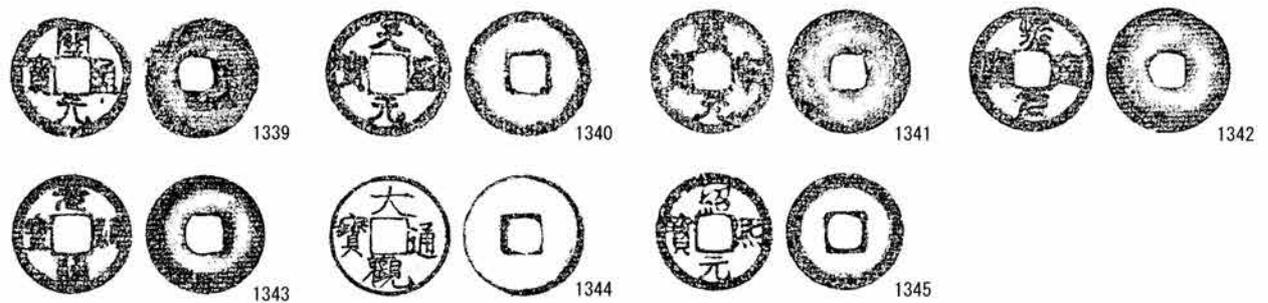




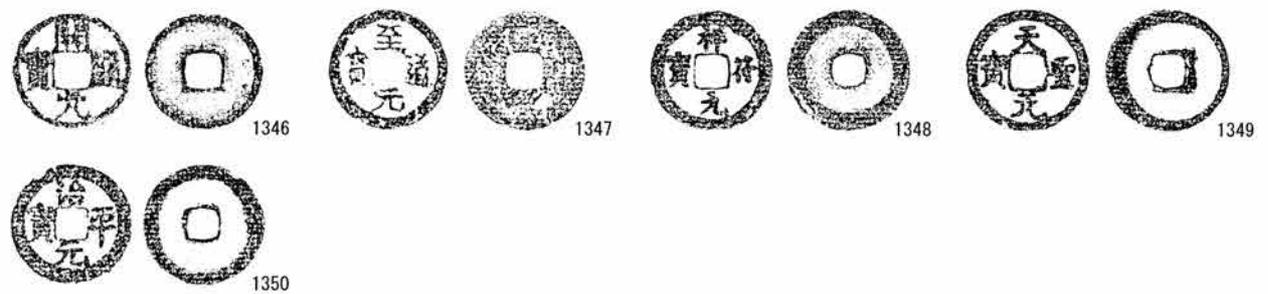
D区II遺構面(2)



E区I遺構面



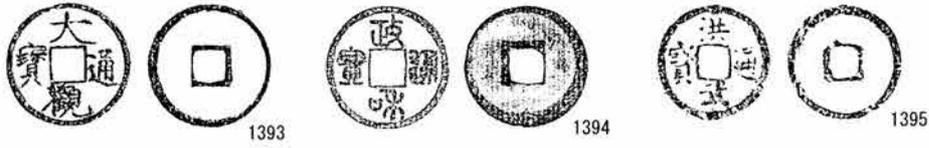
E区II遺構面



第68図 出土遺物 錢貨 D区II遺構面(2)、E区I遺構面、E区II遺構面



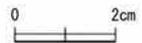
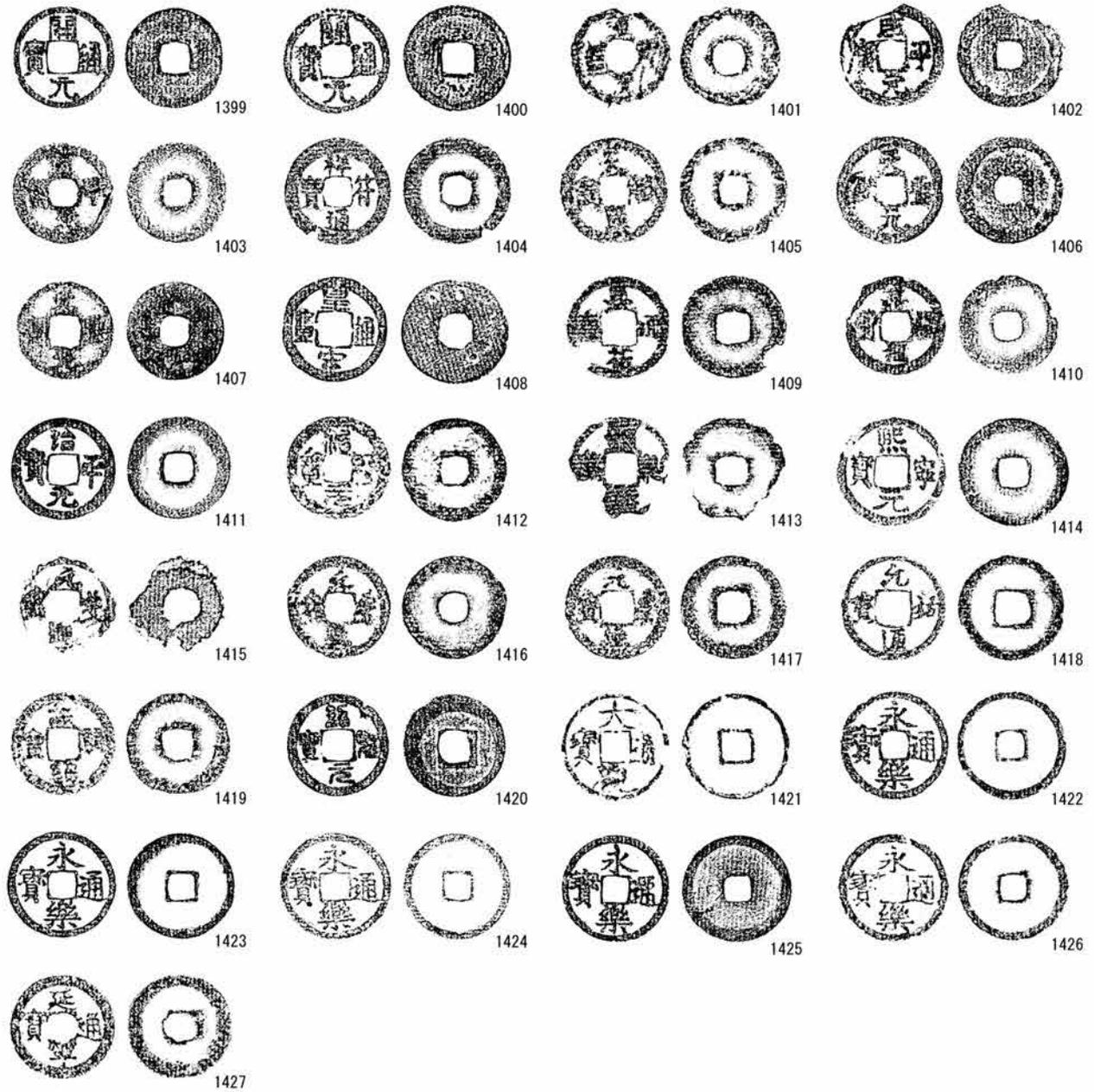
その他Ⅱ遺構面(2)



その他Ⅲ遺構面



床土・表採・不明



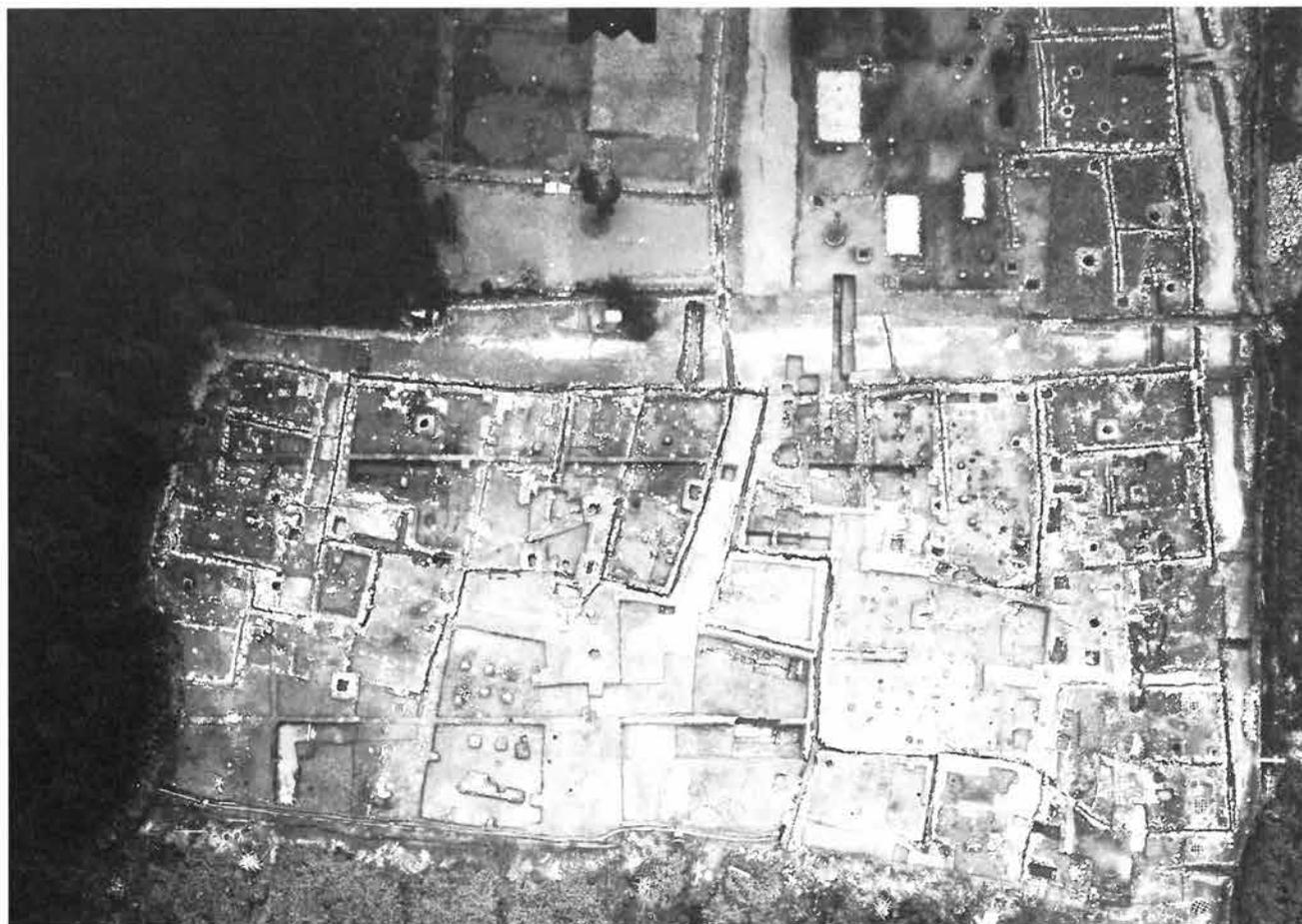
第70図 出土遺物 銭貨 その他Ⅱ遺構面(2)、その他Ⅲ遺構面、床土・表採・不明



(1) 調査区遠景 (下が北)



(2) 上層遺構面全景 (上が北)



(3) 下層遺構面全景 (上が北)



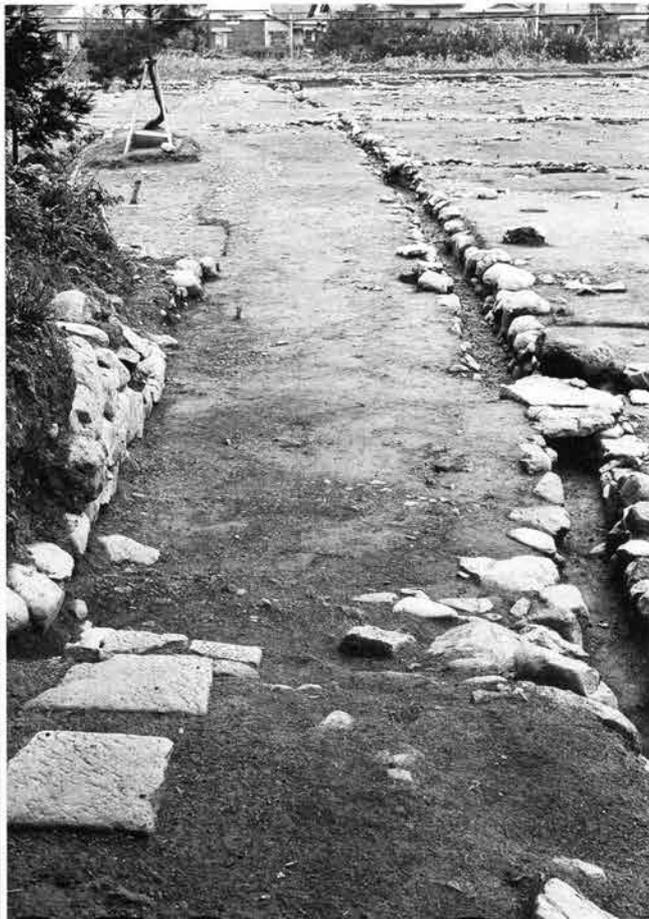
(4) 上層遺構面近景 (南東より)



(5) 下層遺構面近景 (南東より)



(6) SS493 (東より)



(7) SS493・SJ1619 (西より)



(8) SS1564・SX1623 (北より)



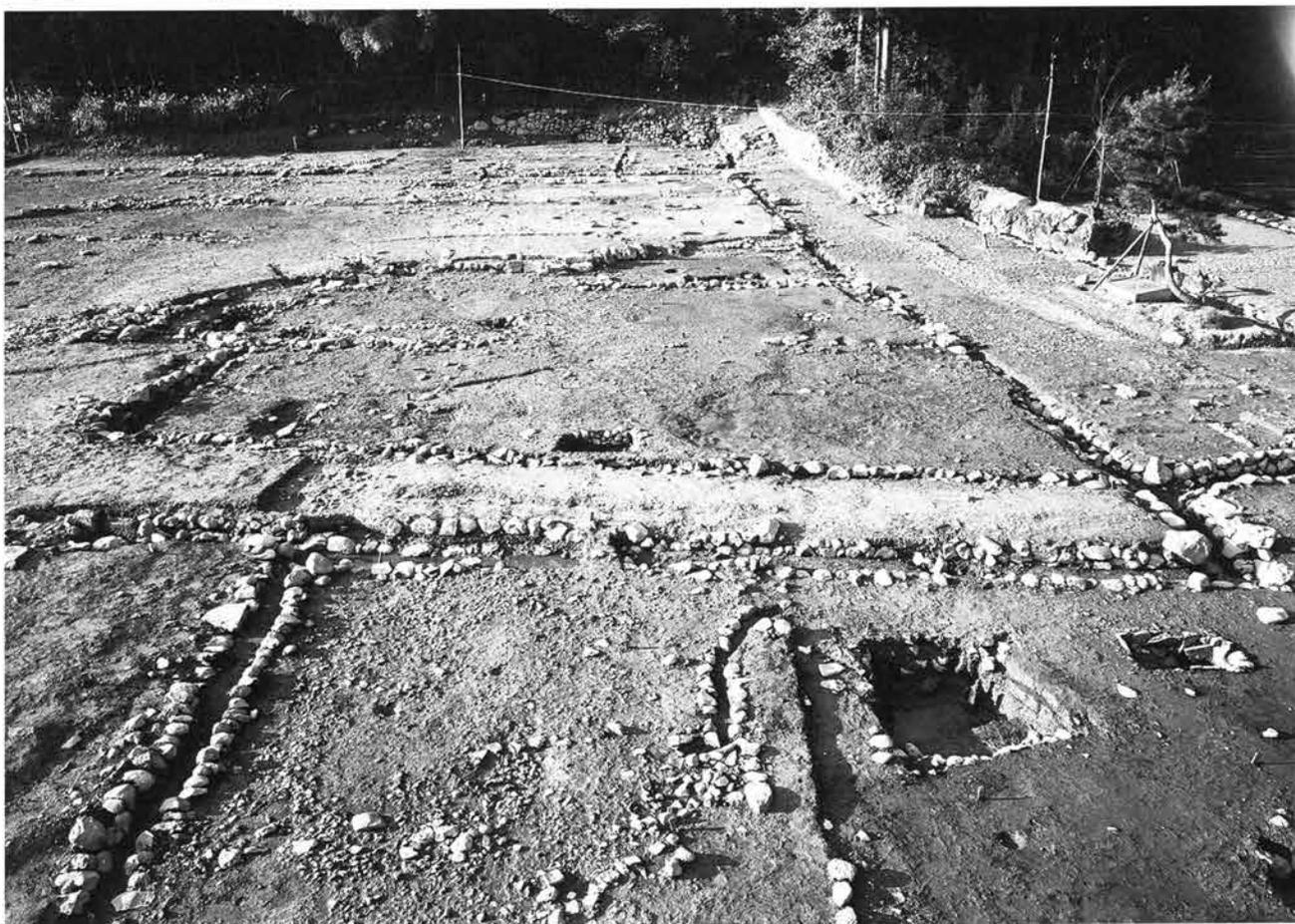
(9) SS1564 (南より)



(10) SS1565 (南より)



(11) SS1567 (南より)



(12) SS1565、SD501・1574北半 (東より)



(13) 上層遺構面北半 (東より)



(14) 上層遺構面南半 (東より)



(15) SB1550、SX1635、SD1568 (東より)



(16) SB1714・1715 (東より)



(17) SF1604 (東より)



(18) SE1594 (南より)



(19) SB1714 (東より)



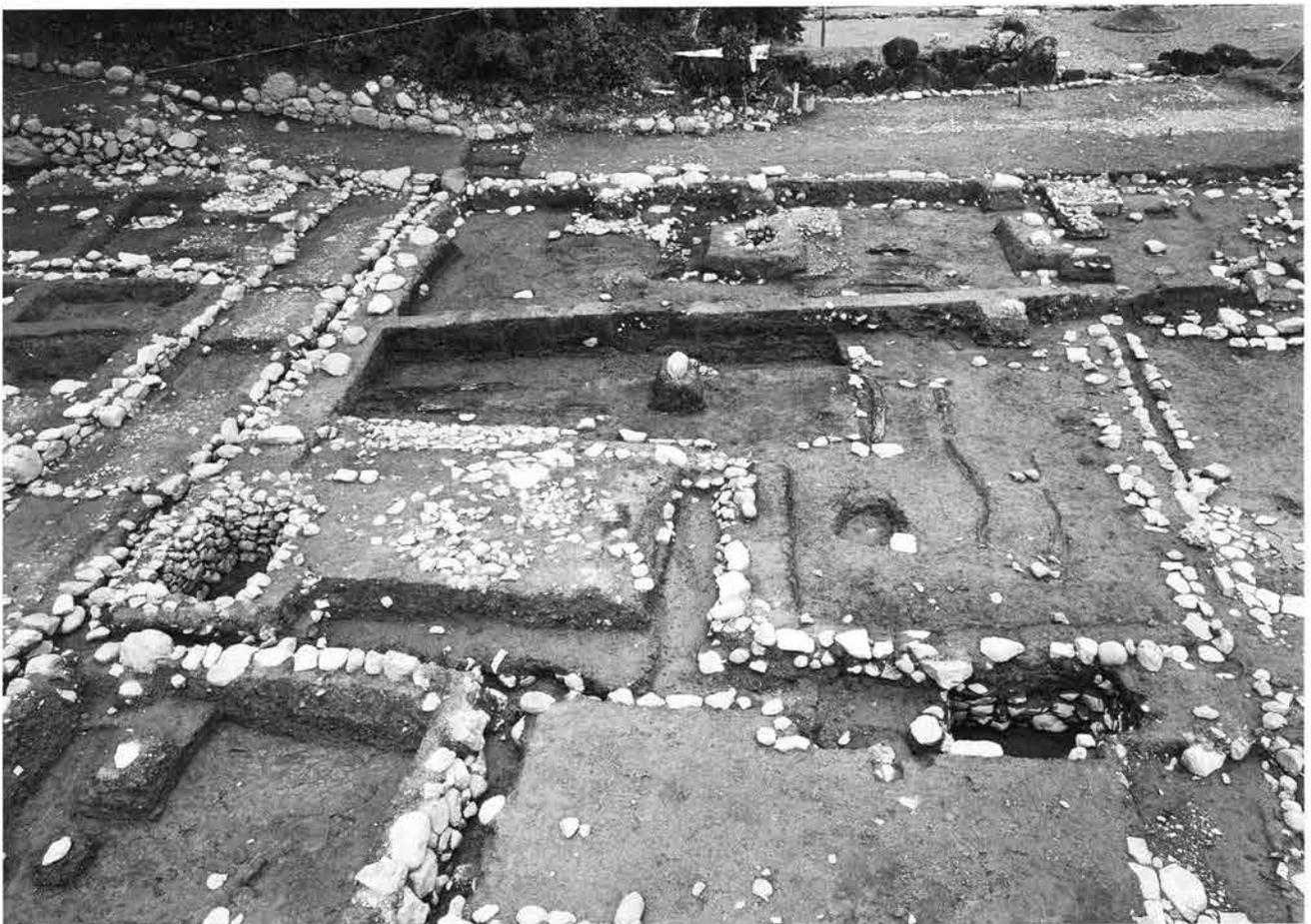
(20) SF1741 (北より)



(21) SB1553・1554 (東より)



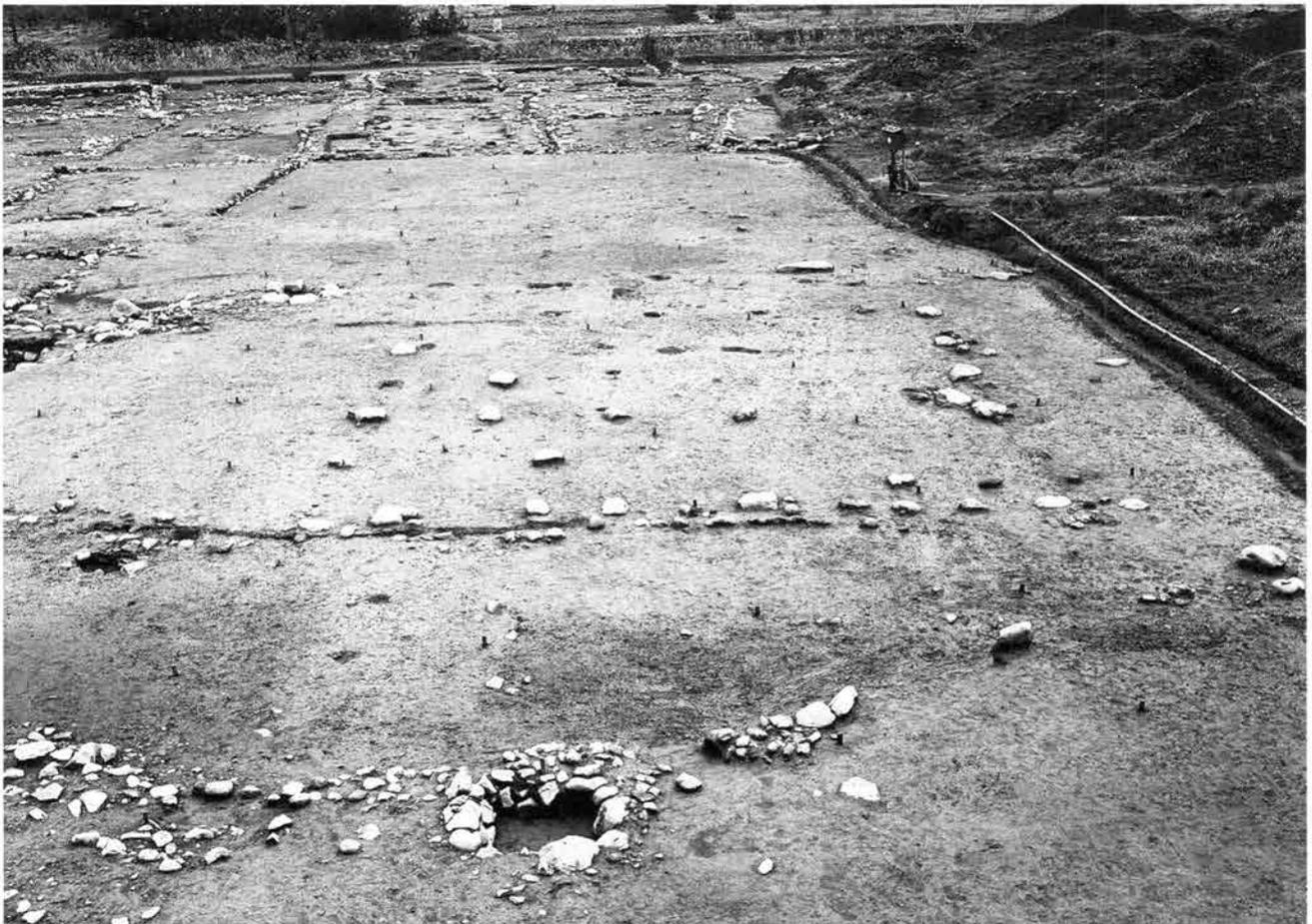
(22) SB1555 (南より)



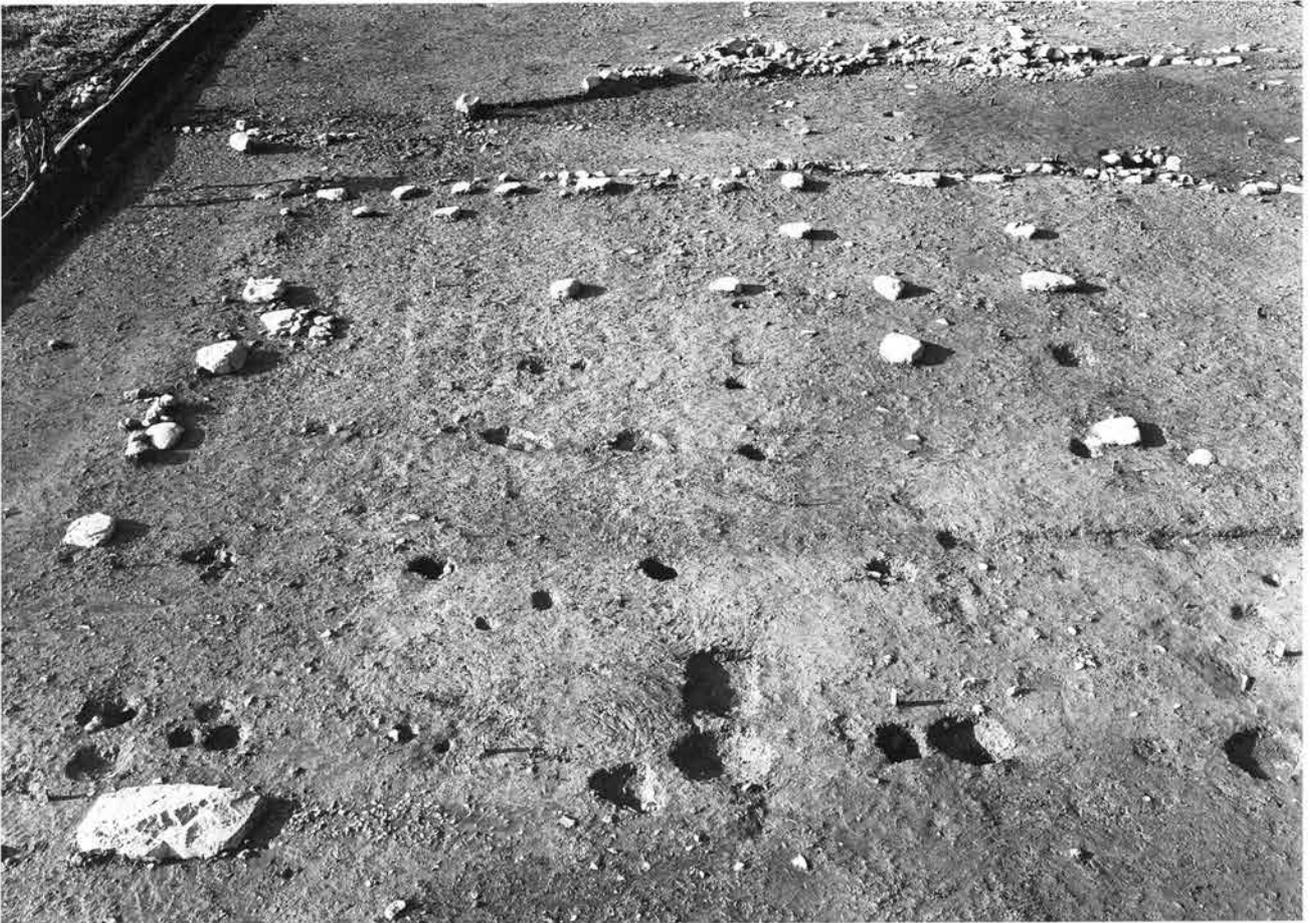
(23) SF1742、SX1784・1785 (南より)



(24) SB1721 (北より)



(25) SB1556、SF1606 (西より)



(26) SB1556 (東より)



(27) SB1720 (北より)



(28) SE1596 (南より)



(29) SF1605 (西より)



(30) 陶磁器を収めたバンドコ



(31) SF1607 (西より)



(32) SF1606 (南より)



(33) SE1598 (南より)



(34) SX1663・1664 (東より)



(35) SX1787 (東より)



(36) SX1662 (北より)



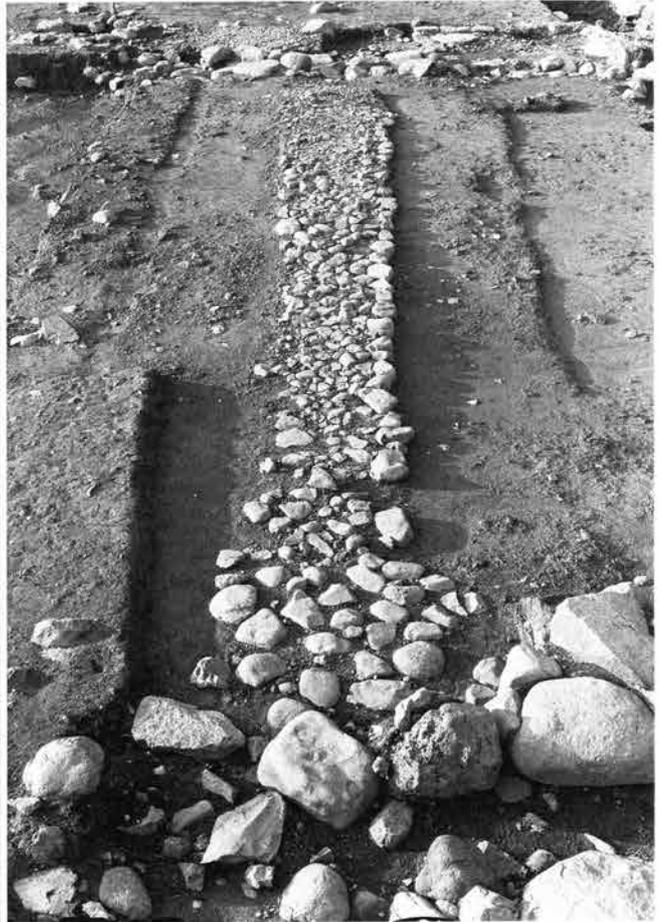
(38) SF1742 (南より)



(39) SX1840 (東より)



(37) SD1730 (東より)



(40) SS1728 (東より)



(41) SS1729、SA1748、SX1808・SX1809ほか (西より)



(42) SD1576・1736・1738、SF1743



(43) SD1737 (南より)



(44) 上層遺構面 (北より)



(45) SX1838 (北より)



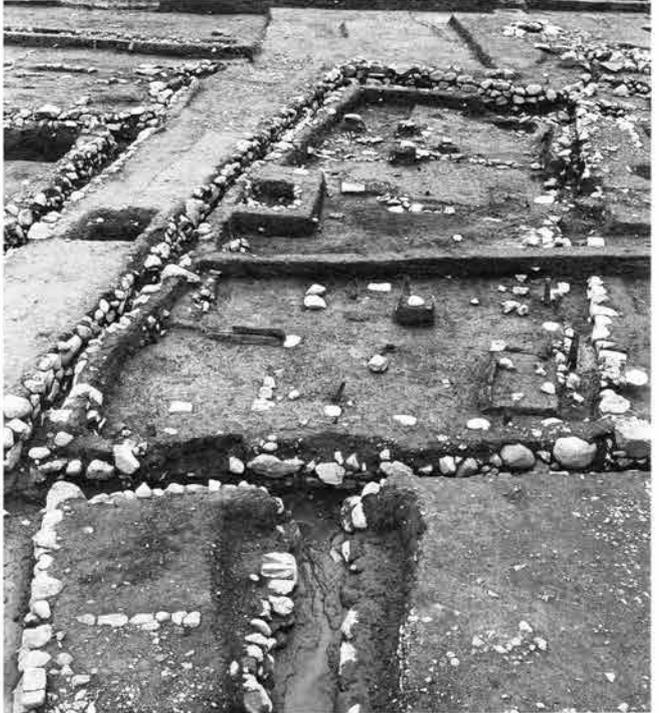
(46) SX1838根太 (南より)



(47) SB1722・1723 (東より)



(48) SB1722 (北より)



(49) SB1723 (北より)



(50) SE1597 (南より)



(52) SF1609 (南より)



(51) SF1608 (南より)



(53) SF1610 (東より)



(54) 上層遺構面 (東より)



(55) 下層遺構面 (北より)



(56) SX1672~1675、SE1599 (北より)



(57) SA1752、SB1725 (北より)



(58) SB1558 (北より)



(59) SB1559 (北より)



(60) SE1599 (西より)



(61) SE1600 (南より)



(62) SE1601 (西より)



(63) SF1611 (南より)



(64) SF1612 (東より)



(65) SX1674 (東より)



(66) SX1822 (東より)



(67) SB1560 (西より)



(68) SB1562 (東より)



(69) SE1602 (南より)



(70) SE1603 (南より)



(71) SX1703 (東より)



(72) SD1584・1586 (西より)



(73) SF1617 (東より)



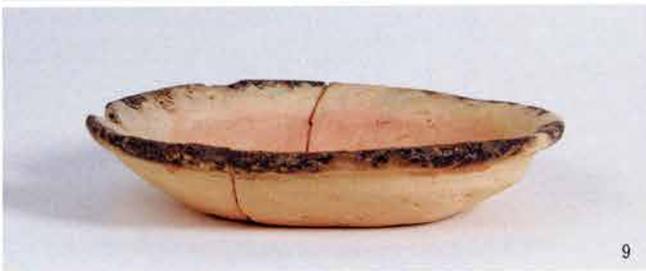
(74) SF1745 (東より)

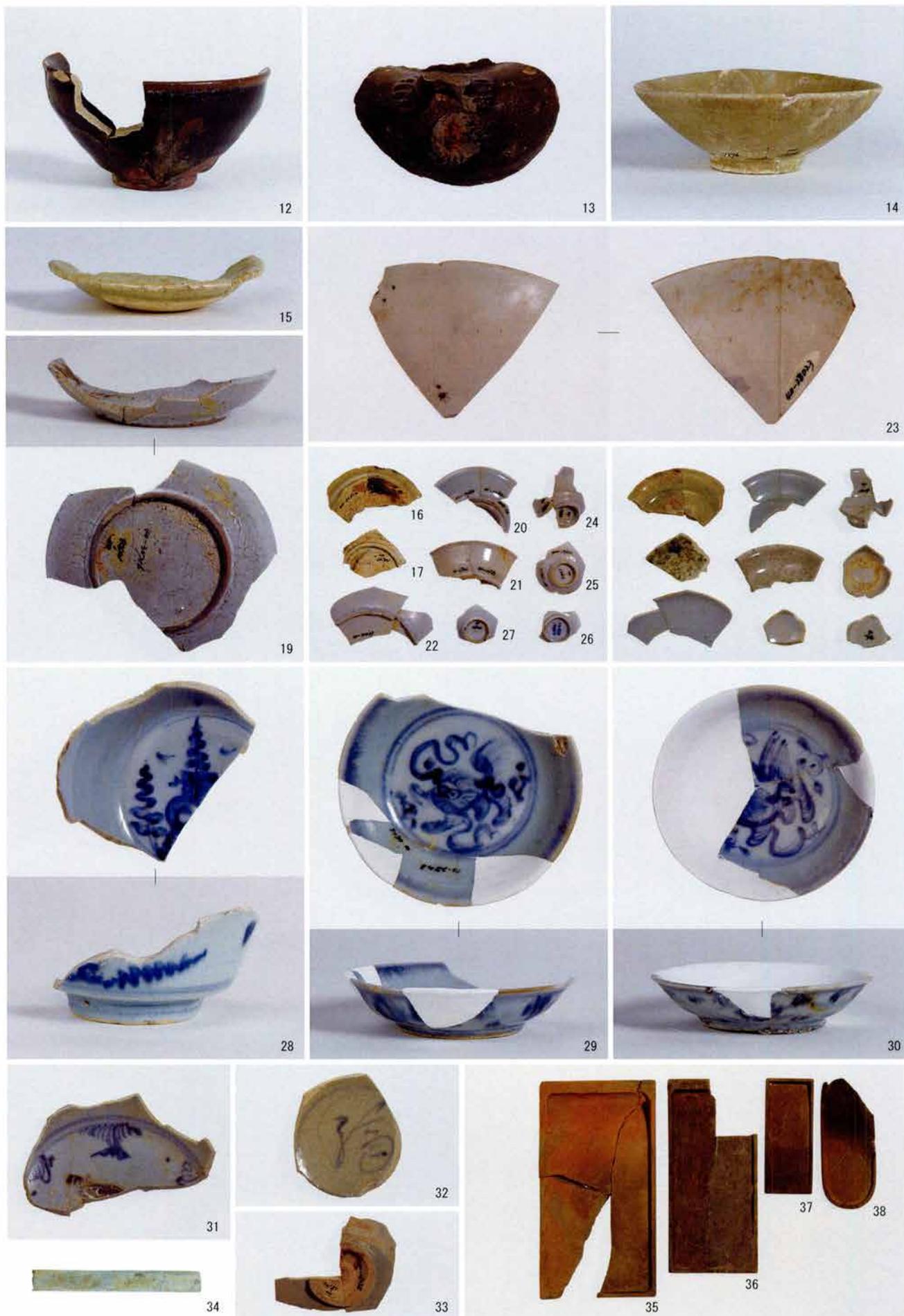


(75) SF1746 (東より)



(76) SF1614 (北より)















104



105



107



108



119



106



111



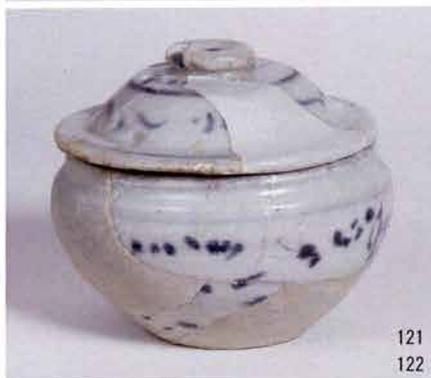
110



120



123



121

122



127



109

116

115

112

117

118

114

113

126



128



129



125



124



130



131



133



134



135



137



138



132



136



140



141



142



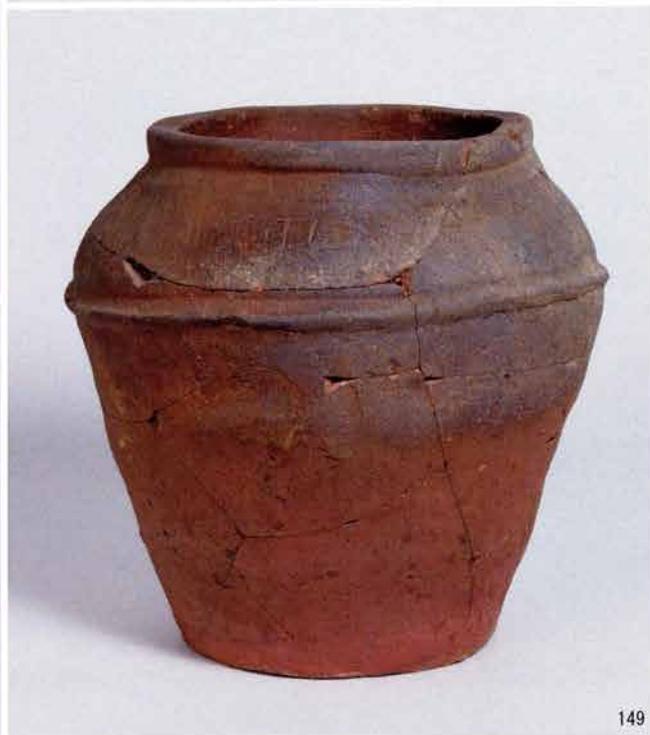
139  
140



143



144

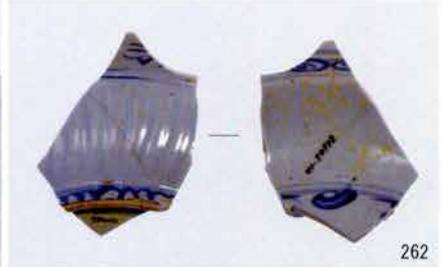
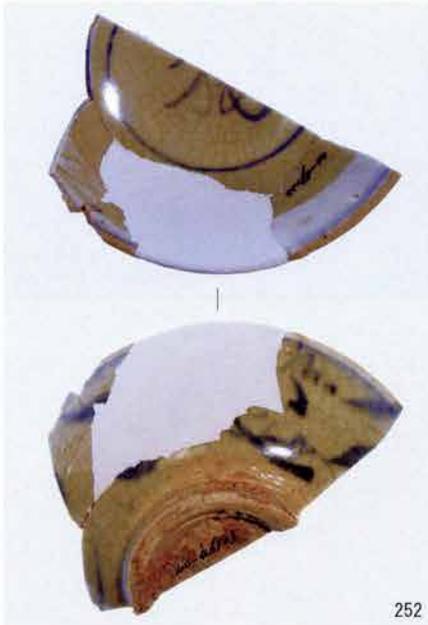


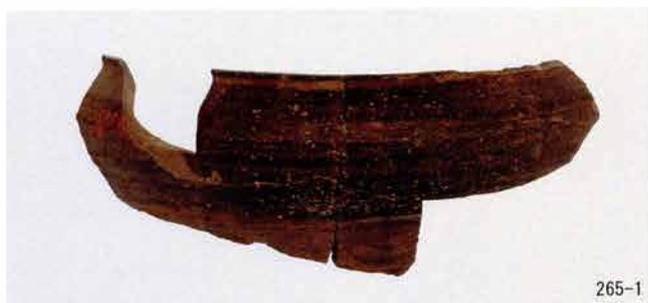












265-1



265-2



263



264



266



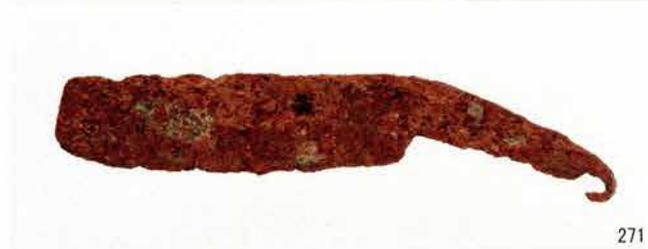
267



268



270



271



(1 遺構面)



273



272



277



274



275



276



278



280・281



279



282



283





303



304



305



306



307



308



309



312



310

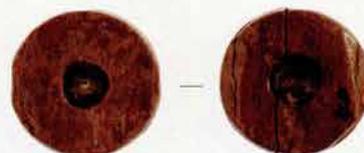
311



314



313



315













425



426



430



431



428



432



427



433



435



429



434



438



437



436



441



442



445



440



444



443



447



448



446



453



454



455



449



450



451



452

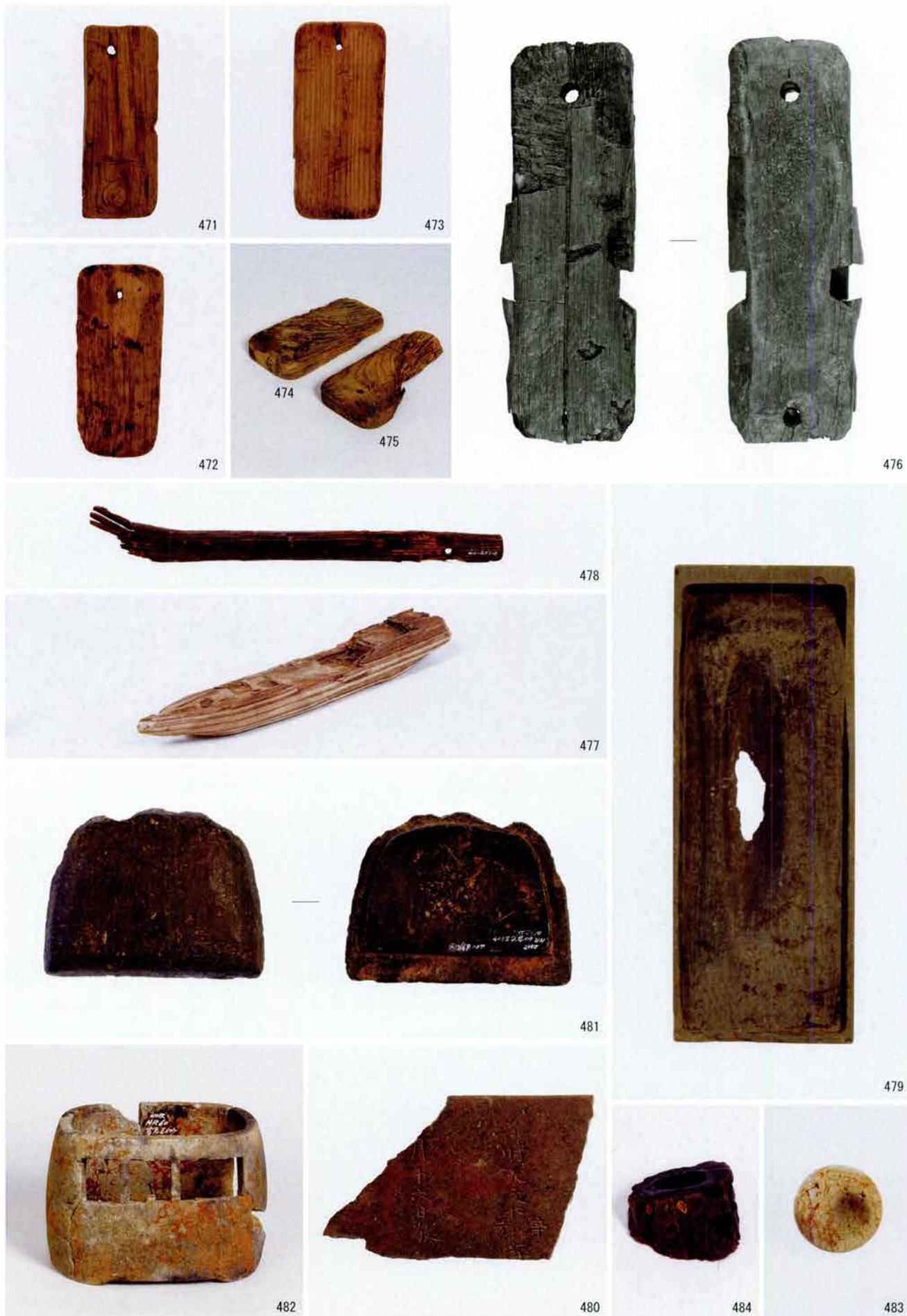


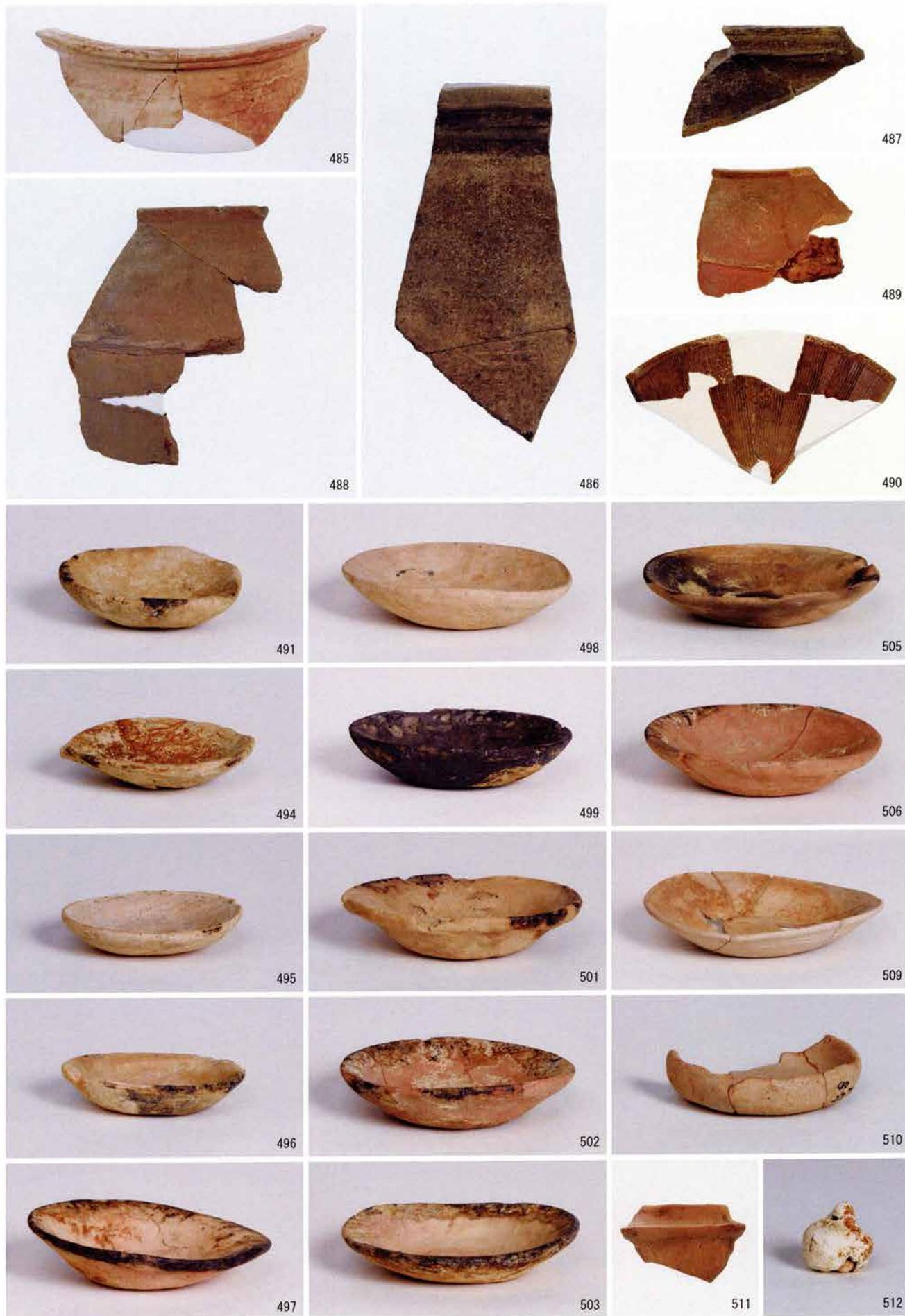
456



457







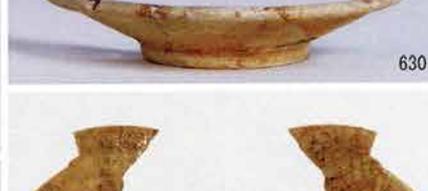






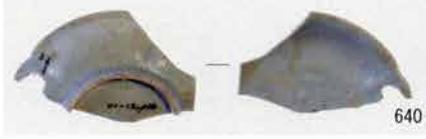








638



640



651



646



647



648



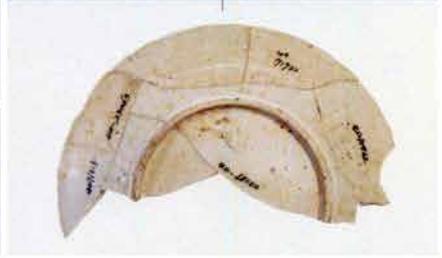
650



653



655



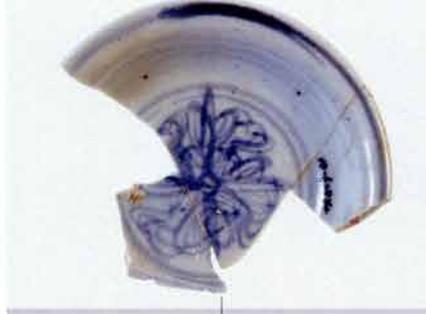
658



657



661



663



664



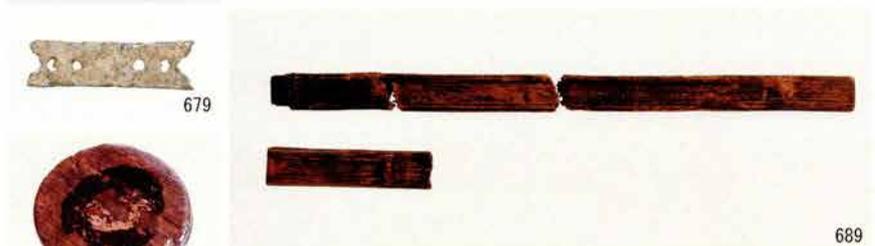
668

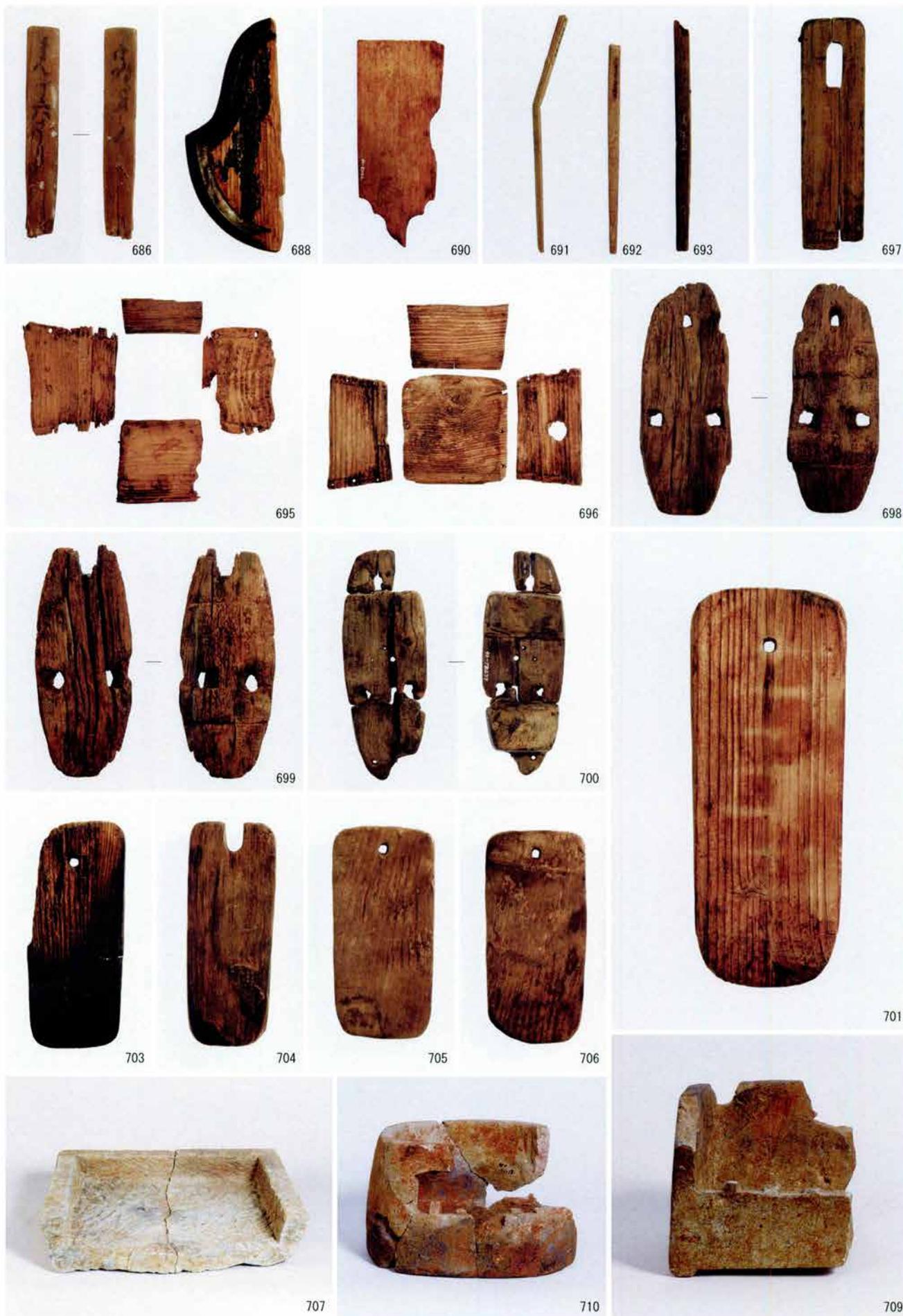


665



670

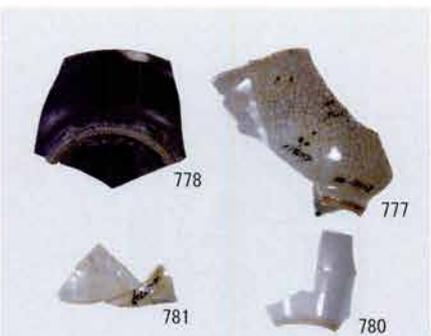
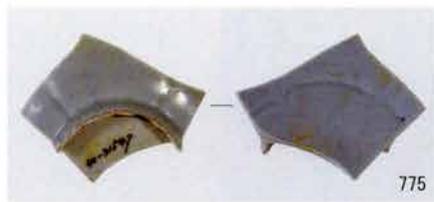




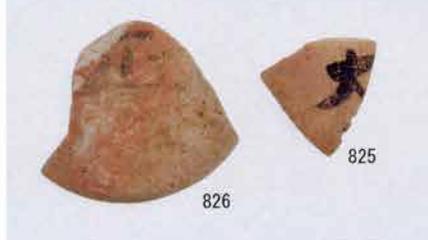


















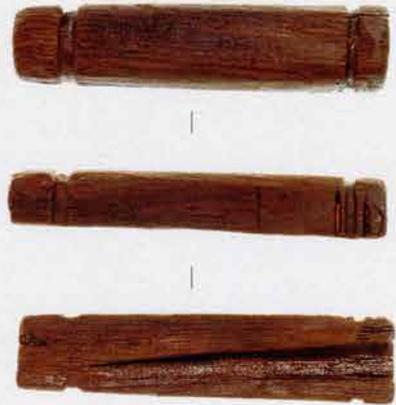
901



905



902



903



906



904-1



904-2



908



904-3



904-4

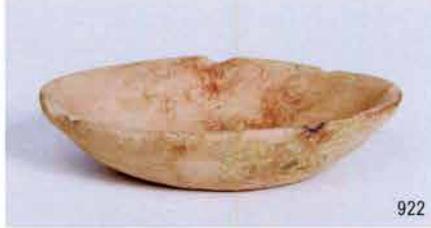


909



907

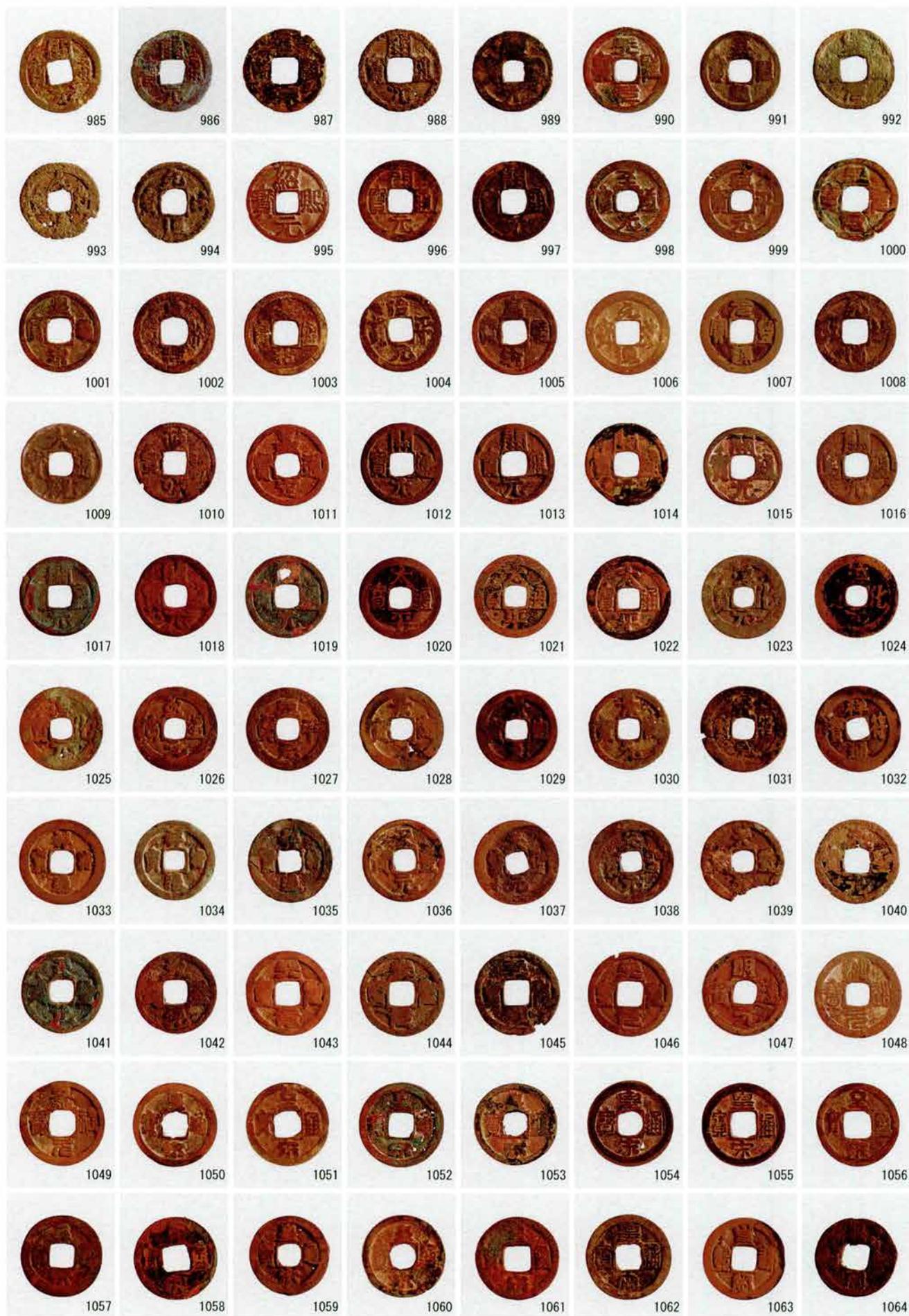


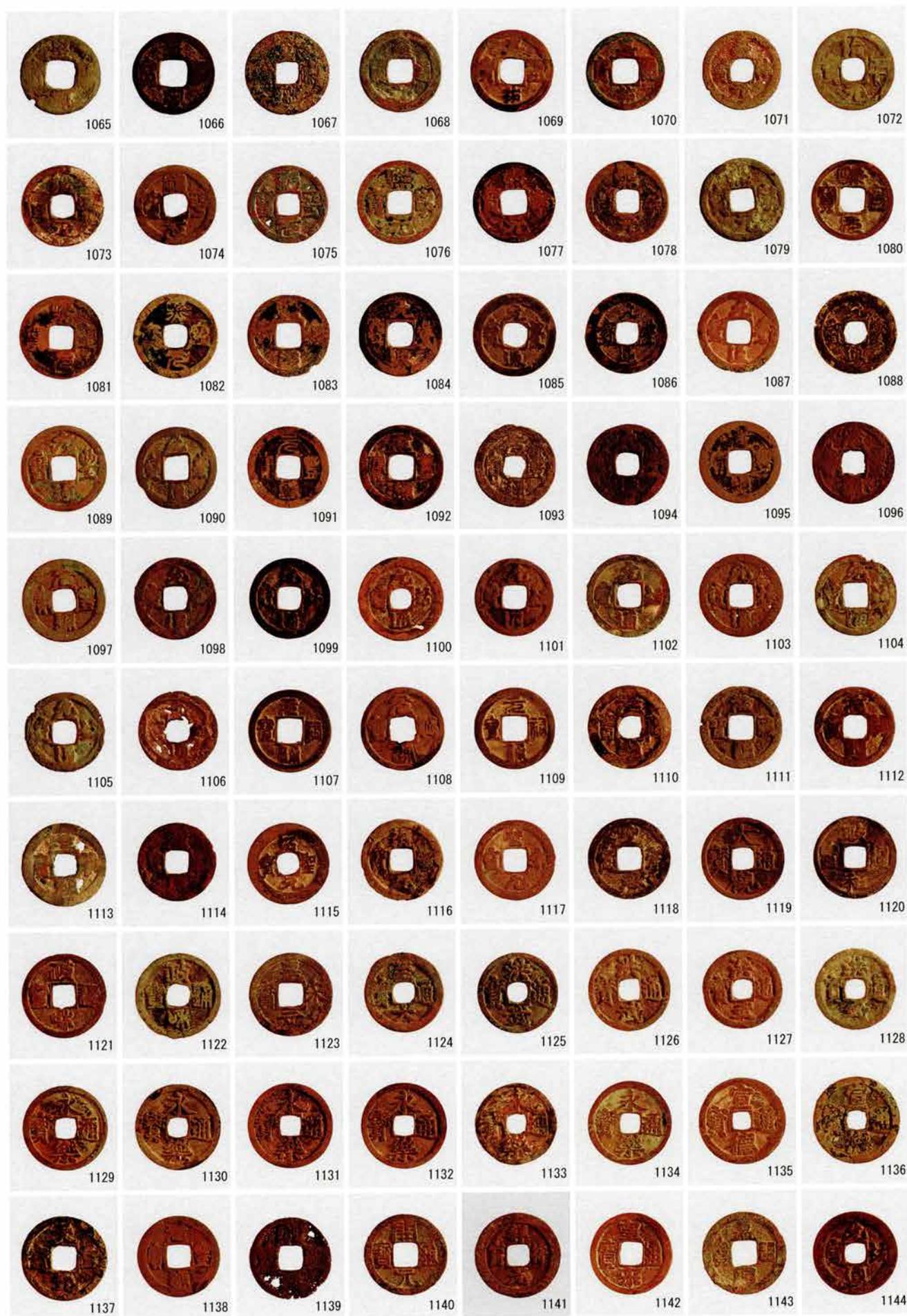


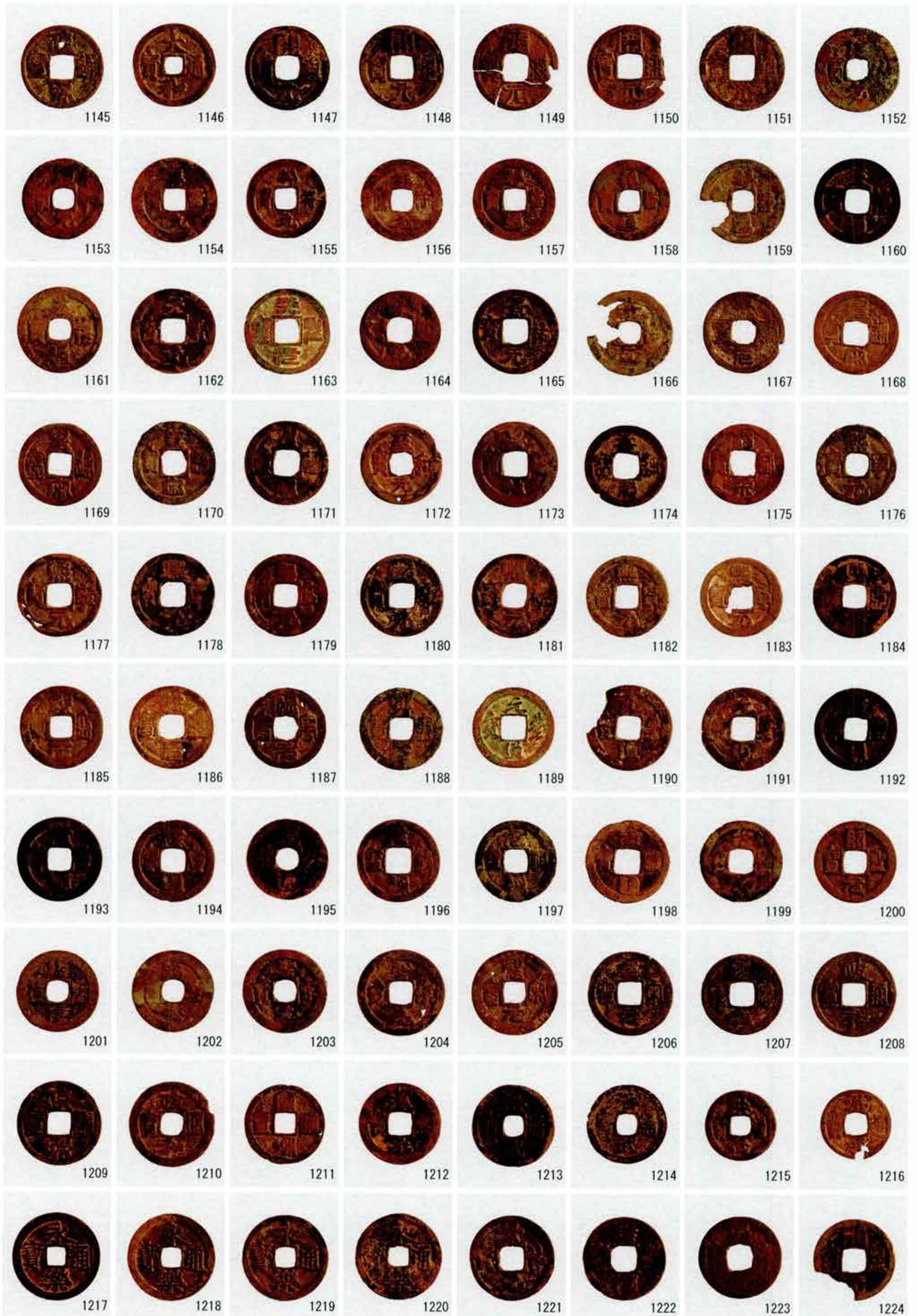


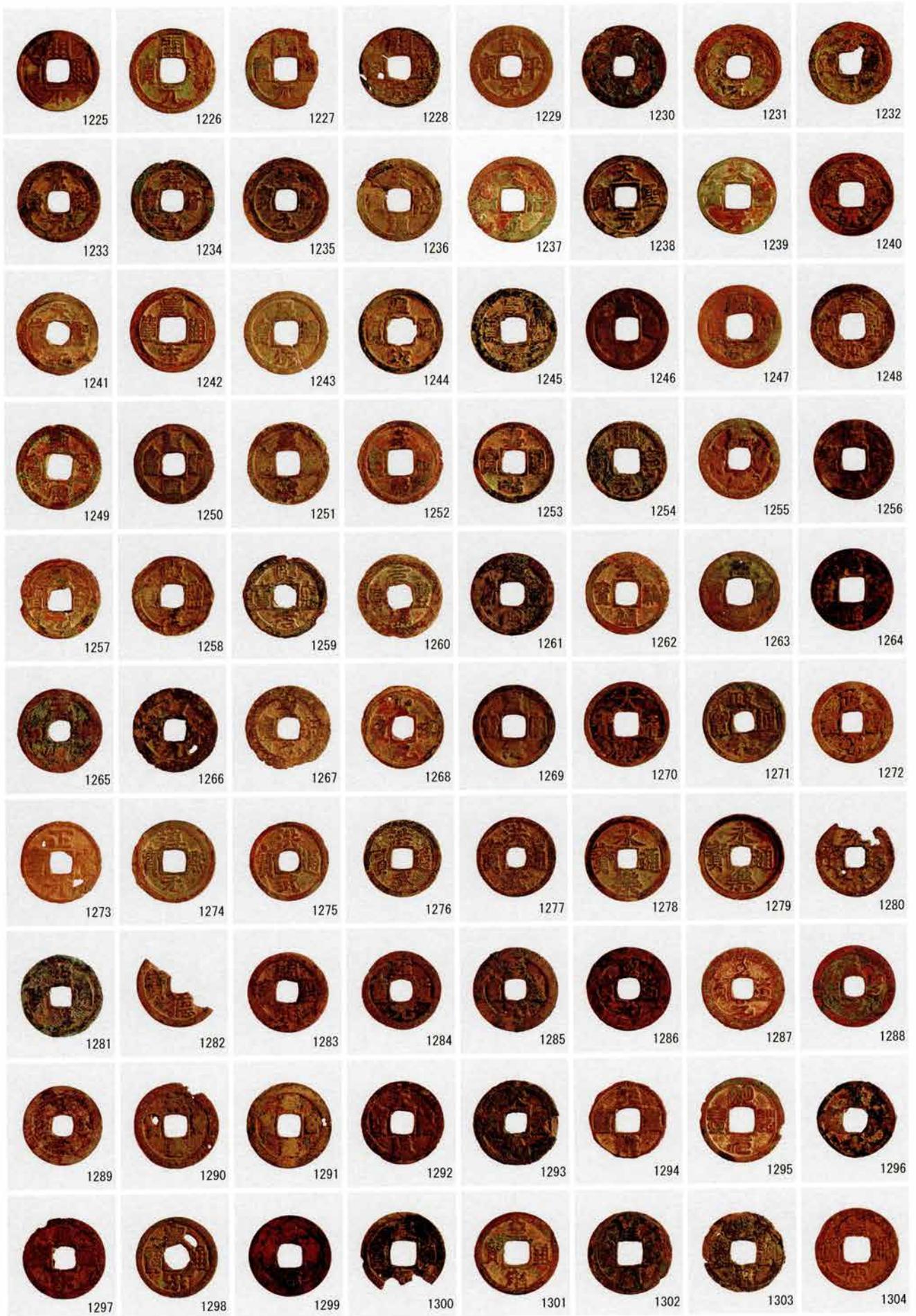


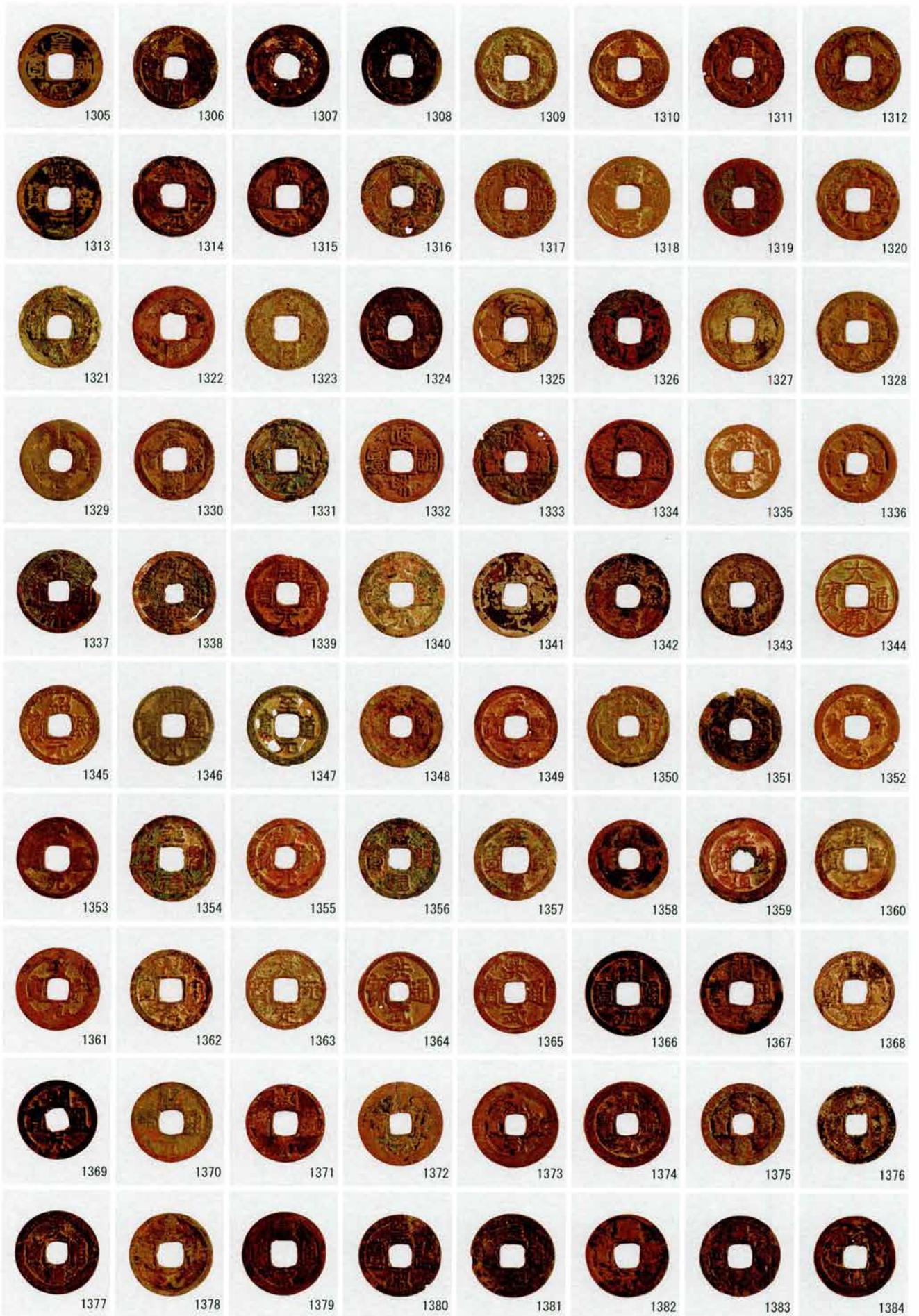


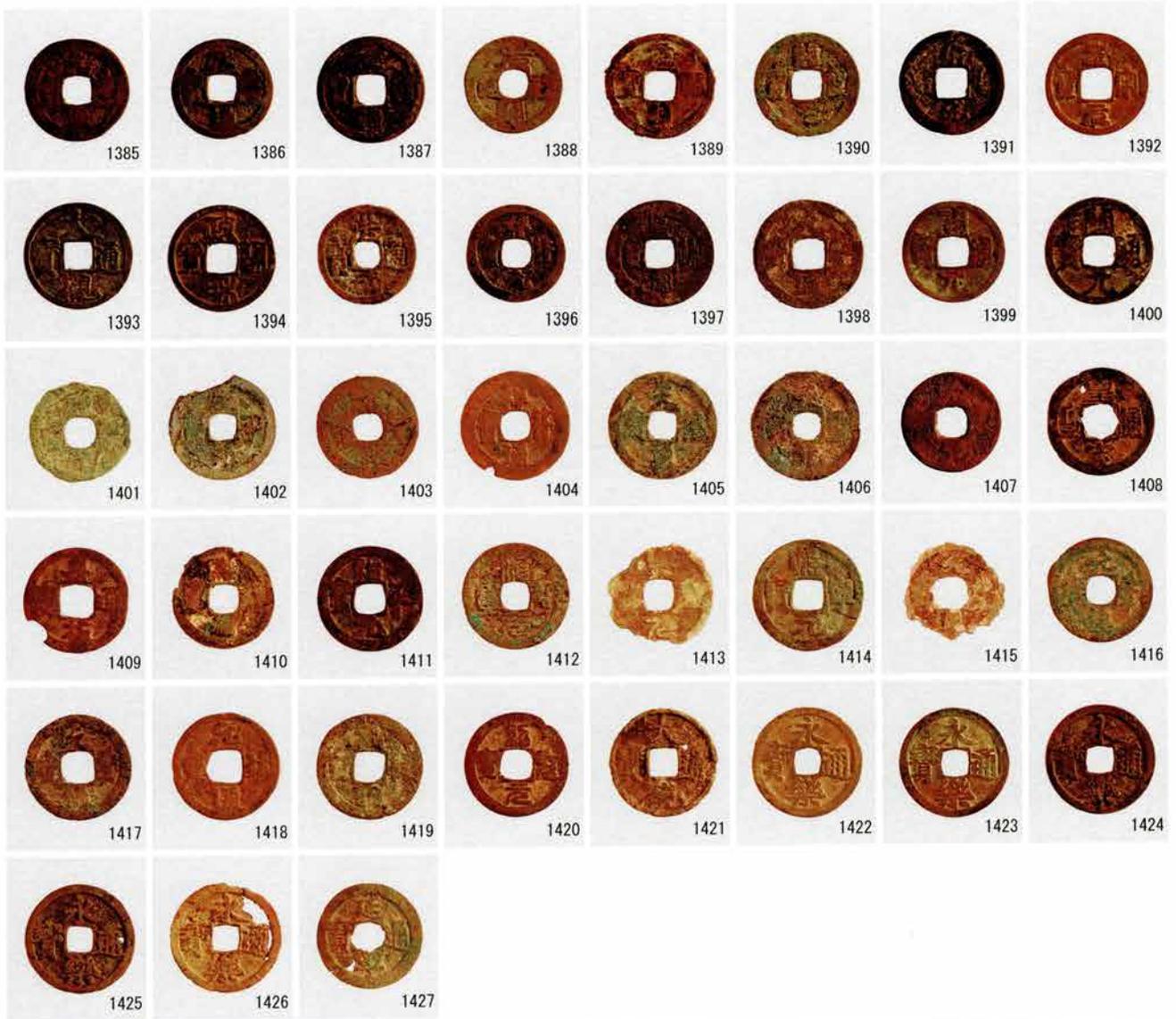












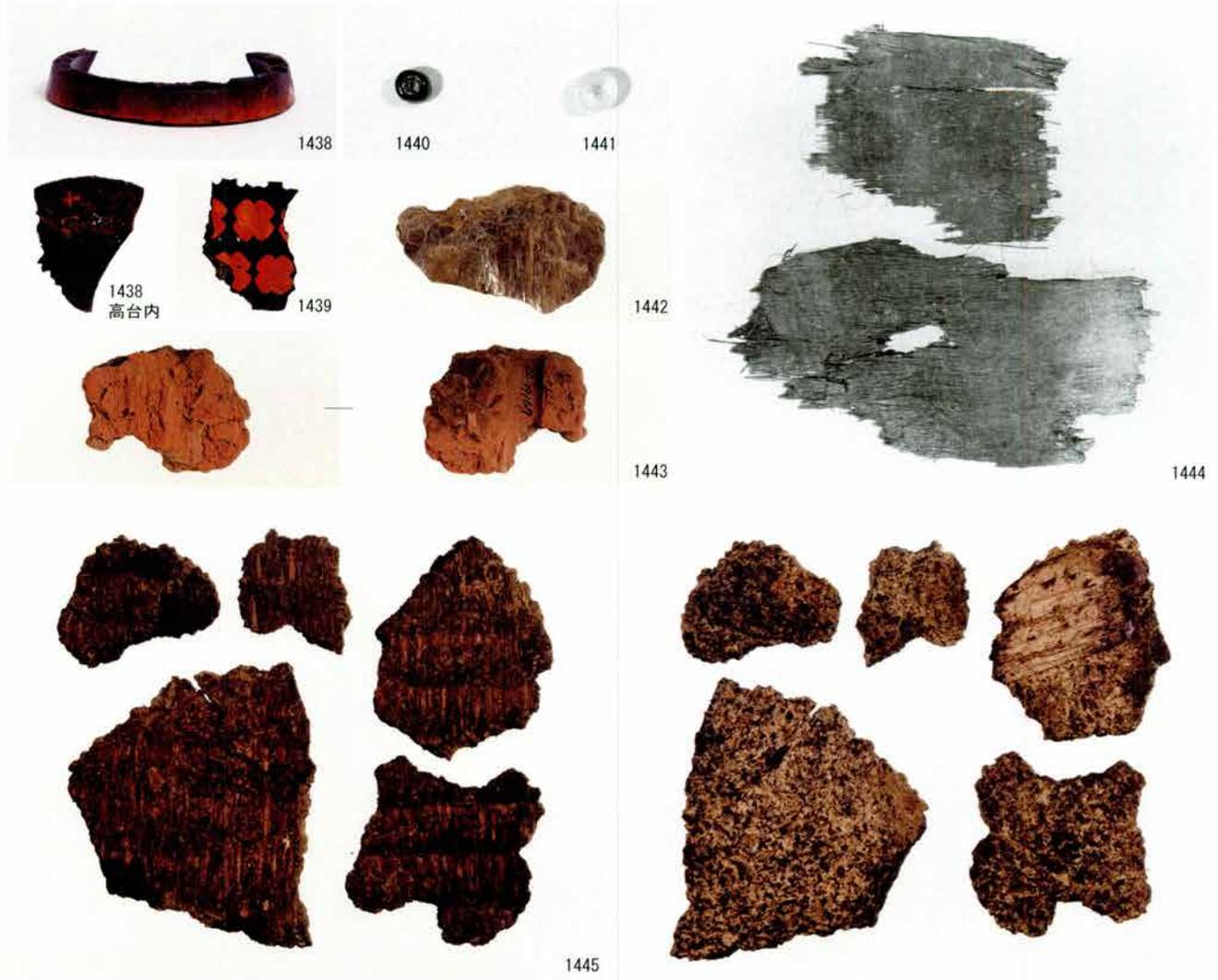


表9 遺物観察表補遺

No.	種類				地区	層/遺構	法量(cm)			備考	図	PL
	大別	器種/素材	区画	面			長	幅	厚			
1428	土師質	皿	B	II	L68	粘土	-	-	-	口縁部 墨書	-	79
1429	土師質	皿	B	III	N57	SD1738	-	-	-	底部 墨書「高□」	-	79
1430	土師質	皿	B/D	II	J57	SD1574	-	-	-	底部 墨書「□型□」	-	79
1431	土師質	皿	-	II	-	-	-	-	-	底部 墨書「□較□」 「□寅□」	-	79
1432	土師質	皿	B	II	L68	粘土	-	-	-	口縁部 金箔押し	-	79
1433	土師質	皿	C	II	S60	暗褐色土	-	-	-	体部 金箔押し 外面金箔剥離	-	79
1434	土師質	皿	D	II	S56	焼土	-	-	-	口縁部 金箔押し	-	79
1435	土師質	皿	D	I	J53	SD1586	-	-	-	体部 金箔押し	-	79
1436	中国	染付皿	C	II	Q61	炭層	推定径約15			元様式 稜花皿 内面唐草文帯 底面露胎	-	79
1437	朝鮮	雑軸碗	B	I	U65、18・22・28区	SB1555、床土	底径5.2			底部 見込・畳付に目跡各8	-	79
1438	漆器	皿	C	II	U60	炭層	高台高1.1 底径7.3			高台部片 内黒外赤 高台内朱書「十四」カ	-	79
1439	小札	革	B/D	II	L57	SD1574	4.3	3.0	0.6	黒色漆地に菱縫を表現した赤漆塗	-	80
1440	数珠玉	ガラス	D	I	J56	SD1585	-	-	-	藤色	-	80
1441	数珠玉	水晶	C	I	T60	炭層	-	-	-	-	-	80
1442	雲母	-	-	-	-	-	4.9	3.1	0.2	香道具カ	-	80
1443	壁土	-	C	I	P63	SF1608	7.1	8.4	4.5	スサ含む 径約2cmの竹小舞の圧痕	-	80
1444	畳表	-	-	I	-	-	約26	約17	-	法量は下の1点 経糸遺存 諸目表	-	80
1445	炭化粉	-	D	II	T53	-	10.4	9.0	2.1	法量は左下の1点 表面に畳表・ヘギ板付着	-	80

# 報告書抄録

ふりがな	とくべつしせきいちじょうだにあさくらしいせきはつくつちようさほうこく
書名	特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告17
副書名	第40次調査
シリーズ番号	17
編著者名	田中祐二
編集機関	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
所在地	〒910-2152 福井県福井市安波賀町4-10 TEL.0776-41-2301
発行年月日	令和2年3月25日

調査地区	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
第40次 発掘調査	ふくいしきどのうちちようあざおくまの 福井市城戸ノ内町字奥間野	18210	史-31	36° 00' 28"	136° 29' 60"	19800701 ～ 19811013	3,000㎡	環境整備に伴う 発掘調査

調査地区	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
第40次 発掘調査	寺院 武家屋敷 町屋	室町・戦国	道路、溝、礎石建物、井戸、石積施設、炉	越前焼、土師質皿、瀬戸・美濃焼、中国製陶磁器、金属製品・木製品・石製品、ガラス皿、油煙墨	石積施設から「金隠」が出土し、便所と確定。 北国船模型、ガラス皿、油煙墨などが出土。

要 約	<p>第40次発掘調査地は、福井市城戸ノ内町字奥間野地係に所在する。</p> <p>当地区ならびに隣接する赤渕・吉野本地区は武家屋敷・寺院・町屋等の遺構が良好に残り、全面的な発掘調査の結果、一乗谷の町並の様相が最も解明された地区の一つとなっている。当調査以前には、西側の山裾に比較的大区画の寺院、東側の一乗谷川沿いに南北の幹線道路を基準に展開する小区画の屋敷群の存在が判明していた。これらの調査結果を受け、当調査では南北道路の行方や、町屋と考えられる小規模な屋敷跡の構造ならびに町割の変遷の追求に主眼を置いた。</p> <p>調査の結果、少なくとも4期にわたる遺構面を検出し、寺院や武家屋敷と考えられる比較的大規模な区画が町屋と考えられる小規模の区画に分割、蚕食されていく町割の変遷過程をとらえることができた。遺物では、石積施設から金隠が出土し、それが便所であるとの確証に至った。その他、油煙墨やガラス皿、北国船の模型など、それまで出土例のない、あるいは極めて少ない遺物が出土した。</p>
-----	---

令和2年3月18日 印刷

令和2年3月25日 発行

特別史跡

## 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告17

第40次調査

編 集 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

発 行 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

〒910-2152 福井市安波賀町4-10

印 刷 株式会社竹下印刷所